指宿市埋蔵文化財発掘調査報告書第38集

NAKAOZAKO－Archaeolgical site

中尾迫遺跡

平成17年3月

鹿児島県指宿市教育委員会

序　言

中尾迫遺跡は，平成５年度に鹿児島県文化財課が実施したサンオーシャンリゾート計画に伴う分布調査で，畑地内から数点の弥生土器が表面採集されて，その存在が明らかになりました．平成８年度は，広域営農団地農道整備事業に伴う確認調査が実施され，さらに，平成９年度には，鹿児島県農政部，指宿市耕地課の協力を得て農道建設予定地の全面的な発掘調査が行われました．

発掘調査の結果，中尾迫遺跡は，近世・近代と弥生時代前期末・中期・後期終末にかけて，指宿の先人たちが自然とともに豊かな生活を営んでいたことが分かりました．

近世・近代におきましては，中尾迫遺跡の地は畑地として利用され，多くの栽培物の保存を目的とした貯蔵穴が掘られていました．

また，弥生時代の遺物包含層からは多くの弥生土器や軽石加工品，石器類が出土し，建物の柱穴等のピットや土坑も多数検出されました．

特記すべき点としては，弥生時代に帰属する土器焼成坑が発見されたことです．弥生時代に帰属する土器焼成坑としては，鹿児島県では初例であり，一躍注目を浴びました．

中尾迫遺跡で発見されました土器焼成坑は，関係機関の御配慮・御理解を頂きまして，国指定史跡指宿橋牟礼川遺跡歴史公園内に保存を目的として移設保存を行いました．

現在，市内をはじめ県内の児童・生徒に，土器の製作方法を伝えるための貴重な教材として活用を図っています．

本報告書は，このような中尾迫遺跡の発掘調査結果を報告するものです．中尾迫遺跡で大きな成果を挙げることができましたのも，関係機関，各位の御理解と御協力のおかげと感謝申し上げる次第です．

平成17年３月

指宿市教育委員会
教育長　林　賢一郎

例　言

1．本書は，平成９年６月16日から平成９年10月15日まで実施した，鹿児島県指宿市西方字中尾迫に所在する中尾迫遺跡の埋蔵文化財発掘調査報告書である．

2．発掘調査は，鹿児島耕地事務所と指宿市が委託契約を締結し，指宿市教育委員会で実施した．社会教育課の鎌田洋昭が主に担当し，下山　覚，中摩浩太郎，渡部徹也がそれぞれ担当した．

3．発掘調査報告書作成は，鹿児島耕地事務所と指宿市が委託契約を締結し，指宿市教育委員会で実施した．社会教育課の鎌田洋昭が主に担当し，中摩浩太郎，渡部徹也から助言・協力を頂いた．出土遺物の実測・トレースは，それぞれ分担した．

4．発掘調査での遺構検出や出土遺物状況の写真撮影・執筆については，鎌田洋昭が行った．

5．発掘調査での地層・火山灰については，鹿児島県立武岡台高等学校の成尾英仁先生（当時，鹿児島県立博物館学芸員）から御教示を得た．

6．出土遺物の整理・実測・分類については，鹿児島国際大学の中園聡教授から御教示を得た．

7．土器焼成坑について九州内の事例や研究論文等について，福岡大学の小田富士雄教授と小郡市教育委員会の宮田浩之氏から御教示を得た．さらに，鹿児島国際大学の上村俊雄教授（当時，鹿児島大学教授）と大西智和助教授（当時，鹿児島大学埋蔵文化財調査室），鹿児島大学の本田道輝助教授，中村直子助教授（当時，鹿児島大学埋蔵文化財調査室）に遺構について御指導を頂いた．

8．発掘調査に伴う自然科学分析（植物珪酸体分析・胎土分析・年代測定分析）については，株式会社　古環境研究所に委託し協力を頂いた．その分析結果報告は，本報告書の「第三編　自然科学分析編」に掲載している．

9．発掘調査での基本測量及び遺構図面作成については，株式会社　埋蔵文化財サポートシステムに委託し，協力を頂いた．

10．本報告書のレベルは，全て絶対高である．また，図中に用いられている座標値は，国土座標系第２系に準ずる．

11．遺物観察表，遺物実測図，遺構図の表記凡例は，下記及び『橋牟礼川遺跡Ⅲ』（1992，指宿市教育委員会）と『水迫遺跡Ⅰ』（2000，指宿市教育委員会）に準ずる．

12．発掘調査で得た全ての成果については，指宿市考古博物館　時遊館ＣＯＣＣＯはしむれで保管し，活用している．

13．発掘調査員（平成９年度）

井上ヒサ子，徳永しげ子，下之園トシ子，林山イネ，吉元トシエ，竹下カツエ，浜崎イチ子，阿久根ノリ子，吉留紀代子，東　富子，吉元まり子，谷門節子，新小田千恵子，室屋のぞみ，新留スズ子，福重ちえ子，中水優子，石川伊律子，今村律子，浜崎美根子，上原節男，富田昭雄，打越辰巳，

14．室内整理員

平成９年度：前田恵子，清　秀子，竹下珠代

平成16年度：清　秀子，竹下珠代，松元かおり，馬場畑梨沙，松山麻弥

15．観察表表記凡例

土器の混和材［カ：角閃石，セ：石英，ウ：雲母，金：金雲母，白：白色粒，黒：黒色粒，赤：赤色粒，黒曜：黒曜石・黒曜岩，小レ：小礫］

16．図中表記凡例

・軽石製加工品，石器実測図中の←→と網掛け範囲は，磨面を示す．

・軽石製加工品，石器実測図中，石器類が欠損あるいは切断が認められる場合は，破線で推定復元線を入れた．

・軽石製加工品，石器実測図中のａ～ｆは，展開面を示す．

・石器表裏面に見られる節理面は斜線で示し，自然面（礫面）は点で示した．

・出土遺物実測図左下には，掲載番号と（　）内に出土番号を並記した．

章目次 CONTENTS

第一編　発掘調査編　1
　第１章　中尾迫遺跡の環境　1
　　第１節　中尾迫遺跡の立地　1
　　第２節　周辺の遺跡と中尾迫遺跡　4
　第２章　発掘調査の経緯と組織　7
　　第１節　発掘調査の経緯　7
　　第２節　発掘調査･報告書作成組織　8
　第３章　発掘調査　9
　　第１節　発掘調査区の設定　9
　　第２節　基本層序　11
　　（１）火山性噴出物堆積層の概要　11
　　（２）中尾迫遺跡基本層序　11
　第３節　近世･近代の調査　15
　　（１）発掘調査　15
　　（２）遺構　15
　　①土坑　15
　　②溝状遺構　15
　　③ピット　21
　第４節　弥生時代の調査　23
　　（１）発掘調査　23
　　（２）遺構　23
　　①土器焼成坑　23
　　②土坑　27
　　③ピット　35
　　（３）遺物　35
　　①土器集中部　35
　　（ｉ）土器集中部①　35
　　（ii）土器集中部②　37
　　②第3層出土遺物　42
　　（ｉ）土器　42
　　（ii）軽石製加工品　52
　　（iii）石器　52
　　③第3層上部出土遺物　57
　　（ｉ）土器　57
　　④第3層下部出土遺物　61
　　（ｉ）遺構埋土出土遺物　61
　　（ii）土器　61
　　（iii）軽石製加工品　69
　　⑤第4層出土遺物　77
　　（ｉ）土器　77
　　（ii）軽石製加工品　79
　　（iii）石器　79
　　⑥表採･一般遺物　90
　　（ｉ）土器　90
　　（ii）軽石製加工品　90
　　（４）発掘調査写真　109

第二編　遺構保存編　116

第三編　自然科学分析編　120
　　Ⅰ.植物珪酸体分析　122
　　Ⅱ.樹種同定分析　126
　　Ⅲ.蛍光X線分析　127
　　Ⅲ.放射性炭素年代測定分析　131

第四編　発掘調査成果編　134

図版目次 FIGURES

第1図	中尾迫遺跡の位置図	S＝1/75,000	2
第2図	中尾迫遺跡の地形図	S＝1/15,000	3
第3図	中尾迫遺跡周辺の遺跡	S＝1/50,000	5
第4図	中尾迫遺跡調査区の位置図	S＝1/1,000	9
第5図	中尾迫遺跡の調査区図	S＝1/200	10
第6図	中尾迫遺跡地層断面実測図	S＝1/40	12･13
第7図	基本層序と各遺跡との対比図		14
第8図	近世･近代の遺構配置図	S＝1/160	16･17
第9図	近世･近代帰属の土坑平面図	S＝1/80	19
第10図	近世･近代帰属の土坑断面図	S＝1/60	20
第11図	近世･近代帰属のピット平面･断面図	S＝1/20	22
第12図	弥生時代帰属の遺構配置図	S＝1/160	24･25
第13図	土器焼成坑平面･断面図	S＝1/30	26
第14図	土器焼成坑内出土遺物実測図	S＝1/2	27
第15図	土坑平面･断面図	S＝1/40	28
第16図	ピット検出状況図	S＝1/150	29
第17図	ピット平面･断面図①	S＝1/20	30
第18図	ピット平面･断面図②	S＝1/20	31
第19図	ピット平面･断面図③	S＝1/20	32
第20図	ピット平面･断面図④	S＝1/20	33
第21図	第3層出土遺物分布図	S＝1/200	36
第22図	第3層土器集中部①平面･断面図①	S＝1/10	38
第23図	第3層土器集中部①平面･断面図②	S＝1/10	39
第24図	第3層土器集中部②平面･断面図	S＝1/10	40
第25図	第3層出土遺物実測図①	S＝1/2	43
第26図	第3層出土遺物実測図②	S＝1/2	44
第27図	第3層出土遺物実測図③	S＝1/2	46
第28図	第3層出土遺物実測図④	S＝1/2	47
第29図	第3層出土遺物実測図⑤	S＝1/2	48
第30図	第3層出土遺物実測図⑥	S＝1/2	49
第31図	第3層出土遺物実測図⑦	S＝1/2	53
第32図	第3層出土遺物実測図⑧	S＝1/2	54
第33図	第3層出土遺物実測図⑨	S＝1/2・1/1	55
第34図	第3層上部出土遺物分布図	S＝1/200	58
第35図	第3層上部出土遺物実測図①	S＝1/2	59
第36図	第3層上部出土遺物実測図②	S＝1/2	60
第37図	第3層下部出土遺物分布図	S＝1/200	62
第38図	第3層下部遺構埋土出土遺物実測図	S＝1/2	63
第39図	第3層下部出土遺物実測図①	S＝1/2	65
第40図	第3層下部出土遺物実測図②	S＝1/2	66
第41図	第3層下部出土遺物実測図③	S＝1/2	67
第42図	第3層下部出土遺物実測図④	S＝1/2	68
第43図	第3層下部出土遺物実測図⑤	S＝1/2	70
第44図	第3層下部出土遺物実測図⑥	S＝1/2	71
第45図	第3層下部出土遺物実測図⑦	S＝1/2	72
第46図	第3層下部出土遺物実測図⑧	S＝1/2	73
第47図	第3層下部出土遺物実測図⑨	S＝1/2	74
第48図	第4層出土遺物分布図	S＝1/200	78
第49図	第4層出土遺物実測図①	S＝1/2	80
第50図	第4層出土遺物実測図②	S＝1/2	81
第51図	第4層出土遺物実測図③	S＝1/2	82
第52図	第4層出土遺物実測図④	S＝1/2	84
第53図	第4層出土遺物実測図⑤	S＝1/2	85
第54図	第4層出土遺物実測図⑥	S＝1/2	86
第55図	第4層出土遺物実測図⑦	S＝1/3	87
第56図	表採･一般遺物実測図	S＝1/2	91

別　図　別図1　近世･近代遺構配置図(S=1/100)
別図2　弥生時代遺構配置図･第3層出土遺物分布図(S=1/100)
別図3　第4層出土遺物分布図(S=1/100)

表目次 Tables

第１表	中尾迫遺跡周辺の遺跡一覧表	6
第２表	土坑法量表	18
第３表	ピット法量表	21
第４表	ピット法量表	34
第５表	土器集中部①・②出土遺物一覧表	41
第６表	第３層出土遺物観察表①	50
第７表	第３層出土遺物観察表②	51
第８表	第３層出土遺物観察表③	56
第９表	第３層上部出土遺物観察表	57
第10表	第３層下部遺構埋土出土遺物観察表	61
第11表	第３層下部出土遺物観察表①	75
第12表	第３層下部出土遺物観察表②	76
第13表	第３層下部出土遺物観察表③	76
第14表	第４層出土遺物観察表①	88
第15表	第４層出土遺物観察表②	89
第16表	第４層出土遺物観察表③	89
第17表	表採遺物観察表	90
第18表	一般遺物観察表	90
第19表	出土遺物台帳①	92
第20表	出土遺物台帳②	93
第21表	出土遺物台帳③	94
第22表	出土遺物台帳④	95
第23表	出土遺物台帳⑤	96
第24表	出土遺物台帳⑥	97
第25表	出土遺物台帳⑦	98
第26表	出土遺物台帳⑧	99
第27表	出土遺物台帳⑨	100
第28表	出土遺物台帳⑩	101
第29表	出土遺物台帳⑪	102
第30表	出土遺物台帳⑫	103
第31表	出土遺物台帳⑬	104
第32表	出土遺物台帳⑭	105
第33表	出土遺物台帳⑮	106
第34表	出土遺物台帳⑯	107
第35表	出土遺物台帳⑰	108

写真目次 Plates

写真1　土器焼成坑内出土遺物写真(表面)　27
写真2　土器焼成坑内出土遺物写真(裏面)　27
写真3　第3層出土遺物写真①(外面)　43
写真4　第3層出土遺物写真①(内面)　43
写真5　第3層出土遺物写真②(外面)　44
写真6　第3層出土遺物写真②(内面)　44
写真7　第3層出土遺物写真③(外面)　46
写真8　第3層出土遺物写真③(内面)　46
写真9　第3層出土遺物写真④(外面)　47
写真10　第3層出土遺物写真④(内面)　47
写真11　第3層出土遺物写真⑤(外面)　48
写真12　第3層出土遺物写真⑤(内面)　48
写真13　第3層出土遺物写真⑥(外面)　49
写真14　第3層出土遺物写真⑥(内面)　49
写真15　第3層出土遺物写真⑦(表面)　53
写真16　第3層出土遺物写真⑦(裏面)　53
写真17　第3層出土遺物写真⑧(表面)　54
写真18　第3層出土遺物写真⑧(裏面)　54
写真19　第3層出土遺物写真⑨(表面)　55
写真20　第3層出土遺物写真⑨(裏面)　55
写真21　第3層上部出土遺物写真①(外面)　59
写真22　第3層上部出土遺物写真①(外面)　59
写真23　第3層上部出土遺物写真②(外面)　60
写真24　第3層上部出土遺物写真②(内面)　60
写真25　第3層下部遺構埋土出土遺物写真(外面)　63
写真26　第3層下部遺構埋土出土遺物写真(内面)　63
写真27　第3層下部出土遺物写真①(外面)　65
写真28　第3層下部出土遺物写真①(内面)　65
写真29　第3層下部出土遺物写真②(外面)　66
写真30　第3層下部出土遺物写真②(内面)　66
写真31　第3層下部出土遺物写真③(外面)　67
写真32　第3層下部出土遺物写真③(内面)　67
写真33　第3層下部出土遺物写真④(外面)　68
写真34　第3層下部出土遺物写真④(内面)　68
写真35　第3層下部出土遺物写真⑤(外面)　70
写真36　第3層下部出土遺物写真⑤(内面・断面)　70
写真37　第3層下部出土遺物写真⑥(外面)　71
写真38　第3層下部出土遺物写真⑥(外面)　71
写真39　第3層下部出土遺物写真⑦(表面)　72
写真40　第3層下部出土遺物写真⑦(側面・裏面)　72
写真41　第3層下部出土遺物写真⑧(表面)　73
写真42　第3層下部出土遺物写真⑧(裏面)　73
写真43　第3層下部出土遺物写真⑨(表面)　74
写真44　第3層下部出土遺物写真⑨(裏面)　74
写真45　第4層出土遺物写真①(外面)　80
写真46　第4層出土遺物写真①(内面)　80
写真47　第4層出土遺物写真②(外面)　81
写真48　第4層出土遺物写真②(内面)　81
写真49　第4層出土遺物写真③(外面)　82
写真50　第4層出土遺物写真③(内面・底面)　82
写真51　第4層出土遺物写真④(外面)　84
写真52　第4層出土遺物写真④(内面)　84
写真53　第4層出土遺物写真⑤(外面)　85
写真54　第4層出土遺物写真⑤(内面)　85
写真55　第4層出土遺物写真⑥(表面)　86
写真56　第4層出土遺物写真⑥(裏面)　86
写真57　第4層出土遺物写真⑦(表面)　87
写真58　第4層出土遺物写真⑦(裏面)　87
写真59　表採・一般遺物写真(外面・表面)　91
写真60　表採・一般遺物写真(内面・裏面)　91
写真61　中尾迫遺跡空撮写真①　109
写真62　中尾迫遺跡空撮写真②　109
写真63　発掘調査状況写真　110
写真64　西壁地層断面(SP5-SP6)①写真　110
写真65　西壁地層断面(SP5-SP6)②写真　110
写真66　北壁地層断面(SP7-SP8)写真　110
写真67　第3層土器集中部①ベルト南壁断面写真　110
写真68　調査区西側地層堆積状況写真　110
写真69　南区土坑67・68・69完掘状況写真　111
写真70　土坑49～63検出状況写真　111
写真71　土坑45・46検出状況写真　111
写真72　土坑3・4・5・7・8・9検出状況写真　111
写真73　土坑3・4・5・7・8・9完掘状況写真　111
写真74　土坑1完掘状況写真　111
写真75　第3層土器集中部①検出状況写真①　112
写真76　第3層土器集中部①検出状況写真②　112
写真77　第3層土器集中部①検出状況写真③　112
写真78　第3層土器集中部②検出状況写真　112
写真79　第3層遺物出土状況写真　112
写真80　第3層遺物(No.210)出土状況写真　112
写真81　第4層遺物(No.322)出土状況写真　113
写真82　弥生時代ピット42・43断面検出写真　113
写真83　弥生時代ピット25断面検出写真　113
写真84　弥生時代ピット23・24完掘状況写真　113
写真85　弥生時代土坑完掘状況写真①　113
写真86　弥生時代土坑完掘状況写真②　113
写真87　弥生時代土器焼成坑完掘状況写真①　114
写真88　弥生時代土器焼成坑完掘状況写真②　114
写真89　弥生時代土器焼成坑完掘状況写真③　114
写真90　弥生時代土器焼成坑先行トレンチ断面写真①　114
写真91　弥生時代土器焼成坑先行トレンチ断面写真②　114
写真92　弥生時代土器焼成坑内写真　114
写真93　遺構保存処置作業状況写真①　118
写真94　遺構保存処置作業状況写真②　118
写真95　遺構保存処置作業状況写真③　118
写真96　遺構保存処置作業状況写真④　118
写真97　遺構保存処置作業状況写真⑤　118
写真98　遺構保存処置作業状況写真⑥　118
写真99　遺構保存処置作業状況写真⑦　119
写真100　遺構保存処置作業状況写真⑧　119
写真101　遺構保存処置作業状況写真⑨　119
写真102　遺構保存処置作業状況写真⑩　119
写真103　遺構保存処置状況写真①　119
写真104　遺構保存処置状況写真②　119
写真105　蛍光X線分析資料　129
写真106　分析資料SP1　129
写真107　分析資料SP2　129
写真108　分析資料SP3　129
写真109　分析資料SP4　129
写真110　分析資料SP5　129
写真111　分析資料SP6　130
写真112　分析資料SP7　130
写真113　分析資料SP8　130
写真114　分析資料SP9　130
写真115　分析資料SP10　130
写真116　分析資料SP11　130
写真117　年代測定分析資料No.3　132

第

一

編

発掘調査報告編

Volume of Investigation Report

第一編　発掘調査報告書編

第１章　中尾迫遺跡の環境

第１節　中尾迫遺跡の立地（第１・２図）

中尾迫遺跡は，指宿市西方字中尾迫などに所在する．

中尾迫遺跡は，平成５年度のサンオーシャン・リゾート開発に伴い鹿児島県文化財課による分布調査によって初めて周知化された．

中尾迫遺跡は，池田カルデラの北東側外輪山の一部を形成している清見岳から北側へ延びる複数の尾根の頂上部および北方向の斜面地上の立地している．第２図の地形図では，清見岳からの北側へ伸びる尾根頂上部とその傾斜方向に赤色の矢印ラインを引いている．

第２図から中尾迫遺跡の立地している地形を読み解くと次のようになる，標高317.6ｍの山頂から北側へ伸びる山裾があり，その山裾のひとつから北東方向の延びる数本の尾根が認められる．その内の尾根には，後期旧石器時代の竪穴建物跡や道跡，杭跡が発見された水迫遺跡がある標高126ｍ前後の北東方向へ延びる尾根もある．

中尾迫遺跡は，標高149.12ｍの尾根北端を起点とする北東方向へ延びる尾根上に立地していることが分かる．その尾根は，約700ｍの直線距離で標高140ｍから70ｍへと下り，遺跡はその標高100ｍ前後の尾根頂上部と北東傾斜面上に位置している．

中尾迫遺跡がある尾根の北東方向には，隣接する尾根とを境とする谷が形成されている．北西方向は，ゆるやかに尾根裾が延びていき，その北側は湊川により侵食されている．

発掘調査実施時点での土地利用と環境は，写真61からも概観できるとおり，中尾迫遺跡の発掘調査地点は戦後の杉の植林地として利用されている．

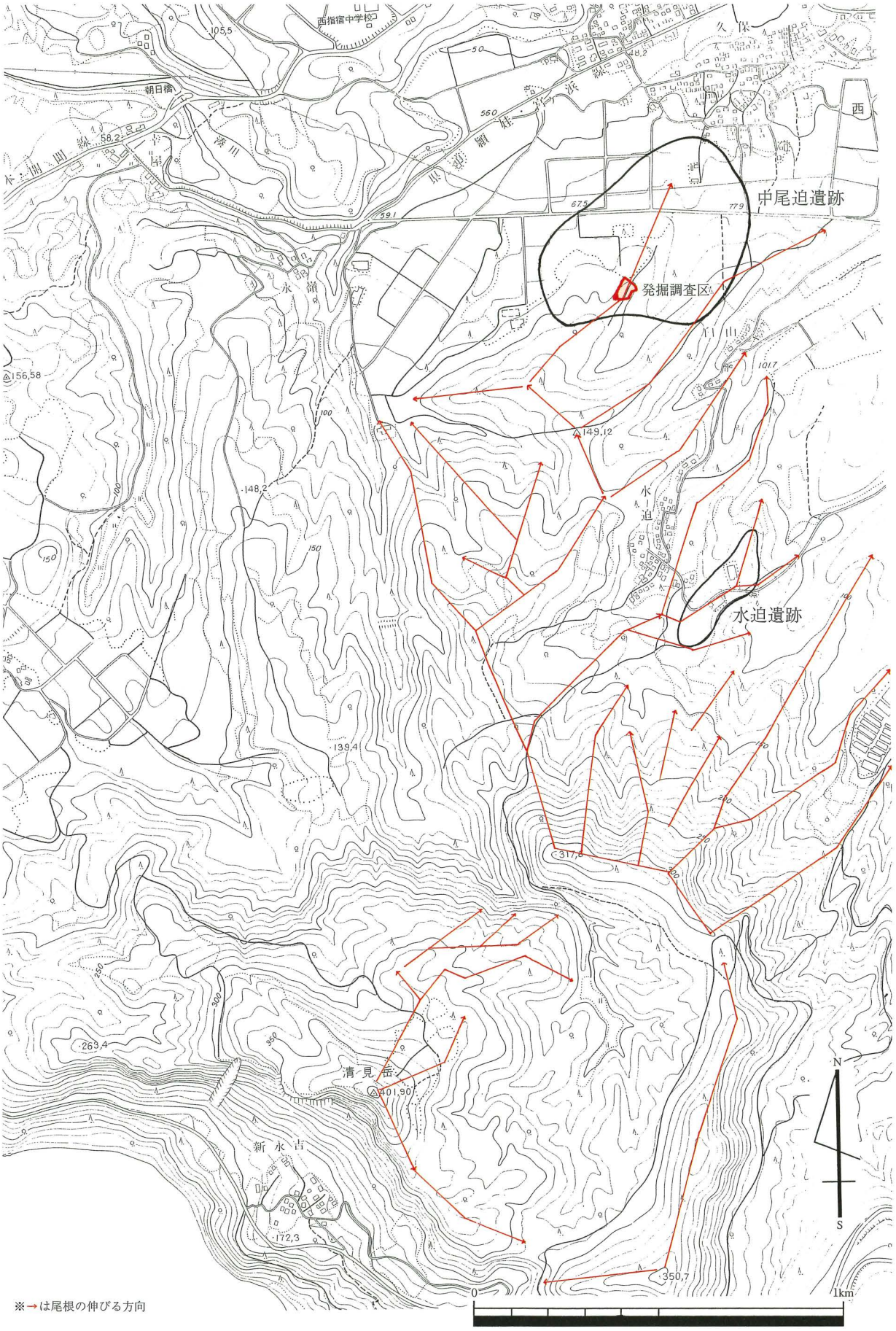
また，その北側では畑地帯整備事業により地形を大きく変え，広い畑地が段々状に整備されている．畑地帯整備事業では，高い地点を削って低い地点へ土砂を運びいれることで平坦な畑を形成していきながら整備しているため，中尾迫遺跡周辺の畑地内では，近世・近代の陶磁器類や弥生土器を表面採集することができる．このことから，中尾迫遺跡での遺物包含層の面的な広がりは，発掘調査地点のみではなく，現在畑地としてあるいは杉の植林地として利用されている範囲まで広がっていたことが考えられる．

発掘調査区の東側の谷部にも杉が植林されている部分もあるが，一部には照葉樹林が垣間見れる．この谷には降雨時には，両側の尾根からの雨水が流下して一時的な小河川となり，より谷を侵食している．

なお，発掘調査地点の土地利用経緯について地区住民からの情報によると，戦前・戦時中は畑地として利用されていたとのことで，それ以前に尾根の斜面地を畑地として整えていたと考えられる．戦後は，杉の植林が行われており，確認調査・発掘調査を実施する直前まで杉林地として利用されていた．

中尾迫遺跡が立地している尾根上には，軽乗用車が往来できるほどの幅がある林道が南側へ続いており，最近までは杉の手入れや狩猟等で利用されていたようである．

第１図　中尾迫遺跡の位置図（S＝1/75,000）



第２図　中尾迫遺跡の地形図（Ｓ＝1/15,000）

第２節　周辺の遺跡と中尾迫遺跡

中尾迫遺跡は，指宿市西方字中尾迫に所在する．今回の発掘調査では，近世・近代と弥生時代前期・中期・後期の遺物包含層が確認された．

中尾迫遺跡の周辺で，弥生時代の遺跡として周知化されている遺跡を列記していく．

水迫遺跡は，中尾迫遺跡と同様で広域営農団地農道整備事業に伴い周知化され発掘調査された．水迫遺跡では，開聞岳の火山性噴出物である暗紫コラの第１ｈ層の下層で一枚間層を挟み第１ｇ層中から弥生時代中期の遺物が出土している．弥生時代の遺物包含層を確認した調査区・トレンチは，第Ⅱ調査区，第２・６・７・11・12・13・14トレンチで確認されている．主な遺物は，入来Ⅱ式土器を主体とし，山之口式土器や軽石製加工品，磨製石鏃，炭化物が出土している．また，遺構は，第１ｇ層を埋土とするピット（主柱痕があるものもある）が多数検出されているが，建物等のプランを形成するまでなかった．

水迫遺跡の弥生時代中期の遺物包含層は，標高120ｍから130ｍの尾根状地形に広がっており，平成11年から平成14年までの発掘調査では，その尾根の北側あるいは西北側への傾斜面の遺物包含層を確認した．その傾斜堆積層中に多くの土器が包含されていた．尾根頂上部あるいは平坦地での調査はされておらず，水迫遺跡で弥生時代中期の生活の中心部分と想定される範囲は未調査である．

水迫遺跡は標高120ｍから130ｍ上にあり，比較的標高の高い所にある弥生時代の生活跡であり，生活基盤も含め注目されていく遺跡である．

敷領遺跡では，平成８年度に発掘調査され，弥生時代中期のベット状遺構を伴う竪穴式住居が検出されている．また，第９層中からは成川式土器と供に中津野式土器や山之口式土器が出土している．敷領遺跡は，標高４ｍ前後の火山性扇状地上にある．

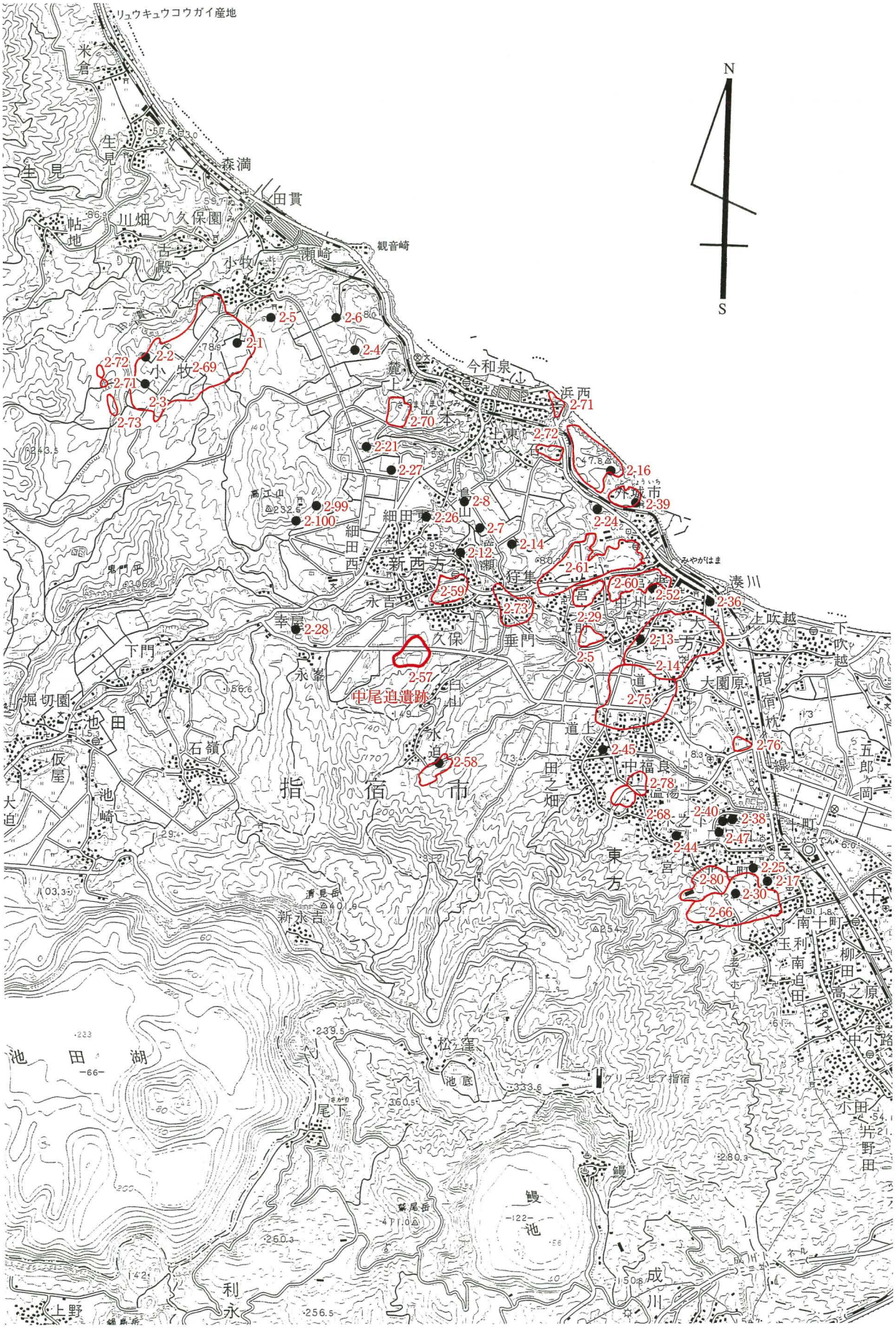
南迫田遺跡では，平成７・９年度の発掘調査により暗紫コラの下層で，一枚間層を挟み第11層から弥生時代中期の遺物包含層が確認されている．遺物は，山之口式土器が主体を占めている．遺構は，ピット，土坑が検出されている．南迫田遺跡は，標高22ｍ前後の火山性扇状地の山裾側に位置している．

尾長谷迫遺跡の外栫権現地区での第７・10・15・16トレンチのⅣ層中から，弥生時代中期の遺物が出土している．報告書掲載遺物では入来Ⅱ式土器が散見できる．標高40ｍ前後のシラス台地上で，遺跡の東側では海岸線から真下に望むことができる．

横瀬遺跡では，昭和56年度に３地点に区画されて発掘調査が行われ，弥生時代前期末から弥生時代後期の遺物包含層が確認されている．第１地点Ⅱｆ層からは入来Ⅱ式土器が出土している．第２地点では，弥生時代中期・後期の遺物包含層が確認されている．第３地点では，弥生時代中期から後期後半期に属する竪穴住居が検出されている．

県営畑地総合土地改良時事業鳥山地区の西原迫遺跡と早馬迫遺跡でも弥生時代前期と中期の遺物包含層が確認されている．４ｍ四方の限られた確認調査トレンチのため，遺構確認までは至っていないものの広い範囲に広がっていることが予想される．立地的には尾長谷迫遺跡の西側で標高46～70ｍの丘陵部である．

・参考文献
下山　覚　中摩浩太郎　渡部徹也　鎌田洋昭　『水迫遺跡Ⅱ』指宿市埋蔵文化財発掘調査報告書（35）指宿市教育委員会　2002年
中摩浩太郎　渡部徹也　鎌田洋昭　『水迫遺跡Ⅲ』指宿市埋蔵文化財発掘調査報告書（36）指宿市教育委員会　2004年
渡部徹也　下山　覚　中摩浩太郎　鎌田洋昭　『敷領遺跡』指宿市埋蔵文化財発掘調査報告書（25）指宿市教育委員会　1997年
下山　覚　鎌田洋昭　『南迫田遺跡』指宿市埋蔵文化財発掘調査報告書（15）指宿市教育委員会　1994年
下山　覚　鎌田洋昭　中摩浩太郎　渡部徹也　『南迫田遺跡Ⅱ』指宿市埋蔵文化財発掘調査報告書（28）指宿市教育委員会　1998年
吉永正史　弥栄久志　『横瀬遺跡』指宿市埋蔵文化財発掘調査報告書（６）指宿市教育委員会　1982年
繁昌正幸　中村耕治　『尾長谷迫遺跡』指宿市埋蔵文化財発掘調査報告書（７）指宿市教育委員会　1986年
弥栄久志　中島哲郎　井ノ上秀文　『鳥山調査区』指宿市埋蔵文化財発掘調査報告書（４）指宿市教育委員会　1980年
指宿市考古博物館　時遊館ＣＯＣＣＯはしむれ　第8回企画展示図録　『指宿歴史物語　発掘調査編　二十一世紀の指宿の発掘調査史を振り返る』　指宿市教育委員会　2002年



第３図　中尾迫遺跡周辺の遺跡（Ｓ＝1/50,000）

遺跡番号	遺跡名	所在地	地形	時代	調査履歴
2-1	露重	小牧字露重	台地	旧石器	昭和53年度
2-2	尾越・堀添	小牧字尾越・堀添	台地	旧石器	昭和53年度
2-3	中尾	小牧字中尾	台地	旧石器	昭和53年度
2-4	小牧ⅢA	岩本	台地	旧石器・縄文	昭和53年度
2-5	小久保	小牧字小久保	台地	旧石器・縄文	昭和53年度
2-6	岩本	小牧	台地	旧石器・縄文	昭和52年度
2-7	西原道畑	新西方西原道畑	台地	縄文・弥生	昭和54年度
2-8	西原迫	新西方西原迫	台地	縄文・弥生	
2-12	渡瀬	新西方渡瀬	台地	縄文	日本考古学報告5
2-13	中川	西方中川	台地	縄文・弥生	
2-14	早馬迫	新西方早馬迫	台地	縄文・弥生	昭和54年度
2-16	尾長谷迫	西方尾長谷迫	海岸段丘	古墳・古代・中世	昭和60年度
2-17	指宿高校校庭	十町	微高地	弥生	
2-21	鳥山	新西方鳥山	台地	古墳・古代・中世	市誌
2-24	外城市	西方外城市	海岸段丘	弥生	
2-25	久玉神社	十町	微高地	弥生	市誌
2-26	舟木	新西片舟木	台地	古代・中世	
2-27	細田東後	新西方細田東後	台地	古代・中世	
2-28	幸屋	新西方幸屋	台地	古墳・古代・中世	サンオーシャンリゾート分布調査
2-29	宮之前	西方宮之前	台地	弥生・古墳・古代	昭和53年度
2-30	光明寺跡	十町迫田	台地	中世	市誌
2-36	湊川橋	西方宮ヶ浜	河川	近世	市指定文化財
2-38	殿様湯跡	西方	微高地	近世	市指定文化財
2-39	松尾城	西方	海岸段丘	中世	
2-40	湯権現	西方	台地	近世	市指定文化財
2-44	島津堀井碑	東方	微高地	近世	市指定文化財
2-45	上西原	東方	微高地	民俗文化財	市指定文化財
2-47	揖宿神社田の神	東方	微高地	民俗文化財	市誌
2-52	長勝院跡	西方宮之前	斜面	中世	市指定文化財
2-57	**中尾迫**	**西方字中尾迫**	**丘陵**	**弥生・中世・近世**	**平成9年度発掘調査**
2-58	水迫	西方字水迫	丘陵	旧石器時代・縄文	平成11・12・13・14年度
2-59	久保	西方字久保	台地	縄文・古墳	サンオーシャンリゾート分布調査
2-60	弓場	西方宮之前弓場	台地	古墳・古代・中世	サンオーシャンリゾート分布調査
2-61	佐貫原	西方佐貫原	台地	古墳・古代・中世	サンオーシャンリゾート分布調査
2-66	上玉利Ⅱ	東方玉利上玉利	丘陵	弥生・古墳・古代・中世	サンオーシャンリゾート分布調査
2-68	中島ノ下	中福良中島ノ下	微高地	古墳・近世	市指定文化財
2-69	小牧	小牧字西出水迫他	台地	旧石器・縄文・古墳・中世	昭和53年度
2-70	岩本Ⅰ	岩本麓上門之口西平	台地	縄文・古墳	昭和52年度
2-71	多羅ヶ迫	小牧字多羅ヶ迫	谷地	中世	平成13年度
2-71	景色ヶ鼻	岩本景色ヶ鼻	台地	古墳・古代	
2-72	十石	西方十石十石原地	台地	古墳	
2-72	西多羅ヶ迫	小牧字西多羅ヶ迫	丘陵	旧石器・縄文・中世	平成14・15年度
2-73	土愛喜	小牧字土愛喜	丘陵	縄文時代	平成11年度分布・確認調査
2-73	狩集	西方字狩集	台地	古墳	
2-74	大園原	西方大当大園原	台地	縄文	
2-75	道下	西方道下	台地	古墳	
2-76	田口田	西方二月田田口田	微高地		
2-78	野間	西方道下野間	台地		平成2年度
2-80	松ヶ迫	西方松ヶ迫	微高地	弥生・古墳	
2-99	宮尻平	新西方宮尻平	台地	古墳・古代・中世	
2-100	高江山麓	岩本高江山麓	台地	弥生・古墳	

第１表　中尾迫遺跡周辺の遺跡一覧表

第2章　発掘調査の経緯と組織

第1節　発掘調査の経緯

中尾迫遺跡は，平成5年度に鹿児島県文化財課が実施ししたサン・オーシャンリゾート開発に伴う分布調査によって，弥生時代の土器片が表面採集されたことで初めて周知化された遺跡である．中尾迫遺跡と同時に周知化された遺跡は，後期旧石器時代の竪穴建物跡や道跡が発見された水迫遺跡も挙げられる．

平成9年度に指宿市教育委員会が鹿児島耕地事務所と委託契約を締結し，広域営農団地南薩東部地区農道整備事業に伴う遺物包含層の有無を目的とした確認調査を実施した．確認調査の結果，中尾迫遺跡内で弥生時代中期の遺物包含層が確認された．

その調査成果を踏まえ，鹿児島耕地事務所，鹿児島県文化財課，指宿市耕地課，指宿市教育委員会との四者協議が行われた．協議の結果，指宿市教育委員会が平成9年度に中尾迫遺跡内で広域農道予定路範囲を発掘調査することとなった．

なお，この協議の際に，概ね今後の耕地事業に伴う確認・発掘調査と報告書作成業務の年次実施計画案が作成された．

他事業との関連も含め，近年の耕地事業に伴う埋蔵文化財関連事業は下記のような計画で実施してきた．

平成5年度：サン・オーシャンリゾート開発に伴う分布調査
平成8年度：広域営農団地農道整備事業地内での確認調査
平成9年度：中尾迫遺跡発掘調査
平成11年度：水迫遺跡発掘調査・小牧地区確認調査
平成12年度：水迫遺跡発掘調査
平成13年度：多羅ヶ迫遺跡発掘調査
平成14年度：西多羅ヶ迫遺跡発掘調査
平成15年度：水迫遺跡発掘調査・西多羅ヶ迫遺跡発掘調査
平成16年度：中尾迫遺跡報告書作成

第2節　発掘調査・報告書作成組織

中尾迫遺跡の発掘調査（平成9年度）と報告書作成（平成16年度）の組織は下記のとおりである．

発掘調査の組織（平成9年度）

発掘調査主体	指宿市教育委員会		
発掘調査責任者	指宿市教育委員会	教育長	山下　隼雄
発掘調査担当者	指宿市教育委員会	総務課長	小牟礼隆憲
		社会教育課長	室屋　昭男
		社会教育係長	尾辻　隆
		派遣社会教育主事	原口　洋
		社会教育係主査	宮原　智子
		同上	川畑　忠晴
		文化係長	下玉利　泉
		文化係主査	小村　重志
		文化係主事	大道　裕子
発掘調査担当		同上	下山　覚
		同上	中摩浩太郎
		同上	渡部　徹也
		同上	鎌田　洋昭

報告書作成の組織（平成16年度）

報告書作成主体	指宿市教育委員会		
報告書作成査責任者	指宿市教育委員会	教育長	林　賢一郎
報告書作成担当者	指宿市教育委員会	教育次長	堀口健一郎
		社会教育課長	久保憲一郎
		社会教育係長	臼山　尚人
		派遣社会教育主事	井上　智司
		社会教育係主査	福永　清子
		社会教育係主事	嶺元　和仁
		文化係長	枝田　富雄
		文化係主査	東中川睦子
		文化係主事	吹留　義輝
報告書作成担当		文化係主査（学芸員）	中摩浩太郎
		同上（学芸員）	渡部　徹也
		文化係主事（学芸員）	鎌田　洋昭

第3章　発掘調査

第1節　発掘調査区の設定（第4・5図）

中尾迫遺跡は，平成9年度に指宿市教育委員会が鹿児島耕地事務所と委託契約を締結し，広域営農団地南薩東部地区農道整備事業に伴い発掘調査を実施した．発掘調査区は，平成5年度の分布調査結果と平成8年度の確認調査結果に基づき，広域農道予定路内に第4図の範囲で設定した．

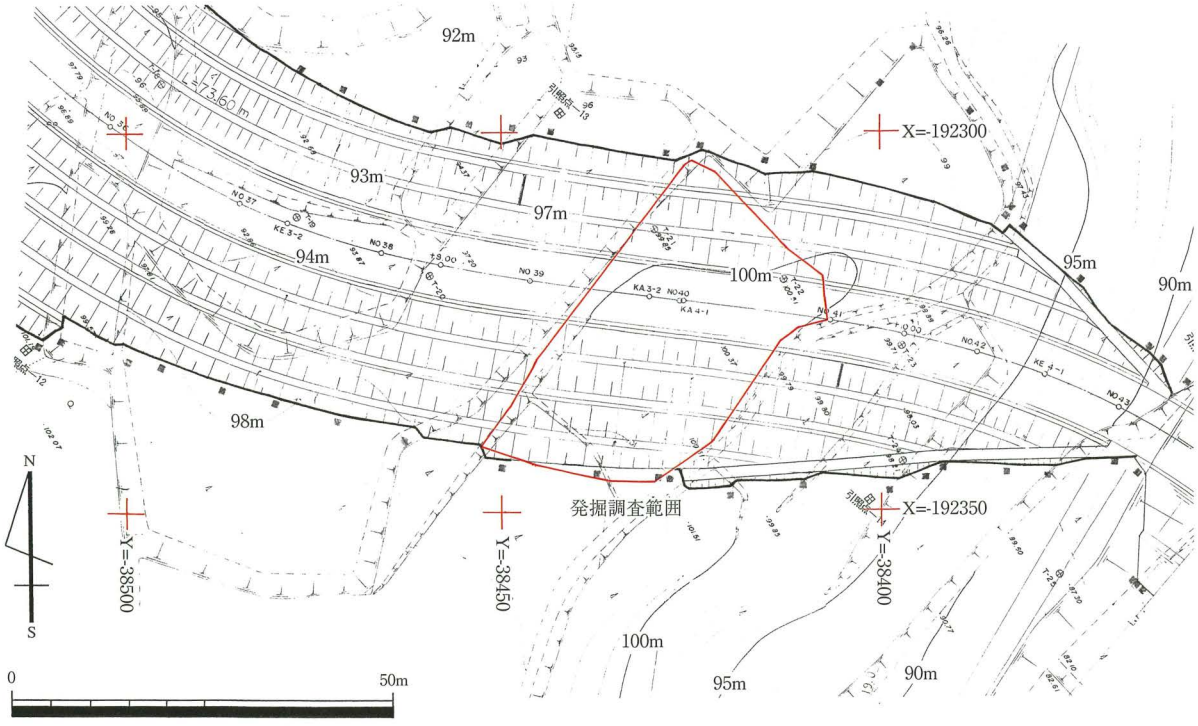
調査対象範囲は第5図の黒色ラインで示している範囲で約1,040㎡の面積である．その範囲内で，赤色で示している範囲が実質的な発掘調査実施範囲であり，約660㎡である．

発掘調査範囲は，元々戦前・戦時中は段々畑であり戦後には杉林が植林されていた．杉林の伐採の関係上，発掘調査はまず南区とした範囲で実施した．その後，杉林の伐採が全面的に終了したため，発掘調査区の中心部である北区で発掘調査が実施された．

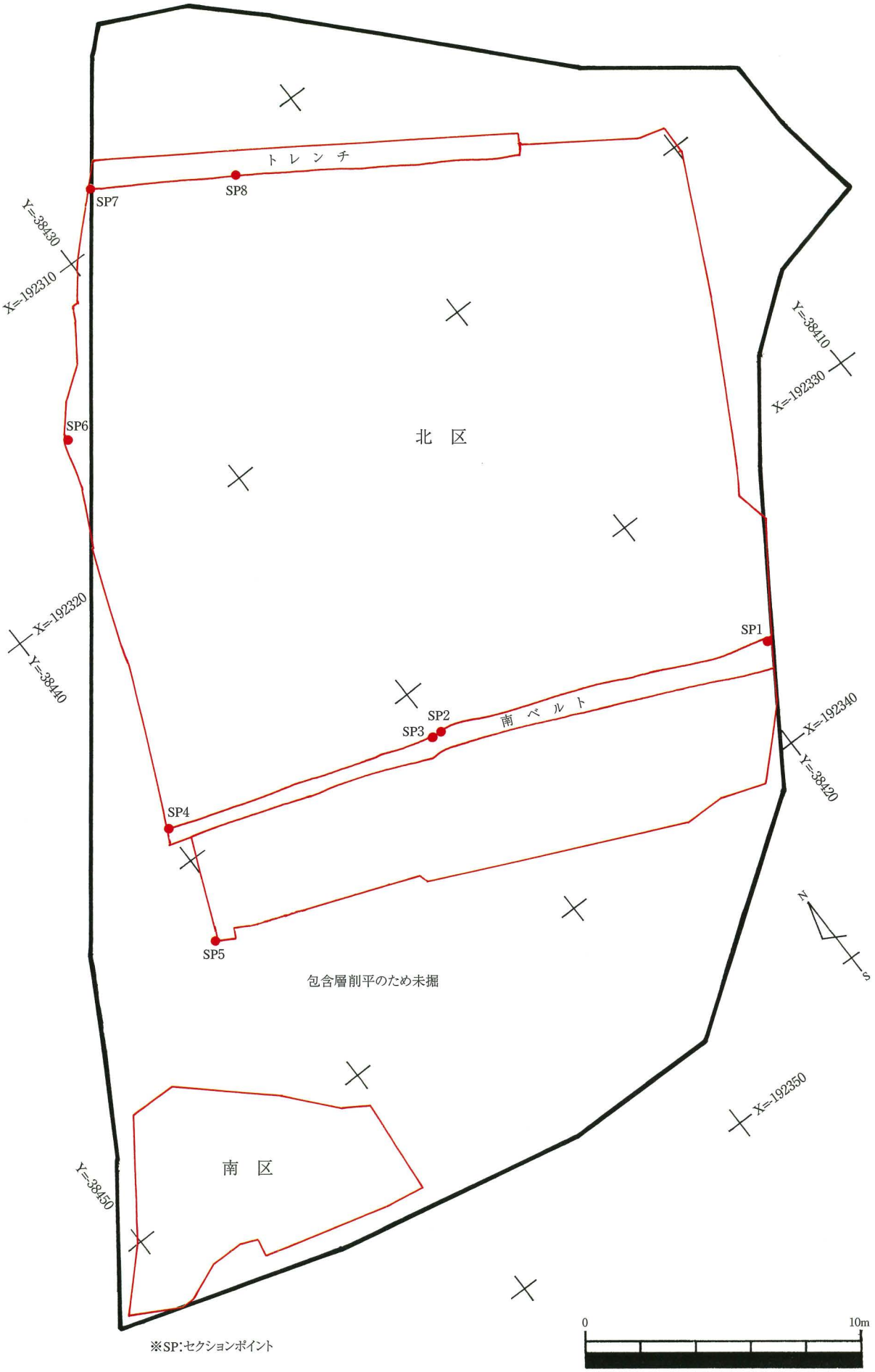
また，廃土置き場確保の関係で，南区の発掘調査を先行した．さらに，南区の東側部分にトレンチを設定して地層の堆積状況と近年の耕作に伴う撹乱から，遺物包含層の削平・欠落範囲が想定された．その範囲は未掘範囲として図示している．

北区では，近世・近代の遺構，弥生時代中期・後期の遺物包含層を確認した．

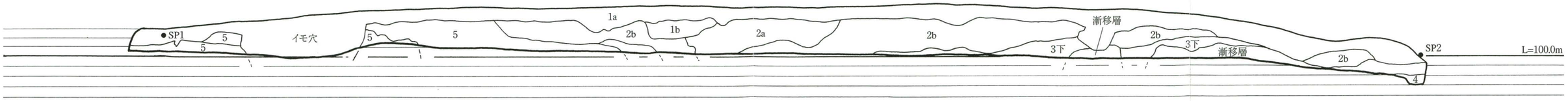
南区では，近世・近代の遺構と弥生時代中期の遺物包含層を確認した．



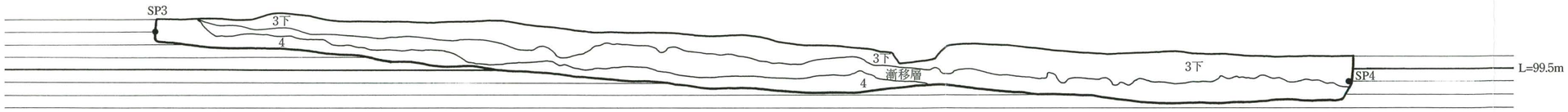
第4図　中尾迫遺跡調査区の位置図（S＝1/1,000）



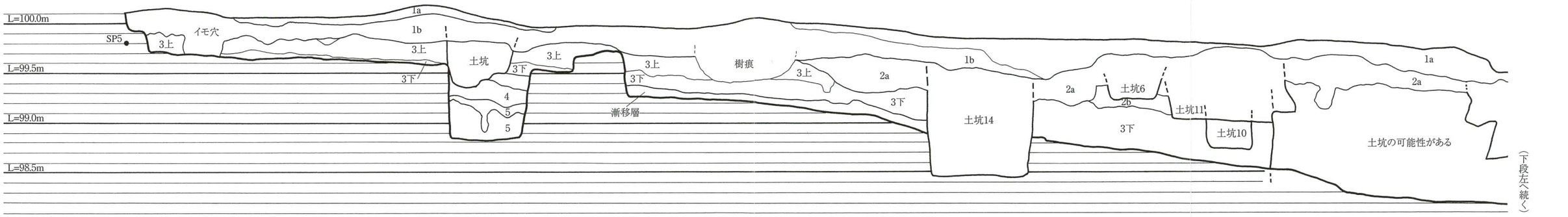
第５図　中尾迫遺跡の調査区図（Ｓ＝1/200）



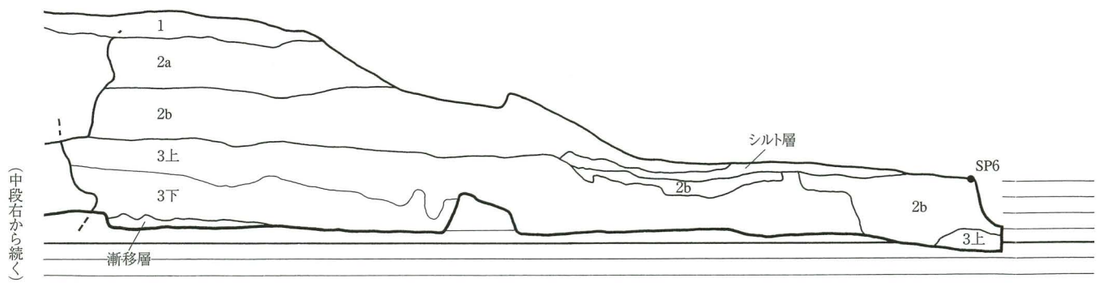
南壁地層断面①(SP1—SP2)



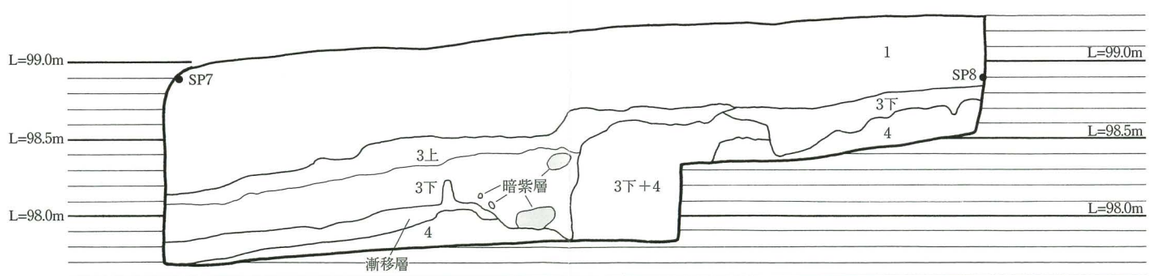
南壁地層断面②(SP3—SP4)



西壁地層断面①—1(SP5—SP6)



西壁地層断面①—2(SP5—SP6)



北壁地層断面(SP7—SP8)

第6図　中尾迫遺跡地層断面実測図(S＝1/40)

第２節　基本層序

(1) 火山性噴出物堆積の概要

中尾迫遺跡が所在する指宿市は，有史前後の火山噴出物が幾重にも堆積している地域である．

まず，指宿市域の基盤層の一部を形成している清見岳火山性噴出物（約50,000年前）や宿利原火山性噴出物（約30,000～40,000年前）が堆積している．

その上位層には，広域火山噴出物として著名な姶良カルデラ火山性噴出物（約24,000年前）が認められる．標高100ｍ前後より高い地域には大隅降下軽石が主体を占め，それより低い地域では入戸火砕流（シラス）が厚く堆積している．

さらに，その上位には，サツマ火山灰（約11,400年前），喜界カルデラ火山性噴出物（約6,400年前），池田カルデラ火山性噴出物（約5,500年前），開聞岳火山性噴出物（縄文時代後期，弥生時代中期，古墳時代，平安時代）が堆積している．

(2) 中尾迫遺跡基本層序（第６・７図）

中尾迫遺跡の発掘調査で確認された地層は下記のとおりである．なお，発掘調査での最終掘削面は第６層の池田カルデラ火山性噴出物のシラスあるいはその二次堆積層であったが，完掘時に重機を用いてその下位層を確認した．

中尾迫遺跡は尾根上に立地しているため，尾根頂上部では，地層堆積が薄く層数も少ない．それに対して，谷部への傾斜堆積地域では層数も多く，それぞれの堆積が厚い傾向がある．

第１層：表土層である．地点によっては耕作土層（第１ａ層）と撹乱層（第１b層）とに分類でき，耕作土層が撹乱層より上位に堆積している．

第２層：第１層と弥生時代遺物包含層の第３層との間層である．当初，１層として判断したが，谷部への傾斜堆積地域での確認によって次のように２層に分層ができた．

第２ａ層：近世・近代の遺物包含層であり，ピットや土坑，溝状遺構などの掘削開始層でありそれら遺構の埋土の主体を占める．

第２ｂ層：中世黒色帯に該当する地層である．

第３層：弥生時代中期・後期の遺物包含層である．尾根上の堆積が薄い地域では細分できなかったが，谷部への傾斜堆積地域では開聞岳火山性噴出物の「暗紫コラ」を含む第３層上部とその下位の第３層下部とに細分した．

第３層上部：弥生時代後期の遺物包含層である．中津野式土器を主体に包含している．

第３層下部：弥生時代中期の遺物包含層である．山之口式土器と入来Ⅱ式土器を主体に包含している．

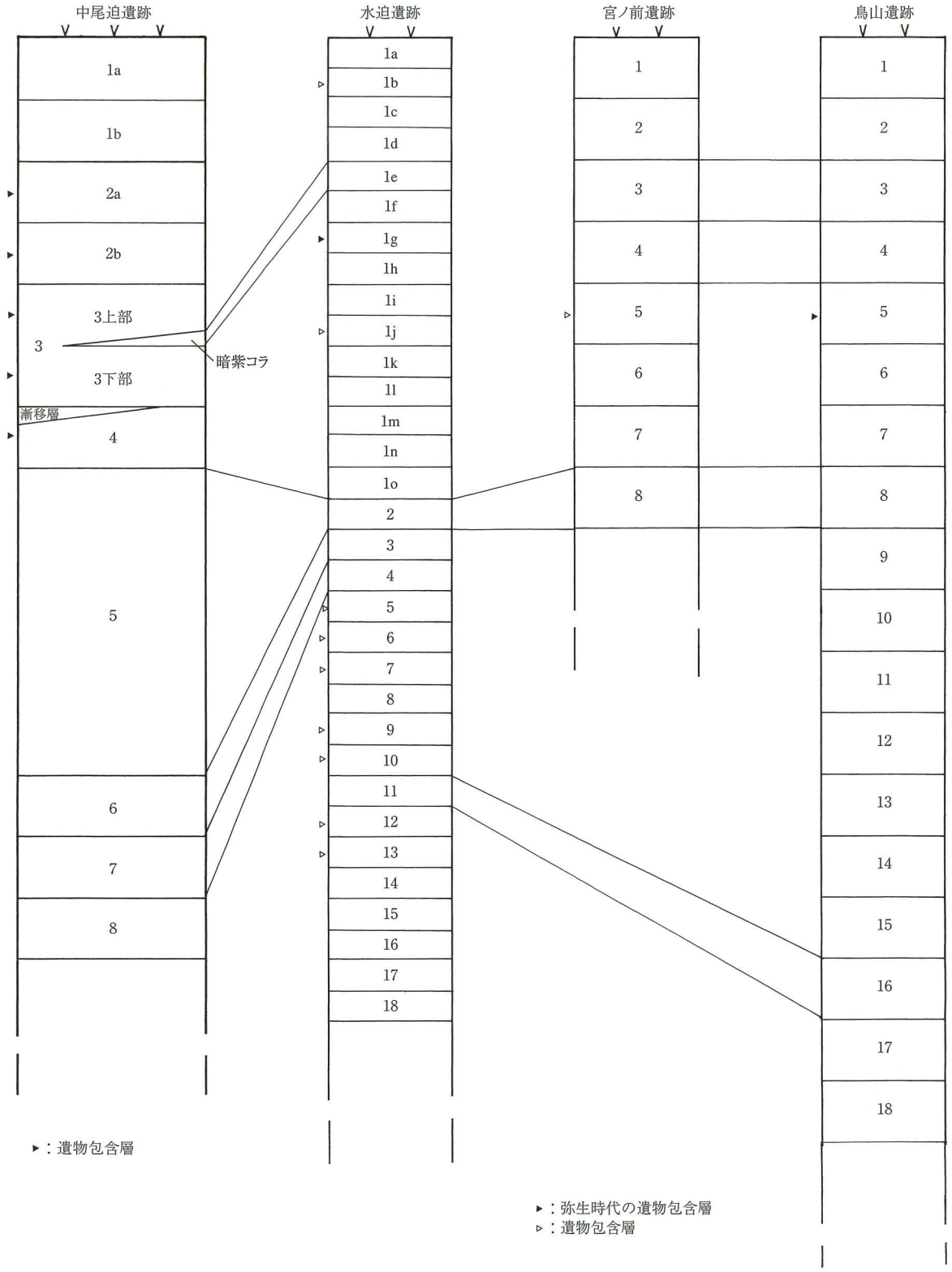
第４層：弥生時代前期・中期の遺物包含層である．入来Ⅱ式土器と高橋式土器を包含している．第３層との間には漸移層が谷部への傾斜堆積地域で認められる．第３層帰属の遺構の検出面である．

第５層：池田カルデラ火山性噴出物堆積層である．火砕流堆積物とその二次堆積が厚く堆積しており，その下位には降下軽石と池崎火山灰が堆積している．尾根上部では第１層・第２層の直下層が第５層である部分もあり，近世・近代の遺構検出面である．

第６層：第５層と第６層との間層であり，黒色を呈している．無遺物包含層である．

第７層：喜界カルデラ火山性噴出物堆積層である．火砕流層，軽石層，火山灰層が堆積している．

第８層：縄文時代早期～前期に帰属する地層である．



第７図　基本層序と各遺跡との対比図

第3節　近世・近代の調査

（1）発掘調査

中尾迫遺跡の近世・近代の発掘調査は，まず南区部分を先行して行った．

南区では，杉の樹根を抜根後，第1層の表土・耕作土層を除去したところ，第5層の池田カルデラ火山性噴出物のシラス二次堆積が確認された．その第5層上面で第2ａ層を埋土とする遺構を検出した．

北区での近世・近代の遺構検出面は，北東側が第3層あるいは第5層上面で，西北側が第3層上面である．

出土遺物は，第2層から若干の陶磁器類と土器片が出土している．

（2）遺構（第8～11図・別図1）

中尾迫遺跡において近世・近代に帰属する遺構としては，土坑，ピット，溝状遺構を検出した．（第8図・別図1）

①土坑（第8・9・10図）

土坑は，ほぼ調査区全体で検出された．また，その土坑の形態から2種類に分類が可能である．ひとつは，北区の西北側で主に検出されている平面形態が楕円形あるいは長楕円形を呈しており，便宜上，土坑Ａと仮称する．もうひとつは，北側北東側や中央部，南区で検出されている平面形態がほぼ円形を呈しているもので，土坑Ｂと仮称する．

土坑Ａは，特に北区西北側で集中している傾向がある．第9・10図はその範囲で検出された土坑の平面図と断面図であり，ここでは，土坑1～27までの土坑を図示している．土坑の主軸がほぼ2方向あることが看取できる．ひとつは，土坑の主軸が北東―南西のものと，西北―東南のものである．その2方向の土坑の主軸方向はほぼ直角で交差するようである．この2方向は，地形に起因するものと想定できる．土坑Ａは，切り合いが顕著に認められる．特に，西北側端部での長楕円形を呈する土坑Ａは，ほぼ主軸の位置も重なり土坑3・4・5，土坑5・10・11が切り合っている．なお，土坑1も平面形態ではひとつの土坑であるが二段落ちをしていることから，2つの土坑Ａの切り合いの可能性もある．土坑Ａの切り合いから鑑みると，主軸西北―東南の土坑Ａが，主軸北東―南西の土坑Ａを切っているケースが多い．土坑Ａの長軸方向の差は，時期差による可能性が高いと思われる．

土坑Ａは，第10図の断面図を見ると，検出面から底面までの深さは，最深のものは約70㎝以上を測り，浅いものは5㎝未満のものもある．

土坑Ｂは，ほぼ円形を呈しており，北区中央部と北東側，南区で検出されている．特に，北区の北東側端部と南区の北東側では，土坑Ｂがほぼ一直線上で切り合っている．

具体的に挙げると，北区の北東側端部では，土坑49から土坑63までが北東―南西方向の一直線状に並び，土坑51・52・53と土坑54・55・56・57・58が切り合っている．

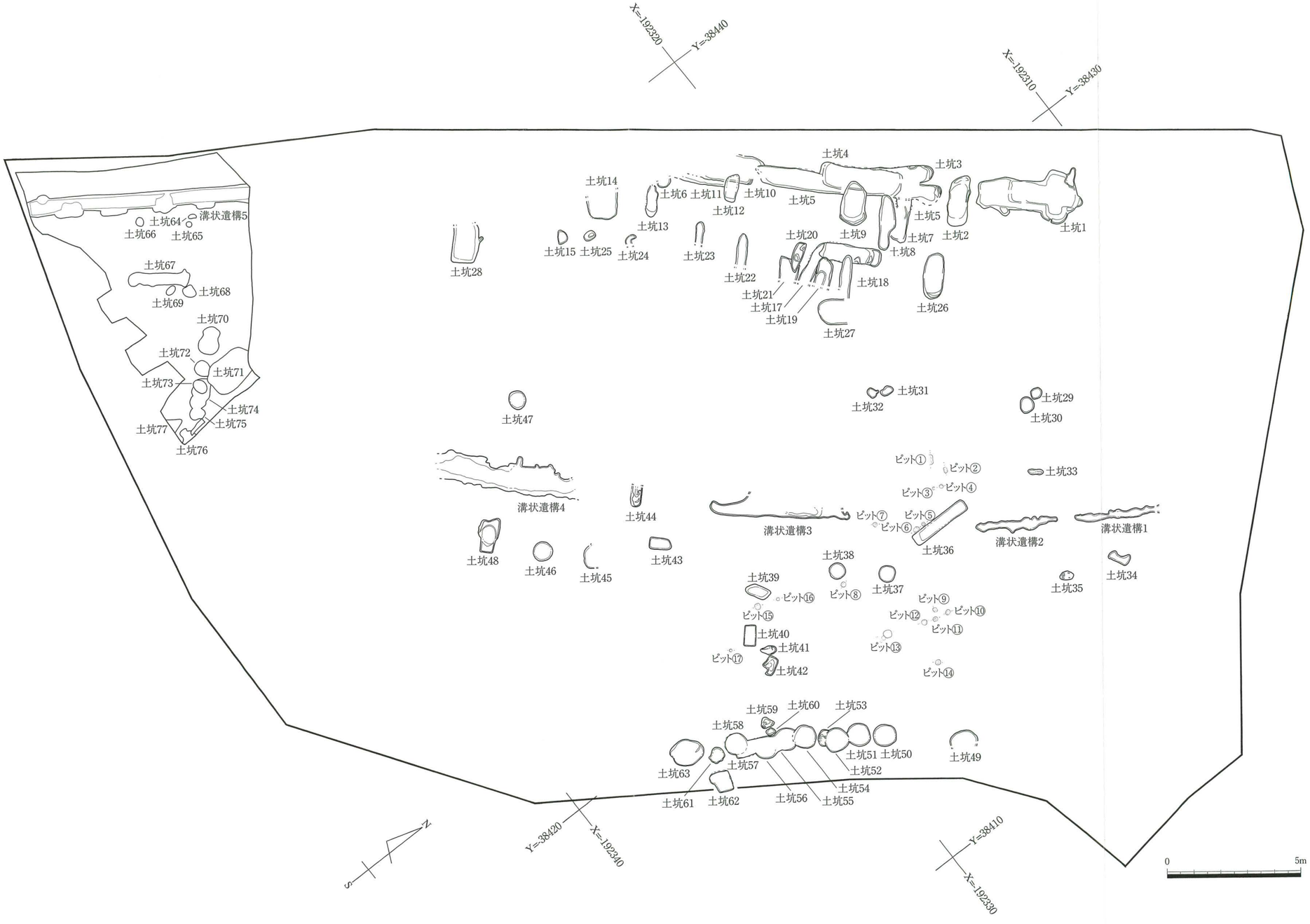
さらに，南区北東側では，土坑70から土坑76までが西北―東南方向の一直線上に並び，土坑73・74が切り合っている．土坑74については，土坑Bが少なくとも3つは切り合っている可能性がある．

土坑Ｂの直径は約60㎝～90㎝であり，ある程度の規格性が看取できる．

②溝状遺構（第8図・別図1）

溝状遺構は，土坑Ａと比較して長軸（長さ）が長く，短軸（幅）が短いものとした．比較的，土坑Ａと比べて，検出面から底面までの掘り込みが浅い．

溝状遺構は，北区中央部と南区西北側で検出されており，主軸方向はいずれも北東―南西である．この主軸方向は北区西北側端部で検出された土坑Ａと同一方向である．このことから，溝状遺構は土坑Ａの底面付近の一部のみが残存している遺構の可能性も捨てきれない．よって，検出状況の形態は異なるものの，その



第８図　近世･近代の遺構配置図（Ｓ＝1/160）

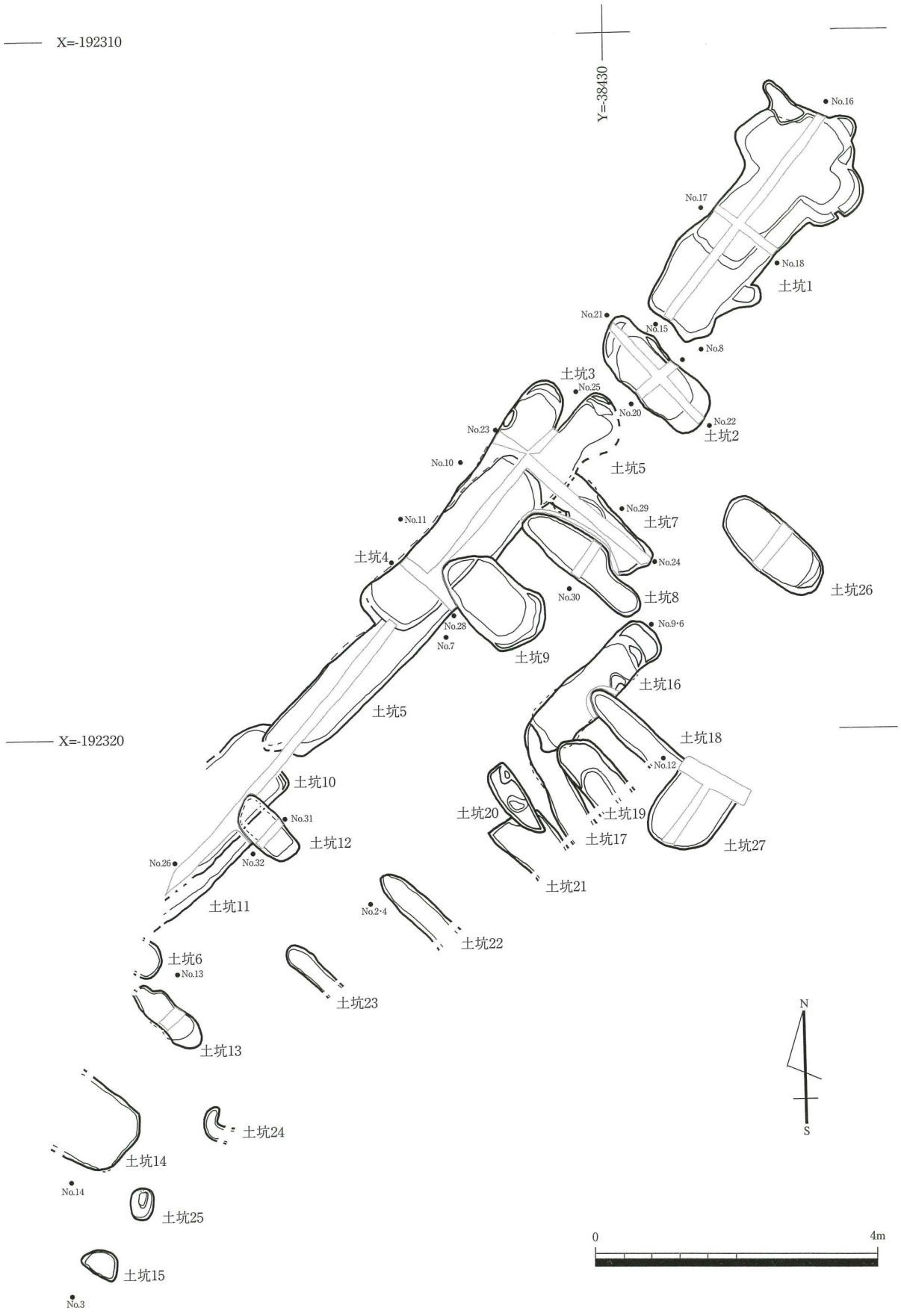
用途や機能については同一の可能性が考えられる．

南区で検出された溝状遺構は，長軸8m30cm以上を測り，中尾迫遺跡で検出されたものとしては最も規模が大きい．

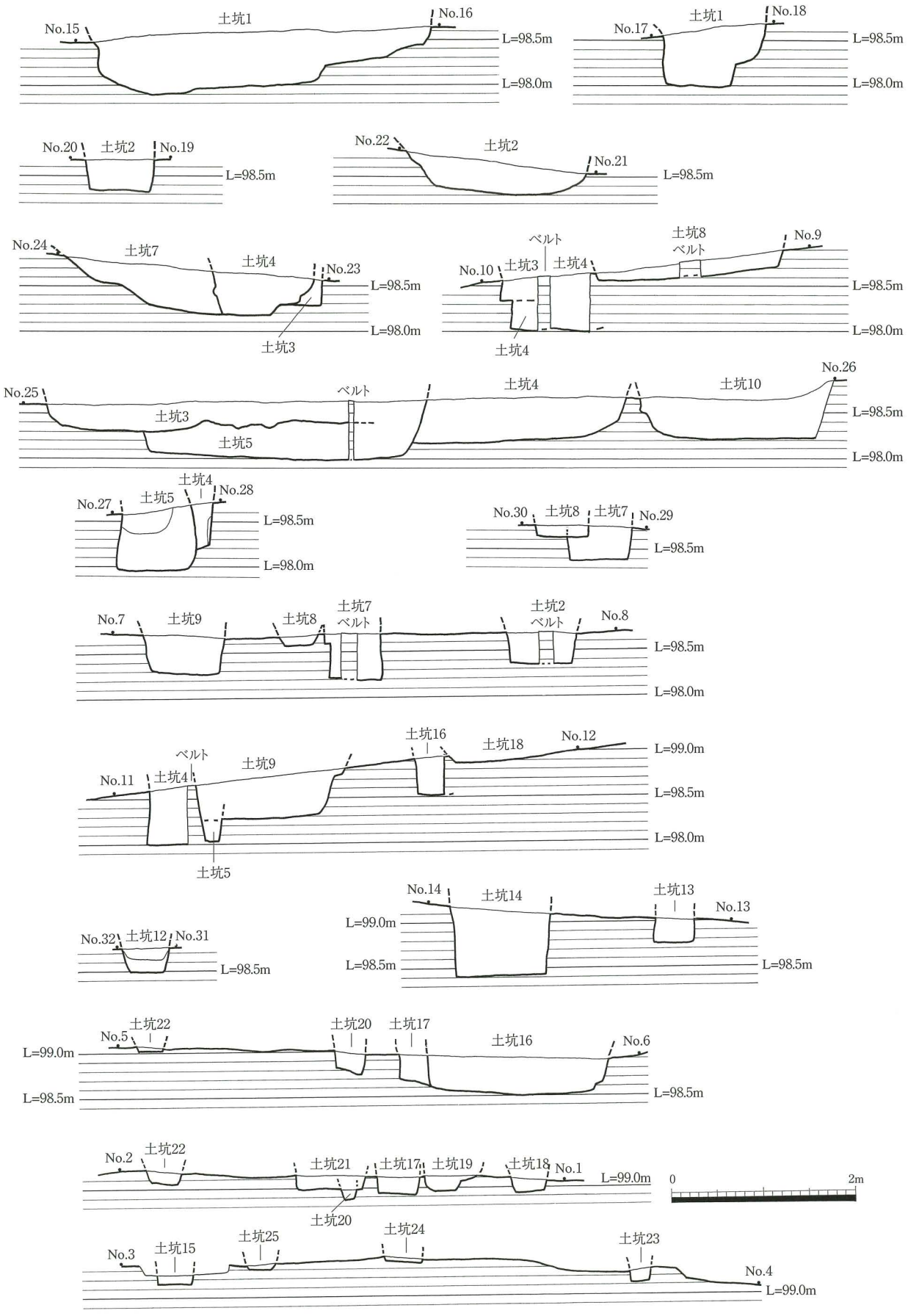
土坑Ａと溝状遺構は，その長軸の主軸方向が北東―南西方向とほぼ一致していることと，本来は同一遺構の可能性があることが看取できる．これらの遺構が検出された位置は，元来区画された畑地の端部と一致するものであり，畑地作業あるいは作物保存も含めた機能・用途を想定できるものと考えられる．さらに，土坑Ｂについては，現在でも畑地の作物の貯蔵用穴として利用されていたものと類似していることから，その機能・用途を想定しておきたい．

土坑番号	最大長(cm)	最大幅(cm)	最　深(cm)	検出面	埋土
1	194	99	67	第3層下部	第2ａ層
2	94	41	36	第3層下部	第2ａ層
3	120+α	34	30	第3層下部	第2ａ層
4	154	45	63	第3層下部	第2ａ層
5	347	44	67	第3層下部	第2ａ層
6	13+α	27	26	第3層下部	第2ａ層
7	82+α	28	50	第3層下部	第2ａ層
8	31	14	17	第3層下部	第2ａ層
9	82	51	46	第3層下部	第2ａ層
10	16+α	54	51	第3層下部	第2ａ層
11	94+α	15	45	第3層下部	第2ａ層
12	53	27	26	第3層下部	第2ａ層
13	61	23	25	第3層下部	第2ａ層
14	45+α	58	75	第3層下部	第2ａ層
15	28	20	10	第3層下部	第2ａ層
16	115	36	41	第3層下部	第2ａ層
17	79+α	24	30	第3層下部	第2ａ層
18	80+α	22	14	第3層下部	第2ａ層
19	52+α	30	15	第3層下部	第2ａ層
20	59	20	21	第3層下部	第2ａ層
21	42+α	38	15	第3層下部	第2ａ層
22	59+α	20	12	第3層下部	第2ａ層
23	40+α	17	12	第3層下部	第2ａ層
24	16+α	13	4	第3層下部	第2ａ層
25	24	18	6	第3層下部	第2ａ層
26	86	39	19	第3層下部	第2ａ層
27	50+α	49	6	第3層下部	第2ａ層

第２表　土坑法量表



第９図　近世･近代帰属の土坑平面図（Ｓ＝1/80）



第10図　近世・近代帰属の土坑断面図（S＝1/60）

③ピット（第８・11図・別図１）

中尾迫遺跡では，近世・近代に帰属するピットを17基検出した．検出状況は，第８図と別図１のとおりである．ピットの検出状況ではプランを形成するまでは至らなかった．

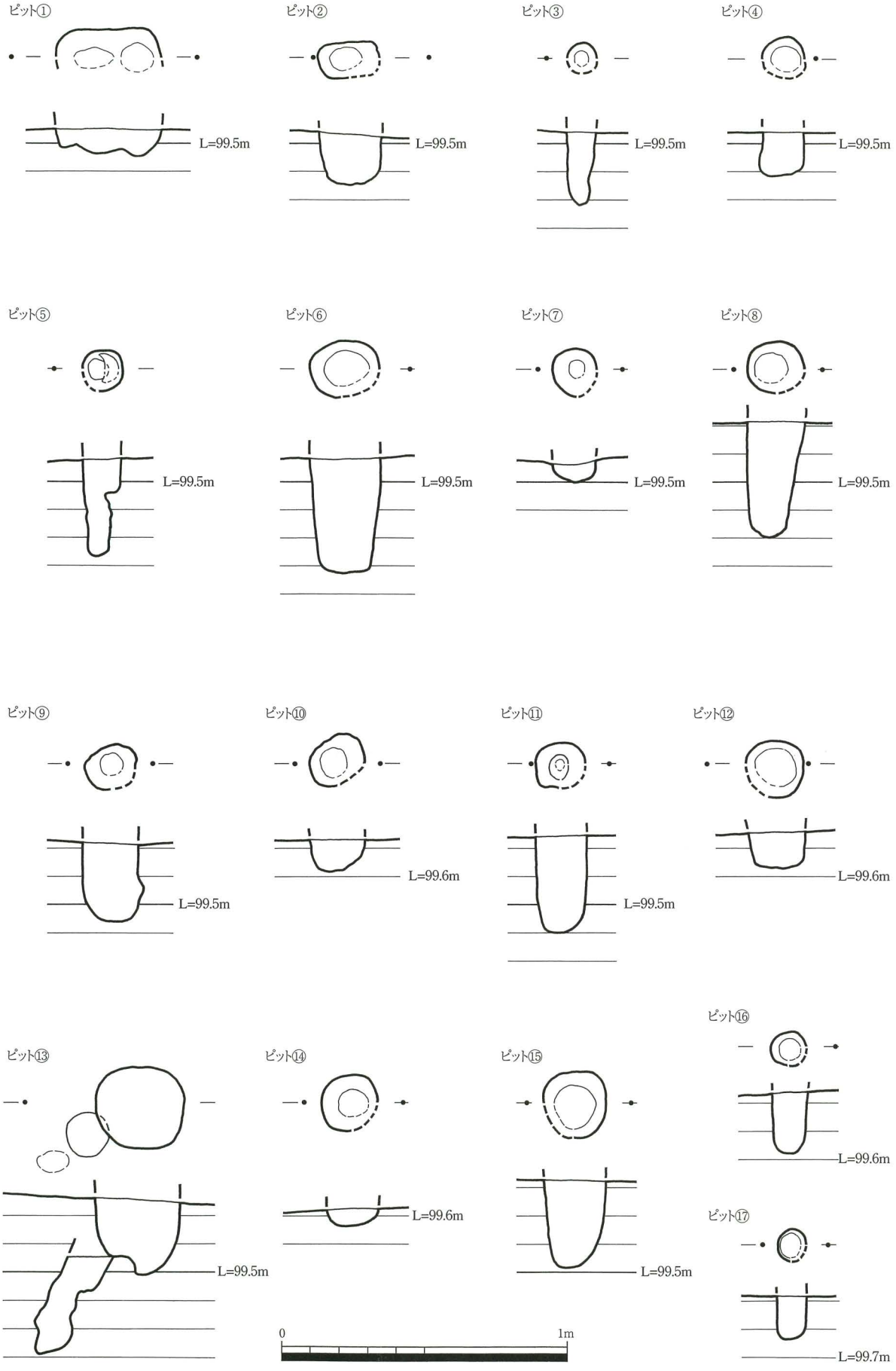
ピットの埋土は，法量表のとおり第２層，特に第２ａ層が主体を占めている．最も深いものは，検出面からピット⑬の約53㎝である．最も浅いものはピット⑭の７㎝である．

ピットは，ほぼ真直ぐに掘られているが，ピット⑬のみは斜め方向へ延びている．

ピットの性格は，建物の柱穴の可能性と，以前畑地として利用されていることから畑地作業に伴う杭の打ち込みの可能性も考えられる．今後はそのような機能・用途も含め検討していく必要がある．

ピット番号	最大長（㎝）	最大幅（㎝）	最　深（㎝）	検出面	埋　土	備　考
①	33	10＋α	10	第5層	第2層	茶褐色・明褐色
②	22	13	18	第5層	第2層	茶褐色・明褐色
③	11	6＋α	26	第5層	第2層	
④	10	8＋α	16	第5層	第2層	
⑤	15	15＋α	35	第5層	第2層	明茶褐色
⑥	25	20	41	第5層	第2層	明茶褐色
⑦	16	17	7	第4層	第2層	茶褐色
⑧	20	10＋α	42	第5層	第2層	茶褐色
⑨	19	16	28	第5層	第2層	明茶・第5層
⑩	20	19	7	第5層	第2層	明茶
⑪	8	17	35	第5層	第2層	明茶・第5層
⑫	21	13	18	第5層	第2層	茶褐色
⑬	32	29	53	第5層	第2層	明茶褐色
⑭	20	20	6	第5層	第2層	茶褐色
⑮	14	24	31	第4層	第2層	茶褐色
⑯	43	12	22	第4層	第2層	茶褐色
⑰	10	12	15	第5層	第2層	茶褐色

第３表　ピット法量表



第11図　近世･近代帰属のピット平面･断面図（S＝1/20）

第4節　弥生時代の調査

（1）発掘調査

中尾迫遺跡の弥生時代（第3層・第3層上部・第3層下部・第4層）の発掘調査は，まず，南区部分を先行して行われた．南区では64点の遺物が出土した．北区では，まず第3層として遺物を取上げた後，調査区西北端部の傾斜堆積地域で第3層が層質的に分層ができたことから，便宜上，第3層上部と第3層下部に分層し，遺物の取上げを行った．弥生時代の遺物包含層（第3層・第3層上部・第3層下部・第4層・埋土内遺物）からの総出土点数は814点である．

中尾迫遺跡の各層出土遺物から，概ね，各層は下記のような帰属時期を与えることができよう．

第　3　層：第3層上部と下部の分層前の取上げ層名である．弥生時代中期から後期の遺物を取りけ上げている．本来は下記のとおり上部と下部の遺物包含層に分けられる．

第3層上部：中津野式土器を主体とする弥生時代後期終末の遺物包含層である．

第3層下部：山之口式土器と入来Ⅱ式土器が混在する弥生時代中期の遺物包含層である．

第　4　層：入来Ⅱ式土器を主体とし，わずかだが高橋式土器が含まれる弥生時代前期から中期の遺物包含層である．

（2）遺構（第12～20図・別図2）

中尾迫遺跡では，第3層・第3層下部・第3層上部・第4層の弥生時代に帰属する遺構を検出した．

遺構は，土器焼成坑，土坑，ピットである．各遺構の検出状況は第12図・別図2のとおりである．

土器焼成坑と土坑は北区の中央部付近で検出され，約2mの距離がある．ピットは，北区の調査区の東南側と北東側を除いたほぼ全域で検出されている．ピットの検出状況から，調査区内で偏在傾向が看取できるようで，遺構が多くある範囲と少ない範囲があるようである．土坑とピット21・22・55・60は切り合い関係が認められ，いずれも土坑を平面的に検出する以前にピットを検出していることから，土坑が時期的にピット21・22・55・60より先行するものである．

次に，各遺構ごとに説明する．

①土器焼成坑（第12・13図．写真87～92）

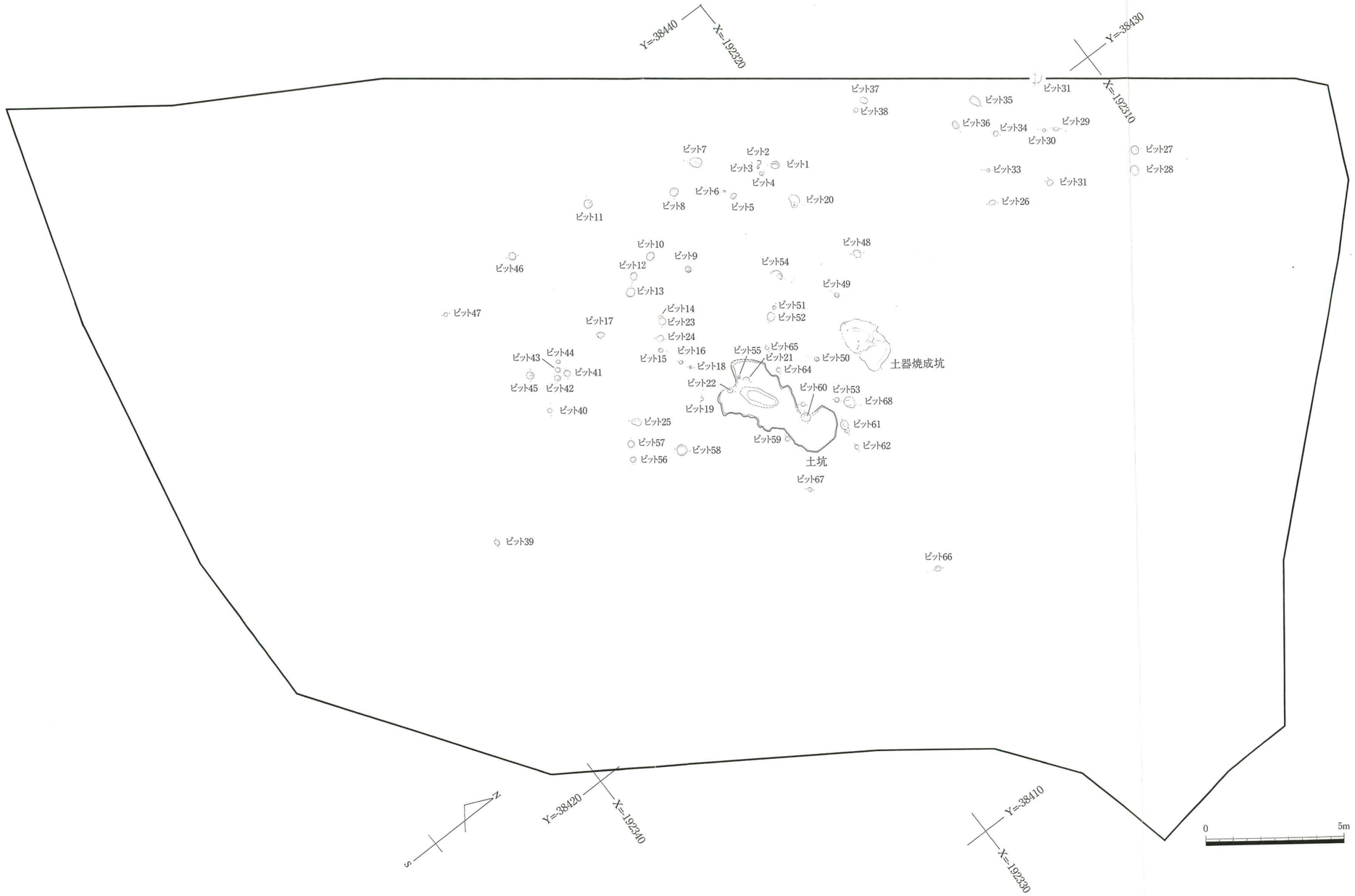
土器焼成坑は，調査区の中央付近の第4層上面で検出された．遺構検出は，第4層上面に赤色土壌と炭化物を検出したことがはじまりである．第4層上面でその赤色土壌と炭化物がある範囲と埋土の主体となっている第3層の範囲を元にして平面ラインの線引きを行った．当初，平面形態は楕円形を呈していたが，数本の先行トレンチの断面観察と底面での切り合い関係によって，2つの遺構の切り合いであることが判明した．便宜上，東側の遺構を土器焼成坑①と，西側のものを土器焼成坑②と仮称しておく．なお，切り合い関係では，第13図で図示しているとおり，土器焼成坑①が土器焼成坑②より先行する．

推定される土器焼成坑①・②とも平面形態は，概ね直径1m前後の不整形な円形を呈している．断面形態は，底面がほぼ平坦で浅い擂鉢状を呈している．

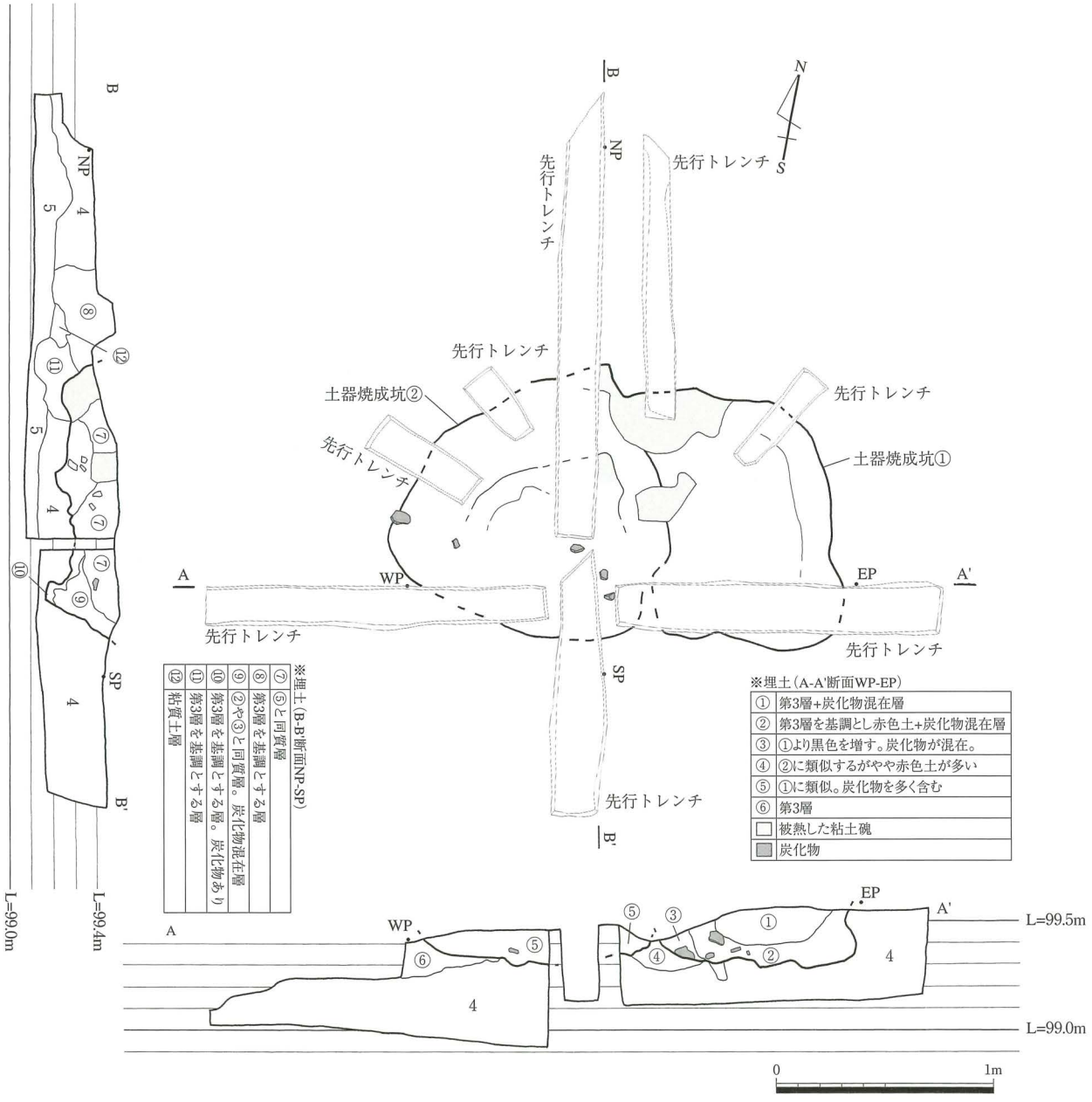
土器焼成坑①・②の埋土は，写真89・90・91で看取できるとおり，第3層が主体を占めており，埋土中に炭化物と受熱している粘土塊が混在している．

受熱している粘土塊は，片面は黒色を呈し，その反対面は茶褐色を呈していることから片面のみが熱を受けていたと想定できる．この受熱している粘土塊は，後に土器焼成段階で覆屋として利用された粘土と想定した．なお，土器焼成坑の埋土から出土した受熱した粘土塊の一部を第14図に図示した．その観察によると表面的な色調は上記したとおりである．また，表面には植物のスタンプ痕が認められる．

土器焼成坑の底面は，ほぼ平坦であり，写真89で看取できるように，赤色土壌が顕著に認められる．また，



第12図　弥生時代帰属の遺構配置図（S＝1/160）



第13図　土器焼成坑平面・断面図（S＝1/30）

その上面あるいはその赤色土壌内には炭化物が認められる．

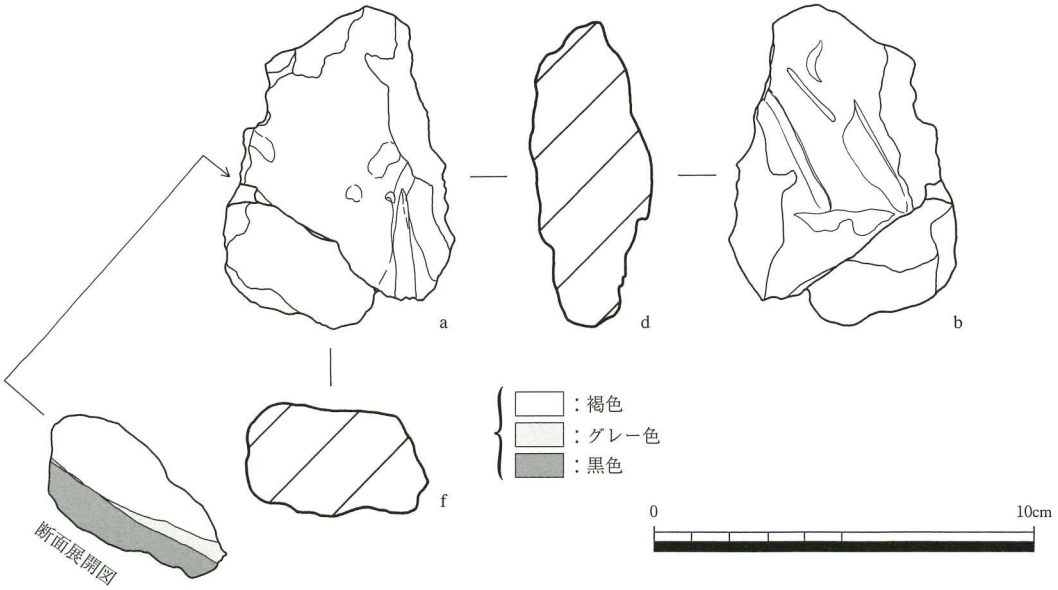
断面Ｂ—Ｂ´では弥生土器片と同質と考えられる小破片が認められる．これらの事象から，弥生時代に帰属する土器焼成坑とした．

②土坑（第12・15図．写真85・86）

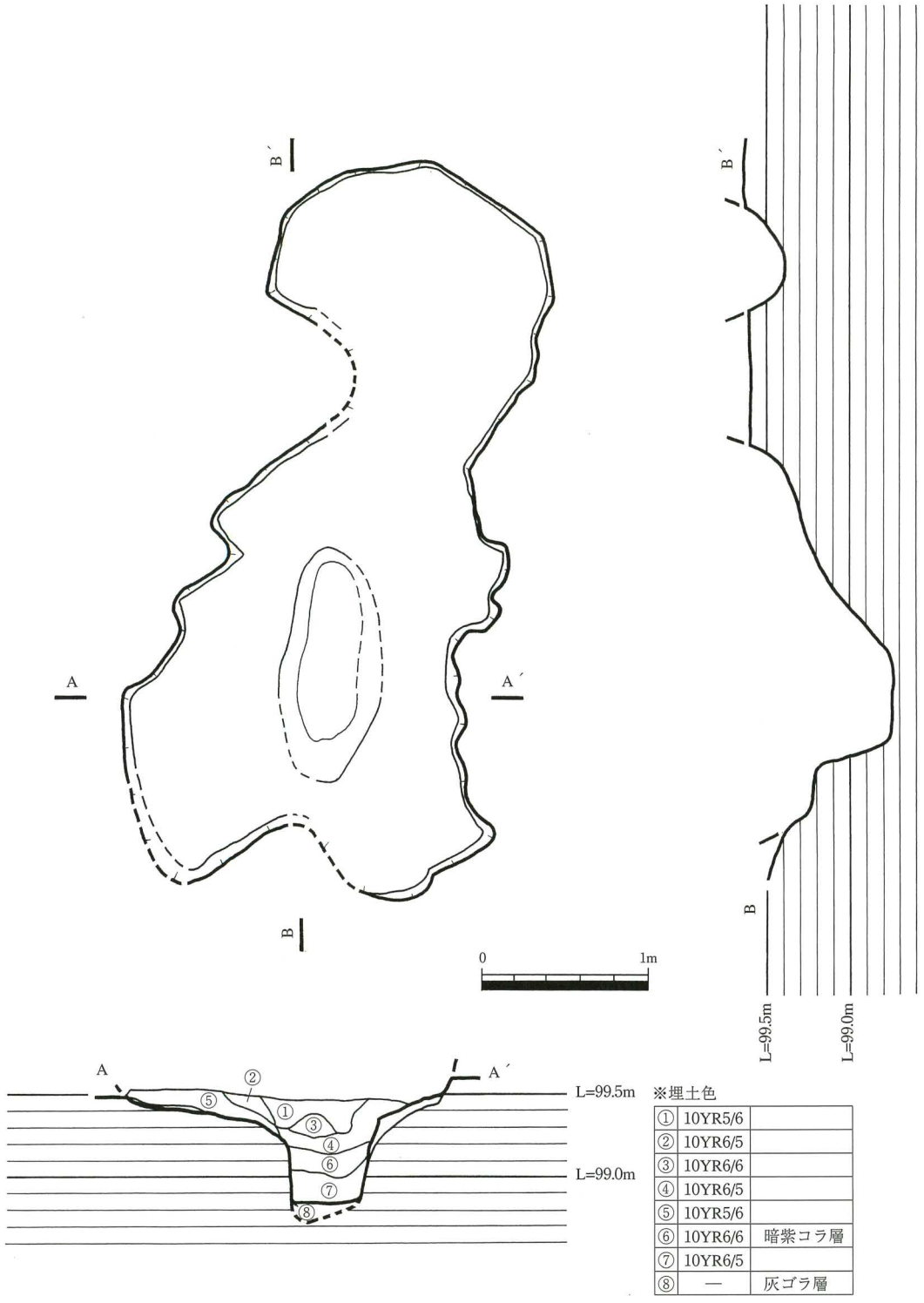
土坑は，調査区中央付近で検出された．検出段階では平面形態が不整形を呈した浅い土坑と判断していたが，底面と想定していた一部にさらに深い掘り込みがあることが判明した．断面形態は第15図のとおり二段掘りとなっている．掘り込みの深さは，検出面から約88㎝を測る．土坑の埋土は，主に第３層上部であり，埋土⑥は開聞岳の火山性噴出物である暗紫コラの火山レキがまとまって堆積していることから，少なくとも暗紫コラの降下・堆積以前には掘られていた土坑であると考えられる．土坑の掘り込みは，第５層のシラス二次堆積（細粒で粘質に富む）部分まで達していることから，当初，土器焼成坑に伴う粘土採掘坑としての用途を想定した．

写真１　土器焼成坑内出土遺物写真(表面)

写真２　土器焼成坑内出土遺物写真(裏面)



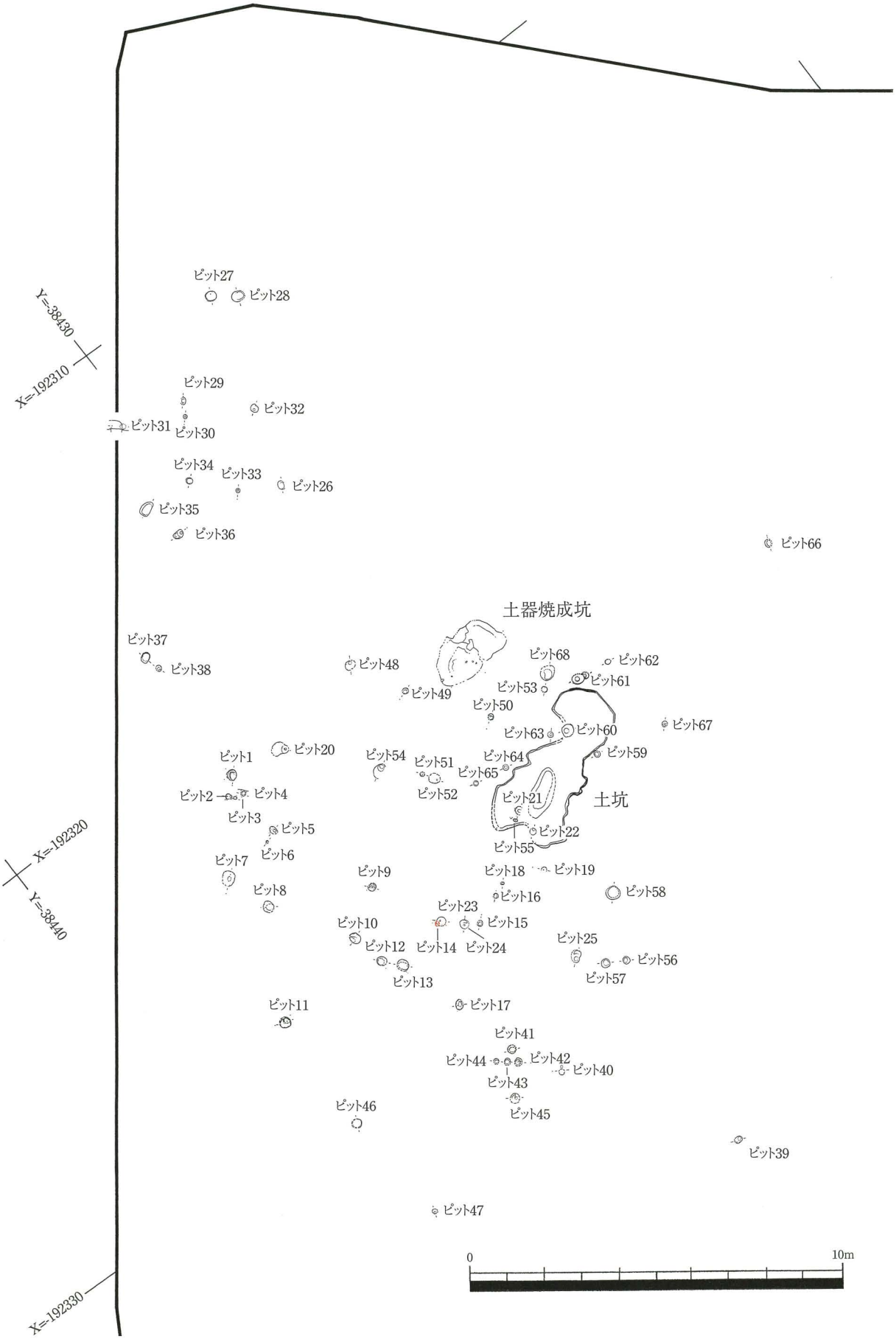
第14図　土器焼成坑内出土遺物実測図(Ｓ＝1/2)



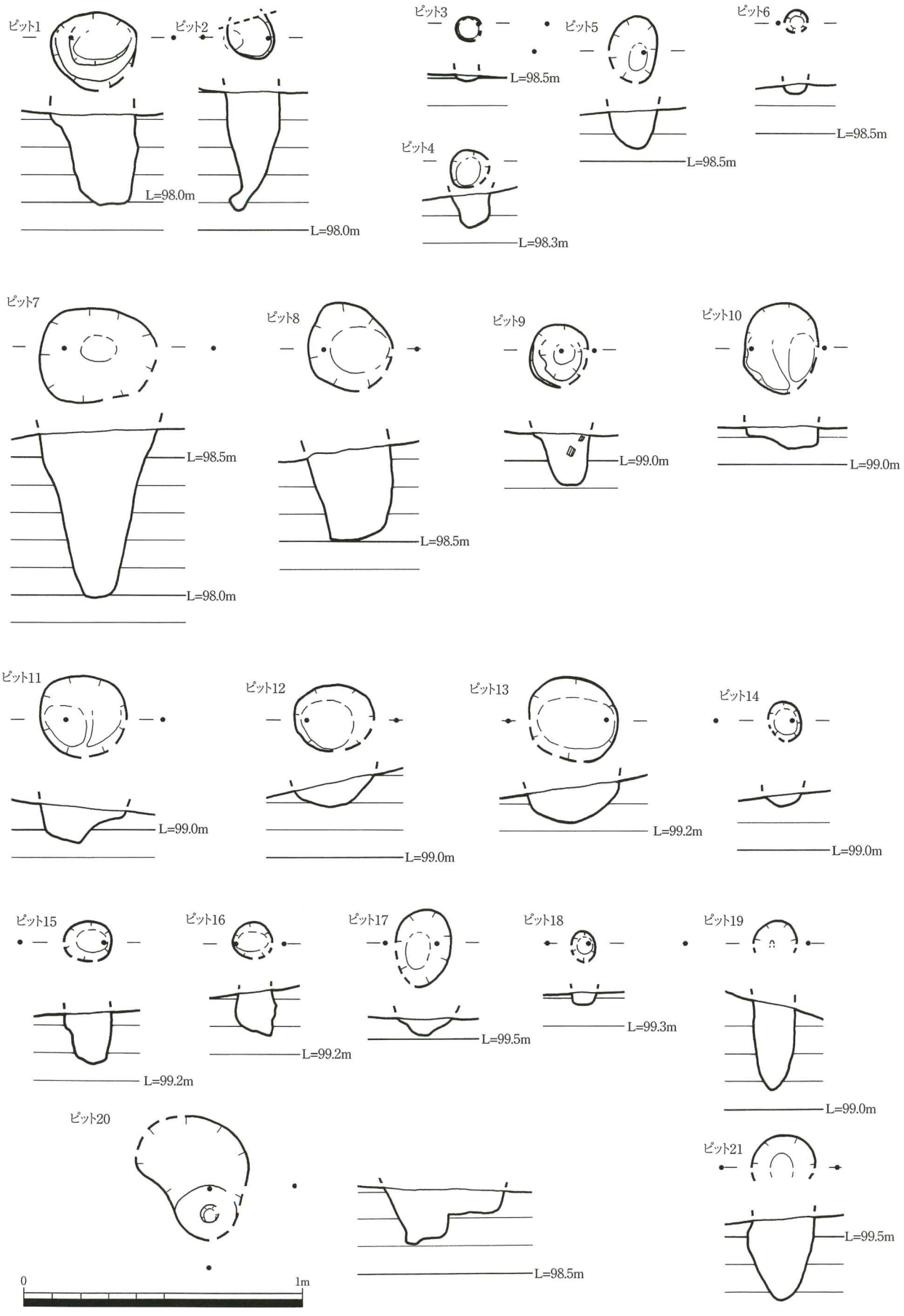
※埋土色

①	10YR5/6	
②	10YR6/5	
③	10YR6/6	
④	10YR6/5	
⑤	10YR5/6	
⑥	10YR6/6	暗紫コラ層
⑦	10YR6/5	
⑧	—	灰ゴラ層

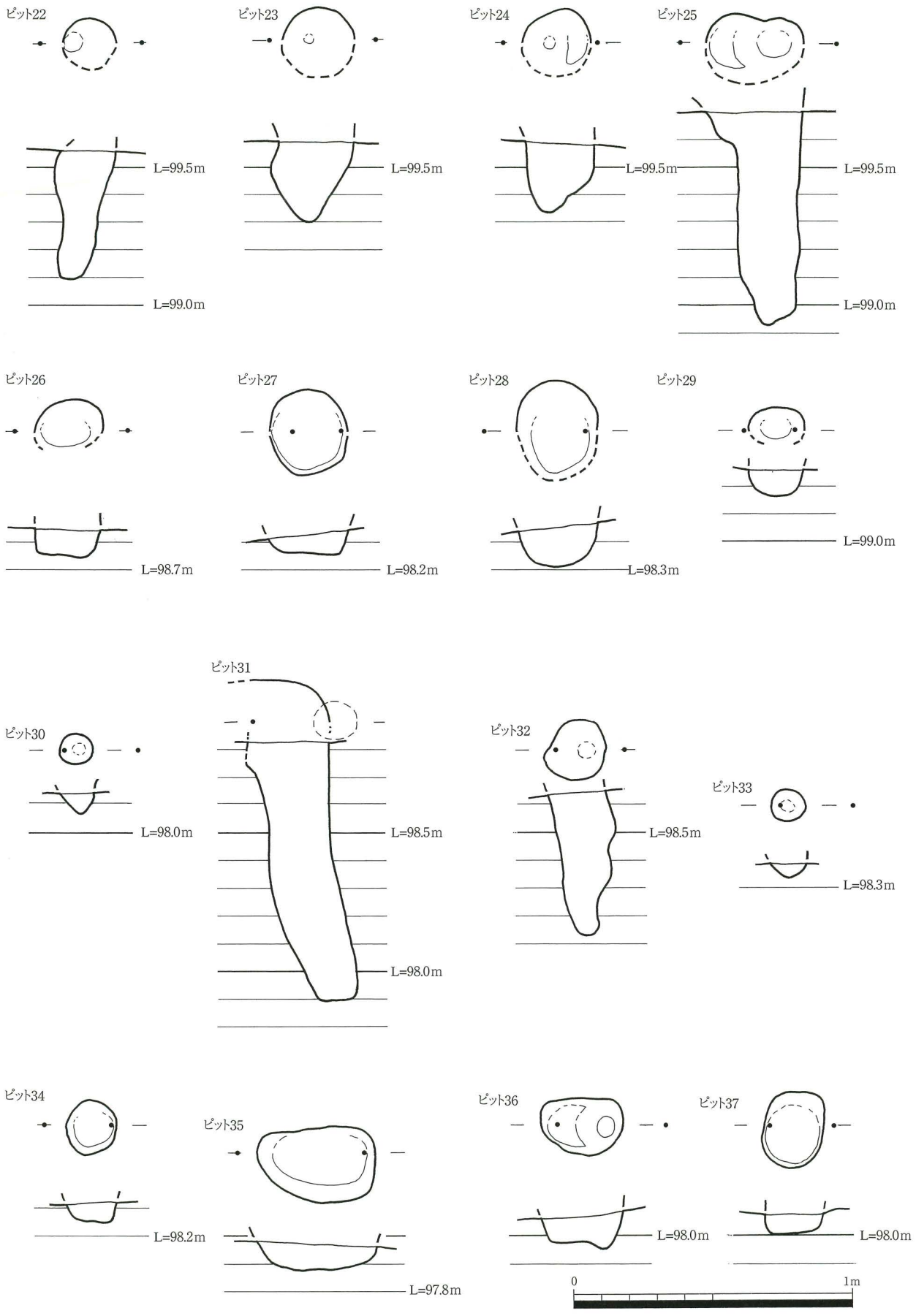
第15図　土坑平面･断面図（S＝1/40）



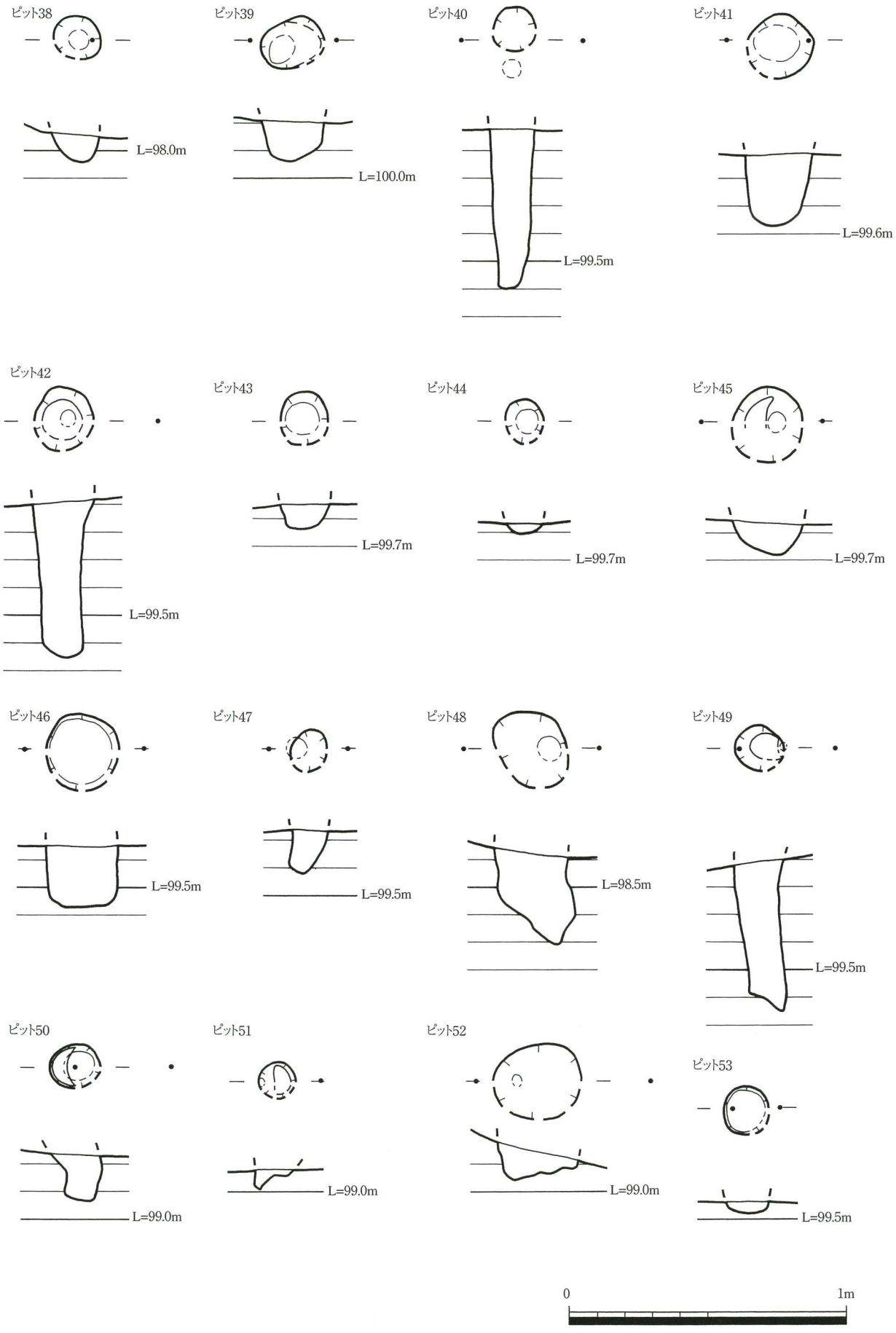
第16図　ピット検出状況図（S＝1/150）



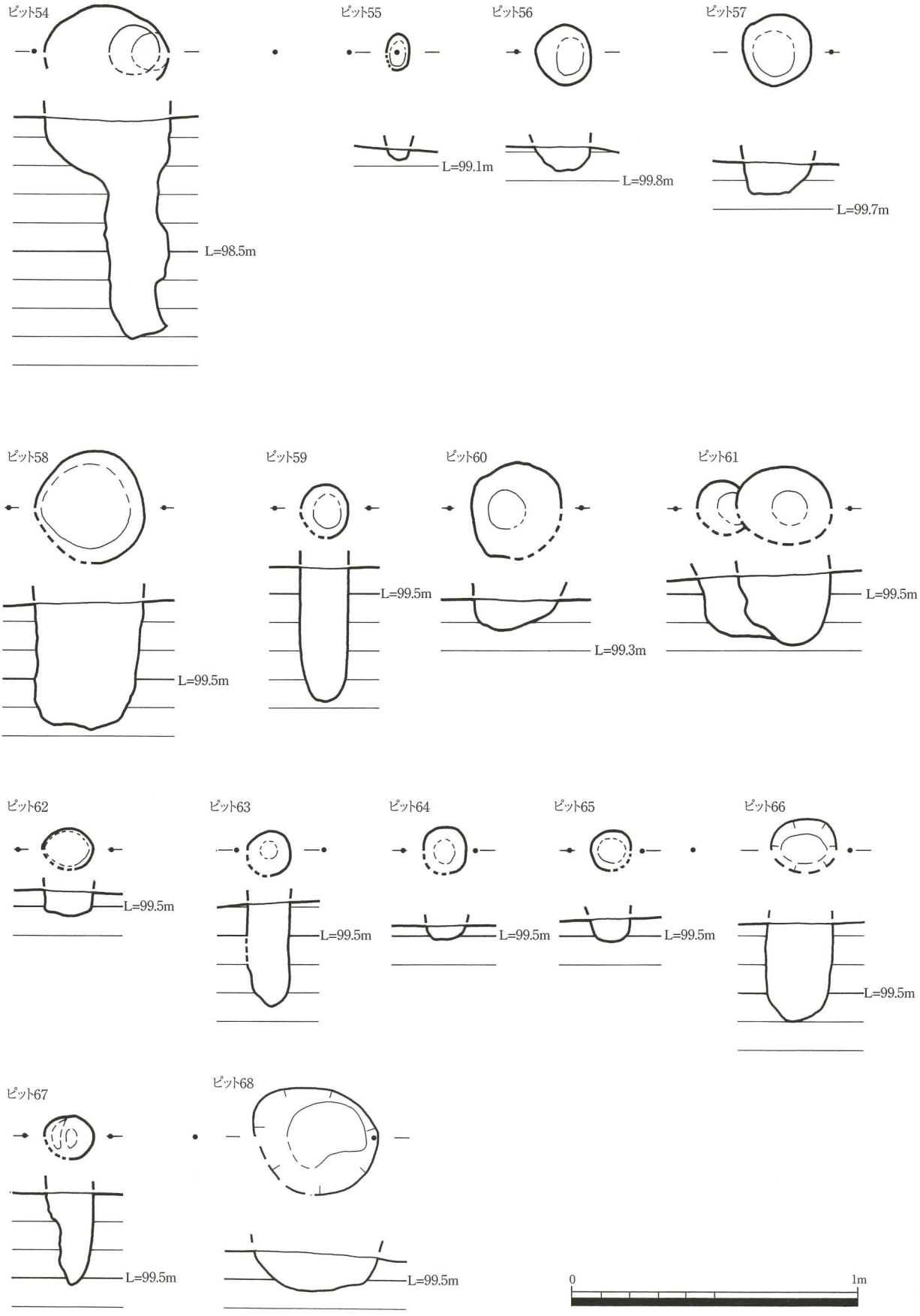
第17図　ピット平面･断面図①（S＝1/20）



第18図　ピット平面・断面図②（S＝1/20）



第19図　ピット平面・断面図③（S＝1/20）



第20図　ピット平面・断面図④（S＝1/20）

ピット番号	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最　深 (cm)	検出面	埋　土
1	31	28	33	第4層	第3層下部
2	17	16	43	第4層	第3層下部
3	10	9	2	第4層	第3層下部
4	15	14	12	第4層	第3層下部
5	18	25	14	第4層	第3層下部
6	9	5＋α	40	第4層	第3層下部
7	43	35	60	第4層	第3層下部
8	21	33	33	第4層	第3層
9	21	24	19	第3層下部	第3層上部
10	27	32	8	第3層下部	第3層上部
11	32	30	14	第4層	第3層
12	29	25	9	第4層	第3層下部
13	33	31	13	第4層	第3層下部
14	13	15	4	第4層	第3層下部
15	18	15	18	第4層	第3層下部
16	15	13	16	第4層	第3層下部
17	21	28	6	第3層下部	第3層上部
18	10	11	5	第4層	第3層上部
19	17	9＋α	32	第4層	第3層上部
20	42	44	19	第4層	第3層
21	23	12＋α	29	第4層	第3層
22	20	9＋α	46	第4層	第3層
23	26	12＋α	29	第4層	第3層
24	25	13＋α	25	第4層	第3層
25	35	10＋α	77	第4層	第3層
26	23	12＋α	9	第4層	第3層
27	29	32	8	第3層下部	第3層上部
28	29	37	14	第3層下部	第3層上部
29	20	7＋α	9	第3層下部	暗紫ブロック
30	12	6＋α	8	第4層	第3層上部
31	23＋α	15＋α	94	第4層	第3層上部
32	22	22	52	第3層下部	第3層上部
33	13	12	5	第4層	第3層下部
34	18	20	6	第3層下部	第3層下部
35	43	27	10	第4層	第3層下部
36	29	21	13	第4層	第3層下部
37	22	27	7	第4層	第3層下部
38	18	15	10	第4層	第3層下部
39	24	18	14	第4層	第3層
40	16	9	58	第4層	第3層
41	24	24	26	第4層	第3層
42	22	13＋α	56	第4層	第3層
43	17	11＋α	9	第4層	第3層
44	14	8＋α	4	第4層	第3層
45	26	12＋α	12	第4層	第3層
46	27	13＋α	22	第4層	第3層
47	13	6＋α	16	第4層	第3層
48	26	14＋α	32	第4層	第3層
49	18	17	55	第4層	第3層
50	70	27	23	第4層	第3層
51	18	16	17	第4層	第3層
52	14	7＋α	7	第4層	第3層
53	33	14＋α	12	第4層	第3層
54	16	18	4	第4層	第3層
55	12	8	4	第4層	第3層
56	9	13	6	第4層	第3層
57	20	22	9	第4層	第3層下部・第4層
58	24	26	11	第4層	第3層下部・第4層
59	39	40	44	第5層	第3層下部・第4層
60	17	20	47	第5層	第3層下部・第4層
61	32	34	11	第5層	第3層下部・第4層
62	18	14	9	第5層	第3層下部・第4層
63	15	15	36	第4層	第3層下部・第4層
64	15	16	5	第4層	第3層下部
65	14	16	8	第4層	第3層下部
66	23	19	35	第5層	第3層・第5層
67	17	19	32	第4層	第3層上部
68	12	14	23	第5層	第4層

第4表　ピット法量表

③ピット（第12・16～20図）

弥生時代に帰属するピットと認定した遺構は68基検出した．ピットの検出状況図は第16図のとおりである．ピットは３基で列状を呈するものはあるものの，建物のプランを形成するまでには至らなかった．

比較的掘り込みが深いものとしては，ピット７，22，25，31，32，40，42，49，54，58，59等であり，最も深いものは，ピット31の94㎝（検出面からの深さ）である．断面形態では，二段堀りのもの（ピット25，54），未細りを呈するもの（ピット２，７，21，67等）底部が丸味を帯びるもの（ピット32，42，59，63等）が認められる．平面形態では，円形，楕円形を呈するものが主体を占める．

（３）遺物

中尾迫遺跡の弥生時代に帰属する遺物包含層は，第３層，第３層上部，第３層下部，第４層である．第３層は第３層が細分する以前に遺物を取り上げた層名称であることから，第３層出土遺物には，第３層上部と第３層下部の遺物が混在して取り上げられている．

遺物の観察では，第３層，第３層上部，第３層下部，第４層の順番で報告していく．

なお，第３層上部と，第３層中で比較的狭い範囲で同一個体を構成すると思われる土器片がまとまって出土している範囲が認められた．各層中で遺物が散見している状況とは明らかに異なり，そのまとまりが土器の一個体になる様相を呈していたため，まとまり毎で平面・断面実測を行った．便宜上，土器のまとまりを「土器集中部」として認識し，第３層上部で検出したものを「土器集中部①」と，第３層中で検出したものを「土器集中部②」と仮称しておく．

ちなみに，土器集中部①は掲載遺物番号35の甕形土器のほぼ一個体であり，土器集中部②は遺物掲載番号68の甕形土器の口縁部から胴部部分である．

各層の出土遺物の観察報告に先立ち，まず土器集中部の検出状況の報告を行う．

①土器集中部（第22～24図）

（ｉ）土器集中部①（第22・23図．写真75～77）

北区の西北側端部付近の第３層上面で検出されたものである．この土器集中部①の遺物は，その出土レベルに幅があったため，２回に分けて出土遺物を実測・取上げを行った．一枚の図面での表示も可能であったが，煩雑を避けるため便宜上，第22図と第23図に分けて図示した．元来は同一地点での出土遺物であり，出土レベル差によるものである．よって，第22図と第23図の実測ポイントＮＰ・ＥＰ・ＷＰは一致する．

検出の初期段階（第22図）では，遺物取り上げ番号562・563・564・568等の底部付近の土器片が，狭い範囲から近接して出土した．562等を検出したほぼ同一レベルでは，網掛け図示している範囲で開聞岳の火山性噴出物降下堆積層である暗紫コラの固結した火山灰を検出している．また，遺物取り上げ番号572のような口縁部片も出土している．

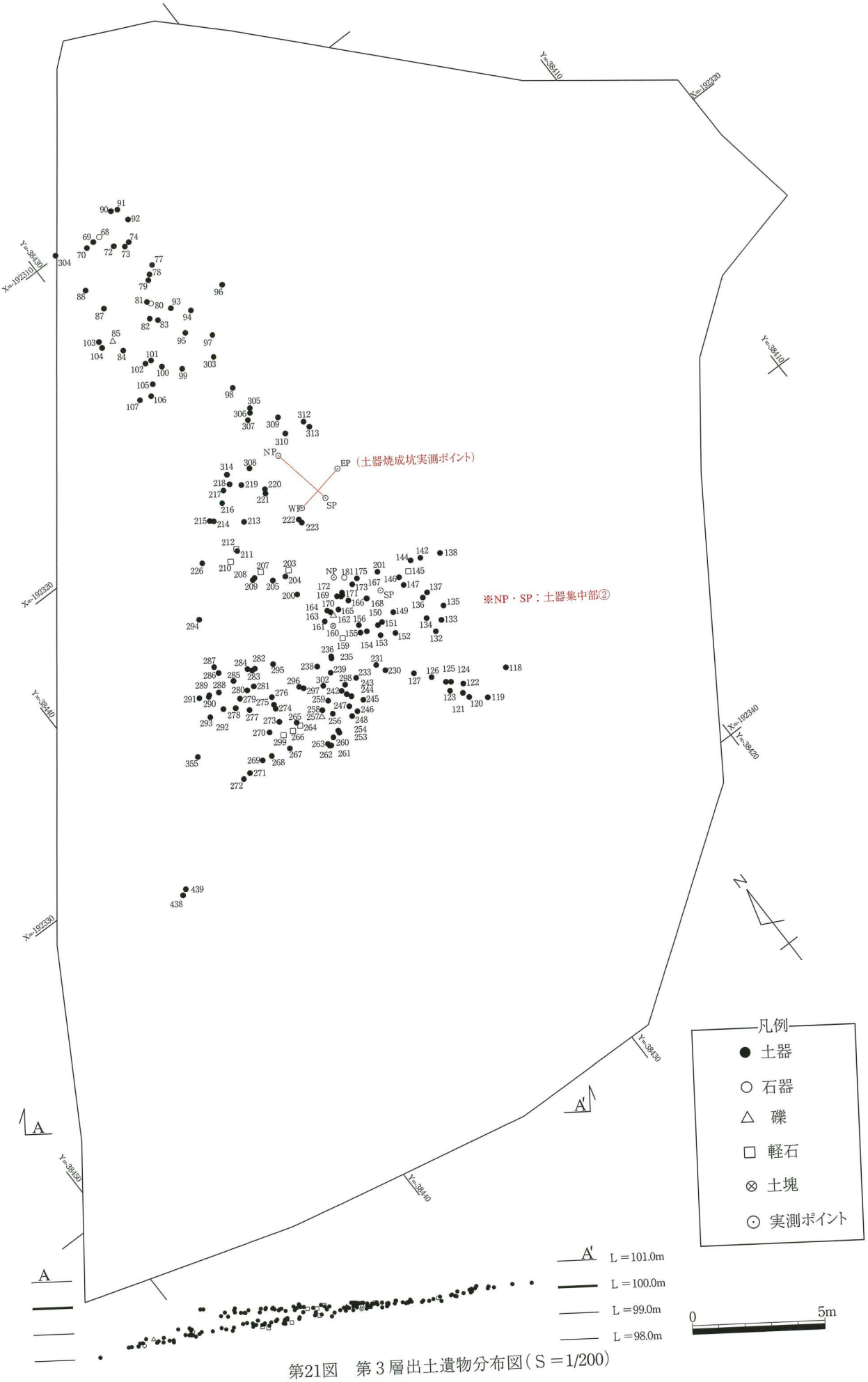
土器集中部①を検出した地点の地層堆積状況は，概ね北東方向から西北方向へ傾斜堆積している範囲である．よって，その地形と同一方向での断面Ａ―Ａ´を観察すると，地層の堆積状況と同じように傾斜堆積していることが看取できる．

第22図で図示している遺物は全て第３層上部で取り上げている．

土器集中部①の２回目の取り上げでは，遺物取り上げ番号746や752など土器胴部片が集中して出土している．その平面・断面の出土状況は第23図のとおりである．

第23図で図示しているものの内，761・762・763は第３層下部の遺物として取り上げており，実際，土器集中部①の主体を占める個体とは接合関係が認められない．

第22・23図で図示している土器集中部①で主体を占めている土器は，甕形土器であり遺物掲載番号35で図示している．第５表でまとめているが，土器集中部①で出土した土器片の大部分は遺物掲載番号35として接



第21図　第３層出土遺物分布図（Ｓ＝1/200）

合関係が認められる．このことから，土器集中部①は，遺物掲載番号35の甕形土器の一括資料として判断ができるものと考えられる．

なお，土器集中部①の平面検出状況は，第22・23図から鑑みても７ｍ四方内から出土しており，特に集中部では４ｍ内に収まる．また，断面観察（実測ポイントＮＰ・ＥＰ－ＷＰ・ＳＰの交差付近）では，若干ながらレベル差が認められる．具体的には，第22図の564や565の出土レベルは98.8～98.85ｍであるのに対して，第23図の754や755の出土レベルは98.65～98.7ｍ前後である．少なく換算しても約15㎝前後のレベル差が認められる．

本来は同一個体・同一レベルであったものが，第３層上部内で包含されている間に，包含層中でこのような出土レベル差が生じるような上下移動があったものと想定することができる．

（ii）土器集中部②（第24図．写真78）

北区の中央部付近で検出されたものである．検出層位は第３層と第３層下部である．

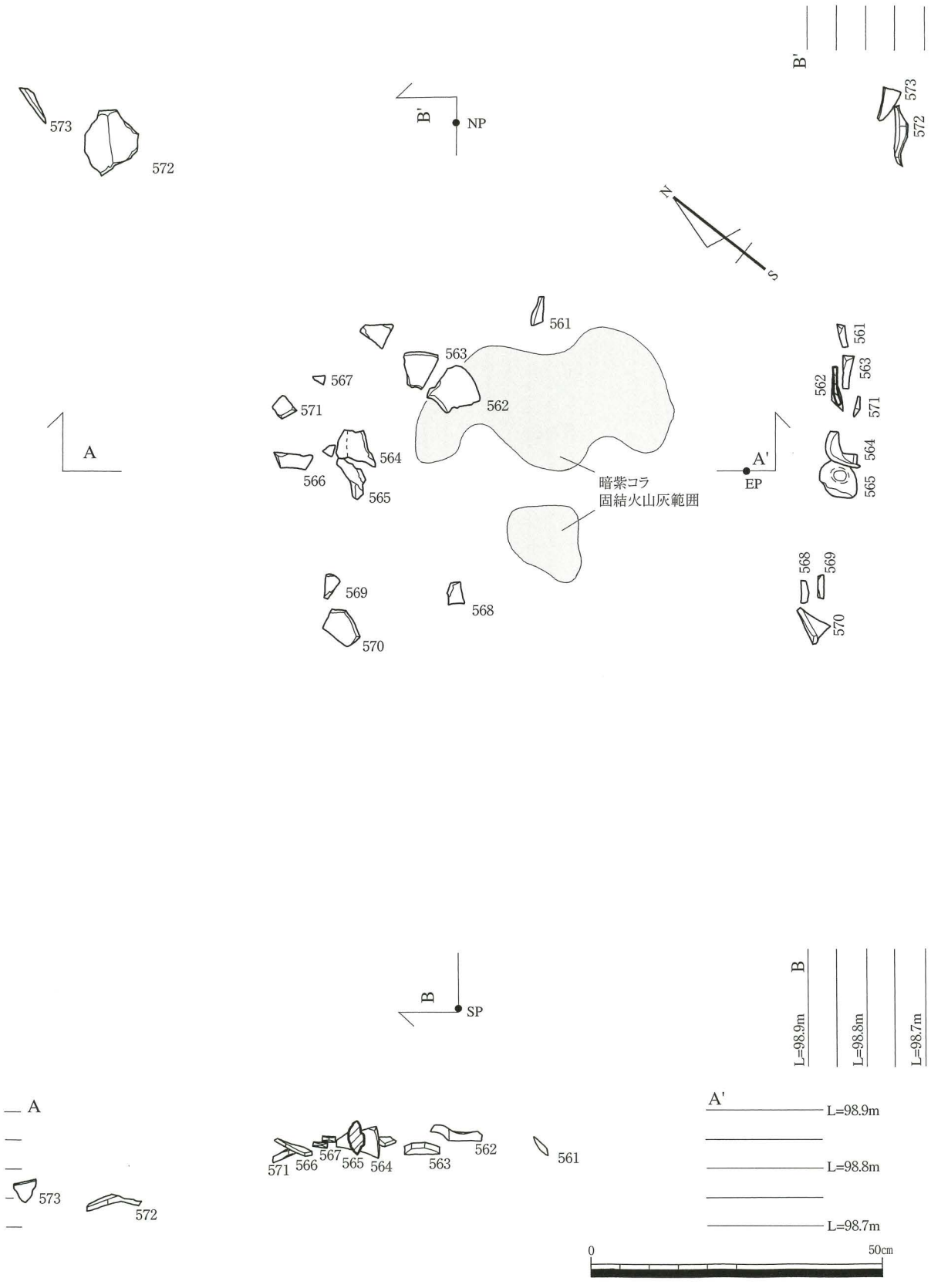
土器集中部②は，長さ120cm，幅40cmの範囲に同一個体で構成されると思われる土器がまとまって出土した．

第24図のＡ―Ａ´の断面図によると，出土レベルは99.65ｍから99.45ｍの範囲で北東方向から西北方向に傾斜している状況が看取できる．この傾斜は，地層の堆積状況とほぼ同じであり，この状況は土器集中部①でも看取できた．

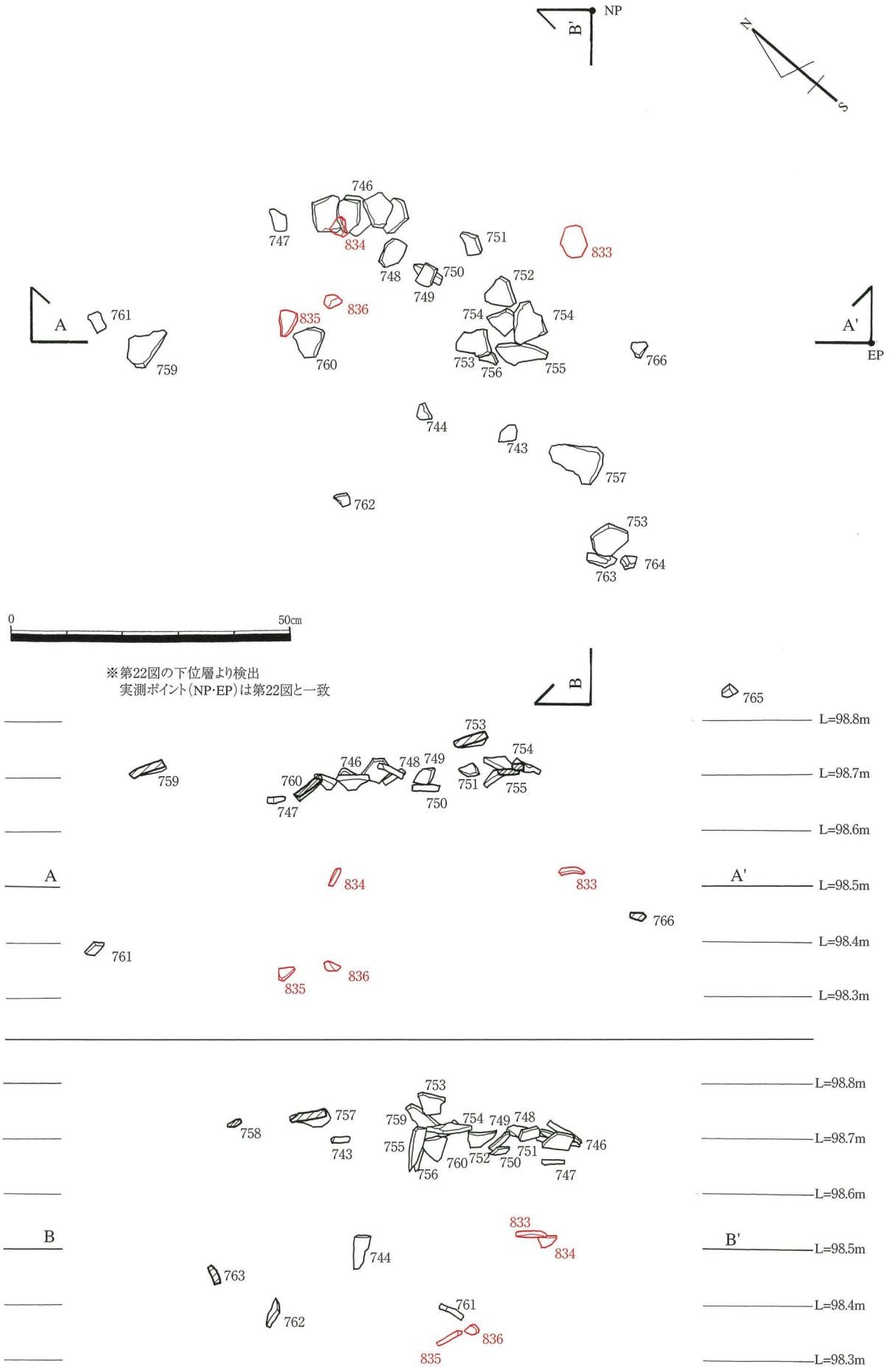
土器集中部②は，土坑（27頁・第28図）の直上に位置していることから，土坑が利用・廃棄・埋没した以降に土器集中部②が遺棄・廃棄されていることが判断できる．土坑の埋土は，第３層上部が主体を占めており，埋土下部には暗紫コラが堆積している．土器集中部②の遺物取り上げ層位は，検出段階で認識した土質によって，第３層下部と第３層としているが，土坑の埋土関係を考慮すると，土器集中部②も土器集中部①と同様に第３層上部帰属のものとして判断することが望ましいと思われる．

土器集中部②でまとまって出土した土器は，掲載遺物番号68の中津野式土器の範疇に含まれる甕形土器である．土器集中部②から出土した甕型土器は，口縁部から胴部片で構成されており，底部は出土していない．また，出土遺物内にも接合関係が認められる底部片は確認できなかった．

なお，第３層下部出土遺物として掲載しているが，先述したとおり，土坑の埋土関係から第３層上部出土遺物として取り扱う必要がある．



第22図　第３層土器集中部①平面・断面図①（Ｓ＝1/10）



第23図　第３層土器集中部①平面·断面図②(Ｓ＝1/10)

第24図　第３層土器集中部②平面･断面図（Ｓ＝1/10）

	図版名	遺物番号	出土層位	掲載番号	種　別	器種名
土器集中部①(上位層)	第22図	561	3上	35	土器	甕形土器
		562	3上	35	土器	甕形土器
		563	3上	35	土器	甕形土器
		564	3上	35	土器	甕形土器
		565	3上	35	土器	甕形土器
		566	3上	35	土器	甕形土器
		567	3上		土器	破片
		568	3上	35	土器	甕形土器
		569	3上	35	土器	甕形土器
		570	3上	35	土器	甕形土器
		571	3上		土器	甕形土器
土器集中部①(下位層)	第23図	744	3上	35	土器	甕形土器
		746	3上	35	土器	甕形土器
		747	3上	35	土器	甕形土器
		748			欠番	欠番
		749	3上		土器	甕形土器
		750	3上	35	土器	甕形土器
		751	3上	35	土器	甕形土器
		752	3上	35	土器	甕形土器
		753	3上	35	土器	甕形土器
		754	3上	35	土器	甕形土器
		755			欠番	欠番
		756	3上	35	土器	甕形土器
		757	3上	35	土器	甕形土器
		758	3上	35	土器	甕形土器
		759	3上	35	土器	甕形土器
		760	3上	35	土器	甕形土器
		761	3下		土器	破片
		762	3下		土器	胴部片
		763	3下	52	土器	壷形土器頸部突帯部片
		764	3下	53	土器	甕形土器胴部突帯部片
		765	3下		土器	突帯部片
土器集中部②	第24図	174			欠番	欠番
		175	3		土器	破片
		176	3下	68	土器	甕形土器
		177	3下	68	土器	甕形土器
		178			欠番	欠番
		179	3下		土器	胴部片
		180	3下	68	土器	甕形土器

第５表　土器集中部①･②出土遺物一覧表

②第３層出土遺物（第21・25～33図）

中尾迫遺跡の第3層から出土した遺物は，総点数で243点である．「第３層」出土として取り上げた遺物は下記のような状況のものである．

まずは，発掘調査の初めの頃，第３層が上部と下部に分層が行う以前に用いたものである．もうひとつは，発掘調査の後半で第３層の上部と下部とに峻別が難しい地層堆積が薄い範囲で用いている．

よって，「第３層」出土として取り上げた遺物には，第３層上部と第3層下部の遺物が含まれていることとなる．

後述するが，「第３層上部」の遺物は，中津野式土器が主体を占める弥生時代後期終末の遺物包含層であり，「第３層下部」は，山之口式土器と入来Ⅱ式土器が包含されている弥生時代中期の遺物包含層であることから，「第３層」は上記の時期の遺物が含まれることとなる．また，遺物の上下移動から鑑みると，本来は「第４層」に帰属する遺物も含まれる可能性が考えられる．

第３層の出土遺物平面・垂直分布図は第21図のとおりである．

では，第３層から出土した遺物について，（ｉ）土器，（ii）軽石加工品，（iii）石器の順で報告していく．

（ｉ）土器（第25～30図）

１から14までは甕形土器である．15から27までが壷形土器である．まず，甕形土器から報告する．

・甕形土器（第25～27図）

１から６は，口縁部と肥厚部の形態等から，入来Ⅱ式土器の甕形土器と考えられる（第25・26図）．

１は，甕形土器の口縁部から胴部にかけての破片である．復元口縁は，約22.8㎝を測る．口唇部端部はやや丸みを帯びており，横位の沈線が一条施されている．また，口縁部上部は丸みを帯びている．胴部は三条の三角突帯が巡らされている．

２は，甕形土器の口縁部から胴部にかけての破片である．復元口縁は，約25㎝を測る．口唇部端部はやや丸みを帯びている．胴部には二条の三角突帯が巡らされている．内外面ともに横位のナデ仕上げが行われており，内面にはユビオサエの痕跡が残る．第３層出土の153と第４層出土の332の2点接合である．

３は，甕形土器の口縁部片である．口縁部上部はほぼ平坦であり口唇部端部には横位の沈線が一条施されている．口縁部の肥厚部断面は略四角形を呈している．胎土に金ウンモが認められる．

４は，甕形土器の口縁部片である．口縁部の肥厚部断面は台形を呈している．口唇部端部には口唇部端部には横位の沈線が一条施されている．肥厚部の張り出しは短く，口縁部上部は下方に下がる．内面には横位のハケ目が残る．

５は，甕形土器の口縁部から胴部にかけての破片である．口唇部端部には横位の沈線が一条施されている．胴部には三角突帯が三条認められる（内，口縁部から三条目の突帯は剥落している）．胎土に金ウンモが認められる．

６は，甕形土器の口縁部片である．口唇部端部には横位の沈線が一条施されている．口縁部上部はやや下方に下がる．胎土に金ウンモが認められる．

７から９は，口縁部と肥厚部の形態等から山之口Ⅱ式土器の甕形土器に含まれると考えられる（第26図）．

７は，甕形土器の口縁部片である．口唇部端部には横位の沈線が一条施された後に，工具によるキザミが施されている．口縁部上部は凹ませて上方へ伸びる．内面口縁部端部には稜が認められる．

８は，甕形土器の口縁部片である．口唇部端部には工具によるキザミが施されている．口縁部上部は上方へ伸びる．口縁部上部はほぼ平坦に整えられ工具による縦位の暗文が施され，その間には三日月状の爪の圧痕が認められる．

９は，甕形土器の口縁部片である．口唇部端部には一条の沈線が施されている．口縁部上部は上方へ伸びる．内外面ともヨコナデが施されている

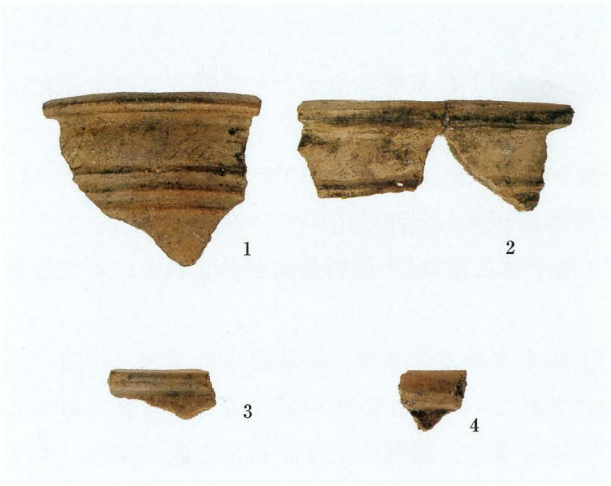
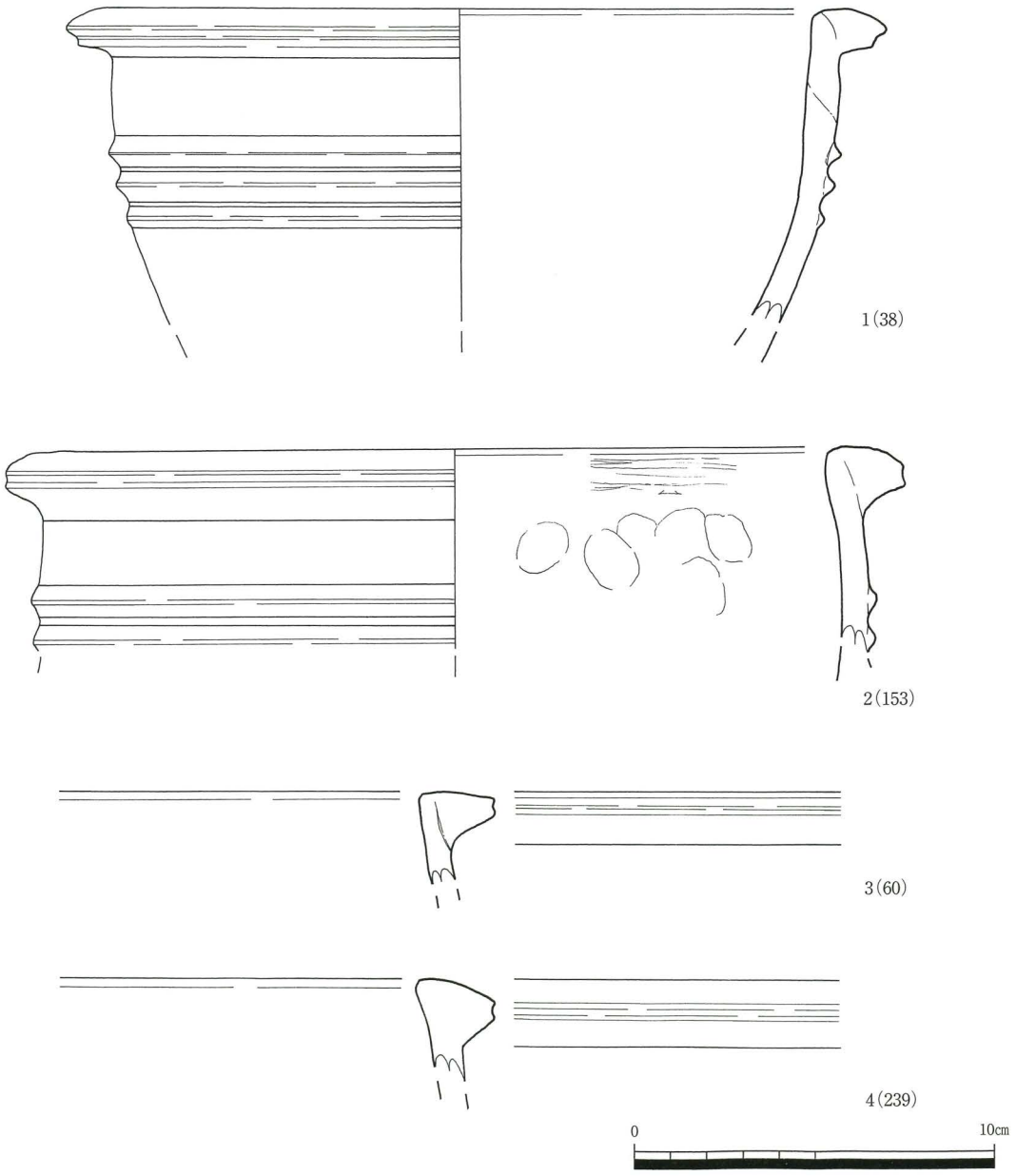


写真３　第３層出土遺物写真①(外面)

写真４　第３層出土遺物写真①(内面)



第25図　第３層出土遺物実測図①(Ｓ＝1/2)

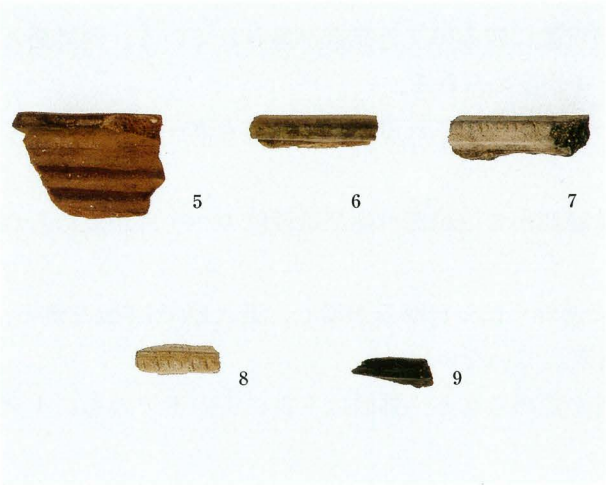
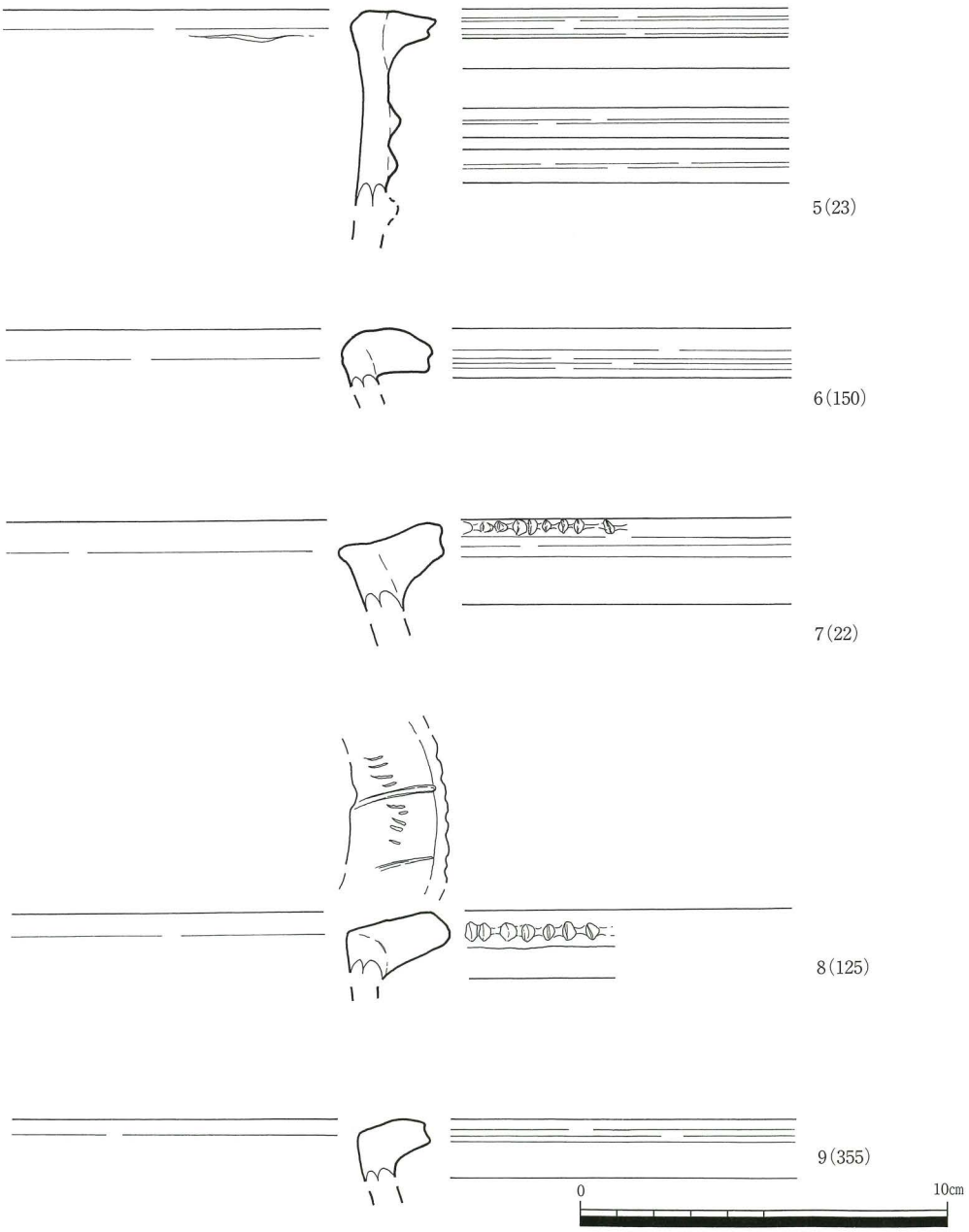


写真５　第３層出土遺物写真②(外面)

写真６　第３層出土遺物写真②(内面)



第26図　第３層出土遺物実測図②(Ｓ＝1/2)

10は，甕形土器の胴部突帯部片である．胴部の最大幅の位置に四条の三角突帯が施されている．内外面とも工具によるナデのちナデが施されている．胎土に金ウンモが認められる．

11は，甕形土器の底部付近の胴部片である．外面にはハケ目が認められる．内外面ともカーボンが付着しており，特に内面には顕著に認められる．

12は，甕形土器の底部付近の胴部片である．内外面には底部から口縁部へ延びる縦位のハケ目が認められる．

13は，甕形土器の底部付近の胴部片である．底部付近に近づくにつれ厚みが増し，最大厚で1.7㎝を測る．内外面とも工具によるナデが施されている．カーボンは付着していない．

14は，甕形土器の胴部片である．内面には斜位のハケ目が認められる．外面は工具によるナデのちにナデが施されている．

・壷形土器（第28～30図）

15から18までは壷形土器の口縁部片である（第28図）．15から17は口縁部の肥厚部の形態等から入来Ⅱ式土器に含まれると考えられる．

15は，壷形土器の口縁部片である．口唇部端部には，一条の沈線が施されている．口縁部肥厚部は下方へ下る．口縁部上部には長さ約1㎝＋αで，幅約4㎜の粘土紐を貼付している．口縁部下部は丸みをもち膨らませている．

16は，壷形土器の口縁部片である．口唇部端部には，一条の沈線が施されている．口縁部肥厚部は下方へ下る．胎土に金ウンモが認められる．口縁部の内外面ともヨコナデが施されている．

17は，壷形土器の口縁部片である．口縁部肥厚部の張り出しは短い．口唇部端部は丸みを帯びている．内外面ともヨコナデが施されている．

18は，壷形土器の口縁部から胴部にかけての破片である．口唇部端部は丸みを帯びており，下方へ下る．内面の口縁部端部には稜が認められる．他の土器の色調と比較して白色が強い．

19は，壷形土器の胴部片である．復元の胴部最大幅は約15.2㎝を測る．外面はミガキが施され，内面にはユビオサエの痕跡が残る．内面には，粘土紐を上積みしていく際の接合痕が顕著に認められる．

20から24までは，壷形土器の頚部突帯部片で，三角突帯が巡らされている（第29図）．

20は，壷形土器の頚部突帯部片である．頚部には三条の三角突帯が巡らされている．突帯の貼付は雑であり，剥落している部分も認められる．

21は，壷形土器の頚部突帯部片である．頚部には三条の三角突帯が巡らされている．内外面ともナデが施されている．

22は，壷形土器の頚部突帯部片である．頚部には三条の三角突帯が巡らされている．突帯部下の胴部は緩やかに膨らみを持たせている．内面にはユビオサエの痕跡が認められる．胎土に金ウンモが認められる．

23は，壷形土器の頚部突帯部片である．頚部には一条の三角突帯が巡らされている．胎土に若干ながら金ウンモが認められる．

24は，壷形土器の頚部突帯部片である．頚部には三条の三角突帯が巡らされている．胎土に若干ながら金ウンモが認められる．外面にはヨコナデが，内面にはナデが認められる．

25から27は，壷形土器の頚部片で，二条の沈線が巡らされている（第30図）．

25は，壷形土器の頚部片で，二条の沈線が巡らされている．外面はミガキが施されており，二条の沈線内にもミガキが施されている．

26・27は，壷形土器の頚部片で，二条の沈線が巡らされている．内外面ともナデが施されている．26と27は，胎土や色調から判断して同一個体と考えられる．胎土には黒ウンモが特徴的に含まれている．

28は，外面に粘土紐の貼付が施されているものである．外面には二条の貼付が認められる．ひとつは横位

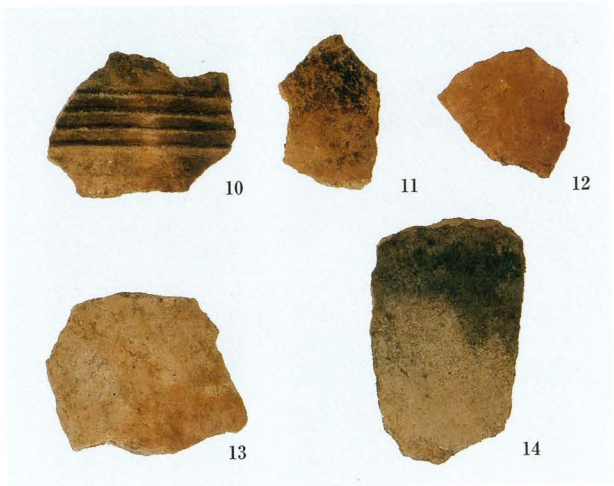
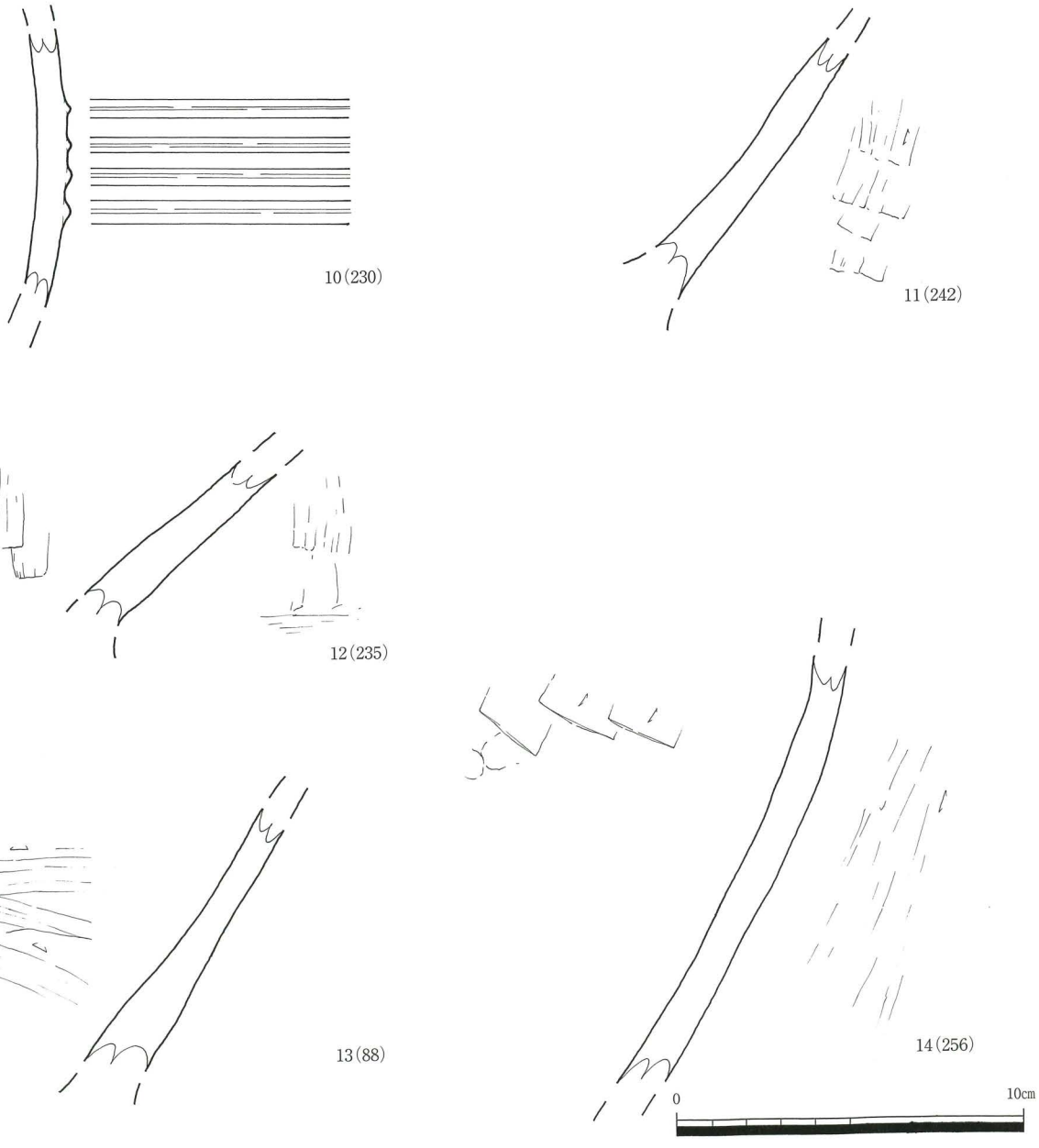


写真７　第３層出土遺物写真③(外面)

写真８　第３層出土遺物写真③(内面)



第27図　第３層出土遺物実測図③(Ｓ＝1/2)

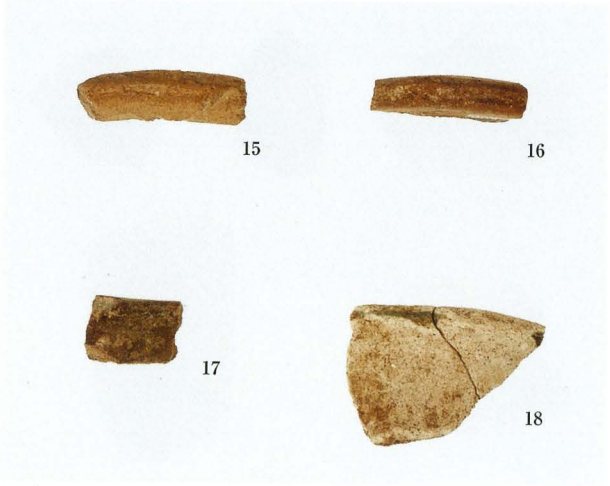
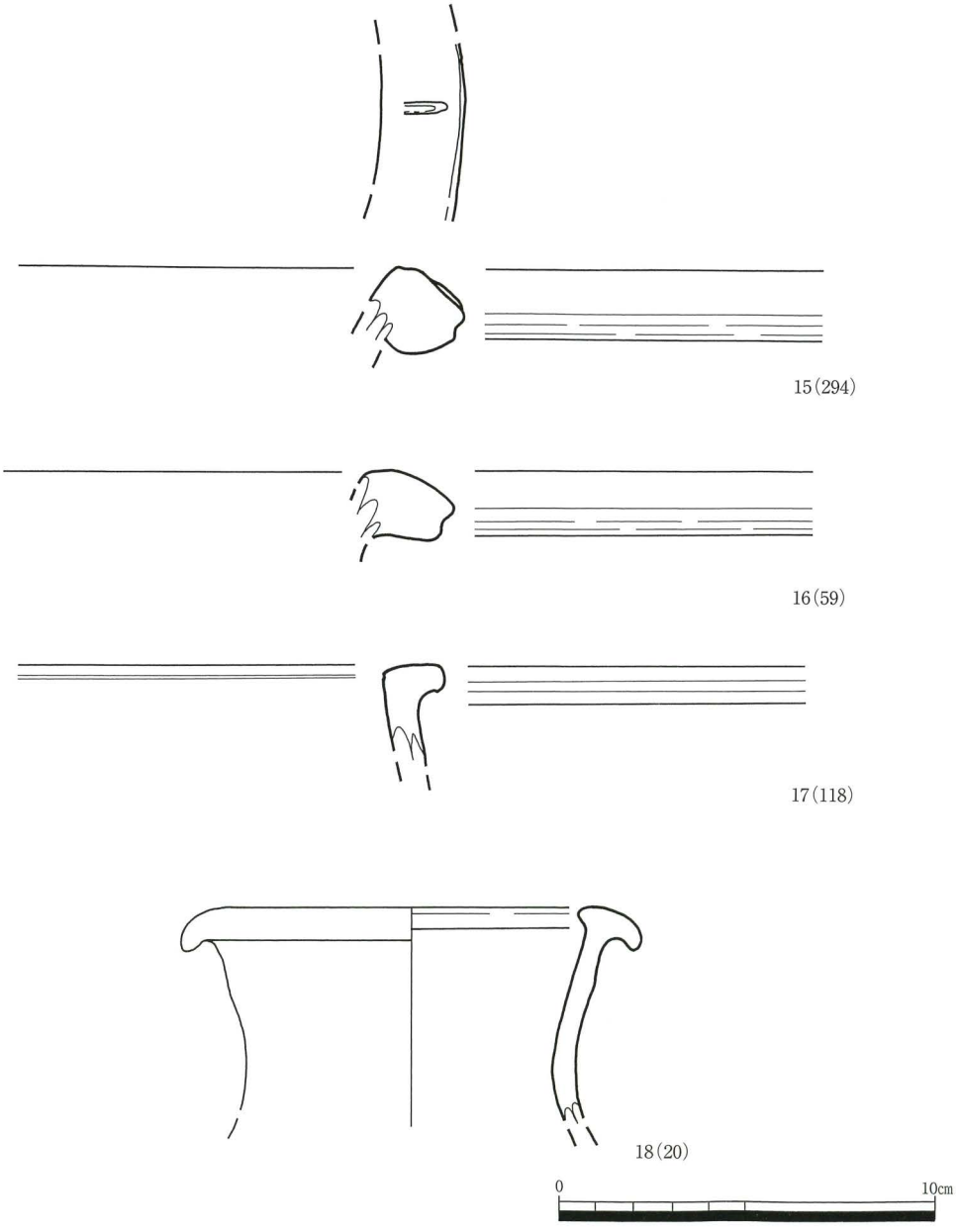


写真９　第３層出土遺物写真④(外面)

写真10　第３層出土遺物写真④(内面)



第28図　第３層出土遺物実測図④(Ｓ＝1/2)

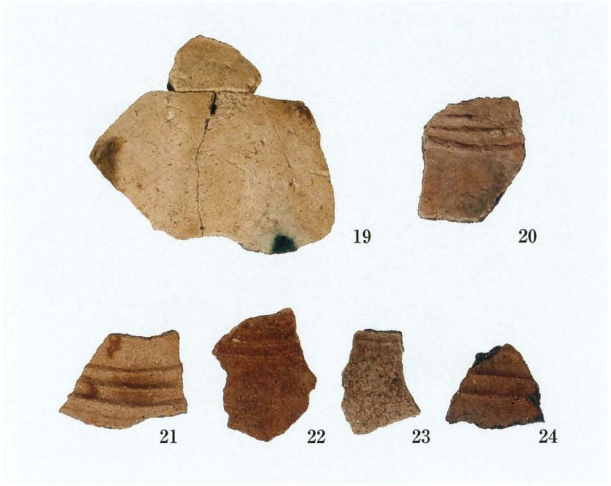
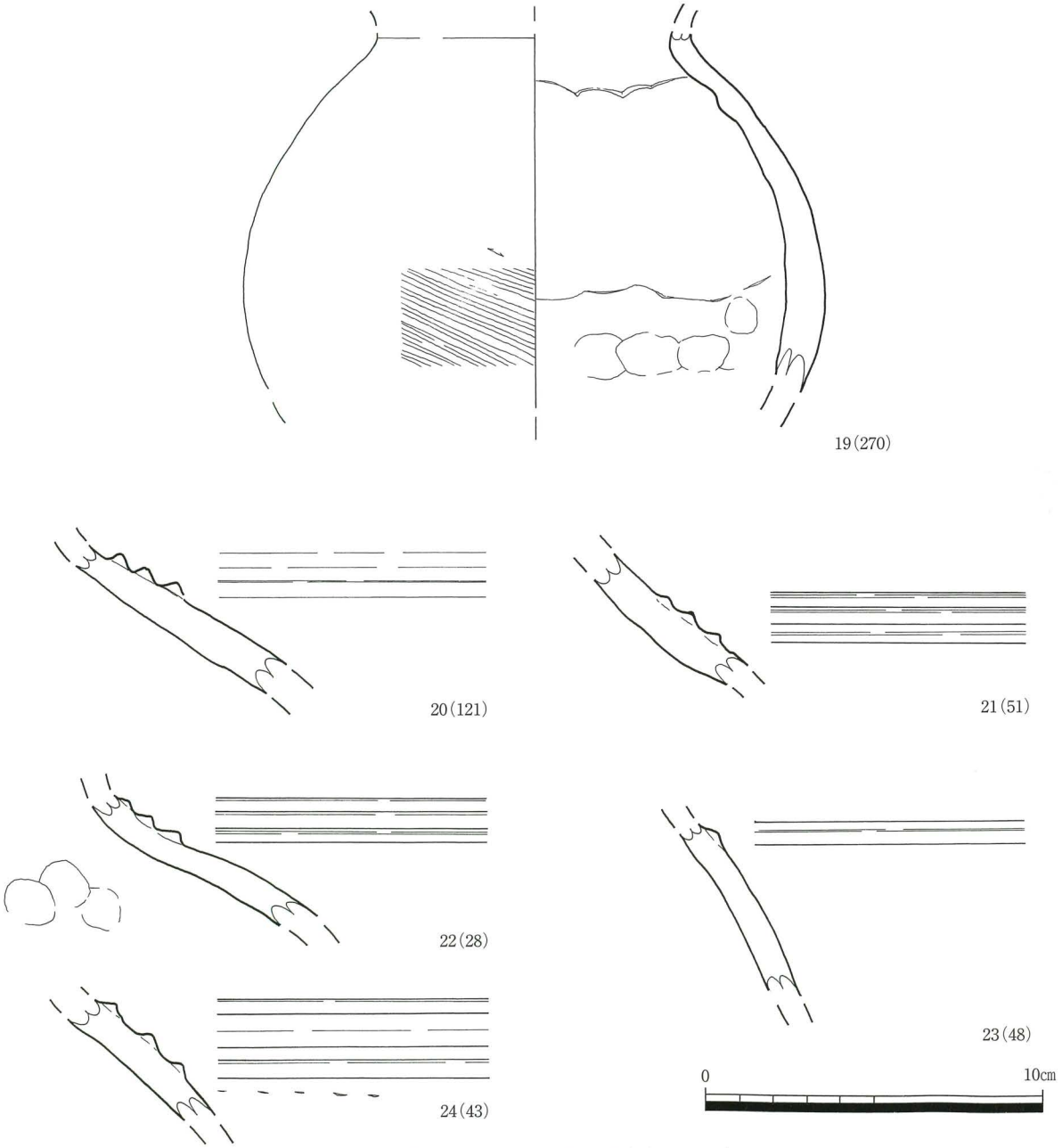


写真11　第３層出土遺物写真⑤(外面)

写真12　第３層出土遺物写真⑤(内面)



第29図　第３層出土遺物実測図⑤(Ｓ＝1/2)

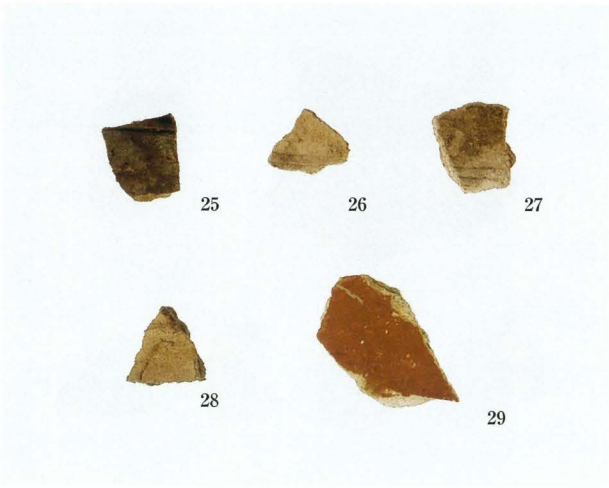
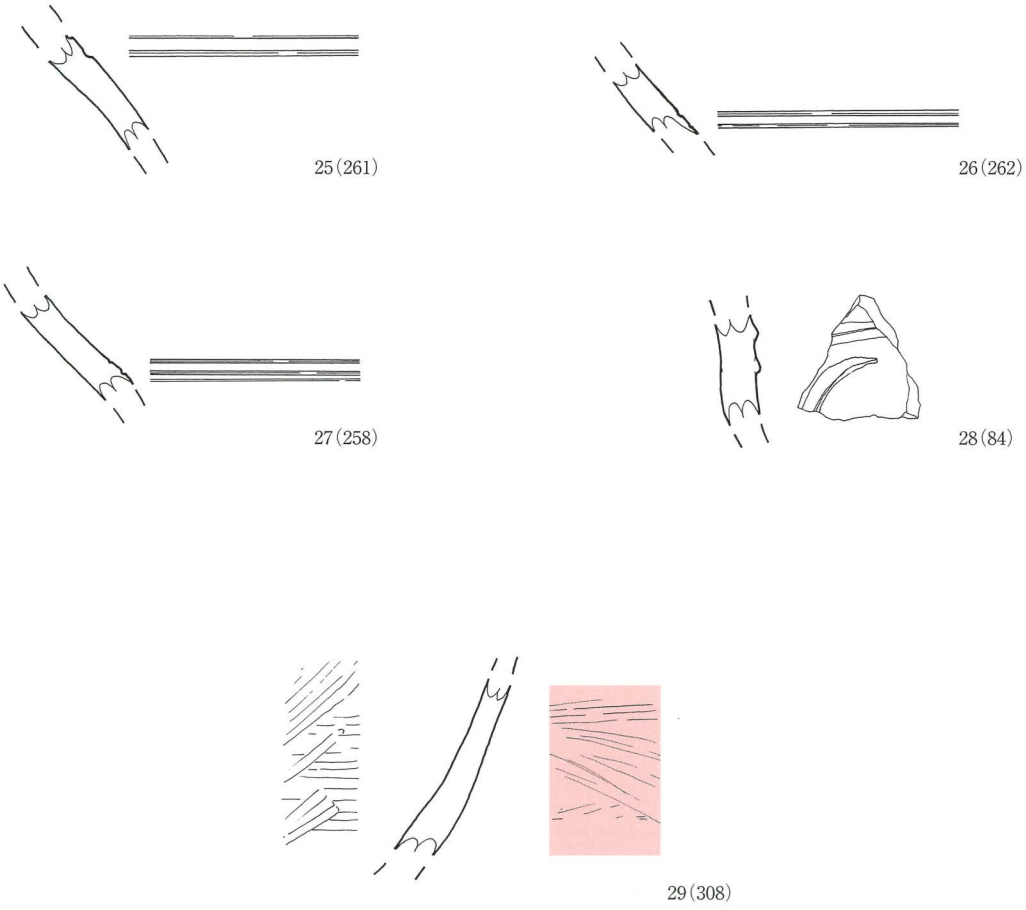


写真13　第３層出土遺物写真⑥(外面)

写真14　第３層出土遺物写真⑥(内面)



第30図　第３層出土遺物実測図⑥(Ｓ＝1/2)

図番No.	取上げNo.	器種	残存法量(cm)	部位	色 外	色 内	色 肉	色 他	胎土粒	混和材	調 整	その他	出土層位	接 合
1	38	甕形土器 (入来Ⅱ式)	破片 口縁部直径22.8	口縁部	7.5YR4/2 5YR4/3	7.5YR4/3 10YR4/2	10YR4/2 2.5YR3/1	口縁 7.5YR5/4	微砂粒を含む	ウ・セ	内・ヨコナデのちナデ 外・工具によるナデのちナデ 口縁・ナデ ヨコナデ沈線 突帯・ナデ	傾き疑問 焼成良好	3	
2	153	甕形土器 (入来Ⅱ式)	破片 口唇部直径25	口縁部	10YR5/2 7.5YR4/1	10YR5/3 7.5YR5/3	2.5YR4/2	口縁 10YR6/4	微砂粒を含む	ウ・セ	内・工具によるナデ 指圧痕ナデ 外・工具によるナデ 口縁・ナデ 沈線 突帯・ナデ	傾き疑問 焼成良好	3	332
3	60	甕形土器 (入来Ⅱ式)	破片	口縁部	7.5YR4/2	5YR5/4	7.5YR5/4	口縁 7.5YR5/3		金・ウ・ セ・白・長	内・工具によるヨコナデのちナデ 外・ナデ 口縁・工具によるナデ 口唇・沈線	傾き疑問 焼成良好	3	
4	239	甕形土器 (入来Ⅱ式)	破片	口縁部	7.5YR5/3 10YR3/2	5YR5/4	10YR5/3	口縁 7.5YR5/4	微砂粒を含む	白・レキ	内・工具によるナデ 外・ヨコナデ 口縁・工具によるナラ 口唇・沈線	傾き疑問 焼成良好	3	
5	23	甕形土器 (入来Ⅱ式)	破片	口縁部	7.5YR5/3	5YR5/3	5YR4/3	口縁 7.5YR5/3	微砂粒を含む	金・ウ・セ	内・ヨコナデのちナデ 外・ヨコナデ 口縁・ナデ 沈線 突帯・ヨコナデ 剥落	傾き疑問 焼成良好	3	
6	150	甕形土器 (入来Ⅱ式)	破片	口縁部	7.5YR4/2	5YR5/4	10YR5/3	口縁 5YR5/4	微砂粒を含む	金・白・ウ	内・ナデ 外・ナデ 口縁・ナデ 沈線	傾き疑問 焼成良好	3	
7	22	甕形土器 (山之口Ⅱ式)	破片	口縁部	7.5YR5/3	7.5YR5/3	2.5Y4/1 7.5YR5/3	口縁 10YR5/3 7.5YR4/2	微砂粒を含む	白・セ	内・工具によるナデのちナデ 外・ヨコナデ 口縁・ヨコナデ 口唇・沈線 キザミ	傾き疑問 焼成良好	3	
8	125	甕形土器 (山之口式Ⅱ)	破片	口唇	7.5YR6/4	10YR6/3	10YR4/1 2.5YR5/2	口縁 7.5YR6/4 10YR6/3	微砂粒を含む	セ	内・工具によるナデのちナデ 外・ナデ 口縁・工具によるナデ 沈線 口唇・ナデ キザミ	傾き疑問 焼成良好	3	
9	355	甕形土器 (山之口Ⅱ式)	破片	口唇部	10YR4/1	2.5Y4/1	2.5Y4/2	口縁 10YR4/1	微砂粒を含む	白	内・ナデ 外・ヨコナデ 口縁・ヨコナデ 口唇・沈線	焼成良好	3	
10	230	甕形土器 (山之口Ⅱ式)	破片	胴部	7.5YR5/3 7.5YR4/2	5YR5/4	10YR5/3 7.5YR5/3		微砂粒を含む	金・ウ・セ	内・工具によるナデのちナデ 外・ナデのちナデ 突帯・ヨコナデ	傾き疑問 焼成良好	3	
11	242	甕形土器	破片	底部	5YR5/4 10YR4/1	7.5YR4/1 N3/0	10YR5/3			ウ・白	内・工具によるナデのちナデ 外・カーボン付着のため調整は不明	傾き疑問 焼成良好	3	
12	235	甕形土器	破片	底部	5YR5/4	7.5YR4/1	7.5YR5/3 5YR5/4		微砂粒を含む	セ	内・工具によるナデ 丹塗り ヨコナデ 外・工具によるナデ	傾き疑問 焼成良好	3	
13	88	甕形土器	破片	底部	5YR5/4 10YR6/3	5YR5/4	10YR5/3 7.5YR5/3		微砂粒を含む	セ・ウ	内・工具によるナデのちナデ 外・工具によるナデのちナデ	傾き疑問 焼成良好	3	
14	256	甕形土器	破片	胴部	10YR6/3 10YR4/1	7.5YR4/2 10YR3/1	10YR5/2 2.5YR4/2			セ・ウ・白	内・工具によるナデのちナデ 外・工具によるナデのちナデ	傾き疑問 焼成良好	3	
15	294	壺形土器 (入来Ⅱ式)	破片	口唇部	5YR5/4	7.5YR5/4	10YR4/2	口縁 5YR5/4		セ・ウ・ 白・長	内・ヨコナデ 外・ナデ 口縁・ヨコナデ 粘土ヒモ 口唇・沈線	傾き疑問 焼成良好	3	

第６表　第３層出土遺物観察表①

図番No.	取上げNo.	器種	残存法量(cm)	部位	色 外	色 内	色 肉	色 他	胎土粒	混和材	調 整	その他	出土層位	接 合
16	59	壷形土器 (入来Ⅱ式)	破片	口唇部	5YR4/3 7.5YR5/3	−	7.5YR5/3	口縁 5YR5/4		金・ウ・白・セ	内・ヨコナデ 外・ヨコナデ 口縁・工具によるナデのちナデ 口唇・沈線	傾き疑問 焼成良好	3	
17	118	小形壷 (入来Ⅱ式)	破片	口縁部	7.5YR4/2	7.5YR5/3	7.5YR5/3	口縁 10YR5/3		白・ウ	内・ヨコナデ　沈線 外・工具によるヨコナデ 口唇・ナデ 口縁・ヨコナデ	傾き疑問 焼成良好	3	
18	20	壷形土器	破片 口唇部直径12.3	口縁部	10YR6/3	10YR7/3	10YR3/1 10YR6/3	口縁 10YR7/3	微砂粒を含む	白・ウ	内・ナデ 外・ナデのちミガキ 口縁・ナデのちミガキ	傾き疑問 焼成不良	3	54
19	270	壷形土器	破片	胴部	7.5YR6/4 10YR6/3 N4/0 5YR5/3	10YR5/2 10YR6/3	7.5YR6/4 10YR5/2		微砂粒を含む	ウ・セ・小レ	内・ナデ　指圧痕　接合線 外・ミガキ　工具によるナデのちナデ 強いタテナデ　ヨコナデ	傾き疑問 焼成良好	3	288
20	121	壷形土器 (入来Ⅱ式)	破片	頸部 突帯部	7.5YR5/3 10YR5/2	7.5YR6/3	2.5YR4/1 7.5YR5/3			セ・白・黒	内・ナデ 外・ナデ　工具によるナデ　接合	傾き疑問 焼成良好	3	
21	51	壷形土器 (入来Ⅱ式)	破片	頸部 突帯部	7.5YR6/4 5YR5/4	7.5YR6/4	10YR5/2 7.5YR5/4		微砂粒を含む	セ・白	内・ナデ 外・工具によるナデのちナデ 突帯・ナデ　工具によるナデ	傾き疑問 焼成やや良好	3	
22	28	壷形土器 (入来Ⅱ式より山之口Ⅱが可能大)	破片	頸部 突帯部	5YR5/4	7.5YR6/4	7.5YR5/4 7.5YR6/4		微砂粒を含む	金・ウ・セ	内・上下のナデ　指圧 外・工具によるナデ　ナデ	傾き疑問 焼成良好	3	
23	48	壷形土器 (未確定)	破片	頸部 突帯部	5YR5/3	2.5YR4/1 10YR5/3	10YR4/1		微砂粒を含む	金・セ	内・工具によるナデのちナデ 外・ナデ 突帯・ナデ	傾き疑問 焼成不良	3	
24	43	壷形土器 (未確定)	破片	頸部 突帯部	5YR5/3	7.5YR5/2	7.5YR5/3 10Y4/1			金・ウ・白・セ	内・工具によるナデのちナデ 外・ナデ　爪圧痕 突帯・ナデ	傾き疑問 焼成良好	3	
25	261	壷形土器	破片	頸部	7.5YR4/2	7.5YR4/2	10YR4/3		微砂粒を含む	白・小レ	内・ナデ　指圧 外・ナデ　沈線	傾き疑問 焼成良好	3	
26	262	壷形土器	破片	頸部	5YR5/4 7.5YR5/3	10YR5/4	10YR5/4		微砂粒を含む	セ	内・ナデ 外・ナデ　沈線	傾き疑問 焼成良好	3	
27	258	壷形土器	破片	頸部	5YR5/3	10YR6/3	10YR5/4		微砂粒を含む	セ	内・ナデ 外・ナデ　沈線	傾き疑問 焼成良好	3	
28	84	胴部突帯部	破片	胴部 突帯部	5YR5/4	−	2.5YR4/2 7.5YR5/3			白・黒	内・ナデ 外・ナデ 突帯・ナデ	傾き疑問 焼成良好	3	
29	308	高坏形土器	破片	胴部	10YR5/4	2.5YR6/6	7.5YR5/3 7.5YR6/4		微砂粒を含む	白	内・工具によるナデ　丹塗り 外・工具によるナデ	傾き疑問 焼成良好	3	

第７表　第３層出土遺物観察表②

に延びるものがあり，その下位には左斜め下から右斜め上へ延びるものが認められる．後者の末端は末細り状となっている．

29は，古墳時代に帰属する成川式土器様式の高坏の破片と考えられる[(1)]．破片下部には，脚部との接合痕が認められる．外面には丹塗りが認められる．

註[(1)]　鹿児島国際大学の中園聡教授から御教示頂いた．

（ii）軽石製加工品（第31～33図）

30から33までは軽石製加工品である．

30は，不整形な楕円形を呈している軽石加工品である．a面には少なくとも2枚の剥離痕が認められるが，意図されたものかは確実ではない．b面全体は他の面と比較して滑らかで平坦であり，磨面として利用されていたと考えられる．f面の断面観察からも磨面であるb面が他の面と比較して平坦であることが看取できる．30の上端部と下端部とは割れた状態で出土している．（写真80）

31は，不整形な楕円形を呈している軽石製加工品である．a面には剥離痕や磨面は認められない．b面にの上下両端には剥離痕が認められる．その剥離痕の加撃方向は，b面の上端部部と下端部からである．b面中央部は他の面と比較して滑らかで平坦であり，磨面として利用されていたと想定できる．

32は，円形に近い形状を呈している軽石製加工品である．a面は表面で凸面を呈し，b面は主要剥離面である．a面・b面ともに磨面が認められる．f面の断面観察から，a面は円弧状をb面はほぼ平坦面な磨面であることが看取できる．

a面の上下両端には剥離面が認められ，意図的に整形したことも考えられる．

33は，不整形の形状を呈している軽石製加工品である．a面は表面で凸面であり，f面の断面観察から円弧状を呈していることが看取できる．他の面と比較して滑らかであることから，30・31・32と同様に磨面として利用されていたと考えられる．b面は，b面下端部からの加撃による剥離面が認められる．

30から33の軽石製加工品の観察によると，次のような特徴が認められる．

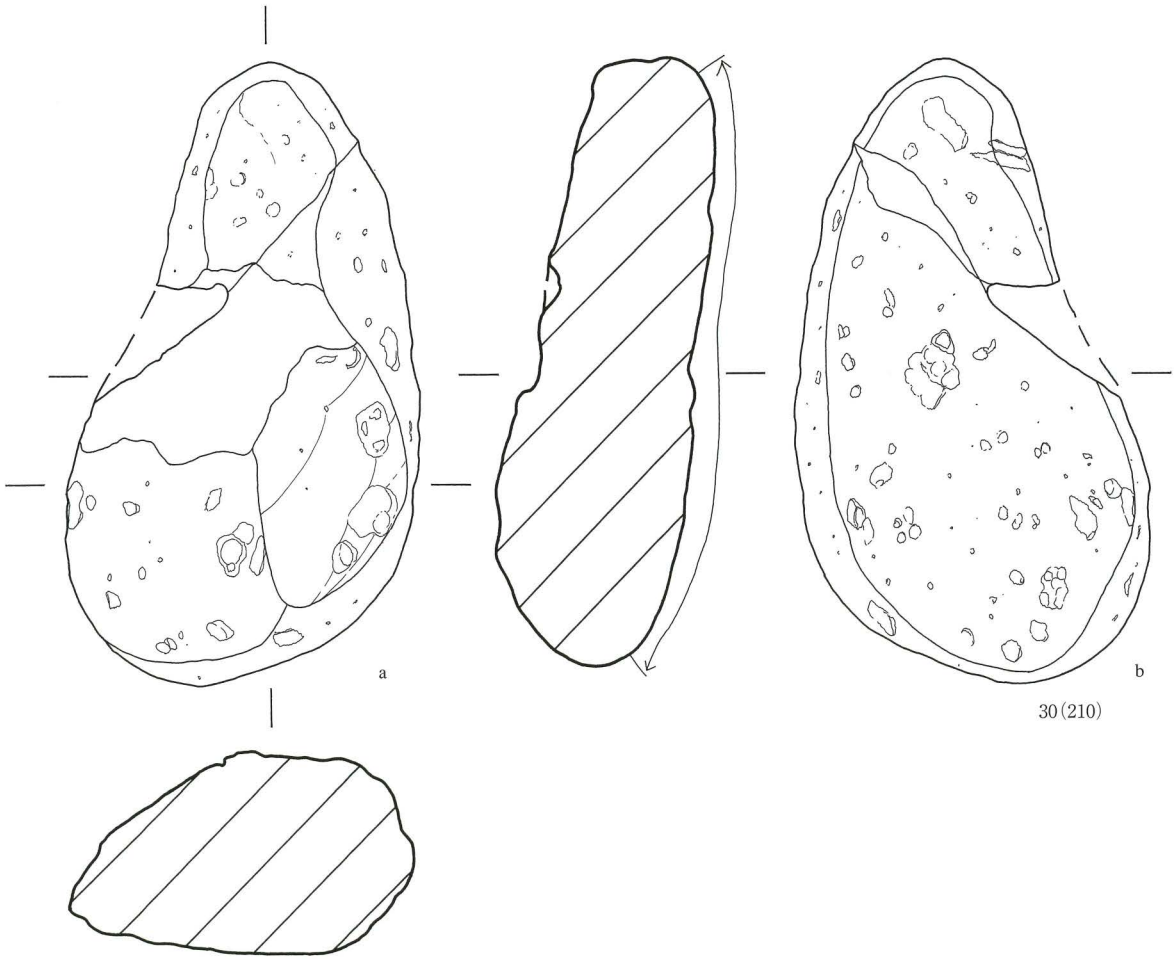
・形状は楕円形あるいは円形を呈している．
・磨面が認められる面の断面は，円弧状を呈している面と平坦な面の2種類が認められる．
・a面・b面の両面あるいは，どちらか片面の上下両端部分に剥離痕が認められる．敲打することによって剥離されたものと考えられる．
・これらのことから，これらの軽石製加工品は，磨る・敲打する道具としての用途が想定できる．

（iii）石器（第33図）

33は黒曜石製の剥片である．中尾迫遺跡では唯一の黒曜石製の石器である．打面はd面側からの加撃による単剥離打面である．a面はe面（打面）側からの加撃による剥離面によって構成されており，a面中央部の剥離面はウートゥラ・パッセ状（割れすぎ）となっている．この剥片自体も石核から剥離する際にウートゥラ・パッセ状に剥離している．d面に自然面が認めら，ほぼ平坦であることから石核の素材が角礫の可能性が考えられる．c面にはe面側とf面（打面と反対面）側からの加撃による剥離面が認められる．b面左側縁には新しい剥離痕が認められるのみで，当時の使用痕や二次加工は認められない．

写真15　第３層出土遺物写真⑦(表面)

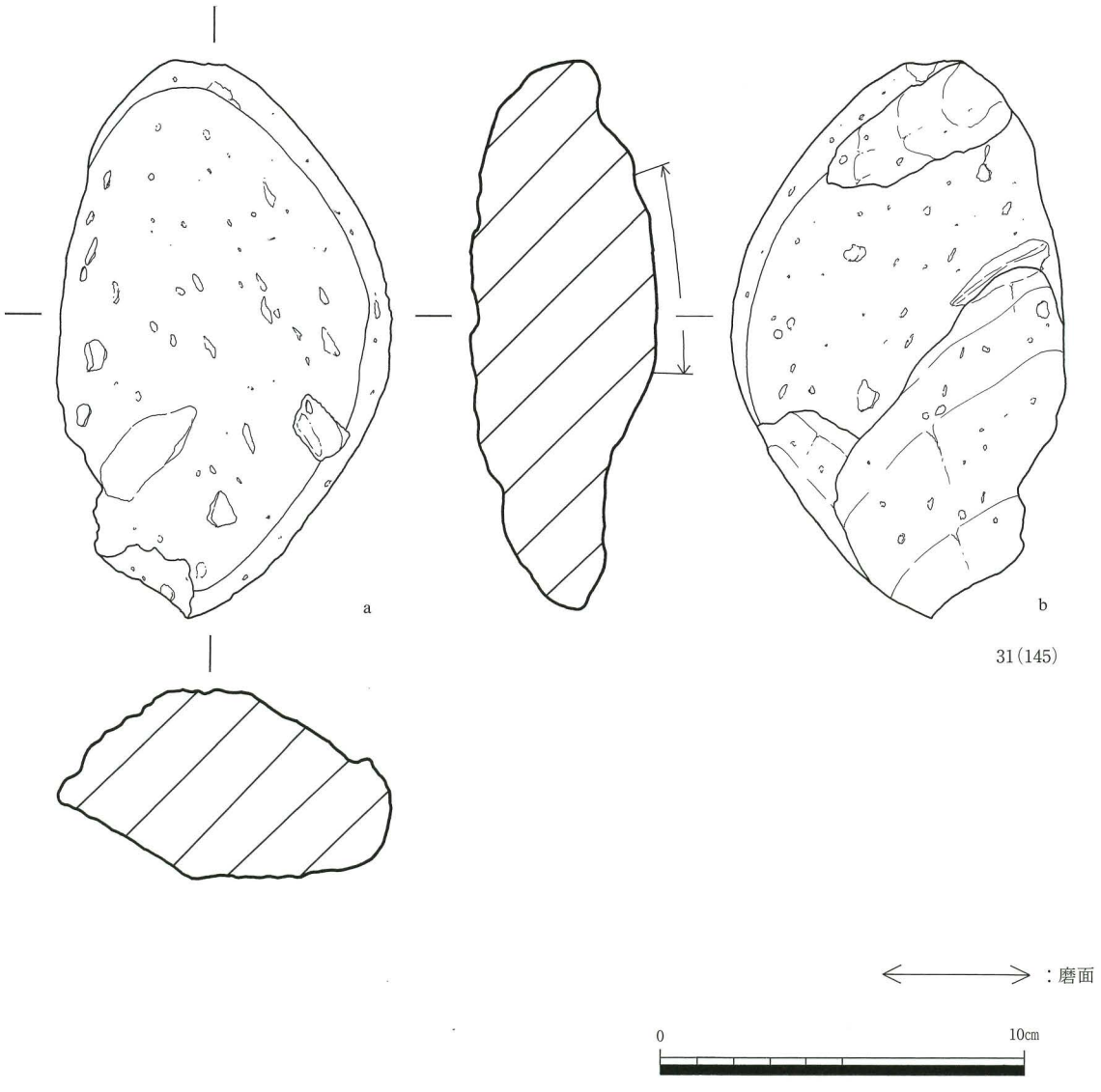
写真16　第３層出土遺物写真⑦(裏面)



第31図　第３層出土遺物実測図⑦(Ｓ＝1/2)

写真17　第３層出土遺物写真⑧(表面)

写真18　第３層出土遺物写真⑧(裏面)



第32図　第３層出土遺物実測図⑧(Ｓ＝1/2)

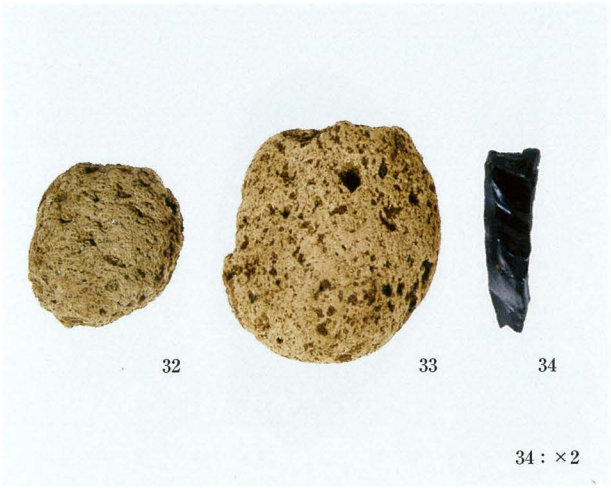
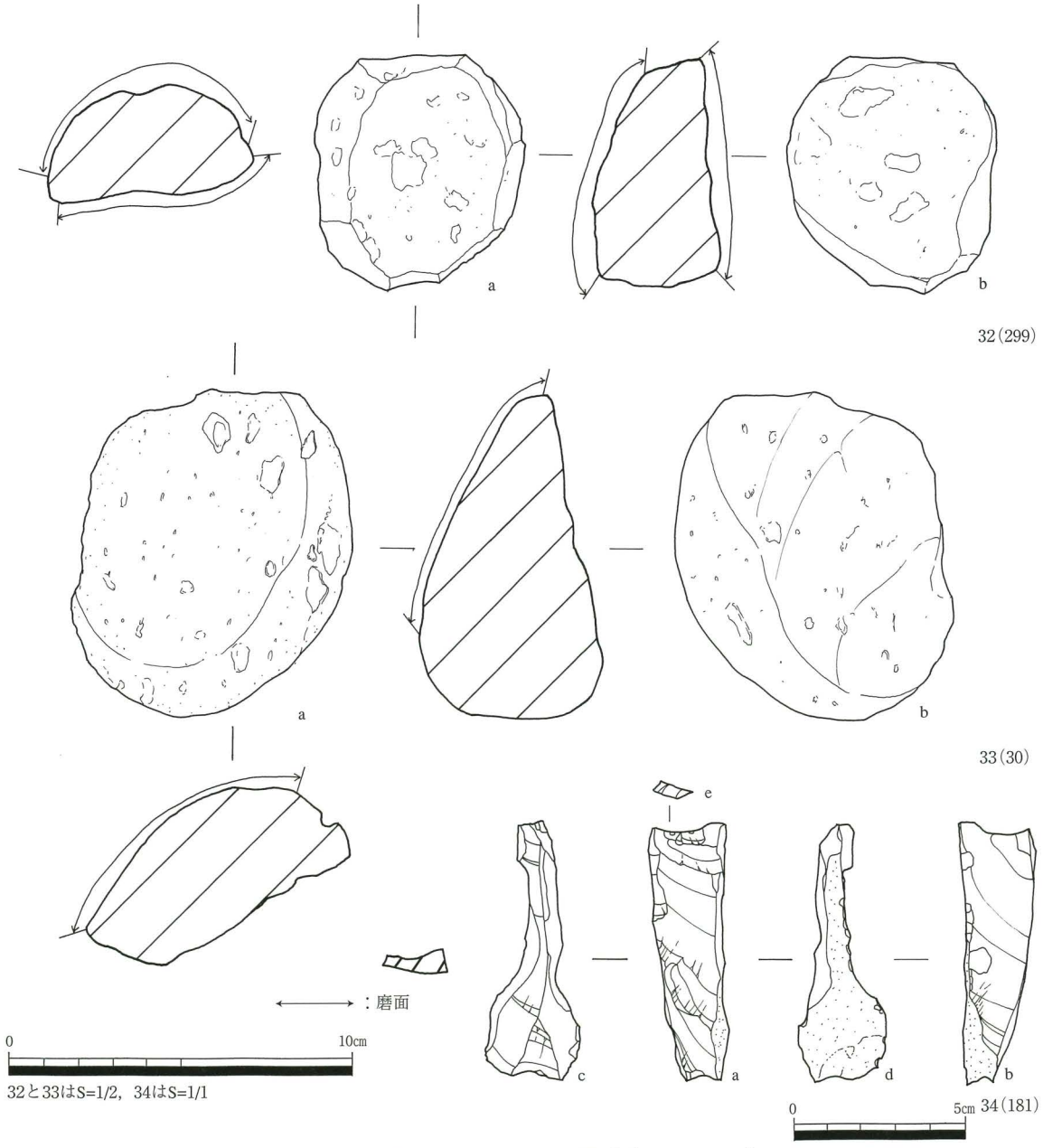


写真19　第３層出土遺物写真⑨(表面)

写真20　第３層出土遺物写真⑨(裏面)



第33図　第３層出土遺物実測図⑨(Ｓ＝1/2･1/1)

No.	取上げNo.	器種	石材	法量(cm)	重量(g)	打面形状	調整・加工	使用痕	層	備考
30	210	軽石製加工品	軽石	最大長：16.0 最大幅：9.0 最大厚：5.0	230			磨面	3	
31	145	軽石製加工品	軽石	最大長：15.1 最大幅：9.3 最大厚：5.2	230		剥離	磨面	3	
32	299	軽石製加工品	軽石	最大長：6.9 最大幅：6.2 最大厚：3.5	60			磨面	3	
33	30	軽石製加工品	軽石	最大長：9.6 最大幅：8.2 最大厚：5.3	140			磨面	3	
34	181	剥片	黒曜石	最大長：3.8 最大幅：1.2 最大厚：1.3	3.33	単剥離			3	

第8表　第3層出土遺物観察表③

③第３層上部出土遺物（第34～36図）

中尾迫遺跡の第３層上部から出土した遺物は，総点数で86点である．「第３層」上部出土として取り上げた遺物は下記のような状況のものである．まずは，第３層上部の遺物出土の周辺や下位では開聞岳の火山性噴出物である暗紫コラの固結火山灰や火山礫が認められる．基本的には，暗紫コラの上位層である．

第３層上部の出土遺物は，中津野式土器が主体を占める弥生時代後期終末の遺物包含層である．

第３層上部の出土遺物平面・垂直分布図は第34図のとおりであり．北区の西北側の傾斜堆積範囲にまとまっているような分布を示しているが，北東側でも「第３層」として取り上げた遺物の中に本来は第3層上部に帰属していた遺物があると考えられる．よって，この分布が本来の姿ではない．

（ｉ）土器（第35・36図）

・甕形土器（第35図）

35は，先述した土器集中部①（第22・23図）で報告した一括資料の土器であり，甕形土器である．口縁部・底部形態等から，中津野式土器に含まれると考えられる．ほぼ完形まで復元が可能であり，復元口縁径は約32㎝を測る．口唇部端部はシャープに整えられている．内外面とも縦位，横位，斜位のハケ目が認められる．内面底部と脚部外面にはユビオサエの痕跡が認められる．脚台部の天井部は丸みを帯びている．

・台付鉢形土器（第36図）

36は，台付鉢形土器であり，口唇部の部分が若干欠落しているのみでほぼ完形で出土している．口縁部内外面にはヨコナデが認められる．脚台部と底部の境には，ハケによるカキアゲが認められる．口縁部径は約11.5㎝を測る．脚台部の天井部は丸みを帯びている．

・鉢形土器（第36図）

37から39は鉢形土器である．

37は，鉢形土器の口縁部である．推定復元による口縁部径は，約19.6㎝を測る．外面は丁寧にナデ後にミガキが施されている．内面は，横位のナデが施されている．

38は，鉢形土器の口縁部である．外面は丁寧にナデ後にミガキが施されている．内面は，横位のナデが施されている．また，38は39と胎土や色調，口縁部形態等から同一個体と考えられる．

39は，鉢形土器の口縁部である．外面は丁寧にナデ後にミガキが施されている．内面は，横位のナデが施されている．口唇部直下に縦位のキザミが２本施されている．

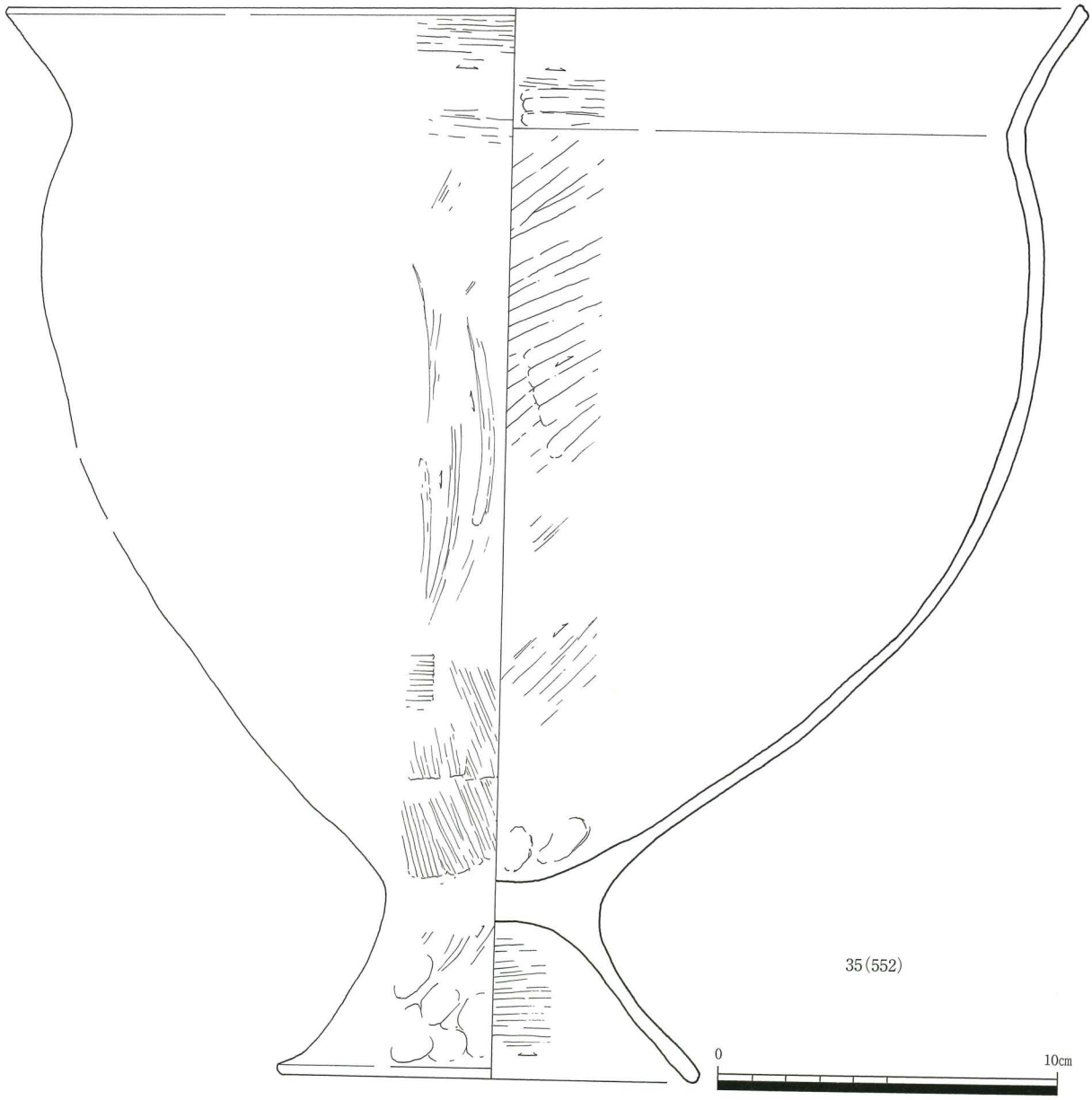
図番No.	取上げNo.	器種	残存法量(cm)	部位	色 外	色 内	色 肉	色 他	胎土粒	混和材	調 整	その他	出土層位	接 合
35	552	甕形土器	略完形 口縁部直径32	口縁部 ～底部	N4/0 5YR5/3 7.5YR5/2	N4/0 7.5YR6/3	N5/0 5YR5/3	脚内 7.5YR5/3 5YR4/2		長・ウ・ カクセン	内・ヨコナデ　工具によるケズリ　ナデ 指圧痕 外・ナデのちヨコナデ　工具によるケズリのちナデのちミガキ　工具によるケズリのちナデ　指圧痕　ナデ 口唇・ナデ 脚内・荒いヨコナデのちナデ	焼成良好	3上	556 557 558 560 561 562 563 564 565 566 568 569 570 572 574 576 577 578 579 580 586 587 588 589 592 595 600 603 744 746 747 750 751 752 753 754 756 757 758 759 760 833
36	420	鉢形土器	完形 口縁部直径11.5		5YR5/4 2.5Y4/1 10YR6/3	7.5YR5/3	10YR6/3	口唇 10YR5/2 10YR4/1 底 10YR5/3	微砂粒を含む	白	内・ヨコナデ　ナデ　工具によるケズリ 外・ヨコナデ　工具によるナデ　工具によるケズリ 脚内・工具によるカキアゲ 脚端・マメツ	焼成 やや良好	3上	
37	593	鉢形土器	破片 口縁部19.6	口縁部	5YR4/1	2.5YR5/6 7.5YR4/2	2.5YR6/6 10YR6/2	口唇 7.5YR4/3 5YR4/1	微砂粒を含む		内・工具によるナデ 外・工具によるナデのちミガキ　ミガキ 口唇・ナデ	傾き疑問 焼成良好	3上	
38	573	鉢形土器	破片	口縁部	7.5YR5/2 5YR4/2	5YR5/4 7.5YR5/3	10YR5/3 5YR5/4	口唇 7.5YR5/3 2.5YR4/1	微砂粒を若干含む	セ	内・工具によるヨコナデのちナデ 外・工具によるヨコナデのちナデ　キザミ 口唇・ナデのちナデ	傾き疑問 焼成良好	3上	
39	602	鉢形土器	破片	口縁部	5YR5/3 7.5YR4/2	5YR5/4	5YR5/4 10YR4/2	口唇 7.5YR4/2	微砂粒を若干含む	セ・白	内・工具によるヨコナデのちナデ 外・工具よるヨコナデのちナデ　ミガキ	傾き 若干疑問 焼成良好	3上	

第９表　第３層上部出土遺物観察表

第34図　第３層上部出土遺物分布図（S＝1/200）

写真21　第３層上部出土遺物写真①(外面)

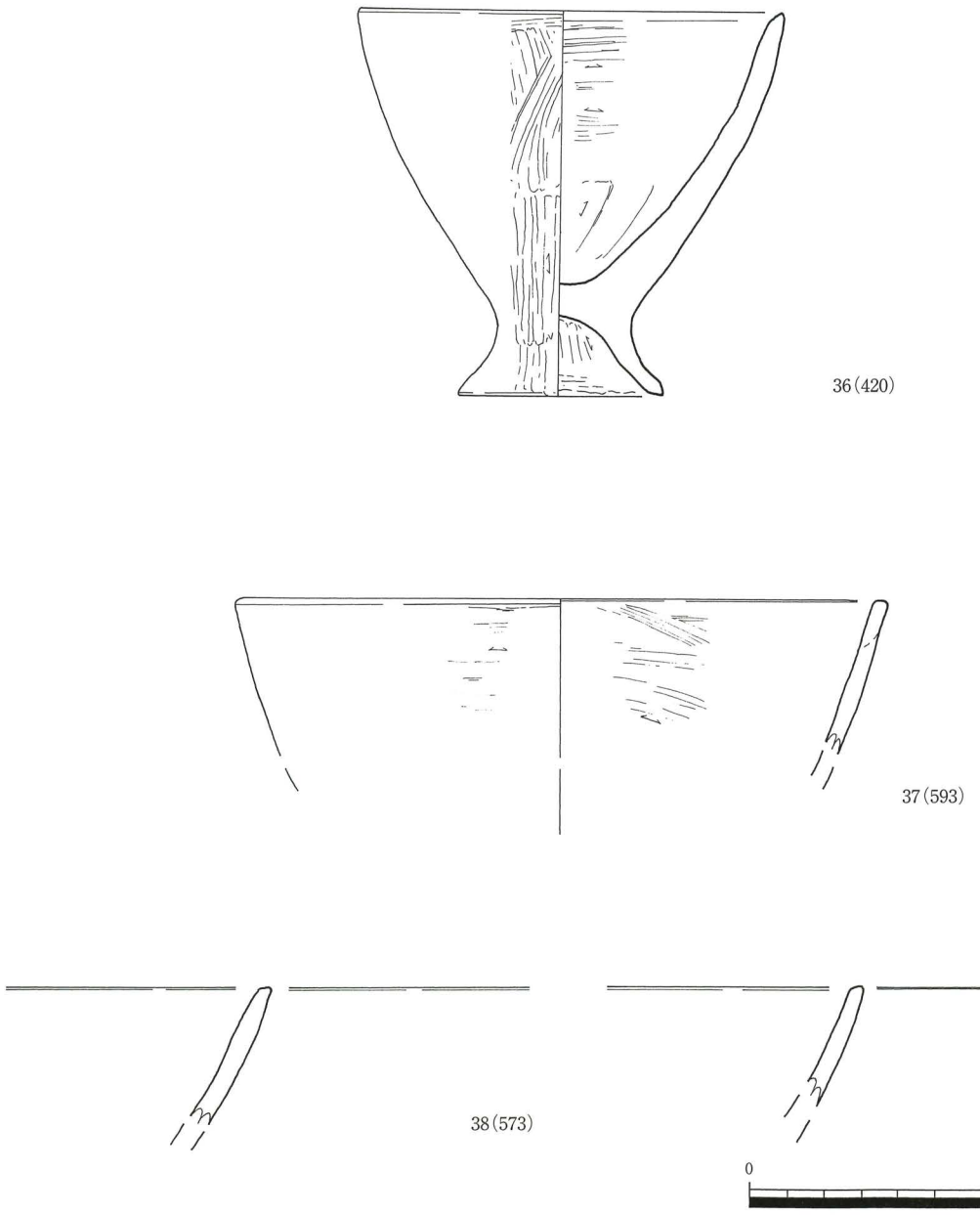
写真22　第３層上部出土遺物写真①(外面)



第35図　第３層上部出土遺物実測図①(Ｓ＝1/2)

写真23　第３層上部出土遺物写真②(外面)

写真24　第３層上部出土遺物写真②(内面)



第36図　第３層上部出土遺物実測図②(Ｓ＝1/2)

④第３層下部出土遺物（第37～47図）

中尾迫遺跡の第３層下部から出土した遺物は，総点数で261点である．「第３層下部」出土として取り上げた遺物は下記のような状況のものである．第３層下部の層中には，開聞岳火山性噴出物の暗紫コラの火山礫が混在している．第３層下部出土遺物は，山之口式土器と入来Ⅱ式土器が包含されている弥生時代中期の遺物包含層である．第３層下部の出土遺物平面・垂直分布図は第37図のとおりである．

なお，出土遺物の注記で「凹マイ３下・遺物番号」というものがあるが，これは，先述した土坑（27頁・第15図）を第４層上面で検出した初期段階で，遺構内から出土した遺物に対して用いている．土坑の埋土は確実に第３層下部であったことから，土坑の埋土出土遺物ではあるが「土坑埋土の第３層下部からの出土遺物」という意味合いを持たせるために，取り上げ層位をそのように記録して注記した．なお，遺構内出土遺物の注記は，この他に「凹マイ４層」「凹マイ」「マイド」があり，出土点数は19点である．

まずは，その土坑内出土遺物を報告して，その後に「第３層下部」の出土遺物を報告する．

（ｉ）遺構埋土出土遺物（第38図）

土坑の検出段階において，その土坑埋土中から出土した遺物は15点である．次の２点を図示した．

40は，壷形土器の頚部突帯部片である．三条の幅広な三角突帯が巡らされており，丁寧なヨコナデによってシャープさに欠けている．

41は，壷形土器の頚部突帯部片である．三条の三角突帯が巡らされている．突帯の幅は狭く，各突帯の間隔も狭い．

（ii）土器（第39～44図）

42から53までは甕形土器の口縁部並びに胴部片である．54から62までは壷形土器の口縁部並びに頚部片である．63から67は脚台である．68は，土器集中部②から出土した一括資料の土器である甕形土器である．

・甕形土器（第39～41図）

42から48までは，口縁部と肥厚部の形態等から，入来Ⅱ式土器の甕形土器と考えられる．

42は，甕形土器の口縁部から胴部にかけての破片である．推定口縁部径は約22.4㎝を測る．口縁部上部及び内外面は，横位のナデが施されている．また，口縁部内面には，ユビオサエの痕跡が残り，そのユビオサエによって内面口縁部端部に稜が形成されている．口唇部端部は丸みを帯びている．

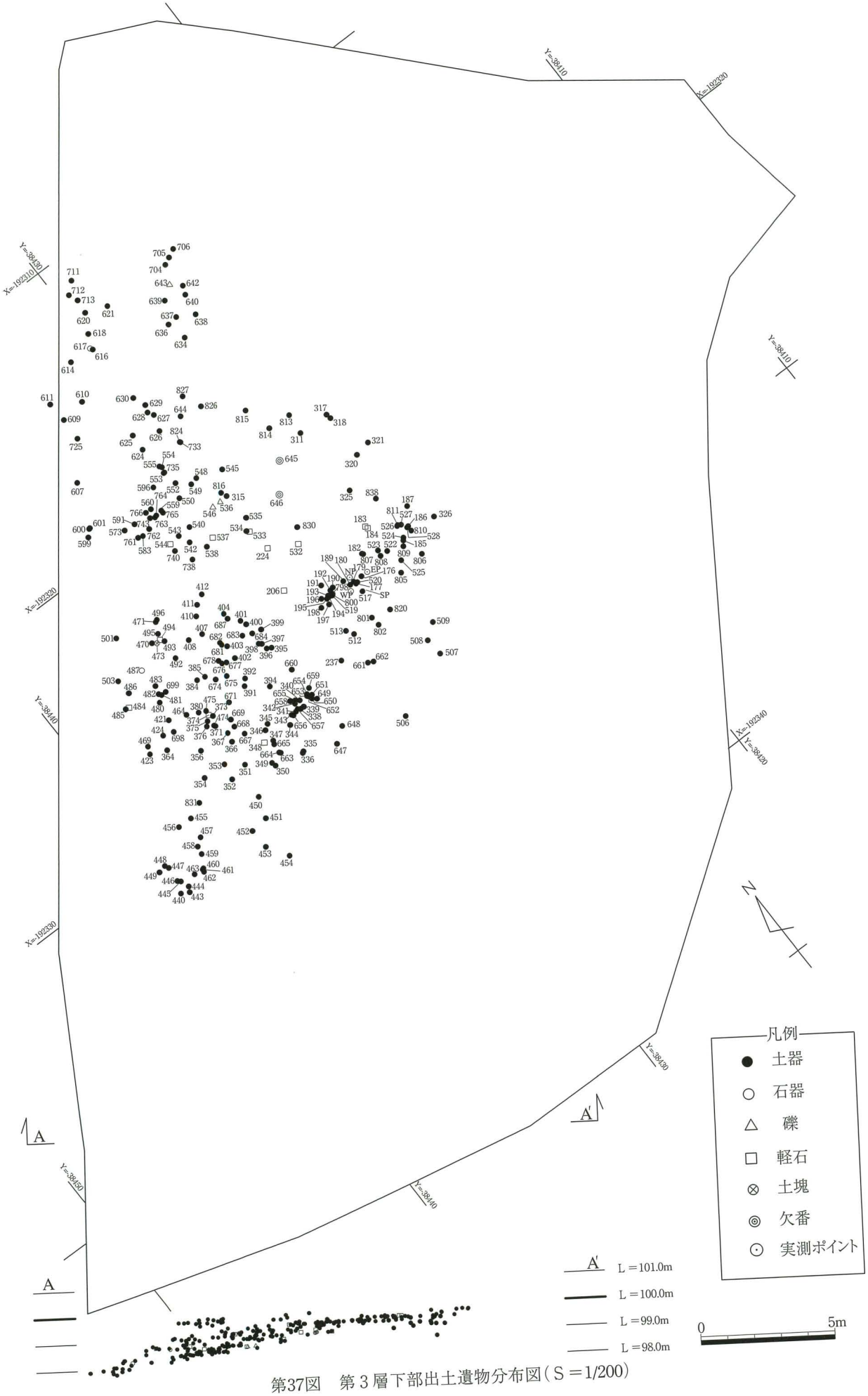
43は，甕形土器の口縁部から胴部にかけての破片である．口唇部端部には一条の沈線が認められている．胴部には三条の三角突帯が巡らされている．内には斜位のハケ目が，外面には横位のハケ目が認められる．内面口縁部端部にはユビオサエの痕跡が残る．371と650の２点接合である．

44は，甕形土器の口縁部から胴部にかけての破片である．口唇部端部には一条の沈線が認められている．胴部には二条の三角突帯が巡らされている．胎土に金ウンモが認められる．

45は，甕形土器の口縁部片である．口唇部端部は丸みを帯びており一条の沈線が認められる．その下位には工具によるキザミが施されている．胴部には一条の三角突帯が巡らされているが，本数が増える可能性が

図番No.	取上げNo.	器種	残存法量(cm)	部位	色 外	色 内	色 肉	色 他	胎土粒	混和材	調 整	その他 出土層位 接 合
40	838	壷形土器	破片	頚部 突帯部	7.5YR4/2	7.5YR5/3	10YR4/1 10YR5/3		微砂粒を含む	カ・セ	内・工具によるナデのちナデ 外・工具によるナデ 突帯・工具によるナデ	傾き疑問 凹マイ3下 焼成良好
41	523	壷形土器 （入来Ⅱ式）	破片	頚部 突帯部	7.5YR4/2	7.5YR5/3	7.5YR5/3		微砂粒を含む	白・セ 長・ウ	内・ナデ 外・ヨコナデ 突帯・ヨコナデ 荒いヨコナデ	傾き疑問 凹マイ3下 焼成良好

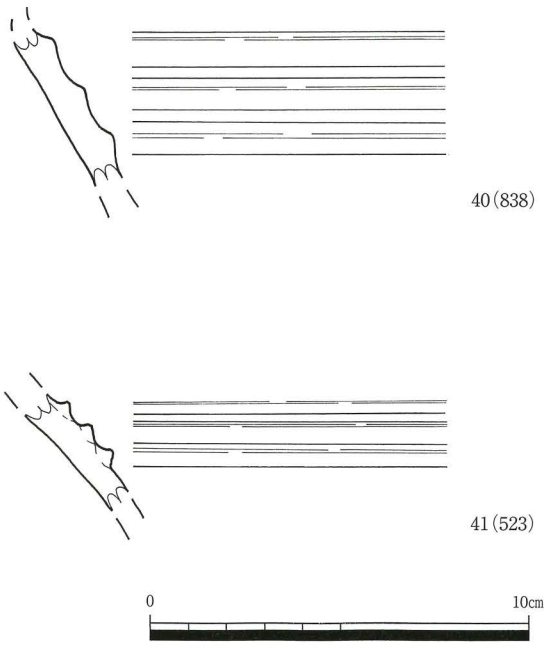
第10表　第３層下部遺構埋土出土遺物観察表



第37図　第３層下部出土遺物分布図（S＝1/200）

写真25　第３層下部遺構埋土出土遺物写真(外面)

写真26　第３層下部遺構埋土出土遺物写真(内面)



第38図　第３層下部遺構埋土出土遺物実測図(Ｓ＝1/2)

ある．内面口縁部端部には，ユビオサエの痕跡が残る．

46は，甕形土器の口縁部片である．口唇部端部はヨコナデによって整形され，肥厚部断面形態は概ね四角形を呈している．口唇部下部には工具によるキザミが施されている．内面口縁部端部はヨコナデによる稜が形成されている．特記すべき点として，外面口縁部直下には，幅0.9～ 1 ㎝の帯状の炭化物が付着している．炭化物付着位置とそのあり方を含め甕形土器の用途方法を探ることができよう．

47は，甕形土器の口縁部片である．口唇部端部には一条の沈線が認められる．口縁部上部及び内面側も丸みを帯びている．

48は，甕形土器の口縁部から胴部にかけての破片である．口縁部の断面形態は，略三角形を呈している．口唇部端部には一条の沈線が認められている．胴部には三条の三角突帯が巡らされている．胎土に金ウンモが認められる．内外面ともヨコナデが施されている．

49から53は甕形土器の胴部突帯部片である（第41図）．

49は甕形土器の胴部突帯部片である．一条の三角突帯が巡らされている．内外面ともナデが認められる．

50は，甕形土器の胴部突帯部片である．一条の三角突帯が巡らされている．突帯部にはユビオサエによる爪の圧痕が若干認められ，併せてヨコナデが認められる．内外面ともナデが認められる．

51は，甕形土器の胴部突帯部片である．二条の三角突帯が巡らされ，突帯には工具によるキザミが施されている．内外面ともナデが認められる．

52は，甕形土器の胴部突帯部片である．二条の三角突帯が巡らされ，シャープに整えられている．内外面ともナデが認められる．

53は，甕形土器の胴部突帯部片である．二条の三角突帯が巡らされ，52と同様にシャープに整えられている．突帯の一部は縦位方向からにより削られている．

・土器集中部②出土の甕形土器（第44図）

68は，土器集中部②（37頁・第24図）から一括出土した甕形土器である．口縁部から胴部上部までの大部分が残存しており，ほぼ土器集中部から出土した土器は接合ができた．胴部下部から脚台部分は，出土遺物の中には接合するものは認めらなかった．68は，口縁部が外反し，頚部内面には緩い稜が認められるが，全周には巡らない．口唇部は丸みを帯びている．外面には縦位，斜位，横位方向のハケ目が顕著に認められる．内面にもハケ目が認められる．

・壷形土器（第41・42図）

54から56までは壷形土器の口縁部片である（第41図）．54から56は口縁部や肥厚部の形態等から入来Ⅱ式土器に含まれると考えられる．なお，胎土からは３点とも異なる個体のものと判断できる

54は，壷形土器の口縁部片であり，やや外反する．口唇部端部には，一条の沈線が施されている．内外面ともヨコナデが顕著に認められる．

55は，壷形土器の口縁部片であり，やや外反する．口唇部端部には，一条の沈線が施されている．内外面ともヨコナデが顕著に認められる．胎土には最大で５㎜を越す小礫が混在している．

56は，壷形土器の口縁部片であり，やや外反する．口唇部端部には，一条の沈線が施されている．内外面ともヨコナデが顕著に認められる．胎土には黒曜岩片が混在している．

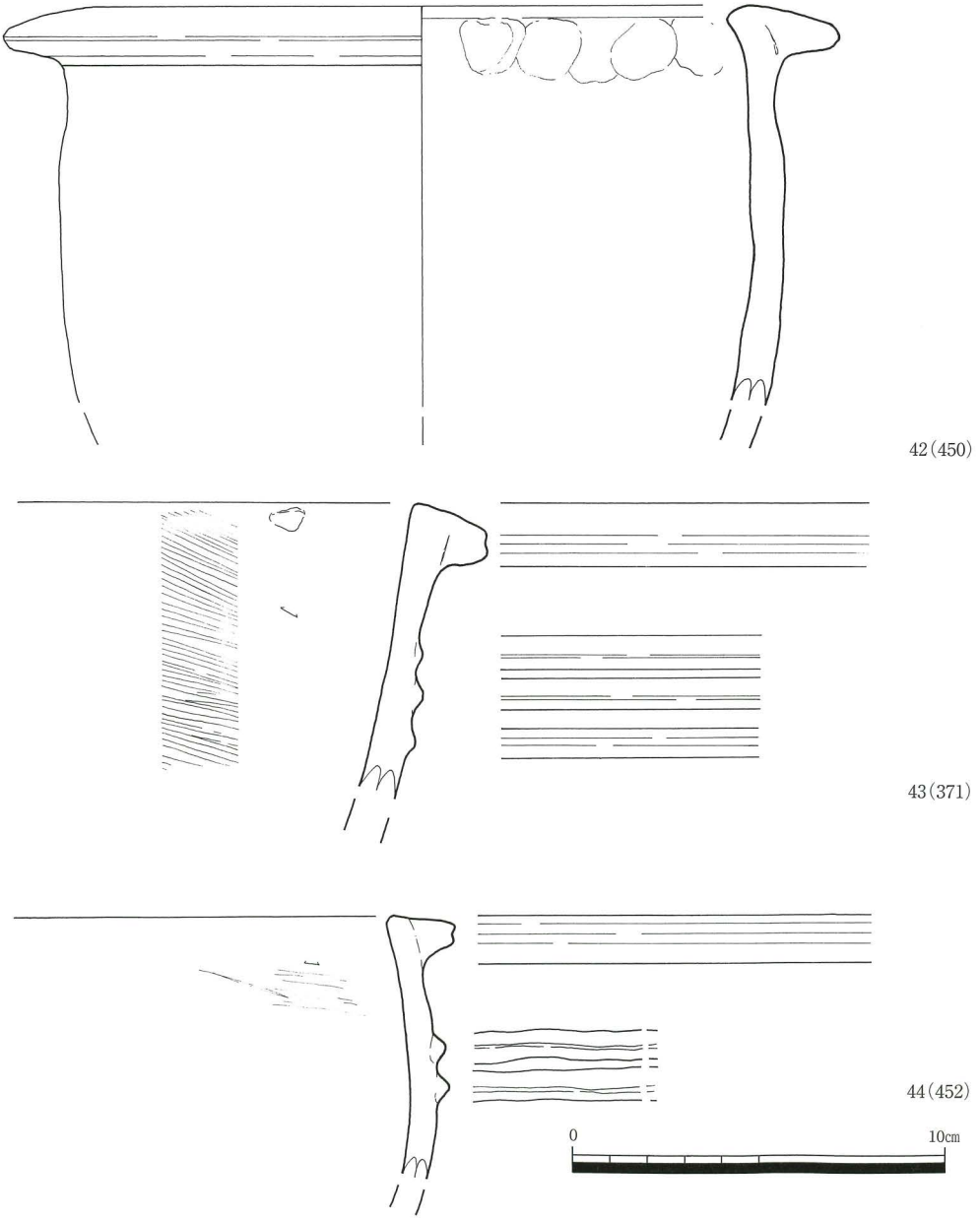
57から62までは，壷形土器の頚部突帯部片で，三角突帯が巡らされている（第42図）．

57は，壷形土器の頚部突帯部片である．三条の三角突帯が巡らされている．比較的突帯の高さが高い．外面には口縁部へ延びる稜が若干認められる．外面の突帯上部にはハケ目が認められる．

58は，壷形土器の頚部突帯部片である．ニ条の三角突帯が巡らされている．突帯間はヨコナデが顕著に認められる．

写真27　第３層下部出土遺物写真①(外面)

写真28　第３層下部出土遺物写真①(内面)



第39図　第３層下部出土遺物実測図①(Ｓ＝1/2)

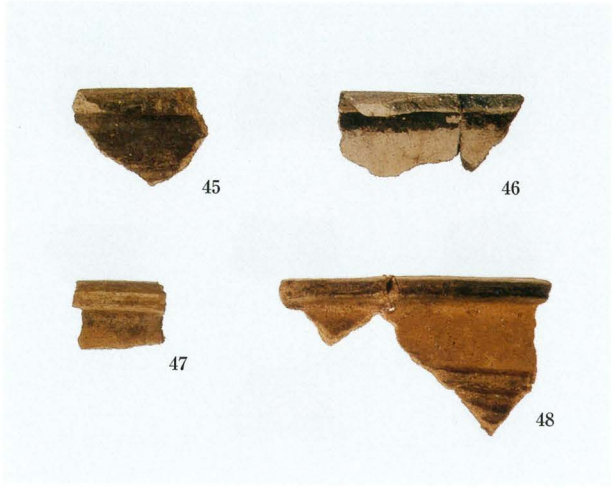
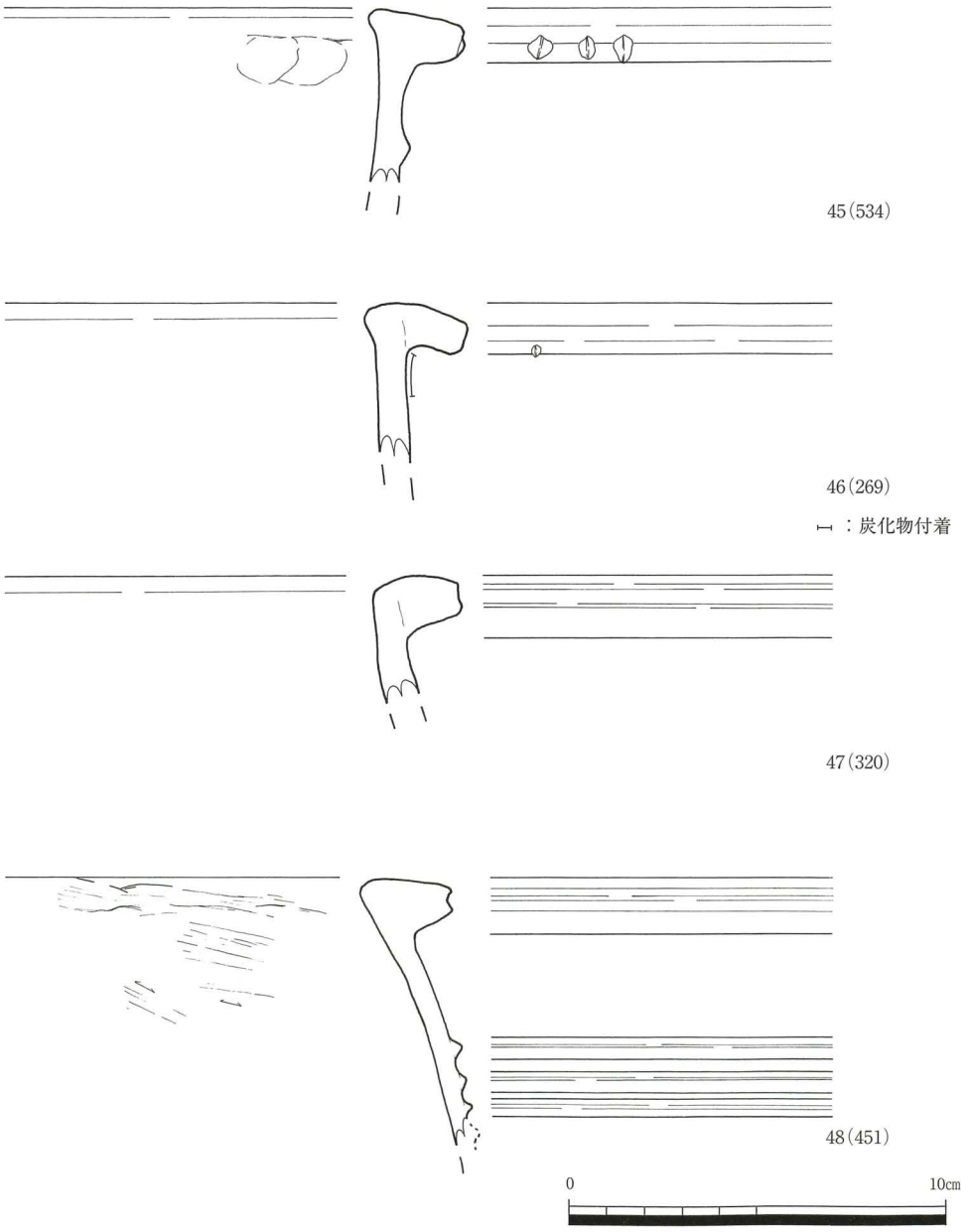


写真29　第３層下部出土遺物写真②（外面）

写真30　第３層下部出土遺物写真②(内面)



第40図　第３層下部出土遺物実測図②(Ｓ＝1/2)

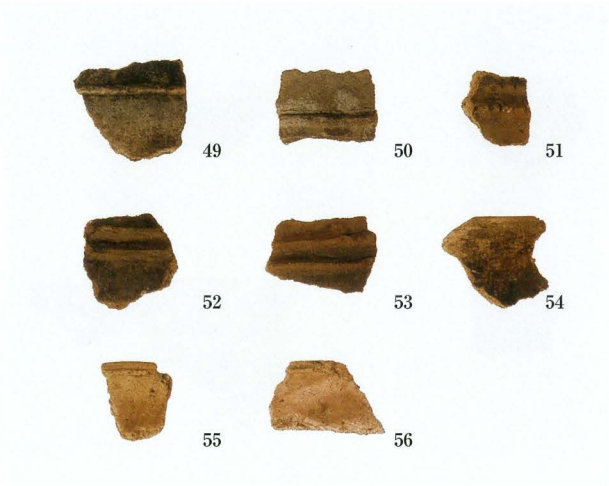
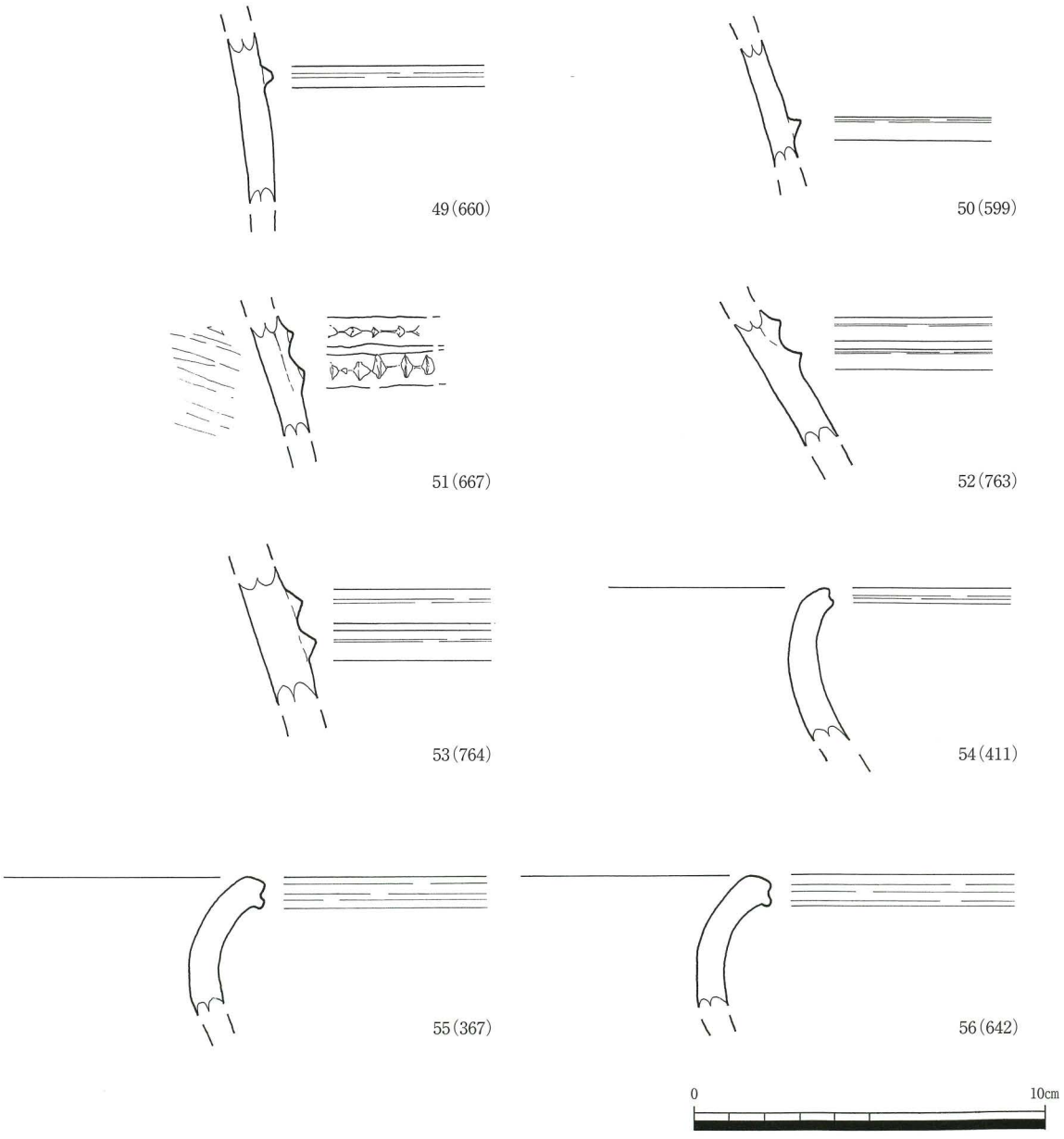


写真31　第３層下部出土遺物写真③(外面)

写真32　第３層下部出土遺物写真③(内面)



第41図　第３層下部出土遺物実測図③(Ｓ＝1/2)

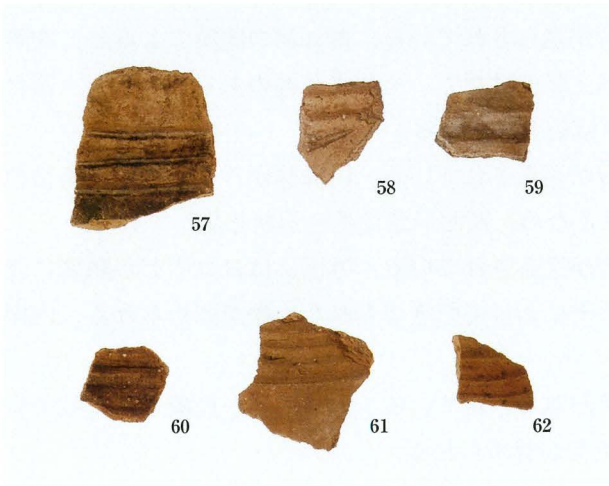
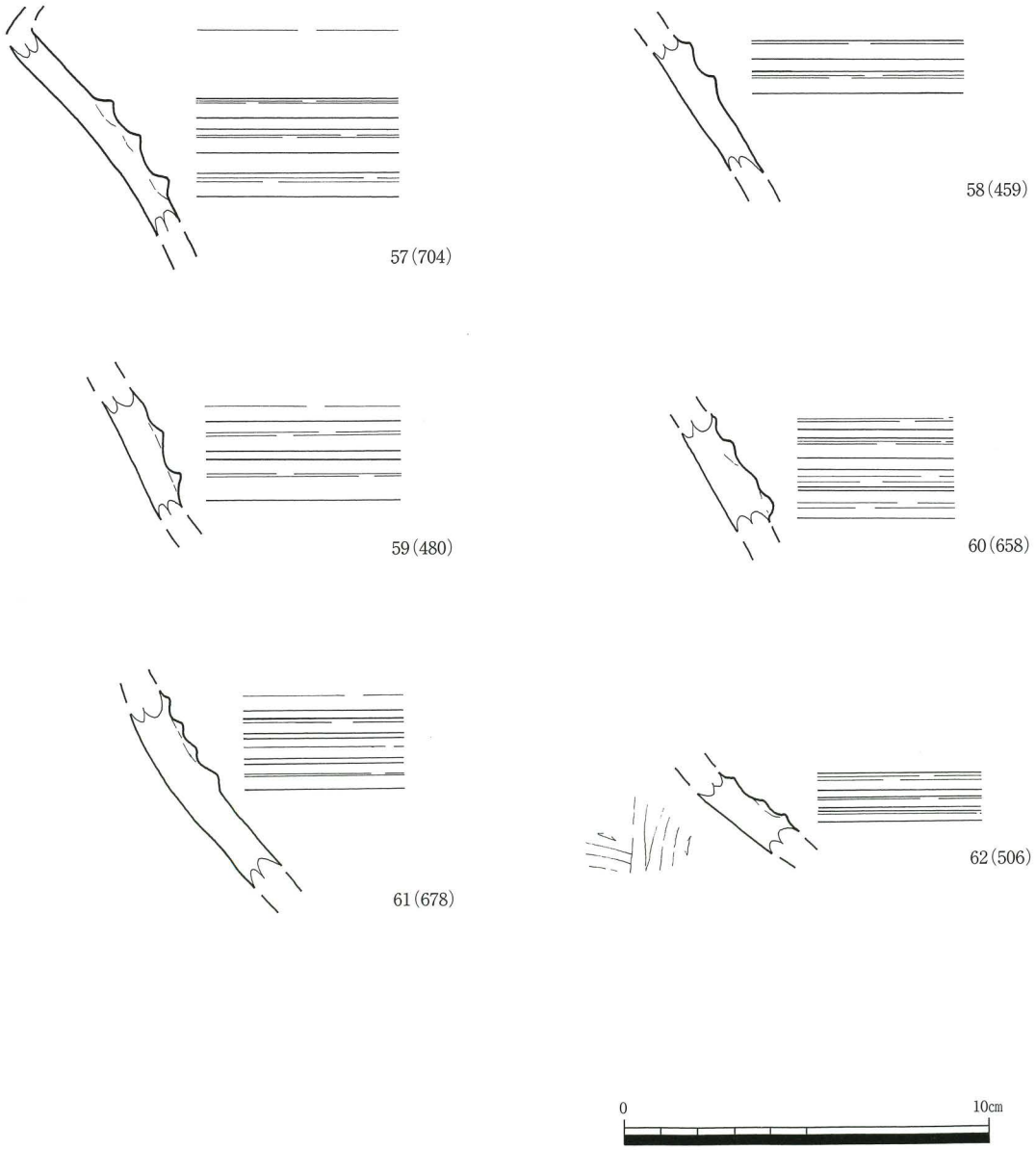


写真33　第３層下部出土遺物写真④(外面)

写真34　第３層下部出土遺物写真④(内面)



第42図　第３層下部出土遺物実測図④(Ｓ＝1/2)

59は，壷形土器の頚部突帯部片である．二条の三角突帯が巡らされている．割れ面の観察によると，突帯の添付のあり方が読み取れる．それによると，突帯幅の粘土紐ではなく，それより幅のある粘土紐を土器自体にへばり付けるように貼付させている．突帯自体の厚さは約５㎜を測る．

60は，壷形土器の頚部突帯部片である．四条の三角突帯が巡らされている．口縁部から一条目と二条目の突帯間は，工具による横位方向の沈線状の痕跡が認められるため，断面形態は逆台形状を呈している．

61は，壷形土器の頚部突帯部片である．四条の三角突帯が巡らされている．外面にはヨコナデが顕著に認められる．突帯間にも同様なヨコナデが認められ，ヨコナデによって引きづられた小礫が認められる．内面は，やや剥落が認められる．

62は，壷形土器の頚部突帯部片である．四条の三角突帯が巡らされている．他の資料と比較して比較的突帯の高さが低く，約1.5㎜しかない．内面には工具によるナデが認められる．

・脚台（第43図）

63から67は脚台である．

63は，いわゆる充実した脚台である．外面には縦位方向のナデが顕著に認められる．底部の外端は肥厚させて丸みを帯びている．外端はヨコナデが施され，上部には稜が認められる．底面はほぼ平坦な平底であり，丁寧にナデ整形されている．底部内面には，炭化物が付着している．入来Ⅱ式土器の範疇に含まれる甕形土器の脚台と考えられる．

64は，いわゆる充実した脚台である．外面は工具によるハケ目後のナデが認められる．底面の外端は，ナデが施され，底面にいくにつれすぼまる．底面はほぼ平坦な平底であり，工具によるナデが認められる．0.5～１㎝大の小礫が胎土中に顕著に認められる．

65は，脚台の破片である．外面は縦位のナデが顕著に認められる．底面は若干上げ底になっている．

66は，脚台の破片である．外面は縦位のナデが認められる．底面は残存部分が少ないため，平底か上げ底かは判別がつかない．

67は，脚台の破片である．底部の外端は肥厚させており，端部はヨコナデによってほぼ平坦に整えられている．底面は，平底である．

（ⅲ）軽石製加工品（第45～47図）

69から73までは軽石製加工品である．

69は，半円形を呈した軽石製加工品である．半分が欠損しているため本来は円形を呈していたものと考えられる．ａ面には，面取り加工・整形と思われる剥離痕が認められる．また，本来は中央部に穿孔してあったと思われる孔がａ面右側に認められる．ｄ面の観察によると，穿孔は長さ約４㎝，幅約1.2㎝でほぼ円形であったと考えられる．磨面として使われたような面は認められない．

70は，楕円形を呈した軽石製加工品である．ａ面とｂ面の中央部面は，側面と比較して滑らかで平坦である．特に，ｂ面中央部面は，やや円弧状に窪んでおり，ａ面より滑らかである．これらの面は磨面として利用されていたと考えられる．

71は，長楕円形を呈した軽石製加工品である．ａ面・ｂ面の下端部には剥離面が認められる．また，ａ面・ｂ面中央部には，窪みが認められる．これは，69と同様でａ面・ｂ面を貫通する穿孔を意図したものであると推測できる．よって，穿孔の途中段階のものと考えることもできよう．

72は，不整形を呈した軽石製加工品である．ｂ面には，多方向からの剥離痕が認められ，何らかの形状を意図した加工・整形が施されていたものと考えられる．目的とした用途についてしは不明である．

73は，楕円形を呈した軽石製加工品である．ａ面とｂ面は円弧状を呈した磨面と考えられる．両面とも平坦ではなく，ねじれた面を呈している．断面形態では，ほぼ楕円形を呈する．

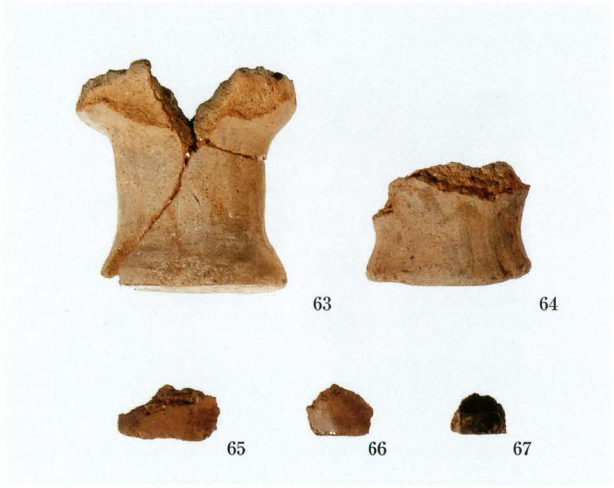
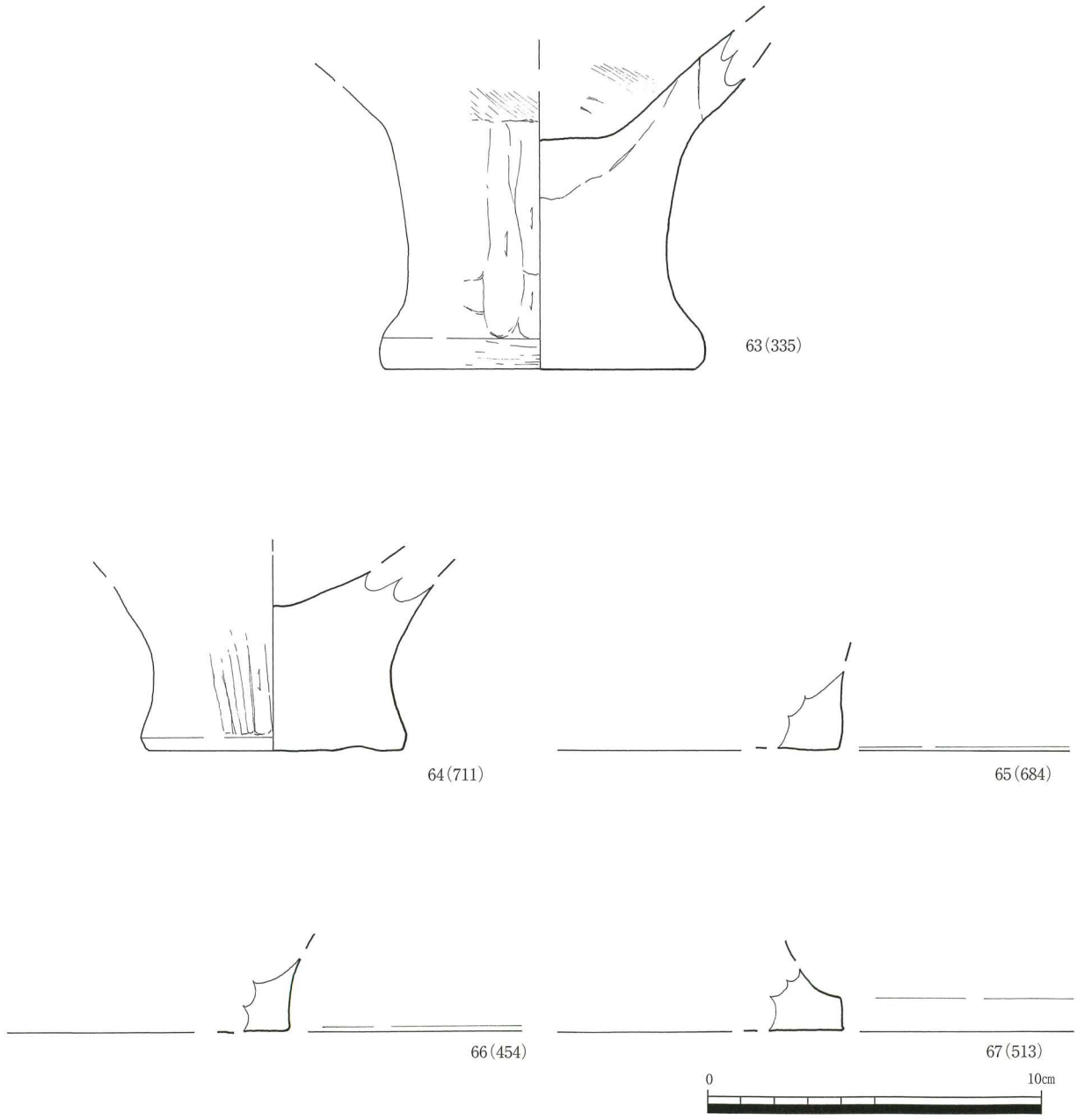


写真35　第３層下部出土遺物写真⑤(外面)

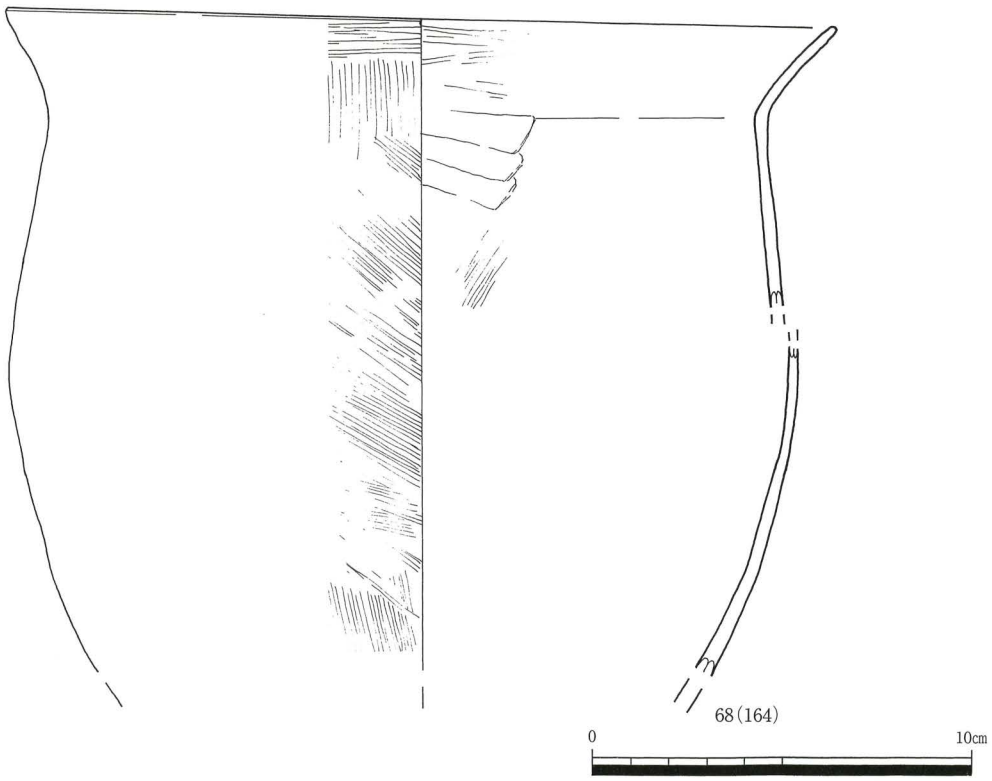
写真36　第３層下部出土遺物写真⑤(内面･断面)



第43図　第３層下部出土遺物実測図⑤(Ｓ＝1/2)

写真37　第３層下部出土遺物写真⑥(外面)

写真38　第３層下部出土遺物写真⑥(外面)



第44図　第３層下部出土遺物実測図⑥(Ｓ＝1/2)

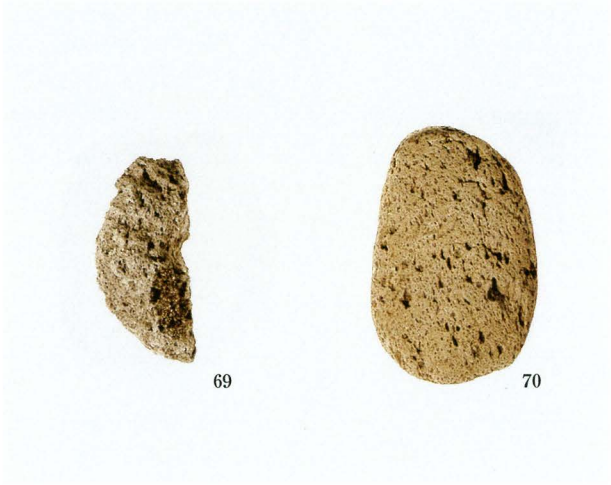
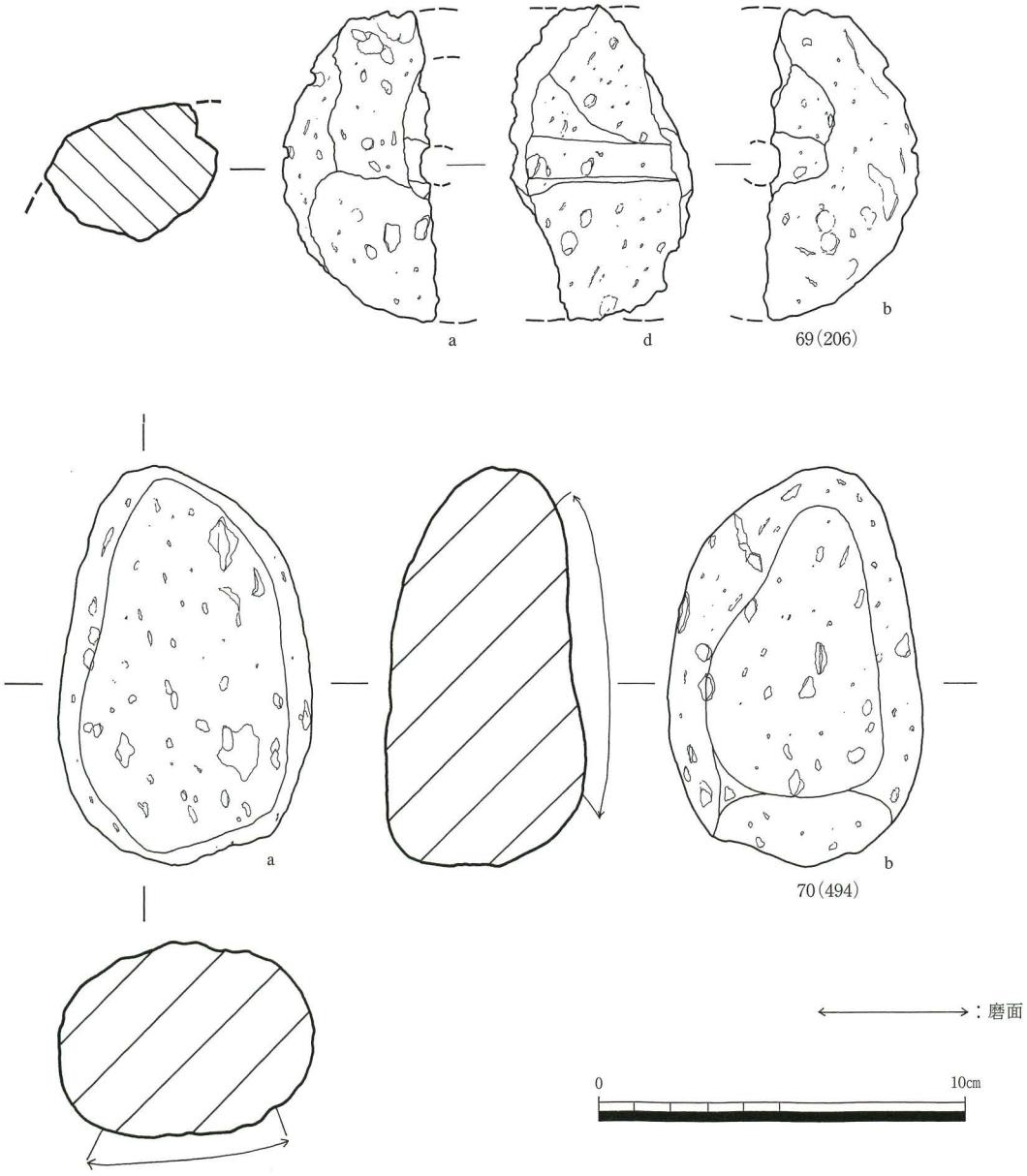


写真39　第３層下部出土遺物写真⑦(表面)

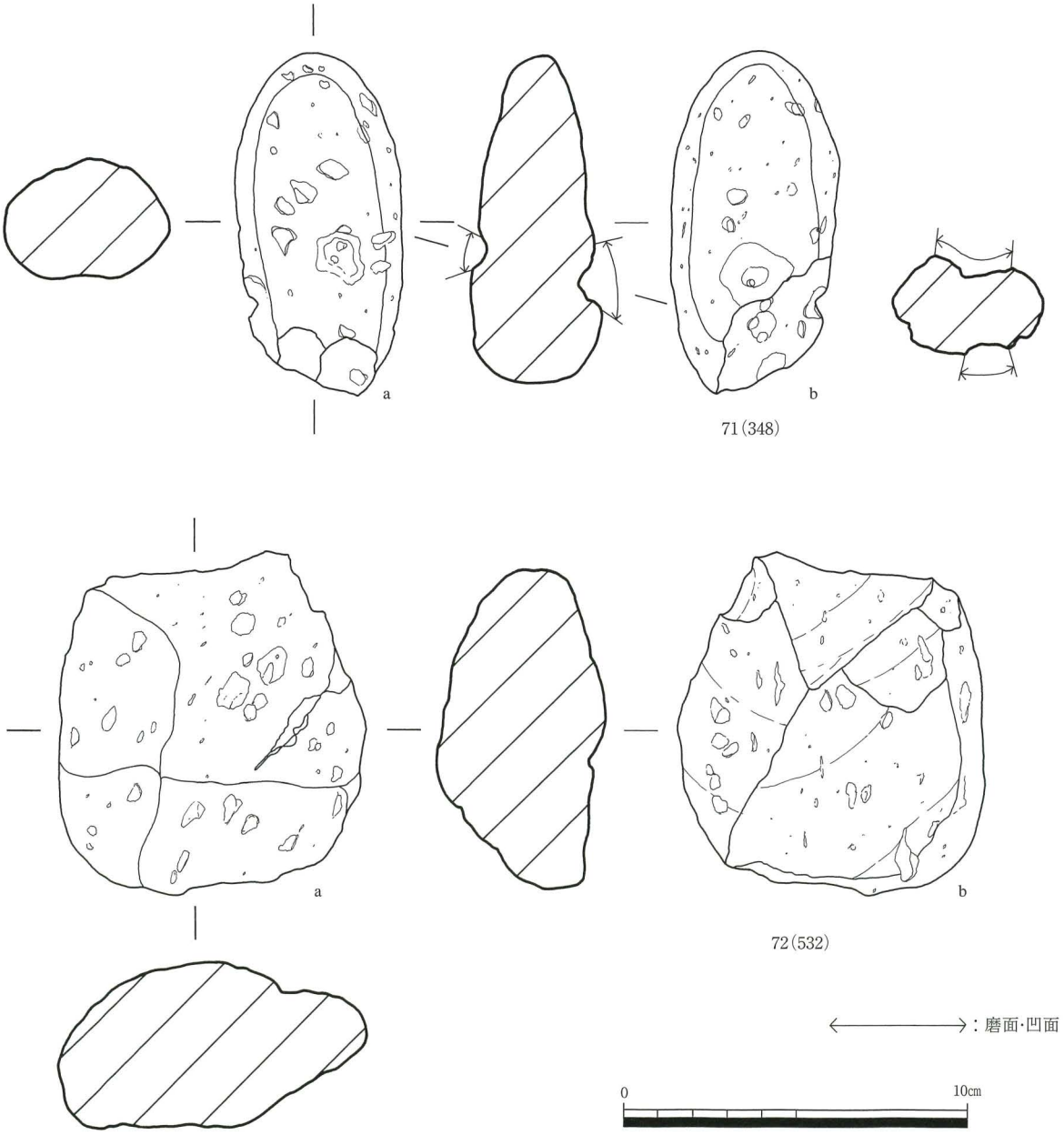
写真40　第３層下部出土遺物写真⑦(側面･裏面)



第45図　第３層下部出土遺物実測図⑦(Ｓ＝1/2)

写真41　第３層下部出土遺物写真⑧(表面)

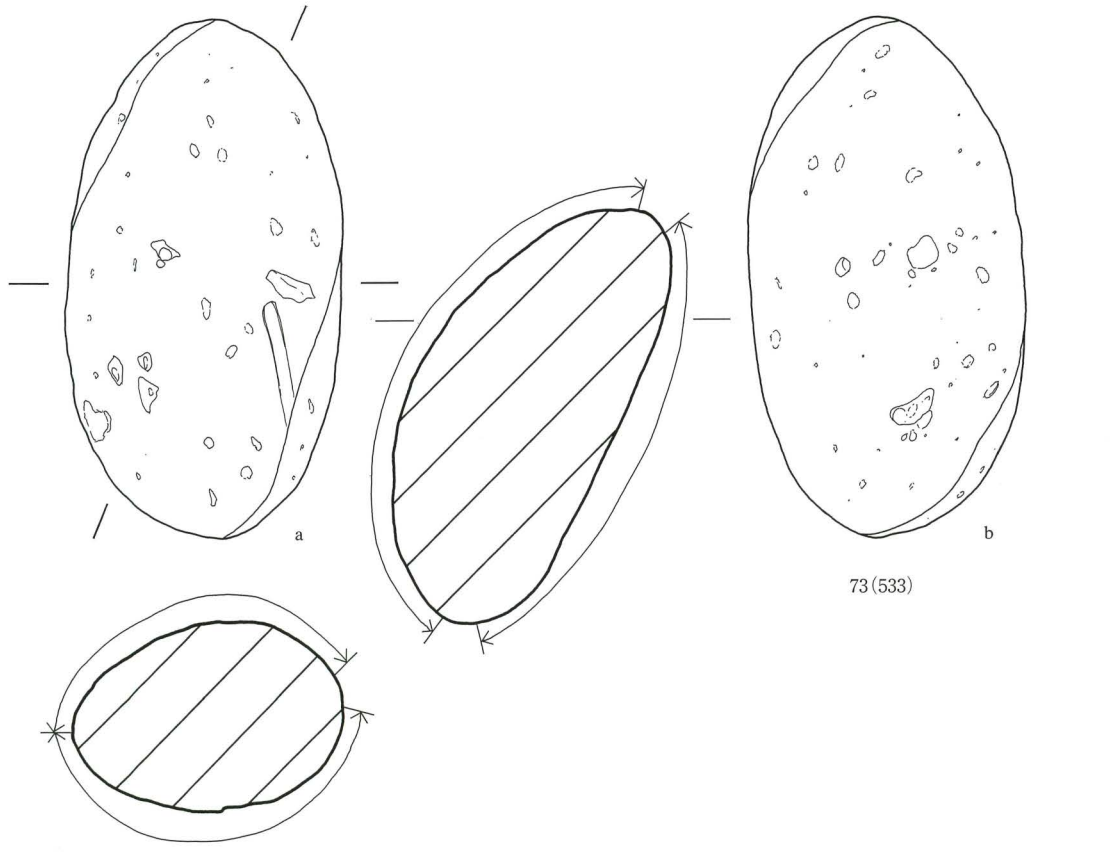
写真42　第３層下部出土遺物写真⑧(裏面)



第46図　第３層下部出土遺物実測図⑧(Ｓ＝1/2)

写真43　第３層下部出土遺物写真⑨(表面)

写真44　第３層下部出土遺物写真⑨(裏面)



第47図　第３層下部出土遺物実測図⑨(Ｓ＝1/2)

図番No.	取上げNo.	器種	残存法量(cm)	部位	色 外	色 内	色 肉	色 他	胎土粒	混和材	調 整	その他	出土層位	接 合
42	450	甕形土器 (入来Ⅱ式)	1/4残存 胴部推定復元22.4	口縁部	7.5YR4/1 10YR6/3	7.5YR4/2 2.5YR5/2	10YR4/1	口縁 10YR4/2	微砂粒を若干含む	ウ・白・セ長	内・ナデ　ユビオサエ 外・ヨコナデのちナデ　ヨコナデ 口縁・ヨコナデ	傾き疑問 焼成良好	3下	
43	371	甕形土器 (入来Ⅱ式)	破片	口縁部 突帯部	7.5YR4/2 5YR4/3	5YR5/4 7.5YR5/3	10YR5/3	口縁 5YR5/4	微砂粒を含む	セ・白	内・工具によるナデ　指圧 外・ナデ 突帯・ヨコナデ 口縁・ヨコナデ 口唇・沈線	傾き疑問 焼成良好	3下	650
44	452	甕形土器 (入来Ⅱ式)	破片	口縁部	5YR4/1 7.5YR4/1	5YR4/3 10YR5/3	5YR4/2 7.5YR4/2	口縁 5YR5/2 7.5YR4/2	微砂粒を含む	金・ウ・白	内・工具によるナデのちナデ 外・ヨコナデ　工具によるヨコナデ 突帯・ヨコナデ 口縁・ナデ 口唇・ヨコナデのち沈線	傾き疑問 焼成良好	3下	
45	534	甕形土器 (入来Ⅱ式)	破片	口縁部	N3/0 7.5YR4/2	7.5YR5/2	10YR5/3 2.5Y5/3	口縁 10YR5/3	微砂粒を含む	ウ・白・セ	内・ナデ　ユビオサエ 外・工具によるナデ　ナデ 突帯・ヨコナデ 口縁・ナデ 口唇・ヨコナデのちキザミ　沈線	傾き疑問 焼成良好	3下	
46	269	甕形土器 (入来Ⅱ式)	破片	口縁部	10YR5/2 N3/0	7.5YR4/1 10YR5/2	2.5YR4/1 10YR5/2	口縁 10YR5/2 7.5YR5/2	微砂粒を含む	セ	内・ヨコナデ 外・ナデのちミガキ 口縁・ヨコナデ 口唇・ヨコナデのちキザミ	傾き疑問 焼成良好 炭化物 付着	3下	351
47	320	甕形土器 (入来Ⅱ式)	破片	口唇部	5YR3/1 7.5YR5/3	7.5YR5/2	10YR5/2	10YR5/2		セ・ウ	内・ヨコナデのちナデ 外・ヨコナデ 口縁・ヨコナデ 口唇・ヨコナデのち沈線	傾き疑問 焼成良好	3下	
48	451	甕形土器 (山之口式)	破片	口縁部	5YR5/4 5YR3/2	2.5YR5/6	7.5YR5/4 10YR5/4	口縁 5YR5/4 7.5YR5/3	微砂粒を含む	金・白・ウ・ 軽・セ	内・ナデ 外・ヨコナデ 突帯・ヨコナデ 口縁・ヨコナデ 口唇・沈線	傾き疑問 焼成良好	3下	663
49	660	甕形土器 (入来Ⅱ式)	破片	胴部 突帯部	10YR5/2	2.5YR5/1 7.5YR4/1	2.5YR4/1 10YR4/2		微砂粒を含む	白・セ	内・ナデ 外・工具によるヨコナデ 突帯・ヨコナデ	傾き疑問 焼成良好 スス付着	3下	
50	599	甕形土器 (入来Ⅱ式)	破片	胴部 突帯部	2.5Y5/1 7.5YR4/1	10YR5/2	2.5Y4/1 10YR5/2			白・セ	内・ナデのちナデ 外・ヨコナデ 突帯・ヨコナデ	傾き疑問 焼成良好	3下	
51	667	甕形土器 (入来Ⅱ式)	破片	胴部 突帯部	7.5YR5/2	7.5YR5/3	7.5YR5/3			白・セ	内・工具によるナデ 外・ヨコナデ 突帯・ヨコナデのちキザミ	傾き疑問 焼成良好	3下	
52	763	甕形土器	破片	胴部 突帯部	7.5YR4/1	5YR5/3	10YR4/2			白・セ・長	内・ナデのちナデ 外・ヨコナデ 突帯・ヨコナデ	傾き疑問 焼成良好 スス付着	3下	
53	764	甕形土器	破片	胴部 突帯部	7.5YR4/1	7.5YR4/2	5YR4/2		微砂粒を含む	セ・ウ	内・ナデ 外・ヨコナデ 突帯・ヨコナデ	傾き疑問 焼成良好	3下	
54	411	壷形土器 (入来Ⅱ式) Ⅰの可能性あり	破片	口唇部	7.5YR4/2	7.5YR5/4	7.5YR5/3	口唇 5YR5/3	微砂粒を含む	セ・白	内・ヨコナデ 外・ヨコナデのちナデ 口唇・沈線	傾き疑問 焼成良好	3下	
55	367	壷形土器 (入来Ⅱ式) Ⅰの可能性あり	破片	口唇部	7.5YR5/3	10YR6/3	10YR5/4	口唇 7.5YR5/3		セ・長・ ウ・白・小レ	内・ヨコナデ 外・ヨコナデ 口縁・ヨコナデ 口唇・沈線	傾き疑問 焼成良好	3下	
56	642	壷形土器 (入来Ⅱ式) Ⅰの可能性あり	破片	口唇部	5YR5/4	10YR6/3 10YR5/2	10YR5/3 2.5YR4/2	口唇 7.5YR5/3		セ・長・ウ・ 白・黒曜石	内・ヨコナデ 外・ヨコナデ 口縁・ヨコナデ 口唇・沈線	傾き疑問 焼成良好	3下	

第11表　第３層下部出土遺物観察表①

図番No.	取上げNo.	器種	残存法量(cm)	部位	色外	色内	色肉	色他	胎土粒	混和材	調整	その他	出土層位	接合
57	704	壷形土器	破片	頸部 突帯部	7.5YR5/3 7.5YR4/1	7.5YR5/3	7.5YR5/3		微砂粒を含む	セ・ウ・長	内・工具によるナデ 外・工具によるナデ　工具によるヨコナデ　ハケ目 突帯・ナデ	傾き疑問 焼成良好	3下	
58	459	壷形土器	破片	頸部 突帯部	7.5YR5/3	7.5YR5/3	10YR5/2 2.5YR4/1			セ・ウ	内・工具によるナデのちナデ 外・ヨコナデ　ナデ 突帯・ヨコナデ	傾き疑問 焼成良好	3下	
59	480	壷形土器 (形式不明)	破片	頸部 突帯部	7.5YR5/2	10YR4/1 7.5YR4/2	10YR5/2 2.5YR4/2		微砂粒を含む	セ・ウ	内・ナデ 外・ヨコナデ 突帯・ヨコナデ	傾き疑問 焼成良好	3下	
60	658	壷形土器 (山之口式)	破片	頸部 突帯部	7.5YR4/2	10YR5/3	10YR5/3 7.5YR4/2 10YR5/2		微砂粒を含む	ウ・セ	内・工具によるナデのちナデ 外・ヨコナデ 突帯・ヨコナデ	傾き疑問 焼成良好	3下	
61	678	壷形土器 (山之口Ⅱ式)	破片	頸部 突帯部	7.5YR5/3 10YR6/3	10YR6/3	7.5YR5/4 10YR3/1		微砂粒を含む	ウ・セ ・小レ	内・ヨコナデのちナデ 外・ヨコナデのちナデ 突帯・ヨコナデ	傾き疑問 焼成良好 内面は 風化が 著しい	3下	
62	506	壷形土器 (山之口式)	破片	頸部 突帯部	2.5YR5/4	5YR5/4	5YR5/4		微砂粒を含む	白	内・工具によるヨコタテナデ 外・工具によるナデ 突帯・ヨコナデ　タテナデ	傾き疑問 焼成良好	3下	
63	335	甕形土器	破片 底部直径9.8	底部	7.5YR6/4 10YR6/3	10YR5/2 N3/0	5YR5/4 7.5YR4/1	底 7.5YR6/3	微砂粒を含む	小レ	内・工具によるナデのちナデ 外・工具によるタテ方向のナデ　工具によるナデ 底端・ヨコナデマメツ 底・ナデ	焼成良好 スス付着	3下	336
64	711	弥生土器	破片	底部	10YR5/2 7.5YR5/3	10YR5/2	5YR5/3 10YR5/2	底部 10YR5/2 2.5YR5/1	微砂粒を含む	セ・ウ ・小レ	内・ナデ 外・工具によるハケ目のちナデ　工具によるカキアゲ 底・ナデ 底端・ヨコナデ　マメツ	焼成良好	3下	
65	684	弥生土器	破片	底部	5YR5/4 10YR5/2	-	5YR5/3 7.5YR4/2	底部 5YR5/3	微砂粒を含む	セ・ウ	外・ヨコナデ 底・ナデ	焼成良好	3下	
66	454	弥生土器	破片	底部	5YR5/3	-	7.5YR4/1 10YR4/2 5YR4/2	底部 7.5YR5/2	微砂粒を含む	白・セ	外・ナデのちナデ 底・ナデ	焼成良好	3下	
67	513	弥生土器	破片	底部	10YR4/1	-	5YR4/2	10YR4/1	微砂粒を含む	白・セ	外・ナデ　ヨコナデ 底・ナデ 底端・ヨコナデ	焼成良好	3下	
68	164	甕形土器	4/5残存部なし 口径約22	口縁部 ～胴部	7.5YR6/4 10YR4/1	7.5YR5/3 10YR4/1	2.5YR5/2	口唇 5YR5/2 10YR6/3	微砂粒を含む	長・ウ	内・ヨコナデ　ナデのちナデ　ハケ目 外・ヨコナデ　ハケメ工具によるナデ	焼成良好	3 3下	167・172 176・177 180・190 195・519 520・798

第12表　第３層下部出土遺物観察表②

No.	取上げNo.	器種	石材	法量(cm)	重量(g)	打面形状	調整・加工	使用痕	層	備考
69	206	軽石製加工品	軽石	最大長：8.5 最大幅：4.3 最大厚：5.0	30		面取り 穿孔		3下	
70	494	軽石製加工品	軽石	最大長：11.0 最大幅：8.0 最大厚：5.3	145			磨面	3下	
71	348	軽石製加工品	軽石	最大長：10.0 最大幅：4.9 最大厚：3.9	52		穿孔		3下	
72	532	軽石製加工品	軽石	最大長：10.0 最大幅：9.0 最大厚：5.0	150		剥離		3下	
73	533	軽石製加工品	軽石	最大長：14.8 最大幅：7.4 最大厚：5.1	220			磨面	3下	

第13表　第３層下部出土遺物観察表③

⑤第４層出土遺物（第48～55図・別図３）

中尾迫遺跡の第４層から出土した遺物は，総点数で205点である．第４層出土遺物は，入来Ⅱ式土器を主体とし，僅かに高橋式土器が包含されている．このことから，第４層は，弥生時代前期末から中期前半の遺物包含層であると考えられる．第４層の出土遺物平面・垂直分布図は第48図・別図３のとおりである．この分布図は，第３層・第３層上部・第３層下部の遺物分布図と異なり，本来の遺物分布状況を示していると思われる．また，北区西北側は傾斜堆積範囲でもあり，垂直分布図からも看取できるように，第４層と同様な傾斜分布している．平面分布では，比較的まとまっている部分と散在している部分が認められる．

（ｉ）土器（第49～53図）

74から91までは甕形土器である．92から101までは壷形土器である．

・甕形土器（第49～51図）

74は，口縁部と肥厚部の形態等から，高橋式土器の甕形土器と考えられる．口縁部は肥厚し断面形態が三角形を呈している．口唇部端部は丸みを帯びている．口縁部上部は，ほぼ平坦でありナデが施されている．口縁部下位に，一条の三角突帯が巡らされている．内外面ともナデが顕著に認められる．また，補修孔が認められる．内面観察によると，補修孔の縁周には放射状に延びる短い削痕が認められ，工具を想定させる情報を持ち合わせているものと考えられる．

75から84までは，甕形土器の口縁部である．入来Ⅱ式土器の甕形土器と考えられる．

75は，甕形土器の口縁部片である．口唇部端部は丸みを帯びており，上部には細い沈線により稜が施されている．また，口唇端部には，工具によるキザミが施されている．いわゆるＴ字口縁に近い断面形態である．口縁部上部，内外面とも工具によるナデが顕著に認められる．

76は，甕形土器の口縁部片である．口唇部端部及び上部は丸みを帯びている．また，口唇端部には，工具によるキザミが施されている．内面の口縁部端部には，肥厚させる際の接合痕が認められる．

77は，甕形土器の口縁部片である．口唇部端部は丸みを帯びており，肥厚部分の断面形態は，三角形を呈している．また，口唇部直下には，口縁部を肥厚させる際の爪の圧痕が連続的に認められる．内面には，ユビオサエの痕跡が認められる．

78は，甕形土器の口縁部から胴部にかけての破片である．口唇部は丸みを帯びており，端部には一条の浅い沈線が施されている．胴部には，一条の三角突帯が巡らされている．突帯はやや下方へ垂れぎみである．内外面ともナデが認められる．

79は，甕形土器の口縁部片で，口唇部端部は丸みを帯びている．内面には，ユビオサエの痕跡がある．

80は，甕形土器の口縁部片である．口唇部端部は丸みを帯びており，断面形態は，75と同様の形態を呈している．内面には稜がみとめられる．

81は，甕形土器の口縁部片で，口唇部端部は丸みを帯びるが張り出しは短い．内外面ともナデがある．

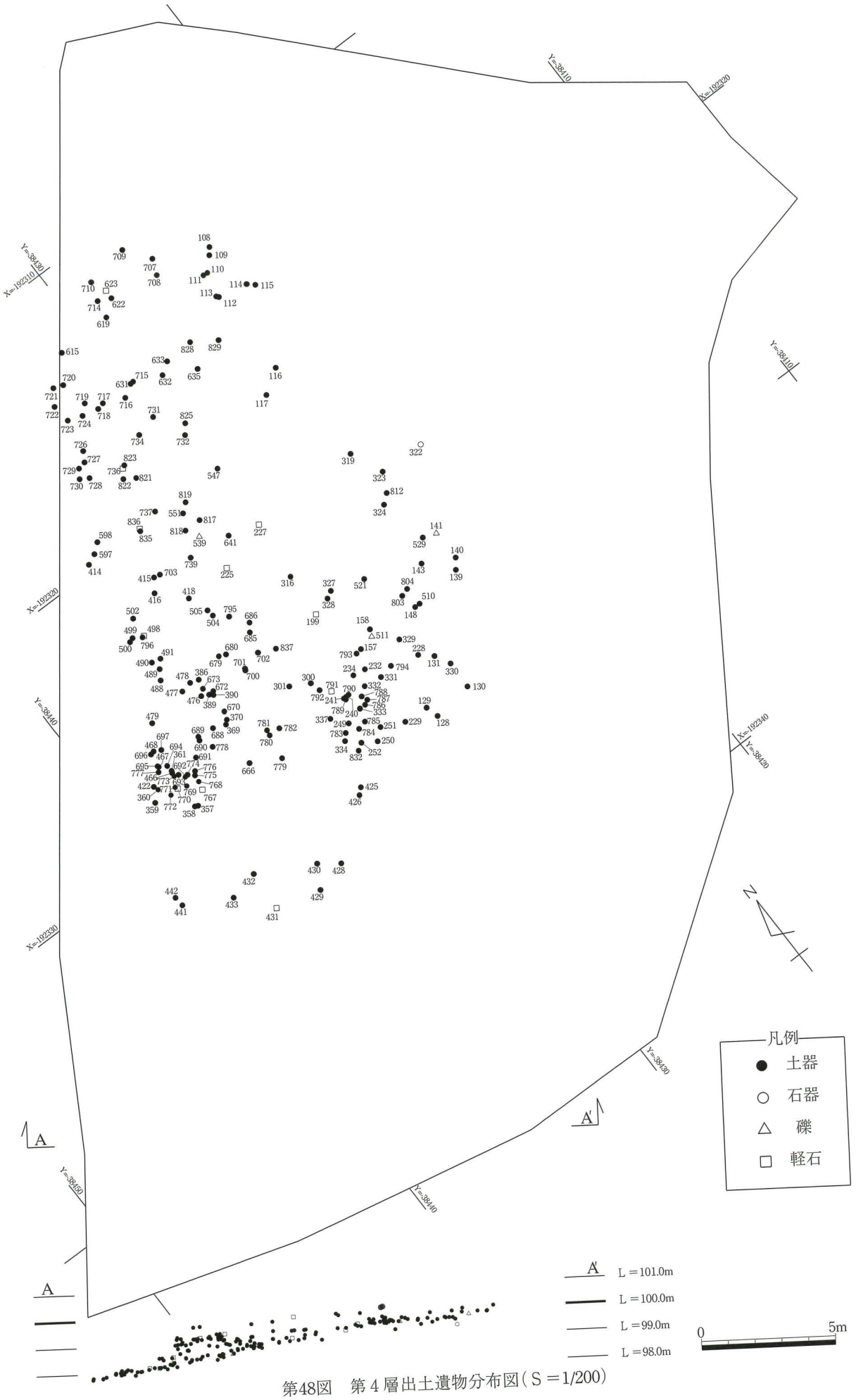
82は，甕形土器の口縁部の破片である．口縁部の上部はゆるやかに丸みを帯びている．口唇部端部には一条の沈線が施されている．口唇部の肥厚部の張り出しは長い．内外面ともナデが認められる．

83は，甕形土器の口縁部の破片である．口縁部の上部はゆるやかに丸みを帯びている．いわゆる，くの字状に屈曲する口縁である．口唇部端部には一条の浅い沈線が施されている．裏面の観察によると，土器本体と肥厚部分の口唇部の接合痕が顕著に認められる．

84は，甕形土器の口縁部の破片である．断面形態は，75・80と同様の形態を呈している．他の資料と比較して口縁部の肥厚部分が厚い．内外面ともナデが認められる．

85から88は，甕形土器の胴部突帯部片である（第51図）．

85は，甕形土器の胴部突帯部片である．一条の絡状突帯が巡らされている．突帯の直上には，絡状突帯を貼付させる際の爪の圧痕が認められる．内外面ともナデが認められる．



第48図　第４層出土遺物分布図（S＝1/200）

86は，甕形土器の胴部突帯部片である．三条の三角突帯が巡らされている．突帯は，ヨコナデによりシャープに整えられている．内外面ともナデが認められる．

87は，甕形土器の胴部突帯部片である．三条の三角突帯が巡らされている．突帯間にはヨコナデが認められると伴に，横位方向の工具痕も認められる．内外面ともナデが認められる．

88は，甕形土器の胴部突帯部片である．三条の三角突帯が巡らされている．突帯は，ヨコナデによりシャープに整えられている．内外面ともナデが認められる．86と同一個体と考えられる．

89は，胴部片である．外面には，黒色を呈した線状のものが認められる（図中網かけ）．末端は，末細り状となっている．外面には，縦位のハケ目が認められる．

90・91は脚台である（第51図）．

90は，脚台の破片である．外面は縦位のカキアゲ状のケズリが認められる．

91は，脚台の破片である．外面は縦位のカキアゲ状のケズリが認められ，底面は若干上げ底である．

・壷形土器（第52・53図）

92から93までは壷形土器の口縁部片で，94は，壷形土器の頚部片である．（第52図）口縁部や肥厚部の形態等から入来Ⅱ式土器に含まれると考えられる．

92は，壷形土器の口縁部片で，口唇部端部には一条の沈線が施されている．口縁部の肥厚部は下方へ延び，全体的に丸みを帯びている．口縁部上部には粘土紐を貼付している．内面には，一条の凸帯が巡らされている．

93は，壷形土器の口縁部片である．口唇部端部には，一条の沈線が施されている．口縁部の肥厚部は下方へ延び，全体的に丸みを帯びている．口縁部上部には，二本の粘土紐が貼付されている．内面部分は残存していない．内面以外の特徴は，92と同様である．

94は，壷形土器の頚部片である．外反しており，口縁部は欠損しており残存していない．内外面ともナデ後にミガキが施されている．

95から101は，壷形土器の頚部突帯部片である（第52・53図）．

95は，壷形土器の頚部突帯部片である．内反しており，外面には三条の三角突帯が巡らされている．突帯は，土器本体に粘土紐を貼付させた後に，ヨコナデによって整えられている．そのため，ヨコナデによってミミズバレ状を呈している部分もあれば，シャープな断面三角を呈している部分が認められる．突帯の上位には，工具による斜位方向の痕跡がみとめられる．

96は，壷形土器の頚部突帯部片で，三条の三角突帯が巡らされている．胎土に金ウンモが認められる．

97は，壷形土器の頚部突帯部片で，四条の三角突帯が巡らされている．内外面ともナデが認められる．

98は，壷形土器の頚部突帯部片で，三条の三角突帯が巡らされている．胎土に金ウンモが認められる．

99は，壷形土器の頚部突帯部片で，二条の三角突帯が巡らされている．胎土に黒曜岩が認められる．

100は，壷形土器の頚部突帯部片で，二条の三角突帯が巡らされている．ヨコナデが認められる．

101は，壷形土器の頚部突帯部片で，一条の三角突帯が巡らされ，その下位には工具痕が認められる．

（ii）軽石製加工品（第54図）

102は，断面が楕円形を呈する軽石製加工品である．a面に磨面が認められる．

103は，102と同様な形態を呈しており，a面に磨面が認められる．

103は，第3層下部出土の69（第45図）と同様なものである．欠損しているものの，本来は円形を呈し，中央部にa面・b面を貫通する穿孔が施されている．a面右側面は平坦な磨面である．

（iii）石器（第55図）

105は，中尾迫遺跡出土中で，最も大きな石器である．a面全体には磨面が認められ，特に中央部には敲

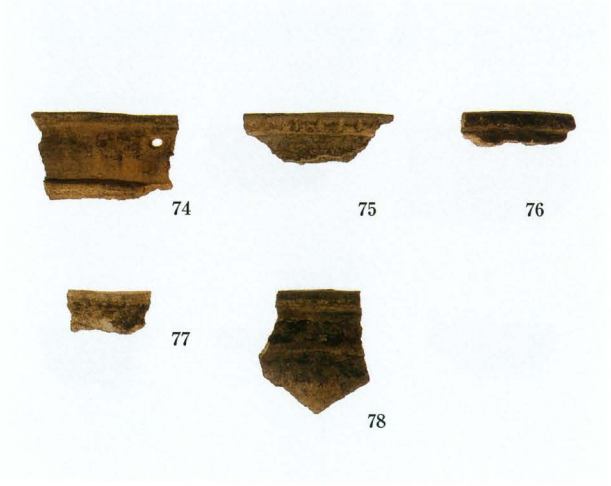
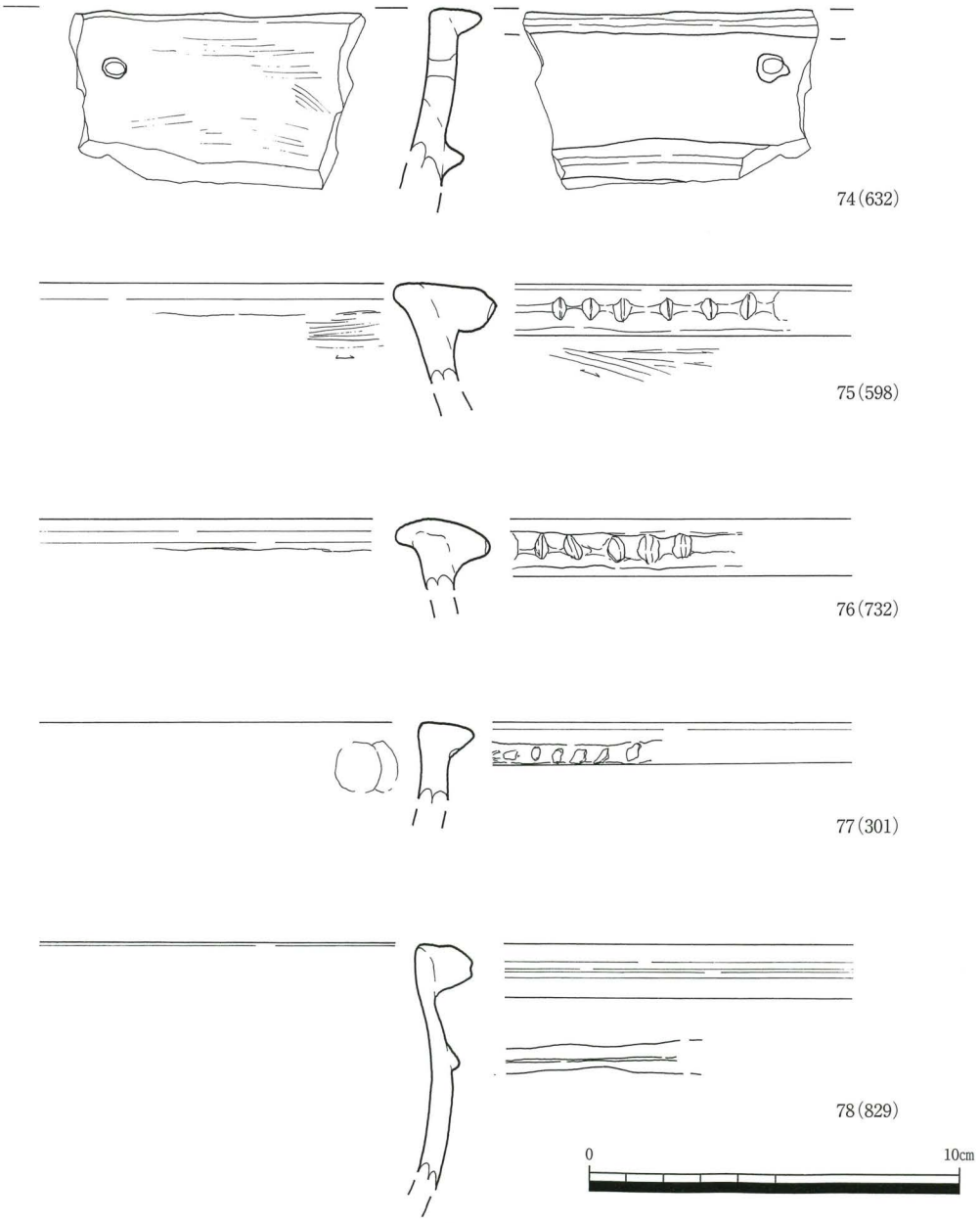


写真45　第４層出土遺物写真①(外面)

写真46　第４層出土遺物写真①(内面)



第49図　第４層出土遺物実測図①(Ｓ＝1/2)

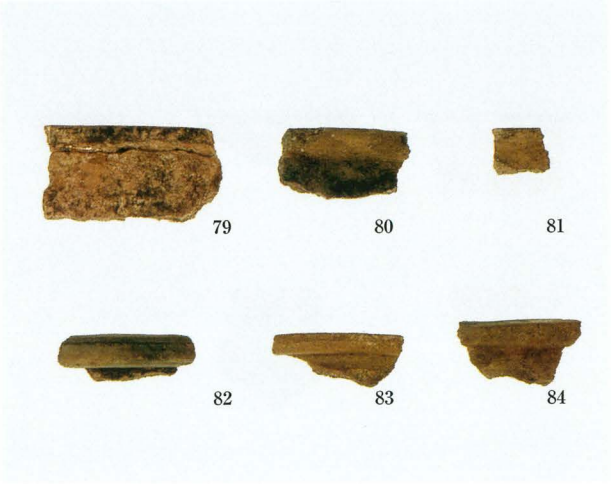
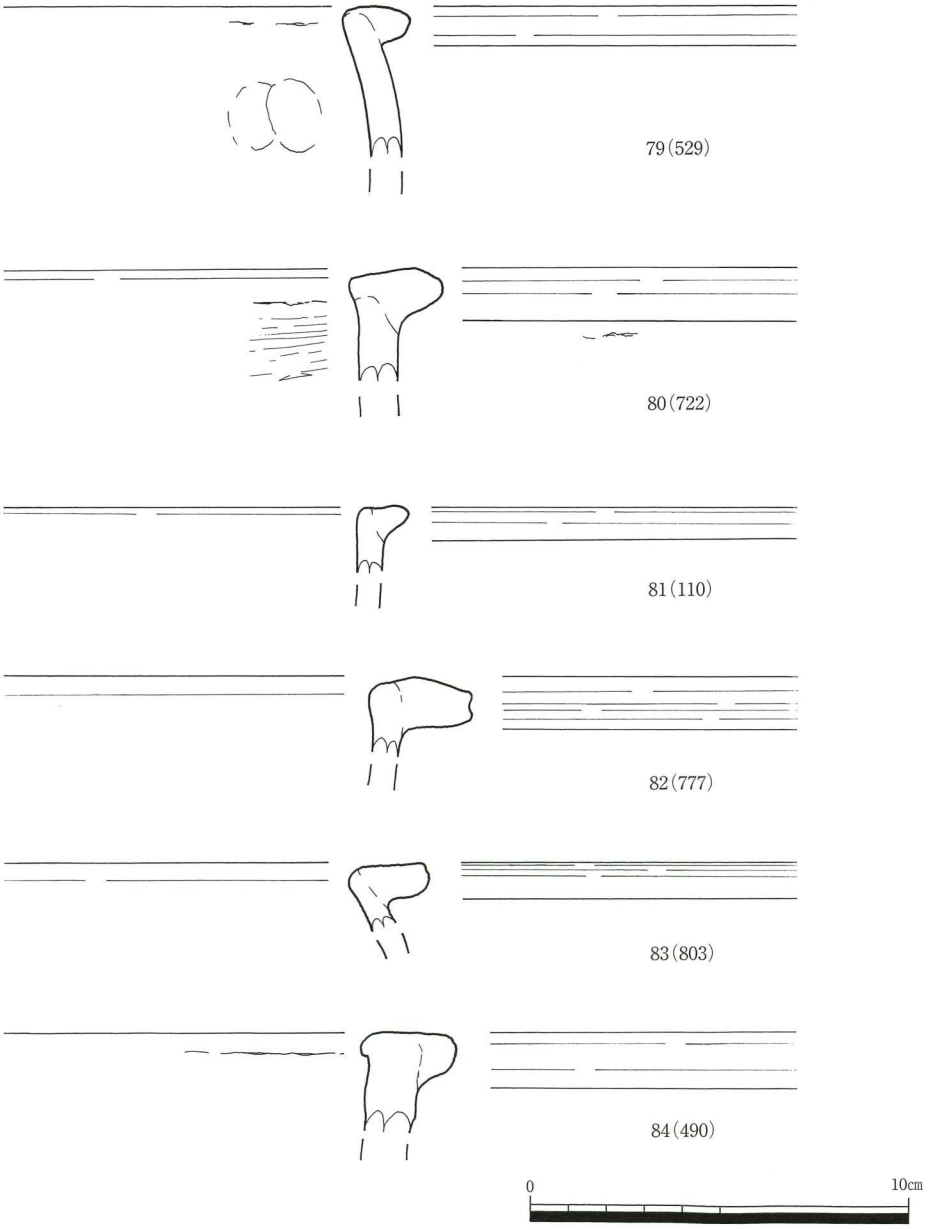


写真47　第４層出土遺物写真②(外面)

写真48　第４層出土遺物写真②(内面)



第50図　第４層出土遺物実測図②(Ｓ＝1/2)

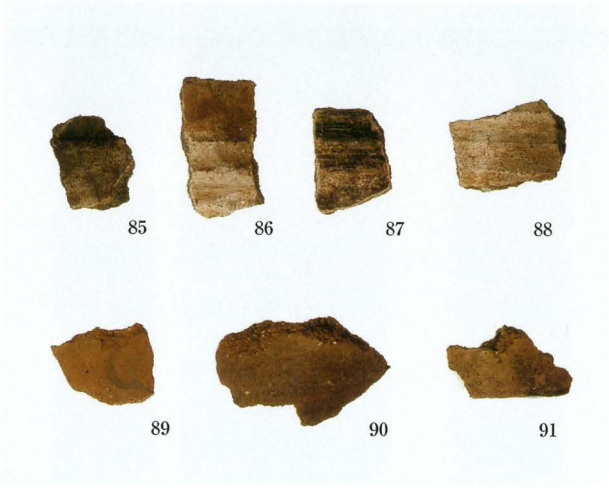
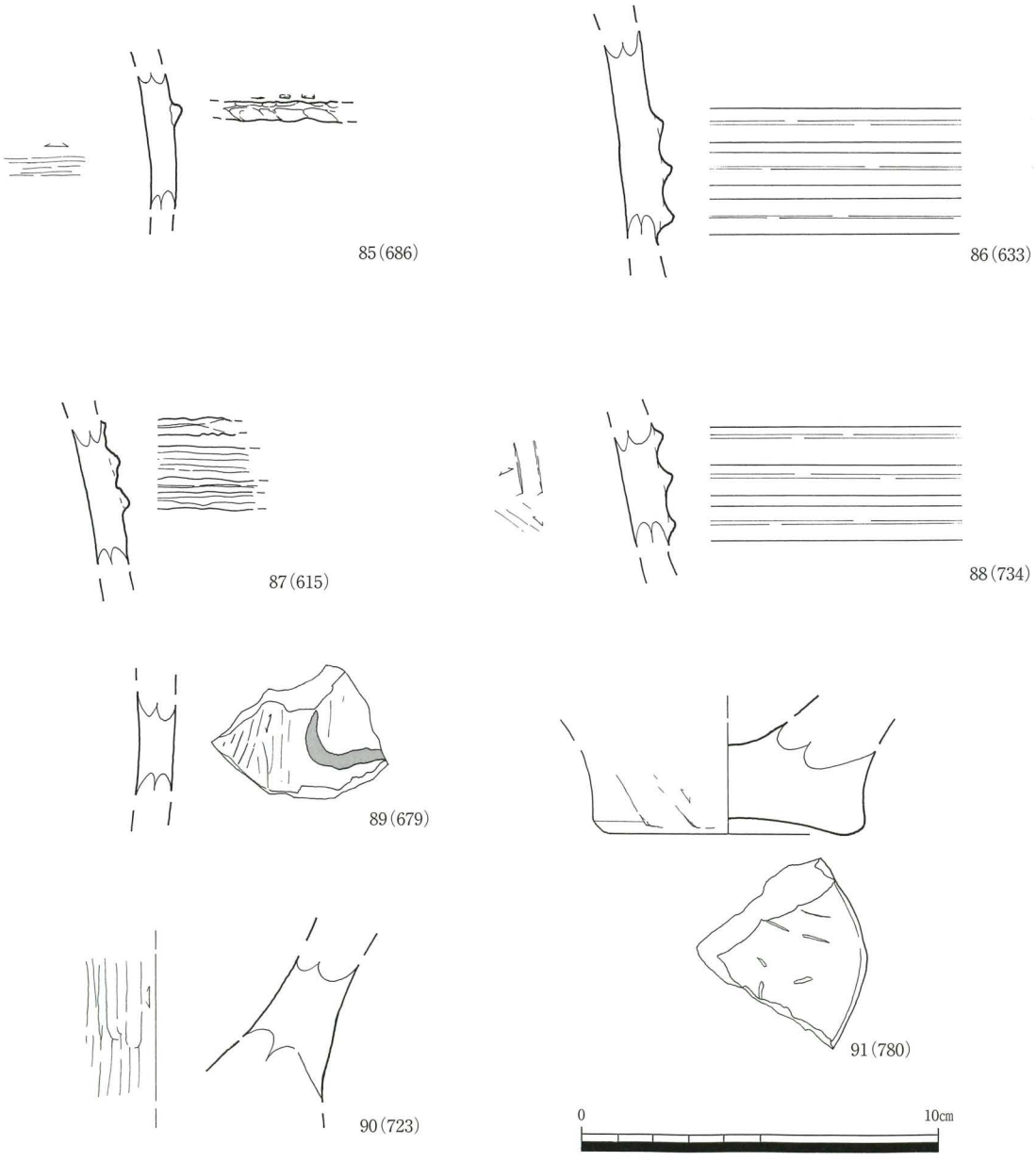


写真49　第４層出土遺物写真③(外面)

写真50　第４層出土遺物写真③(内面･底面)



第51図　第４層出土遺物実測図③(Ｓ＝1/2)

打痕が認められる．側面は，粗い剥離痕が認められることから，この形状に整形されているものと考えられる．

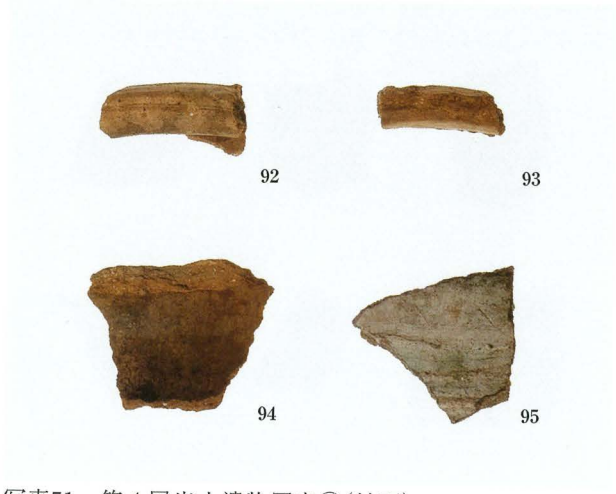
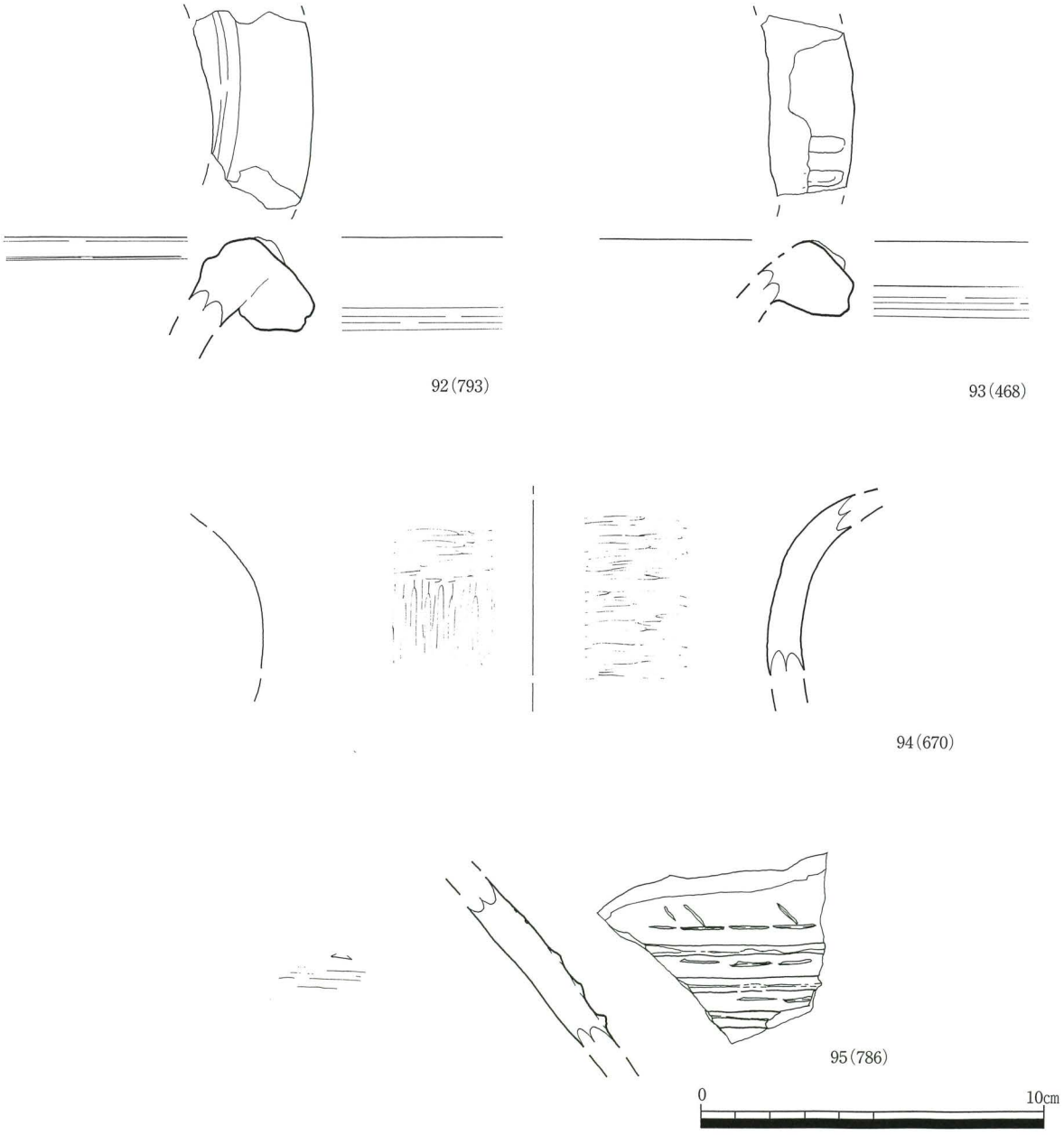


写真51　第４層出土遺物写真④(外面)

写真52　第４層出土遺物写真④(内面)



第52図　第４層出土遺物実測図④(Ｓ＝1/2)

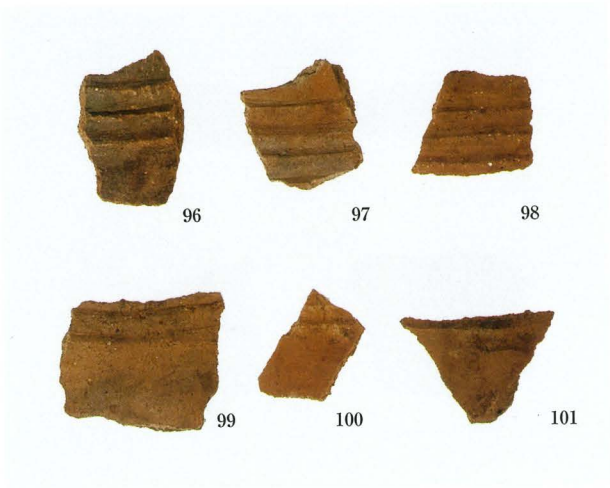
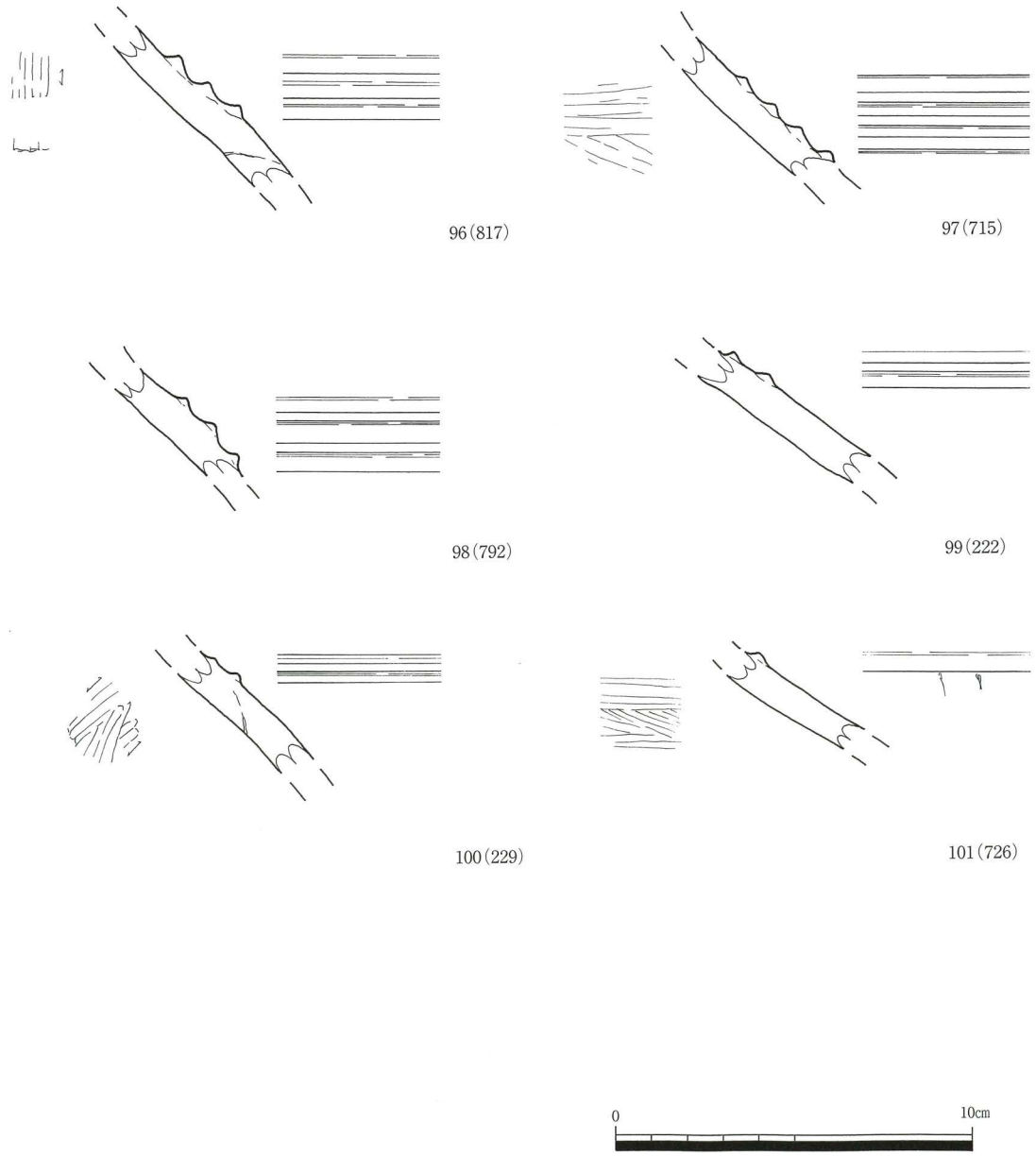


写真53　第４層出土遺物写真⑤(外面)

写真54　第４層出土遺物写真⑤(内面)



第53図　第４層出土遺物実測図⑤(Ｓ＝1/2)

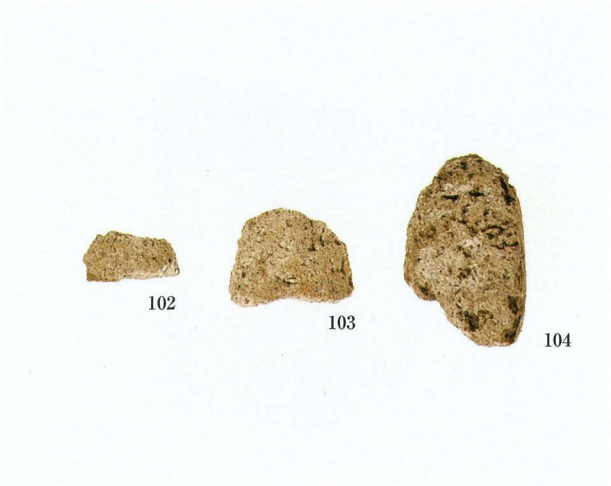
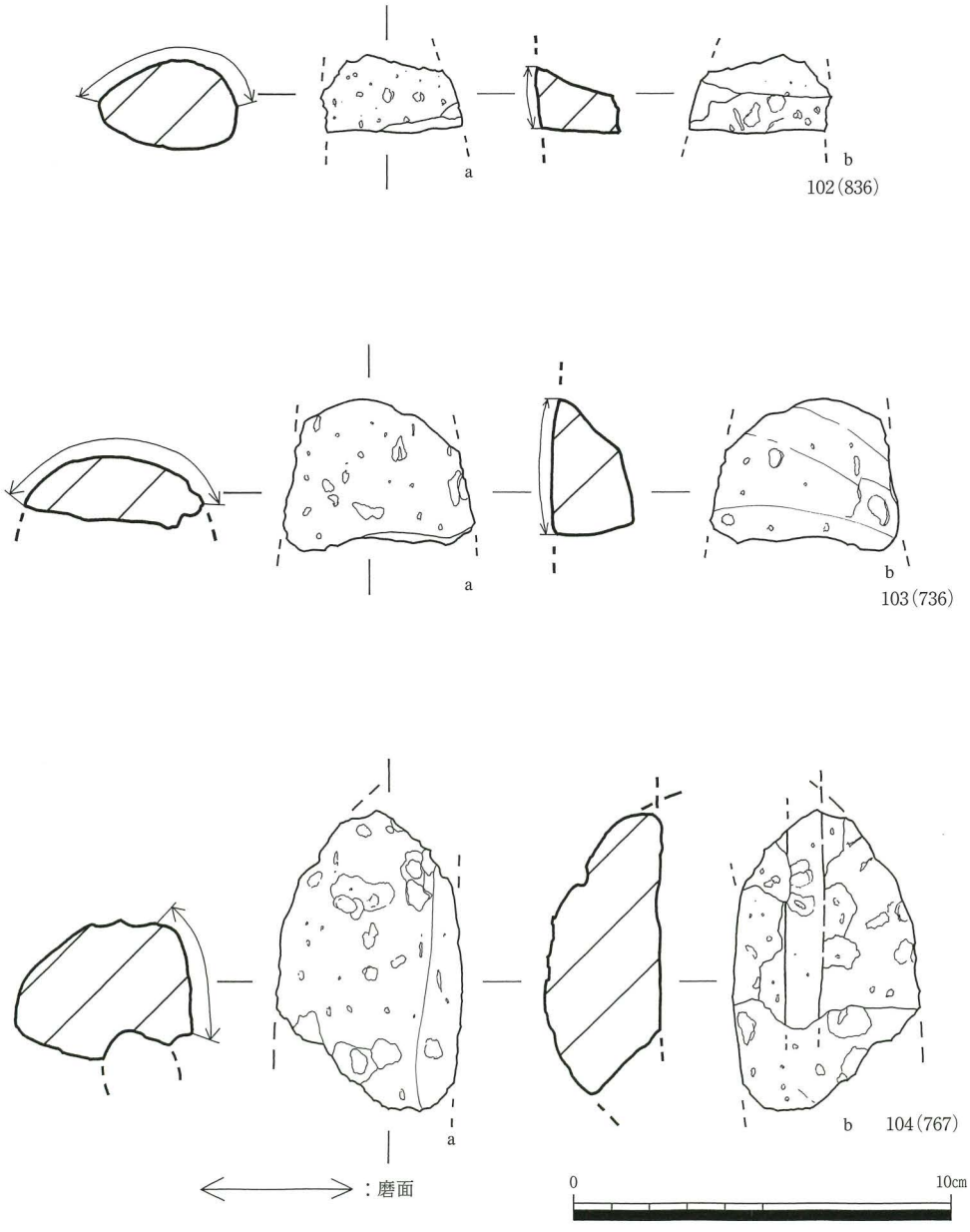


写真55　第４層出土遺物写真⑥(表面)

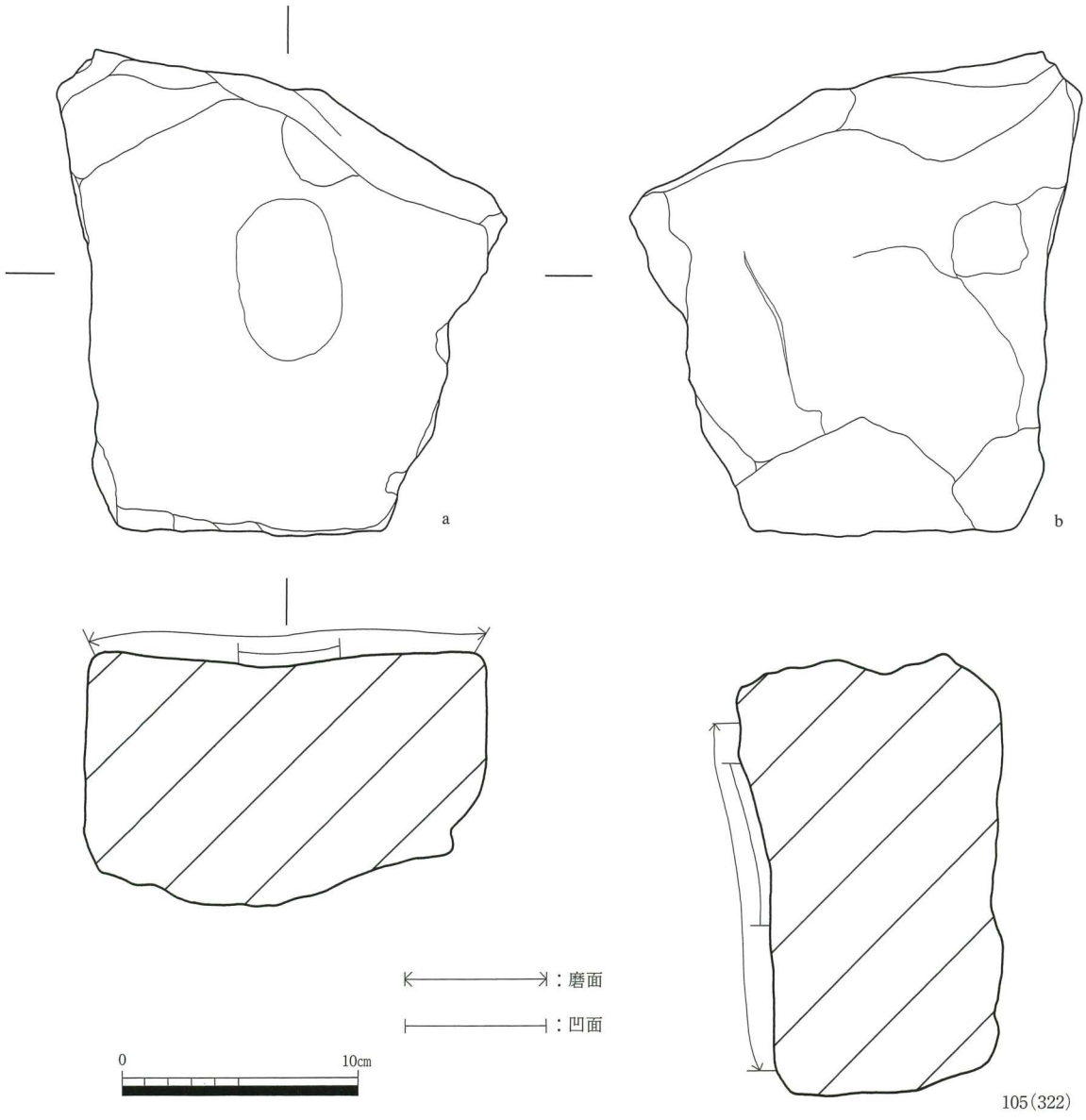
写真56　第４層出土遺物写真⑥(裏面)



第54図　第４層出土遺物実測図⑥(Ｓ＝1/2)

写真57　第４層出土遺物写真⑦(表面)

写真58　第４層出土遺物写真⑦(裏面)



第55図　第４層出土遺物実測図⑦(Ｓ＝1/3)

図番No.	取上げNo.	器種	残存法量(cm)	部位	色 外	色 内	色 肉	色 他	胎土粒	混和材	調 整	その他	出土層位	接 合
74	632	甕形土器 (高橋式)	破片	口縁部	2.5YR5/2 5YR5/2	7.5YR6/3	5YR5/3	口縁 7.5YR5/3	微砂粒を含む	ウ・白	内・工具によるナデのちナデ 外・工具によるナデのちナデ 突帯・ヨコナデ 口縁・ナデ 口唇・ナデ	傾き疑問 焼成良好	4	
75	598	甕形土器 (入来Ⅱ式)	破片	口唇部	10YR4/1 7.5YR4/2	10YR4/1	2.5YR4/1 7.5YR4/2	口縁 10YR4/1	微砂粒を含む	白	内・工具によるナデ 外・工具によるナデ　ナデ 口縁・工具によるナデ 口唇・ヨコナデのち工具によるキザミ	傾き疑問 焼成良好	4	
76	732	甕形土器 (入来Ⅱ式)	破片	口唇部	5YR4/1 7.5YR4/2	5YR4/3	7.5YR5/3 10YR5/2	口縁 5YR5/3 7.5YR4/1		セ・白・ウ	内・ナデ 外・工具によるナデ 口縁・ナデ 口唇・ヨコナデのちキザミ	傾き疑問 焼成良好	4	
77	301	甕形土器 (入来Ⅱ式)	破片	口唇部	7.5YR4/1 7.5YR6/3	7.5YR6/4	7.5YR6/4 10YR5/2	口縁 7.5YR6/4		セ・ウ・長	内・指圧痕　ナデ 外・工具によるナデ　キザミ 口縁・ナデ 口唇・ヨコナデのちキザミ	傾き疑問 焼成良好	4	
78	829	甕形土器 (入来Ⅱ式)	破片	口唇部	7.5YR5/2 10YR4/1	10YR5/3 10R4/1	10YR5/2 2.5Y4/1	口縁 2.5YR4/1 10YR5/2	微砂粒を含む		内・工具によるナデ　ナデ 外・工具によるナデのちナデ　工具によるナデ　ナデ 突帯・ヨコナデ 口縁・ナデ 口唇・　沈線	傾き疑問 焼成良好	4	
79	529	甕形土器 (入来Ⅱ式)	破片	口唇部	5YR6/4 7.5YR4/1	7.5YR6/4	10YR5/3	口縁 7.5YR6/3	微砂粒を含む	セ・ウ	内・指圧のちナデ 外・ナデ 口縁・ナデ 口唇・ナデ	傾き疑問 焼成良好	4	
80	722	甕形土器 (入来Ⅱ式)	破片	口唇部	7.5YR4/2 10YR4/1	7.5YR4/1 10YR5/2	7.5YR4/2 2.5Y4/1 10YR5/2	口縁 7.5YR5/3 7.5YR4/1	微砂粒を含む	セ・白	内・工具によるナデ 外・工具によるナデ 口縁・ナデ 口唇・工具によるナデ	傾き疑問 焼成良好	4	
81	110	甕形土器	破片	口唇部	5YR5/3	5YR6/4	10YR5/3	口縁 7.5YR6/3	微砂粒を含む	セ・ウ	内・工具によるナデのちナデ 外・工具によるナデ 口縁・ナデ 口唇・ナデ	傾き疑問 焼成良好	4	
82	777	甕形土器 (入来Ⅱ式)	破片	口唇部	7.5YR4/1 7.5YR5/2	5YR5/2	7.5YR4/1	口縁 7.5YR5/2 5YR5/2		セ・ウ・長	内・工具によるナデ 外・ヨコナデ 口縁・ナデ 口唇・沈線	傾き疑問 焼成良好 スス付着	4	
83	803	甕形土器 (入来Ⅱ式)	破片	口唇部	7.5YR4/3	7.5YR5/3	7.5YR5/3	口縁 7.5YR5/3	微砂粒を含む	セ・白・ウ	内・工具によるナデのちナデ 外・工具によるナデのちナデ　ナデ 口縁・工具によるナデ 口唇・凹帯	傾き疑問 焼成良好	4	
84	490	甕形土器 (入来Ⅱ式)	破片	口唇部	5YR4/2 10YR4/2	10YR4/1	10YR5/2 5YR4/2	口縁 7.5YR5/3 10YR4/1	微砂粒を含む	セ	内・工具によるナデ　ナデ 外・工具によるケズリ　ナデ 口縁・ナデのちナデ 口唇・ナデ	傾き疑問 焼成良好	4	
85	686	甕形土器 (入来Ⅱ式)	破片	胴部 突帯部	5YR5/1 10YR4/1	7.5YR6/2	10YR4/1 7.5YR6/2		微砂粒を含む	セ・白・ウ	内・工具によるナデのちナデ 外・工具によるナデのちナデ　工具によるナデ 突帯・絡状	傾き疑問 焼成やや良好 外面突帯上部に爪圧痕	4	
86	633	甕形土器	破片	胴部 突帯部	7.5YR5/2	7.5YR6/3	7.5YR4/1 7.5YR6/3		微砂粒を含む	白・ウ	内・工具によるナデのちナデ 外・工具によるナデのちナデ 突帯・ナデ	傾き疑問 焼成良好	4	
87	615	甕形土器	破片	胴部 突帯部	7.5YR5/2 10YR4/1	7.5YR5/3	2.5Y4/1		微砂粒を含む	セ・ウ	内・工具によるナデのちナデ 外・工具によるナデ 突・ヨコナデ	傾き疑問 焼成良好	4	
88	734	甕形土器	破片	胴部 突帯部	7.5YR6/3 5YR5/2	7.5YR5/3	2.5Y4/1 7.5YR5/3		微砂粒を含む	ウ・白	内・工具によるナデ 外・ナデ 突帯・ナデ	傾き疑問 焼成良好	4	
89	679	甕形土器	破片	胴部	7.5YR5/3 5YR5/4	10YR5/3 7.5YR5/2	5YR5/4 10YR5/3		微砂粒を含む	セ・ウ	内・ナデ 外・工具によるナデ　ハケ目	傾き疑問 焼成良好	4	
90	723	甕形土器	破片 直径9.4	底部	7.5YR4/2	7.5YR4/2	5YR4/2 7.5YR4/2		微砂粒を含む	セ	内・工具によるナデのちナデ 外・工具によるケズリ	傾き疑問 焼成良好	4	
91	780	甕形土器	破片	底部	7.5YR5/3 5YR4/2	10YR5/3	10YR5/2 5YR4/3	底部 7.5YR5/2	微砂粒を含む	ウ・長	内・ナデ 外・工具によるケズリのちナデ 底・ナデ	傾き疑問 焼成良好	4	
92	793	壷形土器 (入来Ⅱ式)	破片	口唇部	7.5YR5/3 7.5YR4/2	7.5YR5/3	2.5Y4/2 7.5YR5/3	口縁 7.5YR5/3		セ・白・長	内・ナデ 外・工具によるナデ　ナデ 口縁・工具によるナデのち凹 口唇・沈線	傾き疑問 焼成良好	4	

第14表　第４層出土遺物観察表①

図番No.	取上げNo.	器種	残存法量(cm)	部位	色 外	色 内	色 肉	色 他	胎土粒	混和材	調 整	その他	出土層位	接 合
93	468	壷形土器 (入来Ⅱ式)	破片	口唇部	5YR5/3	-	10YR5/2 7.5YR4/1 7.5YR5/2	口縁 5YR5/2		セ・白・ 黒曜石	内・ハソン 外・工具によるナデのちナデ　ユビナデ 口縁・工具によるナデ凸の粘土ひも? 口唇・凹帯	傾き疑問 焼成良好	4	
94	670	壷形土器 (入来Ⅰ式の可能性あり)	破片 頚部直径約16.4	頚部	7.5YR4/1 5YR4/1	10YR4/1 5YR4/2	5YR4/2 10R4/2		微砂粒を含む	セ・白	内・ヨコナデのちミガキ 外・ヨコナデのちミガキ　ナデのちミガキ	傾き疑問 焼成良好	4	
95	786	壷形土器 (入来Ⅱ式)	破片	頚部 突帯部	10YR4/2	2.5Y5/1 10YR5/1	2.5Y4/2 10YR5/2		微砂粒を含む	白・ウ	内・工具によるナデのちナデ 外・工具によるナデ　ヘラによるキザミ 突帯・ヨコナデ	傾き疑問 焼成良好	4	
96	817	壷形土器	破片	頚部 突帯部	5YR4/2	7.5YR5/3	10YR5/4 5Y4/4		微砂粒を含む	金・白・ウ	内・工具によるナデのちナデ 外・工具によるナデのちナデ 突帯・ナデ	傾き疑問 焼成良好	4	
97	715	壷形土器	破片	頚部 突帯部	5YR5/4 7.5YR5/2	5YR5/4	10YR5/3 10YR4/2		微砂粒を含む	白・ウ	内・工具によるナデのちナデ 外・工具によるナデ 突帯・ヨコナデ	傾き疑問 焼成良好	4	
98	792	壷形土器	破片	頚部 突帯部	5YR4/3	5YR5/4	7.5YR5/3		微砂粒を含む	金・白・ウ	内・工具によるナデのちナデ 外・ナデ 突帯・ヨコナデ	傾き疑問 焼成良好	4	
99	222	壷形土器	破片	頚部 突帯部	7.5YR5/3 10YR5/2	5YR5/4	10YR5/2 7.5YR5/3		微砂粒を含む	セ・ウ・黒曜	内・ナデ 外・工具によるナデ　工具によるナデのちナデ 突帯・ヨコナデ	傾き疑問 焼成良好	4	
100	229	壷形土器	破片	頚部 突帯部	5YR5/4 7.5YR5/4	5YR5/4	7.5YR5/3		微砂粒を含む	セ	内・工具によるナデ 外・丹塗り　工具によるナデのちナデ 突帯・ヨコナデ	傾き疑問 焼成良好	4	
101	726	壷形土器	破片	頚部 突帯部	5YR5/3	5YR5/4	2.5Y4/1 10YR5/3		微砂粒を含む	ウ	内・工具によるナデ 外・工具によるナデ 突帯・ヨコナデ	傾き疑問 焼成良好	4	

第15表　第４層出土遺物観察表②

No.	取上げNo.	器種	石材	法量(cm)	重量(g)	打面形状	調整・加工	使用痕	層	備考
102	836	軽石製加工品	軽石	最大長：2.1 最大幅：3.8 最大厚：2.3	23.6			磨面	4	
103	736	軽石製加工品	軽石	最大長：4.1 最大幅：5.0 最大厚：2.2	12			磨面	4	
104	767	軽石製加工品	軽石	最大長：7.9 最大幅：5.0 最大厚：3.8	45		穿孔	磨面	4	
105	322	安山岩	台石	最大長：20.8 最大幅：19.2 最大厚：11.4	4700			磨面　凹面	4	

第16表　第４層出土遺物観察表③

⑥表採・一般遺物（第56図）

中尾迫遺跡からは，約300点余りの表採遺物と各層からの一般遺物がある．

（ｉ）土器（第56図）

・脚台（第56図）

106は，いわゆる充実した脚台である．全体的な形態は，第３層下部出土の63（336）（第43図）の脚台と類似している．若干，106が細身である．外面は，カキアゲ状のヘラケズリをした後にナデが施されている．脚台の外端は，ヨコナデにより整形され，底面にいくに従い狭まる．底面は若干，上げ底である．内面底部は，ナデが施されている．北区調査区の北側隣接地にある畑地からの表採品である．

（ii）軽石製加工品（第56図）

107は，不整形を呈する軽石製加工品である．ａ面右側面とｂ面下端部は，他の面と比較して滑らかであることから，磨面として利用されたものと考えられる．周辺には，剥離痕などの加工・整形は認められない．107は，第3層からの一般遺物である．

図番No.	取上げNo.	器種	残存法量(cm)	部位	色 外	色 内	色 肉	色 他	胎土粒	混和材	調 整	その他	出土層位	接 合
106	表採	弥生土器	破片1／1残存 直径7.5	底部	7.5YR5/3	7.5YR5/2	7.5YR5/2	底部 7.5YR5/3		長	内・ナデ 外・工具によるカキアゲのちナデ 工具によるナデのちナデ 底・工具によるナデのちナデ 底端・ヨコナデ	焼成良好		

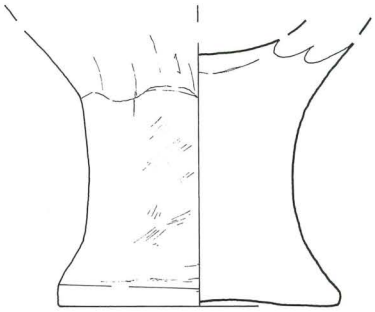
第17表　表採遺物観察表

No.	取上げNo.	器種	石材	法量(cm)	重量(g)	打面形状	調整・加工	使用痕	層	備考
107	一般	軽石製加工品	軽石	最大長：9.4 最大幅：7.2 最大厚：5.3	60		磨面			

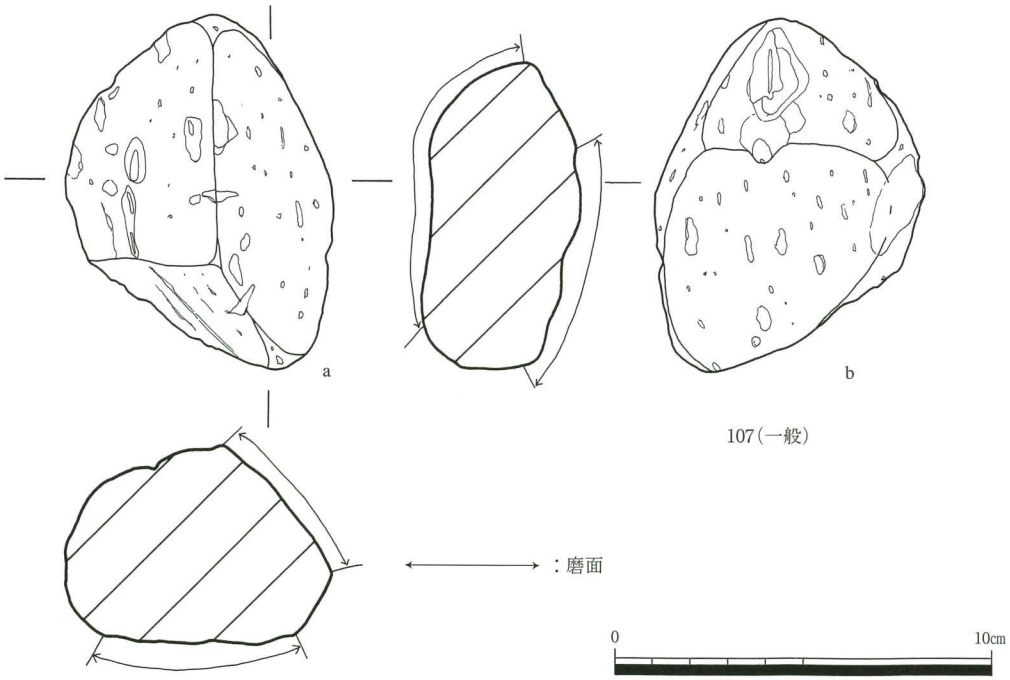
第18表　一般遺物観察表

写真59　表採・一般遺物写真(外面・表面)

写真60　表採・一般遺物写真(内面・裏面)



106(表採)



107(一般)

第56図　表採・一般遺物実測図(S＝1/2)

取上番号	層位	掲載番号	種別	器種名	材質	帯磁率(×10-1)	法量長(mm)	法量幅(mm)	法量厚(mm)	重量(g)	X座標	Y座標	Z座標	接合	同一個体	備考
1	3		土器	破片												
2	3		土器	破片												
3	3		土器	破片												
4	3		土器	胴部片												
5	3		欠番													
6	3		土器	破片												
7	3		土器	破片												
8	3		土器	細片												
9	3		土器	胴部片												
10	3		土器	破片												
11	3		土器	胴部片												
12	3		土器	甕形土器口縁部片												
13	3		土器	胴部片												
14	3		土器	破片												
15	3		土器	突帯部片												
16	3		土器	胴部片												
17	3		土器	胴部片												
18	3		土器	破片												
19	3		土器	突帯部片												
20	3	18	土器	壷形土器口縁部片										54		
21	3		土器	胴部片												
22	3	7	土器	甕形土器口縁部片												
23	3	5	土器	甕形土器口縁部片												
24	3		土器	破片												
25	3		土器	細片												
26	3		土器	口唇部片												
27	3		土器	壷形土器突帯部片												
28	3	22	土器	壷形土器頸部突帯部片												
29	3		土器	破片												
30	3	33	軽石	軽石製加工品	軽石	39.5	96	82	53	140						
31	3		土器	胴部片												
32	3		土器	破片												
33	3		土器	破片												
34	3		土器	細片												
35	3		土器	破片												
36	3		土器	細片												
37	3		土器	甕形土器口縁部片												
38	3	1	土器	甕形土器口縁部片												
39	3		石器	剥片	凝灰岩	65.6	79	62	23.6	105						
40	3		土器	破片												
41	3		土器	破片												
42	3		土器	細片												
43	3	24	土器	壷形土器頸部突帯部片												
44	3		礫	礫片	安山岩	34.4	21.2	18.7	14.2	10						
45	3		土器	甕形土器底部片												
46	3		土器	胴部片												
47	3		土器	胴部片												
48	3	23	土器	壷形土器頸部突帯部片												
49	3		土器	壷形土器頸部突帯部片												
50	3		土器	突帯部片												

第19表　出土遺物台帳①

取上番号	層位	掲載番号	種別	器種名	材質	帯磁率(×10-1)	法量長(mm)	法量幅(mm)	法量厚(mm)	重量(g)	X座標	Y座標	Z座標	接合	同一個体	備考
51	3	21	土器	甕形土器頸部突帯部片												
52	3		土器	破片												
53	3		欠番	欠番												
54	3	18	土器	壷形土器口縁部片										20		
55	3		欠番	欠番												
56	3		土器	破片												
57	3		土器	壷形土器突帯部片												
58	3		土器	胴部片												
59	3	16	土器	壷形土器口唇部片												
60	3	3	土器	甕形土器口縁部片												
61	3		土器	突帯部片												
62	3		土器	壷形土器口唇部片												
63	3		土器	胴部片												
64	3		土器	胴部片												
65	2		土器	甕形土器口縁部片							-192309.342	-38427.917	98.528			
66	2		磁器	破片							-192309.613	-38428.111	98.542			
67	2		土器	破片							-192309.525	-38428.276	98.541			
68	3		石器	剥片	安山岩	14.9	19.6	15.2	4.7	1.72	-192310.398	-38427.336	98.433			
69	3		土器	破片							-192310.417	-38427.628	98.417			
70	3		土器	破片							-192310.452	-38427.955	98.403			
71	埋土		土器	突帯部片							-192311.221	-38427.539	98.532			
72	3		土器	細片							-192311.013	-38427.112	98.581			
73	3		土器	破片							-192311.278	-38426.791	98.588			
74	3		土器	破片							-192311.232	-38426.572	98.593			
75	埋土		土器	甕形土器口縁部片							-192311.453	-38426.592	98.506			
76	埋土		石器	剥片	頁岩	0.7	26.5	20.6	3.6	2.64	-192311.915	-38427.396	98.718			
77	3		土器	破片							-192312.462	-38426.401	98.703			
78	3		土器	破片							-192312.687	-38426.698	98.762			
79	3		土器	破片							-192312.836	-38426.869	98.755			
80	3		石器	剥片	安山岩	23.8	26	17.3	10.9	10	-192313.593	-38427.331	98.883			
81	3		土器	破片							-192313.458	-38427.416	98.761			
82	3		土器	破片							-192314.026	-38427.718	98.798			
83	3		土器	破片							-192314.260	-38427.506	98.798			
84	3	28	土器	胴部突帯部片							-192314.375	-38429.252	98.704			
85	3		礫	礫片	安山岩	38.2	21.1	17.1	9.1	1.97	-192313.864	-38429.350	98.657			
86	埋土		土器	細片							-192313.091	-38428.809	98.776			
87	3		土器	細片							-192312.663	-38428.859	98.686			
88	3	13	土器	甕形土器底部附近片							-192311.702	-38428.979	98.390			
89	2		土器	細片							-192312.156	-38428.724	98.754			
90	3		土器	甕形土器口縁部片							-192309.888	-38426.387	98.530			
91	3		土器	甕形土器口縁部片							-192309.989	-38426.161	98.534			
92	3		土器	甕形土器胴部突帯部片							-192310.534	-38426.069	98.519			
93	3		土器	細片							-192314.200	-38426.839	98.880			
94	3		土器	破片							-192314.733	-38426.289	98.869			
95	3		土器	細片							-192315.279	-38426.976	98.933			
96	3		土器	胴部片							-192314.691	-38424.745	99.102			
97	3		土器	破片							-192315.975	-38426.210	99.116			
98	3		土器	甕形土器胴部突帯部片							-192318.044	-38426.823	99.126			
99	3		土器	胴部片							-192316.289	-38427.905	98.989			
100	3		土器	壷形土器胴部突帯部片							-192315.754	-38428.464	98.867			

第20表　出土遺物台帳②

取上番号	層位	掲載番号	種別	器種名	材質	帯磁率(×10-1)	法量長(mm)	法量幅(mm)	法量厚(mm)	重量(g)	X座標	Y座標	Z座標	接合	同一個体	備考
101	3		土器	底部片							-192315.315	-38428.646	98.939			
102	3		土器	胴部片							-192315.283	-38428.888	98.778			
103	3		土器	細片							-192313.560	-38429.777	98.525			
104	3		土器	破片							-192313.808	-38429.823	98.530			
105	3		土器	胴部片							-192316.071	-38429.148	98.977			
106	3		土器	破片							-192316.395	-38429.473	99.021			
107	3		土器	破片							-192316.257	-38429.904	99.001			
108	4		土器	胴部片							-192313.050	-38424.296	98.837			
109	4		土器	破片							-192313.292	-38424.489	98.865			
110	4	81	土器	甕形土器口唇部片							-192313.771	-38424.954	98.852			
111	4		土器	破片							-192313.750	-38425.131	98.865			
112	4		土器	胴部片							-192314.752	-38425.168	98.912	113		
113	4		土器	胴部片							-192314.680	-38425.229	98.919	112		
114	4		土器	胴部片							-192315.002	-38424.048	98.985			
115	4		土器	胴部片							-192315.222	-38423.805	99.012			
116	4		土器	破片							-192318.158	-38425.109	99.205			
117	4		土器	破片							-192318.757	-38426.011	99.192			
118	3	17	土器	小形壷口縁部片							-192332.766	-38425.164	100.218			
119	3		土器	胴部片							-192333.248	-38426.387	100.201			
120	3		土器	甕形土器口縁部片							-192332.809	-38426.935	100.104			
121	3	20	土器	壷形土器頸部突帯部片							-192332.545	-38427.030	100.079			
122	3		土器	破片							-192332.276	-38426.804	100.146			
123	3		土器	破片							-192332.188	-38427.363	100.098			
124	3		土器	甕形土器口縁部片							-192331.941	-38427.126	100.183			
125	3	8	土器	甕形土器口唇部片							-192331.824	-38427.281	100.088			
126	3		土器	破片							-192331.352	-38427.599	100.007			
127	3		土器	壷形土器胴部突帯部片							-192330.826	-38428.040	99.836			
128	4		土器	胴部片							-192332.232	-38428.311	99.976			
129	4		土器	細片							-192331.740	-38428.444	99.887			
130	4		土器	細片							-192332.037	-38426.760	100.045			
131	4		土器	胴部片							-192330.383	-38427.027	99.832			
132	3		土器	破片							-192330.070	-38426.403	99.937			
133	3		土器	胴部片							-192329.856	-38425.972	100.052			
134	3		土器	壷形土器頸部突帯部片							-192329.464	-38426.373	99.842			
135	3		土器	破片							-192329.470	-38425.576	99.995			
136	3		土器	破片							-192328.755	-38426.011	99.899			
137	3		土器	細片							-192328.697	-38425.762	99.827			
138	3		土器	胴部片							-192327.809	-38424.460	99.948			
139	4		土器	胴部片							-192328.301	-38424.417	99.834			
140	4		土器	底部附近片							-192327.932	-38424.139	99.847			
141	4		礫	礫片	凝灰岩	75.7	47.5	33.1	23.3	53	-192326.770	-38424.152	99.746			
142	3		土器	破片							-192327.501	-38425.161	99.874			
143	4		土器	破片							-192327.336	-38425.282	99.642			
144	3		土器	破片							-192327.351	-38425.513	99.671			
145	3	31	軽石	軽石製加工品	軽石	26.4	151	93	52	230	-192327.623	-38425.837	99.793			
146	3		土器	胴部片							-192327.590	-38426.255	99.697			
147	3		土器	甕形土器口縁部片							-192327.928	-38426.293	99.758			
148	4		土器	胴部片							-192328.485	-38426.470	99.662			
149	3		土器	破片							-192328.506	-38427.236	99.669			
150	3	6	土器	甕形土器口縁部片							-192328.540	-38427.999	99.642			

第21表　出土遺物台帳③

取上番号	層位	掲載番号	種別	器種名	材質	帯磁率(×10-1)	法量長(mm)	法量幅(mm)	法量厚(mm)	重量(g)	X座標	Y座標	Z座標	接合	同一個体	備考
151	3		土器	破片							-192328.543	-38427.802	99.772			
152	3		土器	破片							-192329.183	-38427.656	99.715			
153	3	2	土器	甕形土器口縁部片							-192328.906	-38428.153	99.662	332		
154	3		土器	胴部片							-192328.467	-38428.473	99.649			
155	3		土器	壷形土器頸部突帯部片							-192328.360	-38428.698	99.625			
156	3		土器	胴部片							-192328.096	-38428.569	99.662			
157	4		土器	破片							-192328.499	-38429.041	99.565			
158	4		土器	口唇部片							-192328.114	-38428.319	99.566			
159	3		軽石	軽石	軽石	22.1	51.5	48.2	29.4	20	-192328.114	-38429.363	99.562			
160	3		土塊	土塊							-192327.524	-38429.360	99.493			
161	3		土器	破片							-192327.192	-38429.513	99.464			
162	3		礫	礫	不明	0.3	28.1	20.9	17	10	-192327.218	-38429.111	99.620			
163	3		土器	破片							-192327.051	-38429.121	99.716			
164	3	68	土器	甕形土器							-192326.924	-38429.188	99.676	①		
165	3		土器	破片							-192327.154	-38428.825	99.695			
166	3		土器	壷形土器頸部突帯部片							-192327.111	-38428.316	99.641			
167	3	68	土器	甕形土器							-192327.466	-38427.724	99.752	①		
168	3		土器	底部附近片							-192327.481	-38427.710	99.752			
169	3		土器	破片							-192326.721	-38428.558	99.500			
170	3		土器	破片							-192326.820	-38428.444	99.578			
171	3		土器	甕形土器口縁部片							-192326.807	-38428.371	99.643			
172	3	68	土器	甕形土器							-192326.725	-38428.324	99.623	①		
173	3		土器	破片							-192326.714	-38427.823	99.519			
174	3		欠番	欠番							-192326.642	-38427.744	99.667			
175	3		土器	破片							-192326.643	-38427.544	99.553			
176	3下	68	土器	甕形土器							-192326.427	-38427.402	99.619	①		
177	3下	68	土器	甕形土器							-192326.523	-38427.730	99.612	①		
178	3下		欠番	欠番							-192326.463	-38427.657	99.594			
179	3下		土器	胴部片							-192326.410	-38427.757	99.578		①	
180	3下	68	土器	甕形土器							-192326.424	-38427.932	99.615	①		
181	3	34	石器	剥片	黒曜石	0.2	38	12	13	3.33	-192326.326	-38427.905	99.720			
182	3下		土器	破片							-192325.768	-38426.866	99.602			
183	3下		軽石	軽石	軽石	23.5	86.4	75.3	44.1	110	-192325.041	-38426.142	99.623			
184	3下		軽石	軽石片	軽石	9.8	41.6	24.8	22	10	-192325.143	-38426.107	99.619			
185	3下		土器	胴部片							-192326.328	-38425.329	99.618			
186	3下		土器	細片							-192326.015	-38424.854	99.687			
187	3下		土器	細片							-192325.392	-38424.423	99.700			
188	2		土器	破片							-192325.042	-38430.647	99.490			
189	3下		土器	破片							-192326.158	-38428.055	99.612			
190	3下	68	土器	甕形土器							-192326.103	-38428.512	99.440	①		
191	3下		土器	底部附近片							-192325.777	-38428.807	99.518	197		
192	3下		土器	破片							-192326.135	-38428.650	99.515			
193	3下		土器	胴部片							-192326.239	-38428.841	99.459			
194	3下		土器	胴部片							-192326.303	-38428.845	99.545			
195	3下	68	土器	甕形土器							-192326.309	-38428.943	99.517	①		
196	3下		土器	破片							-192326.181	-38429.108	99.495			
197	3下		土器	底部附近片							-192326.524	-38429.012	99.492	191		
198	3下		土器	細片							-192326.449	-38429.316	99.520			
199	4		軽石	軽石	軽石	3.6	44.9	37.9	22.7	40	-192326.425	-38429.584	99.310			
200	3		土器	破片							-192325.749	-38429.703	99.533			

第22表　出土遺物台帳④

取上番号	層位	掲載番号	種別	器種名	材質	帯磁率(×10-1)	法量長(mm)	法量幅(mm)	法量厚(mm)	重量(g)	X座標	Y座標	Z座標	接合	同一個体	備考
201	3		土器	破片							-192326.923	-38426.774	99.683			
202	2		土器	破片							-192325.506	-38429.838	99.541			
203	3		軽石	軽石製加工品	軽石	4.9	138.5	110.3	62.2	137	-192324.824	-38429.400	99.308			
204	3		土器	破片							-192324.935	-38429.638	99.439			
205	3		土器	破片							-192324.770	-38430.097	99.461			
206	3下	69	軽石	軽石製加工品	軽石	2.7	85	43	50	30	-192325.085	-38430.015	99.220			
207	3		軽石	軽石	軽石	19.4	35.2	27.1	24.9	10	-192324.238	-38430.267	99.086			
208	3		土器	破片							-192324.270	-38430.590	99.053			
209	3		土器	破片							-192324.291	-38430.688	99.066			
210	3	30	軽石	軽石製加工品	軽石	29	160	90	50	230	-192323.236	-38430.919	98.968			
211	3		土器	胴部片							-192323.064	-38430.477	99.004			
212	3		軽石	軽石製加工品	軽石	45.3	100.8	74.1	48.7	130	-192322.985	-38430.460	98.920			
213	3		土器	胴部片							-192322.343	-38429.596	99.222			
214	3		土器	口縁部片							-192321.618	-38430.500	99.142			
215	3		土器	破片							-192321.517	-38430.611	99.109			
216	3		土器	破片							-192321.275	-38429.815	99.055			
217	3		土器	壷形土器頸部突帯部片							-192320.925	-38429.478	99.221			
218	3		土器	細片							-192320.876	-38429.156	99.057			
219	3		土器	細片							-192321.172	-38428.821	99.171			
220	3		土器	細片							-192321.839	-38428.214	99.216			
221	3		土器	破片							-192321.983	-38428.296	99.274			
222	4	99	土器	壷形土器頸部突帯部片							-192323.530	-38427.915	99.260			
223	3		土器	細片							-192323.689	-38427.899	99.397			
224	3下		軽石	軽石製加工品	軽石	3.8	73.3	65.6	45.4	35	-192323.450	-38429.520	99.147			
225	4		軽石	軽石製加工品	軽石	6.4	77.4	69	66.8	110	-192323.013	-38431.160	98.858			
226	3		土器	細片							-192322.614	-38431.821	98.988			
227	4		軽石	軽石加工品	軽石	3.7	57.1	51	40.7	22	-192322.450	-38429.210	99.095			
228	4		土器	破片							-192329.979	-38427.481	99.640			
229	4	100	土器	壷形土器頸部突帯部片							-192331.669	-38429.397	99.857			丹塗り
230	3	10	土器	甕形土器胴部突帯部片							-192330.072	-38428.824	99.689			
231	3		土器	破片							-192329.700	-38428.979	99.682			
232	4		土器	胴部片							-192329.189	-38429.389	99.610			
233	3		土器	壷形土器頸部突帯部片							-192329.621	-38429.882	99.699			
234	4		土器	破片							-192329.104	-38429.872	99.575			
235	3	12	土器	甕形土器底部附近片							-192328.461	-38430.168	99.722			丹塗り
236	3		土器	破片							-192328.396	-38430.131	99.698			丹塗り
237	3下		土器	細片							-192328.478	-38429.947	99.522			
238	3		土器	破片							-192328.377	-38430.789	99.566			
239	3	4	土器	壷形土器口縁部片							-192328.874	-38430.528	99.566			
240	4		土器	細片							-192329.578	-38430.581	99.601			
241	4		土器	破片							-192329.576	-38430.685	99.564			
242	3	11	土器	甕形土器底部附近片							-192329.676	-38430.621	99.630			炭あり
243	3		土器	破片							-192329.893	-38430.544	99.682			
244	3		土器	破片							-192330.062	-38430.447	99.714			
245	3		土器	細片							-192330.441	-38430.169	99.674			
246	3		土器	胴部片							-192330.648	-38430.612	99.704			
247	3		土器	破片							-192330.310	-38430.741	99.671			
248	3		土器	壷形土器頸部突帯部片							-192330.671	-38430.885	99.725			
249	4		土器	胴部片							-192330.421	-38431.109	99.673			
250	4		土器	破片							-192331.619	-38430.662	99.713			

第23表　出土遺物台帳⑤

取上番号	層位	掲載番号	種別	器種名	材質	帯磁率(×10-1)	法量長(mm)	法量幅(mm)	法量厚(mm)	重量(g)	X座標	Y座標	Z座標	接合	同一個体	備考
251	4		土器	壷形土器頸部片							-192331.259	-38430.252	99.683			
252	4		土器	胴部片							-192331.289	-38431.176	99.720			
253	3		土器	細片							-192330.876	-38431.653	99.726			
254	3		土器	破片							-192330.789	-38431.639	99.730			
255	3		欠番	欠番							-192330.353	-38431.654	99.716			
256	3	14	土器	甕形土器胴部片							-192330.150	-38431.410	99.684			
257	3		礫	礫	安山岩	42.3	87.3	66	44.4	205	-192329.999	-38431.821	99.608			
258	3	27	土器	壷形土器頸部片							-192329.803	-38431.645	99.596			沈線あり
259	3		土器	壷形土器頸部片							-192329.652	-38431.250	99.607			
260	3		土器	細片							-192330.878	-38431.940	99.732			
261	3	25	土器	壷形土器頸部片							-192331.070	-38432.189	99.750			沈線あり
262	3	26	土器	壷形土器頸部片							-192331.040	-38432.246	99.745			沈線あり
263	3		土器	壷形土器頸部突帯部片							-192330.945	-38432.262	99.748			
264	3		軽石	軽石	軽石	11.3	142.6	82.4	44.6	120	-192329.761	-38432.659	99.693			
265	3		土器	破片							-192329.587	-38432.696	99.711			
266	3		軽石	軽石	軽石	0.7	85.4	76.9	52.9	75	-192329.753	-38432.996	99.580			
267	3		土器	壷形土器頸部突帯部片							-192330.209	-38433.494	99.612			
268	3		土器	胴部片							-192330.021	-38434.207	99.557			
269	3	46	土器	甕形土器口唇部片							-192329.944	-38434.579	99.539	351		
270	3	19	土器	壷形土器胴部片							-192329.261	-38433.722	99.691	288		
271	3		土器	底部片							-192330.033	-38435.252	99.644			
272	3		土器	胴部片							-192330.072	-38435.574	99.680			
273	3		土器	底部附近片							-192329.169	-38433.186	99.661			
274	3		土器	底部附近片							-192328.689	-38432.986	99.666			
275	3		土器	破片							-192328.531	-38432.948	99.769			
276	3		土器	胴部片							-192328.258	-38432.840	99.639			
277	3		土器	胴部片							-192328.126	-38433.800	99.617			
278	3		土器	破片							-192327.751	-38434.166	99.666			
279	3		土器	破片							-192327.566	-38433.827	99.638			
280	3		土器	破片							-192327.489	-38433.415	99.678			
281	3		土器	破片							-192327.516	-38433.130	99.609			
282	3		土器	破片							-192327.008	-38432.690	99.630			
283	3		土器	破片							-192327.002	-38432.810	99.574			
284	3		土器	破片							-192326.852	-38432.916	99.642			
285	3		土器	破片							-192326.888	-38433.605	99.526			
286	3		土器	破片							-192326.297	-38433.879	99.523			
287	3		土器	甕形土器胴部突帯部片							-192326.014	-38433.875	99.536			
288	3	19	土器	壷形土器胴部片							-192326.887	-38434.323	99.532	270		
289	3		土器	胴部片							-192326.749	-38434.676	99.563			
290	3		土器	甕形土器胴部突帯部片							-192326.785	-38434.732	99.643			
291	3		土器	破片							-192326.608	-38435.044	99.573			
292	3		土器	破片							-192327.486	-38434.569	99.624			
293	3		土器	甕形土器口唇部片							-192327.427	-38435.151	99.716			
294	3	15	土器	壷形土器口唇部片							-192324.240	-38433.223	99.412			
295	3		土器	破片							-192327.295	-38432.037	99.712			
296	3		土器	細片							-192328.572	-38431.796	99.646			
297	3		土器	破片							-192328.720	-38431.693	99.641			
298	3		土器	細片							-192329.572	-38430.371	99.603			
299	3	32	軽石	軽石製加工品	軽石	30.8	69	62	35	60	-192329.669	-38433.369	99.584			
300	4		土器	底部附近片							-192328.359	-38431.322	99.397			

第24表　出土遺物台帳⑥

取上番号	層位	掲載番号	種別	器種名	材質	帯磁率(×10-1)	法量長(mm)	法量幅(mm)	法量厚(mm)	重量(g)	X座標	Y座標	Z座標	接合	同一個体	備考
301	4	77	土器	甕形土器口唇部片							-192327.958	-38432.035	99.275			
302	3		土器	破片							-192329.095	-38431.057	99.550			
303	3		土器	破片							-192316.664	-38426.683	98.990			
304	3		土器	破片							-192309.959	-38429.065	98.053			
305	3		土器	細片							-192319.049	-38426.785	99.207			
306	3		土器	細片							-192319.194	-38426.891	99.267			
307	3		土器	破片							-192319.363	-38427.123	99.209			
308	3	29	土器	高坏(成川式土器)胴部片							-192320.852	-38428.196	99.152			丹塗り
309	3		土器	細片							-192319.972	-38426.162	99.322			
310	3		土器	細片							-192320.628	-38426.321	99.345			
311	3下		土器	破片							-192320.761	-38425.902	99.325			
312	3		土器	破片							-192320.689	-38425.506	99.481			
313	3		土器	破片							-192320.975	-38425.452	99.453			
314	3		土器	甕形土器胴部突帯部片							-192320.528	-38429.010	99.048			
315	3下		土器	破片							-192320.954	-38429.527	98.946			
316	4		土器	底部附近片							-192324.719	-38429.472	98.989			
317	3下		土器	胴部片							-192320.808	-38424.710	99.478			
318	3下		土器	破片							-192321.001	-38424.677	99.481			
319	4		土器	胴部片							-192322.446	-38424.859	99.514			
320	3下	47	土器	甕形土器口唇部片							-192322.706	-38424.733	99.558			
321	3下		土器	胴部片							-192322.592	-38424.123	99.592			
322	4	105	石器	台石	凝灰岩	181.6	208	192	114	4700	-192323.769	-38422.568	99.364			
323	4		土器	壷形土器頸部片							-192323.708	-38424.322	99.585			
324	4		土器	細片							-192324.725	-38425.041	99.592			
325	3下		土器	破片							-192323.599	-38425.772	99.648			
326	3下		土器	破片							-192326.325	-38423.859	99.775			
327	4		土器	底部附近片							-192326.070	-38428.600	99.433			
328	4		土器	破片							-192326.221	-38428.876	99.455			
329	4		土器	破片							-192329.087	-38427.685	99.649			
330	4		土器	破片							-192330.971	-38426.728	99.848			
331	4		土器	破片							-192329.787	-38429.092	99.634	153		
332	4	2	土器	甕形土器口縁部片							-192329.688	-38429.784	99.615			
333	4		土器	破片							-192330.243	-38430.438	99.645			
334	4		土器	破片							-192330.863	-38431.626	99.694			
335	3下	63	土器	甕形土器底部							-192330.312	-38433.145	99.567	336		
336	3下	63	土器	甕形土器底部片							-192330.346	-38433.201	99.604	335		
337	4		土器	破片							-192329.862	-38431.552	99.504			
338	3下		土器	胴部片							-192328.986	-38432.246	99.505			
339	3下		土器	破片							-192328.991	-38432.112	99.502			
340	3下		土器	破片							-192328.715	-38432.081	99.503			
341	3下		土器	破片							-192328.954	-38432.450	99.486			
342	3下		土器	破片							-192328.699	-38432.303	99.489			
343	3下		土器	破片							-192328.956	-38432.650	99.514			
344	3下		土器	破片							-192329.224	-38432.929	99.475			
345	3下		土器	破片							-192328.676	-38433.570	99.421			
346	3下		土器	破片							-192328.818	-38433.779	99.454			
347	3下		土器	破片							-192329.304	-38433.787	99.480			
348	3下	71	軽石	軽石製加工品	軽石	21.9	100	49	39	52	-192329.163	-38434.092	99.450			
349	3下		土器	胴部片							-192329.942	-38434.339	99.521			
350	3下		土器	破片							-192330.103	-38434.295	99.551			

第25表　出土遺物台帳⑦

取上番号	層位	掲載番号	種別	器種名	材質	帯磁率(×10-1)	法量長(mm)	法量幅(mm)	法量厚(mm)	重量(g)	X座標	Y座標	Z座標	接合	同一個体	備考
351	3下	46	土器	甕形土器口唇部片							-192329.377	-38435.177	99.435	269		
352	3下		土器	胴部片							-192329.521	-38435.892	99.448			
353	3下		土器	壷形土器頸部片							-192328.885	-38435.791	99.370			
354	3下		土器	破片							-192328.834	-38436.697	99.401			
355	3	9	土器	甕形土器口唇部片							-192328.332	-38436.451	99.442			
356	3下		土器	甕形土器胴部突帯部片							-192327.939	-38436.177	99.254			
357	4		土器	細片							-192329.421	-38437.472	99.356			
358	4		土器	破片							-192329.368	-38437.585	99.346			
359	4		土器	細片							-192328.354	-38438.678	99.266			
360	4		土器	破片							-192328.031	-38438.290	99.218			
361	4		土器	壷形土器頸部突帯部片							-192327.778	-38437.459	99.185			
362	3上		土器	破片							-192327.649	-38437.087	99.445			
363	3上		土器	破片							-192327.336	-38436.712	99.474			
364	3下		土器	破片							-192327.142	-38437.175	99.174			
365	3上		土器	破片							-192326.218	-38436.718	99.272			
366	3下		土器	壷形土器頸部片							-192328.397	-38435.027	99.333			
367	3下	55	土器	壷形土器口唇部片							-192328.039	-38434.957	99.271			
368	3上		土器	破片							-192327.682	-38434.437	99.402			
369	4		土器	破片							-192327.647	-38434.772	99.194			
370	4		土器	破片							-192327.525	-38434.635	99.201			
371	3下	43	土器	甕形土器口縁部突帯部片							-192327.538	-38435.175	99.235	650		
372	3上		礫	礫	安山岩	103.3	45.7	33.5	27.5	48	-192327.263	-38434.752	99.378			
373	3下		土器	細片							-192327.179	-38435.016	99.203			
374	3下		軽石	軽石	軽石	20.7	54.5	34.2	37.6	22	-192327.056	-38435.121	99.174			
375	3下		土器	壷形土器頸部突帯部片							-192327.214	-38435.298	99.187			
376	3下		土器	底部附近片							-192327.353	-38435.441	99.179			
377	3上		土器	破片							-192327.664	-38435.515	99.472			
378	3上		土器	破片							-192327.524	-38435.545	99.442			
379	3上		土器	破片							-192327.038	-38435.389	99.379			
380	3下		土器	破片							-192326.747	-38435.366	99.178			
381	3上		土器	破片							-192326.452	-38435.090	99.474			
382	3上		土器	破片							-192326.298	-38435.178	99.336			
383	3上		土器	壷形土器頸部片							-192326.101	-38435.647	99.458			
384	3下		土器	破片							-192325.753	-38434.670	99.106			
385	3下		土器	細片							-192325.833	-38434.355	99.048			
386	4		土器	壷形土器頸部突帯部片							-192325.688	-38434.563	98.979			
387	3上		土器	細片							-192326.150	-38433.682	99.395			
388	3上		土器	甕形土器口唇部片							-192325.806	-38433.492	99.366			
389	4		土器	細片							-192326.374	-38434.595	99.052			
390	4		土器	胴部片							-192326.480	-38434.477	99.057			
391	3下		土器	胴部片							-192327.035	-38433.381	99.184			
392	3下		土器	破片							-192326.817	-38433.188	99.257			
393	3上		土器	胴部片							-192326.604	-38432.988	99.368			
394	3下		土器	胴部片							-192327.618	-38432.644	99.289			
395	3下		土器	破片							-192326.504	-38431.697	99.355			
396	3下		土器	破片							-192326.415	-38431.859	99.213			
397	3下		土器	破片							-192326.164	-38431.899	99.225			
398	3下		土器	破片							-192326.091	-38431.983	99.269			
399	3下		土器	破片							-192325.723	-38431.585	99.164			
400	3下		土器	破片							-192325.226	-38431.905	99.070			

第26表　出土遺物台帳⑧

取上番号	層位	掲載番号	種別	器種名	材質	帯磁率(×10-1)	法量長(mm)	法量幅(mm)	法量厚(mm)	重量(g)	X座標	Y座標	Z座標	接合	同一個体	備考
401	3下		土器	細片							-192324.993	-38431.996	99.049			
402	3下		土器	甕形土器口唇部片							-192325.976	-38433.019	99.121			
403	3下		土器	破片							-192325.445	-38432.974	99.096			
404	3下		土器	破片							-192324.398	-38432.331	98.980			
405	3上		土器	破片							-192323.951	-38432.868	99.138			
406	3上		土器	甕形土器口唇部片							-192324.174	-38433.268	99.254			
407	3下		土器	破片							-192324.496	-38433.454	99.086			
408	3下		土器	細片							-192324.363	-38433.995	99.075			
409	3上		土器	破片							-192323.503	-38433.942	99.259			
410	3下		土器	破片							-192323.831	-38433.222	98.844			
411	3下	54	土器	壷形土器口唇部片							-192323.505	-38432.930	98.817			
412	3下		土器	突帯部片							-192323.301	-38432.548	98.748			
413	2		土器	口唇部片							-192322.992	-38433.147	98.948		①	
414	4		土器	破片							-192319.761	-38435.171	98.104			
415	4		土器	突帯部片							-192321.621	-38433.537	98.483			
416	4		土器	胴部片							-192322.105	-38433.885	98.503			
417	2		土器	甕形土器口縁部片							-192322.242	-38433.916	98.946			
418	4		土器	破片							-192323.043	-38432.986	98.549			
419	3上		土器	底部附近片							-192324.830	-38435.988	99.203			
420	3上	36	土器	鉢形土器							-192325.318	-38435.876	99.158			
421	3下		土器	破片							-192326.283	-38436.437	99.042			
422	4		土器	壷形土器頸部片							-192327.847	-38438.353	99.198			
423	3下		土器	破片							-192326.866	-38437.781	99.093			
424	3下		土器	破片							-192326.613	-38436.958	99.058			
425	4		土器	破片							-192332.601	-38432.218	100.141			
426	4		土器	破片							-192332.804	-38432.441	100.115			
427	2		土器	突帯部片							-192333.670	-38433.838	99.944			
428	4		土器	破片							-192334.412	-38434.554	99.933			
429	4		土器	破片							-192334.726	-38435.787	99.885			
430	4		土器	破片							-192333.867	-38435.279	99.944			
431	4		軽石	軽石	軽石	24.1	76.4	59.3	54.2	85	-192334.265	-38437.501	99.886			
432	4		土器	破片							-192332.729	-38437.389	99.737			
433	4		土器	破片							-192332.978	-38438.526	99.678			
434	2		礫	礫片	不明	5.6	29.4	25.6	18.6	10	-192332.770	-38440.331	99.770			
435	2		土器	破片							-192332.422	-38440.484	99.790			
436	2		土器	破片							-192332.473	-38440.085	99.786			
437	2		土器	甕形土器口唇部片							-192332.457	-38440.877	99.635			
438	3		土器	破片							-192332.154	-38440.113	99.727			
439	3		土器	破片							-192332.033	-38439.887	99.724			
440	3下		土器	破片							-192331.732	-38440.073	99.749			
441	4		土器	破片							-192332.027	-38440.229	99.651			
442	4		土器	破片							-192331.645	-38440.260	99.632			
443	3下		土器	破片							-192331.894	-38439.781	99.778			
444	3下		土器	口唇部片							-192331.699	-38439.676	99.626			
445	3下		土器	細片							-192331.370	-38439.795	99.649			
446	3下		土器	破片							-192331.274	-38439.892	99.618			
447	3下		土器	破片							-192330.686	-38439.845	99.674			
448	3下		土器	甕形土器胴部突帯部片							-192330.537	-38439.920	99.659			
449	3下		土器	甕形土器口唇部片							-192330.605	-38440.224	99.669			
450	3下	42	土器	甕形土器口縁部片							-192330.646	-38435.516	99.661			

第27表　出土遺物台帳⑨

取上番号	層位	掲載番号	種別	器種名	材質	帯磁率(×10-1)	法量長(mm)	法量幅(mm)	法量厚(mm)	重量(g)	X座標	Y座標	Z座標	接合	同一個体	備考
451	3下	48	土器	壺形土器口縁部片							-192331.452	-38435.796	99.721	663		
452	3下	44	土器	甕形土器口縁部片							-192331.527	-38436.482	99.664			
453	3下		土器	破片							-192332.304	-38436.455	99.818			
454	3下	66	土器	底部片							-192333.107	-38435.964	99.855			
455	3下		土器	破片							-192329.722	-38438.042	99.536			
456	3下		土器	破片							-192329.706	-38438.598	99.518			
457	3下		土器	破片							-192330.509	-38438.187	99.632			
458	3下		土器	破片							-192330.721	-38438.487	99.684			
459	3下	58	土器	壺形土器頸部突帯部片							-192331.033	-38438.542	99.739			
460	3下		土器	細片							-192331.500	-38438.819	99.648			
461	3下		土器	破片							-192331.518	-38438.867	99.740			
462	3下		土器	突帯部片							-192331.615	-38438.882	99.767			
463	3下		土器	壺形土器頸部片							-192331.471	-38439.222	99.735			
464	3下		土器	壺形土器頸部突帯部片							-192326.534	-38435.785	99.088			
465	2		土器	突帯部片							-192335.612	-38433.806	100.019			
466	4		土器	破片							-192327.856	-38437.491	99.189			
467	4		土器	破片							-192327.364	-38437.749	99.088			
468	4	93	土器	壺形土器口唇部片							-192326.786	-38437.545	99.003			
469	3下		土器	破片							-192326.590	-38437.665	99.063			
470	3下		土器	底部附近片							-192323.607	-38435.162	99.027			
471	3下		土器	細片							-192323.061	-38434.565	98.999			
472			欠番	欠番							-192327.177	-38434.811	99.369			
473	3下		土塊	土塊							-192323.722	-38435.016	99.003			
474	3下		土器	底部附近片							-192327.495	-38435.199	99.153			
475	3下		土器	破片							-192326.876	-38435.107	99.027			
476	4		土器	破片							-192326.235	-38434.865	98.959			
477	4		土器	突帯部片							-192325.667	-38435.319	98.933			
478	4		土器	破片							-192325.586	-38434.890	98.890			
479	4		土器	破片							-192325.914	-38436.938	98.851			
480	3下	59	土器	壺形土器頸部突帯部片							-192325.555	-38436.306	98.920			
481	3下		土器	甕形土器口縁部片							-192325.375	-38436.072	99.064			
482	3下		土器	底部附近片							-192325.278	-38436.143	98.854			
483	3下		土器	破片							-192324.963	-38436.051	98.831			
484	3下		軽石	軽石	軽石	2	31.2	21.9	24.6		-192325.006	-38437.333	98.756			
485	3下		土器	底部附近片							-192324.975	-38437.461	98.812			
486	3下		土器	突帯部片							-192324.569	-38437.004	98.758			
487	3下		石器	剥片	安山岩	33.3	27.5	23.1	8.1		-192324.186	-38436.101	98.694			
488	4		土器	破片							-192324.840	-38435.709	98.790			
489	4		土器	破片							-192324.480	-38435.477	98.777			
490	4	84	土器	甕形土器口唇部片							-192324.108	-38435.556	98.661			
491	4		土器	破片							-192324.187	-38435.213	98.771			
492	3下		土器	破片							-192324.598	-38434.804	98.830			
493	3下		土器	破片							-192323.835	-38434.742	98.688			
494	3下	70	軽石	軽石製加工品	軽石	32.4	110	80	53	145	-192323.695	-38434.847	98.778			
495	3下		土器	破片							-192323.467	-38434.769	98.686			
496	3下		土器	破片							-192323.021	-38434.479	98.618			
497	3上		土器	甕形土器胴部突帯部片							-192322.885	-38434.825	98.763			
498	4		軽石	軽石	軽石	13.4	45.4	33.7	14.9		-192323.131	-38435.181	98.540			
499	4		土器	破片							-192322.939	-38435.567	98.520			
500	4		土器	突帯部片							-192323.000	-38435.732	98.516			

第28表　出土遺物台帳⑩

取上番号	層位	掲載番号	種別	器種名	材質	帯磁率(×10-1)	法量長(mm)	法量幅(mm)	法量厚(mm)	重量(g)	X座標	Y座標	Z座標	接合	同一個体	備考
501	3下		土器	壷形土器頸部突帯部片							-192322.643	-38436.112	98.527			
502	4		土器	破片							-192322.370	-38435.100	98.448			
503	3下		土器	破片							-192323.967	-38437.046	98.685			
504	4		土器	破片							-192324.101	-38432.669	98.765			
505	4		土器	破片							-192323.825	-38432.709	98.721			
506	3下	62	土器	壷形土器頸部突帯部片							-192331.608	-38429.310	99.783			
507	3下		土器	破片							-192330.551	-38426.841	99.796			
508	3下		土器	胴部片							-192329.870	-38426.904	99.784			
509	3下		土器	細片							-192329.443	-38426.330	99.805			
510	4		土器	破片							-192328.487	-38426.262	99.645			
511	4		礫	礫	不明	7.9	21.6	16.8	14.9		-192328.374	-38428.434	99.557			
512	3下		土器	胴部片							-192327.981	-38428.955	99.445			
513	3下	67	土器	底部片							-192327.701	-38429.121	99.443			
514	3下		欠番	欠番							-192326.655	-38428.406	99.455			
515	3下		欠番	欠番							-192326.527	-38428.442	99.403			
516	3下		欠番	欠番							-192326.602	-38427.886	99.430			
517	凹埋3下		土器	破片							-192326.899	-38427.719	99.158			
518	3下		欠番	欠番							-192326.317	-38428.628	99.443			
519	凹埋3下	68	土器	甕形土器							-192326.332	-38428.714	99.395		①	
520	凹埋3下	68	土器	甕形土器							-192326.511	-38427.660	99.457		①	
521	4		土器	破片							-192326.486	-38427.332	99.269			
522	凹埋3下		土器	破片							-192326.272	-38426.052	99.366			
523	凹埋3下	41	土器	壷形土器頸部突帯部片							-192326.043	-38426.314	99.326			
524	凹埋4		土器	破片							-192326.245	-38425.262	98.834			
525	凹埋3下		土器	破片							-192326.867	-38425.850	99.568			
526	凹埋3下		土器	壷形土器頸部突帯部片							-192325.755	-38425.182	99.363			
527	凹埋3下		土器	破片							-192325.805	-38425.034	99.540			
528	凹埋3下		土器	細片							-192326.027	-38424.914	99.534			
529	4	79	土器	甕形土器口唇部片							-192326.592	-38424.647	99.576			
530	3上		土器	破片							-192322.028	-38426.022	99.500			
531	3上		土器	破片							-192322.059	-38426.243	99.549			
532	3下	72	軽石	軽石製加工品	軽石	36.2	100	90	50	150	-192324.022	-38428.519	99.136			
533	3下	73	軽石	軽石製加工品	軽石	35.1	148	74	51	220	-192322.539	-38429.670	98.917			
534	3下		土器	甕形土器口縁部片							-192322.453	-38429.751	98.814			
535	3下		土器	破片							-192322.046	-38429.452	98.918			
536	3下		礫	礫	安山岩	163.1	132.6	87.8	38	570	-192320.984	-38429.856	98.702			
537	3下		軽石	軽石片	軽石	20.3	61.8	51.9	23.6	20	-192321.865	-38430.915	98.685			
538	3下		土器	底部片							-192322.002	-38431.294	98.750			
539	4		礫	鉱石	石英		41.8	28.6	22.3	30	-192321.443	-38431.254	98.575			
540	3下		土器	破片							-192321.011	-38431.364	98.730			
541	3下		欠番	欠番							-192321.086	-38432.362	98.667			
542	3下		土器	破片							-192321.471	-38431.712	98.526			
543	3下		土器	壷形土器頸部片							-192321.030	-38431.893	98.628			
544	3下		軽石	軽石製加工品	軽石	2.8	85.2	67.8	25.3	25	-192321.082	-38432.328	98.661			
545	3下		土器	突帯部片							-192320.060	-38429.041	98.906			
546	3下		礫	礫	凝灰岩	58.4	67.7	67.3	53	280	-192320.964	-38430.212	98.685			
547	4		土器	底部片							-192319.840	-38429.144	98.769			
548	3下		土器	破片							-192319.710	-38430.031	98.756			
549	3下		土器	破片							-192319.777	-38430.325	98.505			
550	3下		土器	破片							-192319.917	-38431.002	98.515			

第29表　出土遺物台帳⑪

取上番号	層位	掲載番号	種別	器種名	材質	帯磁率（×10-1）	法量長（mm）	法量幅（mm）	法量厚（mm）	重量（g）	X座標	Y座標	Z座標	接合	同一個体	備考
551	4		土器	破片							-192320.376	-38431.204	98.388			
552	3下	35	土器	甕形土器							-192319.378	-38430.771	98.455	②		
553	3下		土器	破片							-192318.805	-38430.890	98.563			
554	3下		土器	破片							-192318.592	-38430.809	98.576			
555	3下		土器	細片							-192318.508	-38430.867	98.535			
556	3上	35	土器	甕形土器							-192319.513	-38431.443	98.668	②		
557	3上	35	土器	甕形土器							-192319.596	-38431.636	98.706	②		
558	3上	35	土器	甕形土器							-192319.860	-38431.561	98.714	②		
559	3下		土器	細片							-192319.868	-38431.828	98.486			
560	3下	35	土器	甕形土器							-192319.586	-38432.106	98.486	②		
561	3上	35	土器	甕形土器							-192319.363	-38432.529	98.777	②		
562	3上	35	土器	甕形土器							-192319.537	-38432.513	98.827	②		
563	3上	35	土器	甕形土器							-192319.529	-38432.627	98.809	②		
564	3上	35	土器	甕形土器							-192319.697	-38432.617	98.839	②		
565	3上	35	土器	甕形土器							-192319.775	-38432.575	98.790	②		
566	3上	35	土器	甕形土器							-192319.806	-38432.676	98.809	②		
567	3上		土器	破片							-192319.667	-38432.718	98.775		②	
568	3上	35	土器	甕形土器							-192319.794	-38432.299	98.872	②		
569	3上	35	土器	甕形土器							-192319.903	-38432.488	98.861	②		
570	3上	35	土器	甕形土器							-192319.961	-38432.426	98.864	②		
571	3上		土器	甕形土器							-192319.740	-38432.759	98.776		②	
572	3上	35	土器	甕形土器							-192319.602	-38433.232	98.731	②		
573	3上	38	土器	鉢形土器口縁部片							-192319.619	-38433.376	98.726			
574	3上	35	土器	甕形土器							-192320.480	-38432.493	98.843	②		
575	3上		土器	破片							-192320.259	-38432.435	98.761		②	
576	3上	35	土器	甕形土器							-192320.173	-38432.496	98.784	②		
577	3上	35	土器	甕形土器							-192320.188	-38432.586	98.766	②		
578	3上	35	土器	甕形土器							-192320.246	-38432.623	98.766	②		
579	3上	35	土器	甕形土器							-192320.058	-38432.523	98.687	②		
580	3上	35	土器	甕形土器							-192319.987	-38432.637	98.670	②		
581	3上		土器	破片							-192320.197	-38432.795	98.701			
582	3上		土器	破片							-192320.329	-38432.942	98.616		②	
583	3下		土器	破片							-192320.203	-38432.960	98.688		②	
584	3上		土器	破片							-192320.234	-38433.120	98.703		②	
585	3上		土器	破片							-192320.220	-38433.644	98.703		②	
586	3上	35	土器	甕形土器							-192319.917	-38433.206	98.685	②		
587	3上	35	土器	甕形土器							-192319.822	-38433.201	98.642	②		
588	3上	35	土器	甕形土器							-192319.870	-38433.460	98.610	②		
589	3上	35	土器	甕形土器							-192319.736	-38433.469	98.590	②		
590	3下		欠番	欠番							-192319.382	-38433.324	98.570			
591	3下		土器	破片							-192319.659	-38432.938	98.734		②	
592	3上	35	土器	甕形土器							-192319.633	-38432.846	98.643	②		
593	3上	37	土器	鉢形土器口縁部片							-192319.567	-38432.799	98.643			
594	3上		土器	破片							-192318.866	-38432.307	98.719		②	
595	3上	35	土器	甕形土器							-192319.347	-38432.071	98.712	②		
596	3下		土器	破片							-192318.995	-38431.530	98.469			
597	4		土器	破片							-192319.569	-38434.767	98.126			
598	4	75	土器	甕形土器口唇部片							-192319.278	-38434.405	98.098			
599	3下	50	土器	甕形土器胴部突帯部片							-192319.003	-38434.599	98.262			
600	3下	35	土器	甕形土器							-192318.769	-38434.377	98.327	②		

第30表　出土遺物台帳⑫

取上番号	層位	掲載番号	種別	器種名	材質	帯磁率(×10-1)	法量長(mm)	法量幅(mm)	法量厚(mm)	重量(g)	X座標	Y座標	Z座標	接合	同一個体	備考
601	3下		土器	壷形土器頸部突帯部片							-192318.758	-38434.342	98.329			
602	3上	39	土器	鉢形土器口縁部片							-192318.173	-38434.535	98.360			
603	3上	35	土器	甕形土器							-192317.998	-38434.491	98.315	②		
604	3上		土器	破片							-192316.633	-38432.594	98.414			
605	3上		土器	破片							-192316.353	-38432.513	98.357			
606	3上		土器	突帯部片							-192315.859	-38432.600	98.317			
607	3下		土器	破片							-192317.123	-38433.667	98.072			
608	3上		土器	破片							-192315.043	-38432.457	98.200			
609	3下		土器	破片							-192314.948	-38432.610	97.978			
610	3下		土器	突帯部片							-192314.814	-38431.661	98.034			
611	3下		土器	破片							-192314.181	-38432.645	97.912			
612	3上		土器	破片							-192314.625	-38430.738	98.475			
613	3上		土器	口唇部片							-192314.730	-38430.469	98.447			
614	3下		土器	胴部片							-192313.381	-38431.074	97.943			
615	4	87	土器	甕形土器胴部突帯部片							-192312.824	-38431.111	97.824			
616	3下		土器	破片							-192313.491	-38430.148	98.327			
617	3下		石器	剥片	頁岩	0.1	28.6	16.3	1.9		-192313.404	-38430.200	98.233			
618	3下		土器	破片							-192312.926	-38429.921	98.152		①	
619	4		土器	胴部片							-192312.782	-38428.980	98.112			
620	3下		土器	細片							-192312.224	-38429.524	97.997			
621	3下		土器	破片							-192312.528	-38428.718	98.234			
622	4		土器	胴部片							-192312.324	-38428.391	98.170			
623	4		軽石	軽石	軽石	22.5	56.3	48.5	41.9	35	-192311.977	-38428.377	98.171			
624	3下		土器	破片							-192317.623	-38430.979	98.433			炭付着
625	3下		土器	破片							-192316.972	-38430.947	98.208			研磨あり
626	3下		土器	底部附近片							-192317.454	-38430.049	98.518			
627	3下		土器	破片							-192316.844	-38429.845	98.440			
628	3下		土器	破片							-192316.625	-38429.978	98.314			
629	3下		土器	細片							-192316.352	-38429.872	98.418			
630	3下		土器	破片							-192315.863	-38430.070	98.316			
631	4		土器	破片							-192315.317	-38429.784	98.276			
632	4	74	土器	甕形土器口縁部片							-192315.791	-38428.637	98.529			補修孔あり
633	4	86	土器	甕形土器胴部突帯部片							-192315.484	-38428.182	98.576			
634	3下		土器	細片							-192315.250	-38427.139	98.700			
635	4		土器	胴部片							-192316.405	-38427.453	98.769			
636	3下		土器	破片							-192314.487	-38427.322	98.664			
637	3下		土器	胴部片							-192314.439	-38426.921	98.678			
638	3下		土器	甕形土器口縁部片							-192314.811	-38426.273	98.746			
639	3下		土器	破片							-192313.687	-38426.884	98.555			
640	3下		土器	破片							-192313.985	-38426.133	98.729			
641	4		土器	胴部片							-192322.085	-38430.358	98.771			
642	3下	56	土器	壷形土器口唇部片							-192313.659	-38426.000	98.721			
643	3下		礫	礫片	安山岩	149.5	92.7	43.8	24	82	-192313.328	-38426.374	98.610			
644	3下		土器	細片							-192317.502	-38429.078	98.638			
645	3下		欠番	欠番							-192321.113	-38427.150	99.131			
646	3下		欠番	欠番							-192322.117	-38427.939	99.105			
647	3下		土器	破片							-192330.854	-38431.988	99.666			
648	3下		土器	破片							-192330.440	-38431.425	99.613			
649	3下		土器	破片							-192329.059	-38431.542	99.490			
650	3下	43	土器	甕形土器口縁部突帯部片							-192328.941	-38431.685	99.506	371		

第31表　出土遺物台帳⑬

取上番号	層位	掲載番号	種別	器種名	材質	帯磁率(×10-1)	法量長(mm)	法量幅(mm)	法量厚(mm)	重量(g)	X座標	Y座標	Z座標	接合	同一個体	備考
651	3下		土器	破片							-192328.824	-38431.600	99.462			
652	3下		土器	底部附近片							-192328.809	-38431.727	99.479			
653	3下		土器	突帯部片							-192328.753	-38431.770	99.427			
654	3下		土器	突帯部片							-192328.692	-38431.734	99.456			
655	3下		土器	胴部片							-192328.609	-38432.224	99.383			
656	3下		土器	破片							-192329.009	-38432.614	99.415			
657	3下		土器	底部附近片							-192328.918	-38432.347	99.395			
658	3下	60	土器	壷形土器頸部突帯部片							-192328.517	-38432.388	99.354			
659	3下		土器	壷形土器頸部突帯部片							-192328.554	-38431.531	99.485			
660	3下	49	土器	甕形土器胴部突帯部片							-192327.615	-38431.614	99.268			
661	3下		土器	破片							-192329.152	-38429.206	99.511			
662	3下		土器	破片							-192329.247	-38429.013	99.555			
663	3下	48	土器	甕形土器口縁部片							-192329.836	-38433.851	99.458	451		
664	3下		土器	胴部片							-192329.796	-38433.882	99.460			
665	3下		土器	突帯部片							-192329.436	-38433.841	99.473			
666	4		土器	細片							-192329.331	-38434.964	99.386			
667	3下	51	土器	甕形土器胴部突帯部片							-192328.444	-38434.470	99.293			
668	3下		土器	胴部片							-192327.999	-38434.609	99.257			
669	3下		土器	細片							-192327.710	-38434.549	99.212			
670	4	94	土器	壷形土器頸部片							-192327.223	-38434.524	99.047			
671	3下		土器	細片							-192327.159	-38434.213	99.127			
672	4		土器	破片							-192326.361	-38434.396	98.959			
673	4		土器	破片							-192326.055	-38434.646	98.933			
674	3下		土器	壷形土器頸部突帯部片							-192326.161	-38434.100	98.983			
675	3下		土器	胴部片							-192326.322	-38433.677	99.024			
676	3下		土器	底部附近片							-192325.829	-38433.539	99.047			
677	3下		土器	破片							-192325.912	-38433.370	99.086			
678	3下	61	土器	壷形土器頸部突帯部片							-192325.671	-38433.585	98.978			
679	4	89	土器	胴部片							-192325.455	-38433.424	98.908			黒丹あり
680	4		土器	破片							-192325.567	-38433.162	98.957			
681	3下		土器	破片							-192325.270	-38433.117	99.010			
682	3下		土器	胴部片							-192325.167	-38433.125	98.974			
683	3下		土器	破片							-192325.480	-38432.279	99.029			
684	3下	65	土器	底部片							-192325.634	-38431.940	99.065			
685	4		土器	破片							-192325.453	-38431.954	98.941			
686	4	85	土器	甕形土器胴部突帯部片							-192325.153	-38431.737	98.972			
687	3下		土器	細片							-192324.634	-38432.325	98.932			
688	4		土器	破片							-192327.450	-38435.250	99.122			
689	4		土器	細片							-192327.374	-38435.881	99.107			
690	4		土器	破片							-192327.509	-38435.931	99.128			
691	4		土器	胴部片							-192327.937	-38436.427	99.160			炭付着
692	4		土器	破片							-192328.272	-38437.193	99.225			
693	4		土器	突帯部片							-192328.053	-38437.342	99.157			
694	4		土器	甕形土器頸部突帯部片							-192327.529	-38437.475	99.026			
695	4		土器	細片							-192327.320	-38437.770	99.021			
696	4		土器	破片							-192326.818	-38437.689	98.984			
697	4		土器	細片							-192326.919	-38437.281	98.980			
698	3下		土器	破片							-192326.746	-38436.557	98.976			
699	3下		土器	甕形土器口縁部片							-192325.375	-38435.878	98.896			
700	4		土器	破片							-192326.483	-38432.959	99.088			

第32表　出土遺物台帳⑭

取上番号	層位	掲載番号	種別	器種名	材質	帯磁率(×10-1)	法量長(mm)	法量幅(mm)	法量厚(mm)	重量(g)	X座標	Y座標	Z座標	接合	同一個体	備考
701	4		土器	胴部片							-192326.422	-38432.928	99.090			
702	4		土器	甕形土器胴部突帯部片							-192326.242	-38432.176	99.112			
703	4		土器	胴部片							-192321.671	-38433.298	98.421			
704	3下	57	土器	壷形土器頸部突帯部片							-192312.632	-38426.041	98.513			
705	3下		土器	細片							-192312.498	-38425.764	98.530			
706	3下		土器	破片							-192312.338	-38425.444	98.520			
707	4		土器	細片							-192312.088	-38426.267	98.429			
708	4		土器	破片							-192312.677	-38426.513	98.439			
709	4		土器	破片							-192311.136	-38426.958	98.109			
710	4		土器	破片							-192311.389	-38428.625	97.913			
711	3下	64	土器	底部							-192310.958	-38429.184	97.805			
712	3下		土器	胴部片							-192311.334	-38429.595	97.858			
713	3下		土器	胴部片							-192311.686	-38429.456	97.925			
714	4		土器	細片							-192312.094	-38428.870	98.043			
715	4	97	土器	壷形土器頸部突帯部片							-192315.310	-38429.660	98.272			
716	4		土器	破片							-192315.612	-38430.263	98.193			
717	4		土器	破片							-192315.259	-38431.058	98.053			
718	4		土器	破片							-192315.323	-38431.326	98.043			
719	4		土器	口唇部片							-192314.855	-38431.592	97.975			
720	4		土器	細片							-192313.821	-38431.810	97.837			
721	4		土器	胴部片							-192313.687	-38432.173	97.790			
722	4	80	土器	甕形土器口唇部片							-192314.272	-38432.567	97.844			
723	4	90	土器	甕形土器底部附近片							-192314.982	-38432.488	97.882			
724	4		土器	破片							-192315.178	-38431.943	97.943			
725	3下		土器	破片							-192315.813	-38432.643	98.073			
726	4	101	土器	壷形土器頸部突帯部片							-192316.243	-38432.731	98.019			
727	4		土器	細片							-192316.610	-38432.951	98.057			
728	4		土器	破片							-192317.192	-38433.164	98.071			
729	4		土器	破片							-192316.671	-38433.255	97.979			
730	4		土器	突帯部片							-192317.000	-38433.480	98.016			
731	4		土器	細片							-192316.820	-38429.878	98.374			
732	4	76	土器	甕形土器口唇部片							-192318.092	-38429.346	98.601			
733	3下		土器	破片							-192318.274	-38429.678	98.652			
734	4	88	土器	甕形土器胴部突帯部片							-192317.039	-38430.702	98.173			
735	3下		土器	底部附近片							-192318.804	-38430.856	98.449			
736	4	103	軽石	軽石製加工品	軽石	13.4	41	50	22	12	-192317.666	-38431.954	98.153			
737	4		土器	破片							-192319.681	-38431.989	98.329			炭付着
738	3下		土器	破片							-192322.049	-38432.022	98.548			
739	4		土器	甕形土器胴部突帯部片							-192321.871	-38431.994	98.478			
740	3下		土器	胴部片							-192321.390	-38432.350	98.637			
741	3上		欠番	欠番							-192320.155	-38432.539	98.736			
742	3上		土器	甕形土器							-192319.846	-38432.420	98.604			
743	3上		土器	胴部片							-192319.834	-38432.338	98.748			
744	3上	35	土器	甕形土器							-192319.812	-38432.492	98.669	②		
745	3上		土器	細片							-192319.799	-38432.556	98.742			
746	3上	35	土器	甕形土器							-192319.636	-38432.909	98.703	②		
747	3上	35	土器	甕形土器							-192319.803	-38432.989	98.636	②		
748	3上		欠番	欠番							-192319.723	-38432.794	98.706			
749	3上		土器	甕形土器							-192319.698	-38432.730	98.690		②	
750	3上	35	土器	甕形土器							-192319.718	-38432.730	98.664	②		

第33表　出土遺物台帳⑮

取上番号	層位	掲載番号	種別	器種名	材質	帯磁率(×10-1)	法量長(mm)	法量幅(mm)	法量厚(mm)	重量(g)	X座標	Y座標	Z座標	接合	同一個体	備考
751	3上	35	土器	甕形土器							-192319.611	-38432.701	98.699	②		
752	3上	35	土器	甕形土器							-192319.660	-38432.616	98.693	②		
753	3上	35	土器	甕形土器							-192319.752	-38432.628	98.740	②		
754	3上	35	土器	甕形土器							-192319.664	-38432.558	98.721	②		
755	3上		欠番	欠番							-192319.717	-38432.521	98.698			
756	3上	35	土器	甕形土器							-192319.732	-38432.594	98.706	②		
757	3上	35	土器	甕形土器							-192319.776	-38432.308	98.735	②		
758	3上	35	土器	甕形土器							-192319.859	-38432.175	98.723	②		
759	3上	35	土器	甕形土器							-192320.123	-38433.035	98.731	②		
760	3上	35	土器	甕形土器							-192319.945	-38432.804	98.675	②		
761	3下		土器	破片							-192320.144	-38433.145	98.391			
762	3下		土器	胴部片							-192320.139	-38432.612	98.396			
763	3下	52	土器	壷形土器頸部突帯部片							-192319.925	-38432.173	98.462			
764	3下	53	土器	甕形土器胴部突帯部片							-192319.901	-38432.090	98.448			
765	3下		土器	突帯部片							-192319.969	-38431.827	98.479			
766	3下		土器	細片							-192319.579	-38432.338	98.446			
767	4	104	軽石	軽石製加工品	軽石	22.5	79	50	38	45	-192329.042	-38436.979	99.344			
768	4		土器	破片							-192328.716	-38436.899	99.257			
769	4		土器	破片							-192328.574	-38437.356	99.268			
770	4		軽石	軽石	軽石	18.6	47	38.9	31	20	-192328.449	-38437.684	99.227			
771	4		土器	細片							-192328.348	-38437.732	99.208			
772	4		土器	破片							-192328.485	-38438.032	99.187			
773	4		土器	細片							-192327.996	-38437.507	99.117			
774	4		土器	破片							-192328.257	-38437.077	99.187			
775	4		土器	破片							-192328.446	-38436.869	99.224			
776	4		土器	破片							-192328.318	-38436.768	99.149			
777	4	82	土器	甕形土器口唇部片							-192327.519	-38437.877	99.035			
778	4		土器	破片							-192327.998	-38435.688	99.147			
779	4		土器	破片							-192329.926	-38433.891	99.395			
780	4	91	土器	甕形土器底部片							-192328.964	-38433.728	99.383			
781	4		土器	破片							-192328.753	-38433.694	99.372			
782	4		土器	底部附近片							-192328.973	-38433.284	99.384			
783	4		土器	突帯部片							-192330.637	-38431.419	99.585			
784	4		土器	破片							-192330.824	-38430.928	99.626			
785	4		土器	破片							-192330.741	-38430.585	99.624			
786	4	95	土器	壷形土器頸部突帯部片							-192330.249	-38430.199	99.625			
787	4		土器	胴部片							-192330.152	-38430.019	99.577			
788	4		土器	壷形土器頸部突帯部片							-192329.923	-38430.110	99.570			
789	4		土器	細片							-192329.648	-38430.651	99.546			
790	4		土器	底部附近片							-192329.570	-38430.464	99.525			
791	4		軽石	軽石製加工品	軽石	9.5	114.7	88.5	87.8	182	-192329.075	-38430.892	99.532			
792	4	98	土器	壷形土器頸部突帯部片							-192328.764	-38431.224	99.397			
793	4	92	土器	壷形土器口唇部片							-192328.531	-38429.275	99.525			
794	4		土器	細片							-192329.681	-38428.543	99.632			
795	4		土器	胴部片							-192324.509	-38432.204	98.817			
796	4		土器	破片							-192323.144	-38435.252	98.520			
797			欠番	欠番							-192326.680	-38428.515	99.466			
798	3下	68	土器	甕形土器							-192326.286	-38428.665	99.446	①		
799			欠番	欠番							-192326.576	-38428.431	99.431			
800	3下		土器	細片							-192326.317	-38428.689	99.430			

第34表　出土遺物台帳⑯

取上番号	層位	掲載番号	種別	器種名	材質	帯磁率(×10-1)	法量長(mm)	法量幅(mm)	法量厚(mm)	重量(g)	X座標	Y座標	Z座標	接合	同一個体	備考
801	3下		土器	破片							-192327.903	-38428.049	99.480			
802	3下		土器	甕形土器胴部突帯部片							-192328.270	-38428.011	99.569			
803	4	83	土器	甕形土器口唇部片							-192327.855	-38426.596	99.496			
804	4		土器	破片							-192327.760	-38426.294	99.589			
805	3下		土器	破片							-192327.236	-38426.140	99.489			
806	3下		土器	細片							-192327.157	-38425.082	99.581			
807	3下		土器	細片							-192325.808	-38426.837	99.464			
808	凹埋3下		土器	破片							-192326.264	-38426.360	99.221			
809	凹埋3下		土器	細片							-192326.501	-38425.462	99.282			
810	凹埋3下		土器	破片							-192326.218	-38424.864	99.273			
811	凹埋3下		土器	破片							-192325.736	-38425.146	99.290			
812	4		土器	細片							-192324.437	-38424.694	99.430			
813	3下		土器	破片							-192319.969	-38425.819	99.120			
814	3下		土器	破片							-192319.907	-38426.706	99.047			
815	3下		土器	破片							-192318.834	-38426.999	98.850			
816	3下		土器	甕形土器口唇部片							-192320.731	-38429.618	98.627			
817	4	96	土器	壺形土器頸部突帯部片							-192320.956	-38430.868	98.605			
818	4		土器	胴部突帯部片							-192320.947	-38431.527	98.552			
819	4		土器	底部附近片							-192320.104	-38430.875	98.519			
820	3下		土器	破片							-192328.079	-38427.317	99.569			
821	4		土器	破片							-192318.252	-38431.778	98.256			
822	4		土器	細片							-192317.991	-38432.185	98.170			
823	4		土器	破片							-192317.602	-38431.840	98.172			
824	3下		土器	壺形土器頸部片							-192318.250	-38429.696	98.561			
825	4		土器	破片							-192317.743	-38429.069	98.586			
826	3下		土器	破片							-192317.681	-38428.234	98.818			
827	3下		土器	破片							-192316.954	-38428.557	98.773			
828	4		土器	破片							-192315.437	-38427.063	98.714			
829	4	78	土器	甕形土器口唇部片							-192316.033	-38426.165	98.914			
830	3下		土器	突帯部片							-192323.493	-38428.161	99.146			
831	3下		土器	破片							-192329.454	-38437.430	99.304			
832	4		土器	胴部片							-192331.463	-38431.442	99.769			
833	3上	35	土器	甕形土器							-192319.569	-38432.655	98.527	②		
834	3上		土器	破片							-192319.738	-38432.884	98.515		②	
835	4		土器	胴部片							-192319.931	-38432.880	98.329			
836	4	102	軽石	軽石製加工品	軽石	21	38	23	23.6		-192319.848	-38432.842	98.335			
837	4		土器	破片							-192326.531	-38431.559	99.072			
838	凹埋3下	40	土器	壺形土器頸部突帯部片							-192324.449	-38425.180	99.527			

第35表　出土遺物台帳⑰

凡例

接　合①：164. 167. 172. 176. 177. 180. 190 195. 519. 520. 798

接　合②：552. 556. 557. 558. 560. 561. 562. 563. 564. 565. 566. 568. 569. 570. 572. 574. 576. 577. 578. 579. 580. 586. 587. 588. 589. 592. 595. 600. 603. 744 746. 747. 750. 751. 752. 753. 754. 756. 757. 758. 759. 760. 833

同一個体①：179. 413. 618

同一個体②：567. 571. 575. 582. 583. 584. 585. 591. 594. 749. 834

（４）発掘調査写真

写真61　中尾迫遺跡空撮写真①(北東側から)

写真62　中尾迫遺跡空撮写真②(西北側から望む)

写真63　発掘調査状況写真

写真64　西壁地層断面(SP5-SP6)①写真

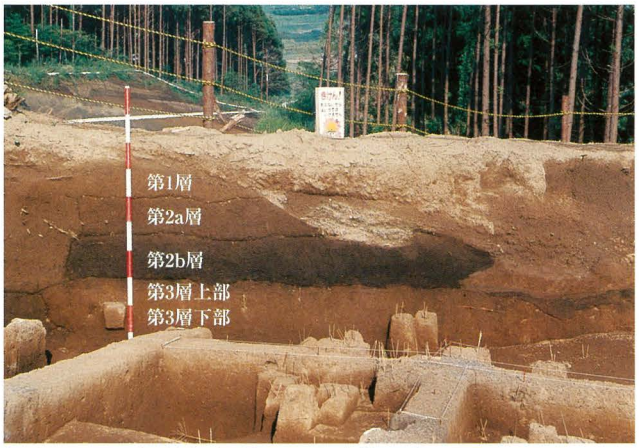


写真65　西壁地層断面(SP5-SP6)②写真

写真66　北壁地層断面(SP7-SP8)写真

写真67　第3層土器集中部①ベルト南壁断面写真
(紫色のブロックは,暗紫コラ火山灰)

写真68　調査区西側地層堆積状況写真
(最下層は,清見岳火山性噴火物)

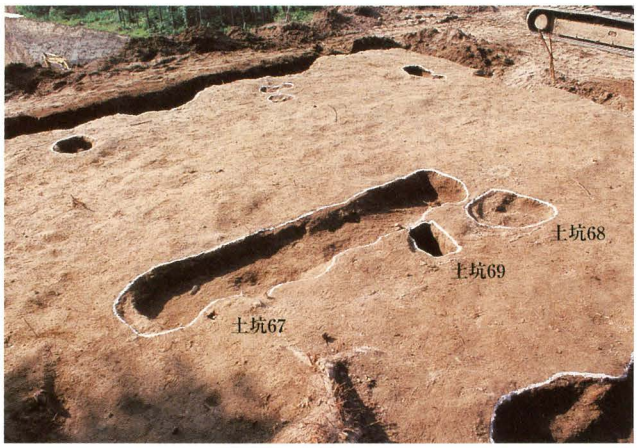


写真69　南区土坑67･68･69完掘状況写真(南側から)

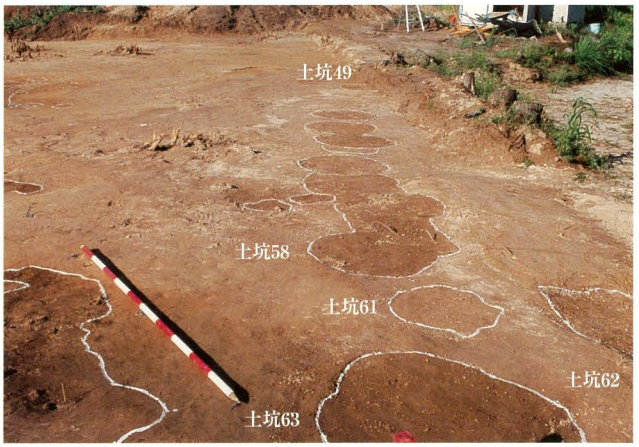


写真70　土坑49～63検出状況写真(南西側から)

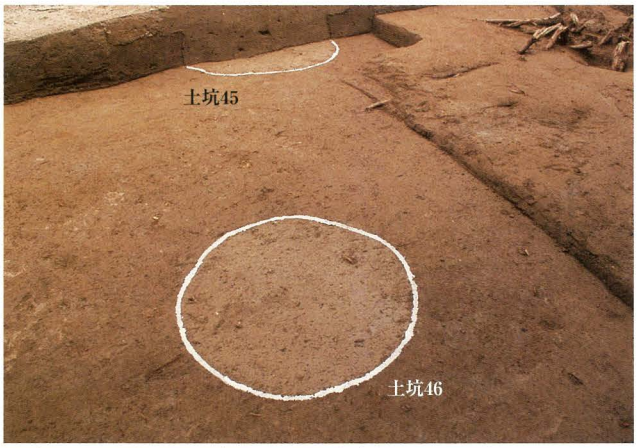


写真71　土坑45･46検出状況写真(南西側から)

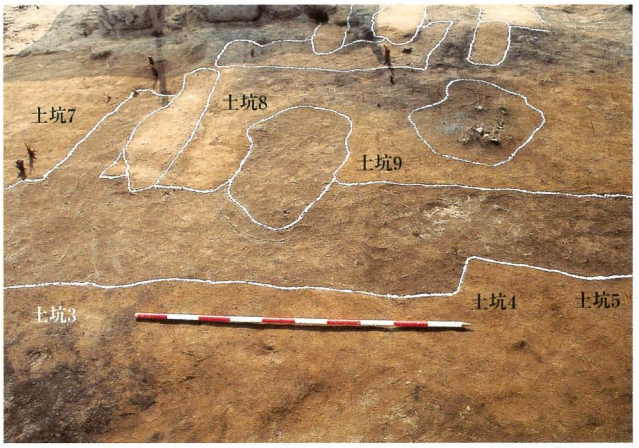


写真72　土坑3･4･5･7･8･9検出状況写真(西北側から)

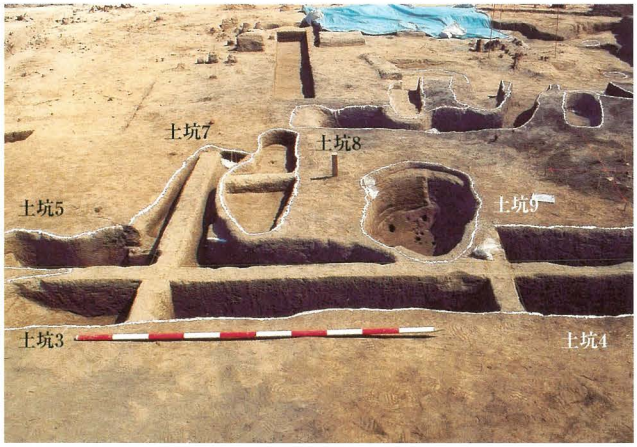


写真73　土坑3･4･5･7･8･9完掘状況写真

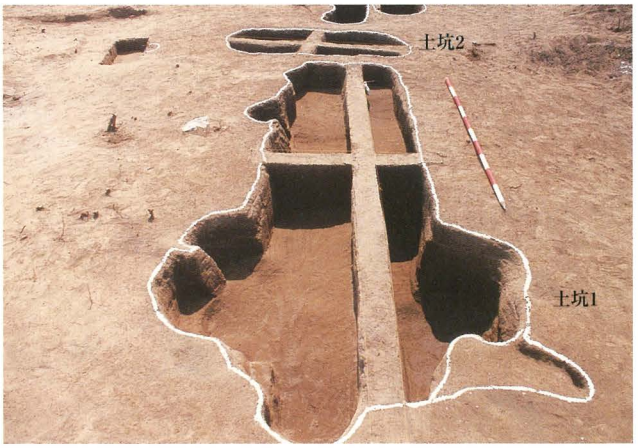


写真74　土坑1完掘状況写真(北東側から)

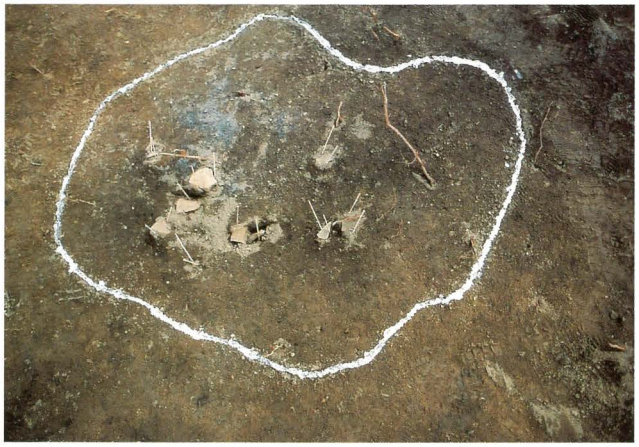


写真75　第3層土器集中部①検出状況写真①（南西側から）

写真76　第3層土器集中部①検出状況写真②（西側から）

写真77　第3層土器集中部①検出状況写真③（西北側から）
※紫色の土壌は，暗紫コラ火山灰

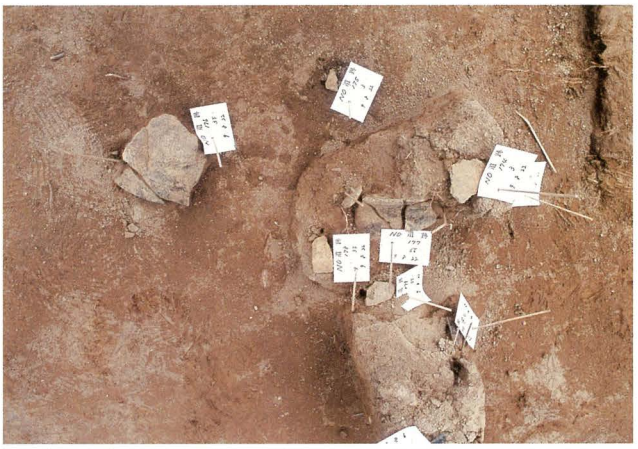


写真78　第3層土器集中部②検出状況写真（西北側から）

写真79　第3層遺物出土状況写真

写真80　第3層遺物（No.210）出土状況写真

発掘調査写真④

写真81　第4層遺物(No.322)出土状況写真

写真82　弥生時代　ピット42・43断面検出写真(南西側から)

写真83　弥生時代　ピット25断面検出写真(西北側から)

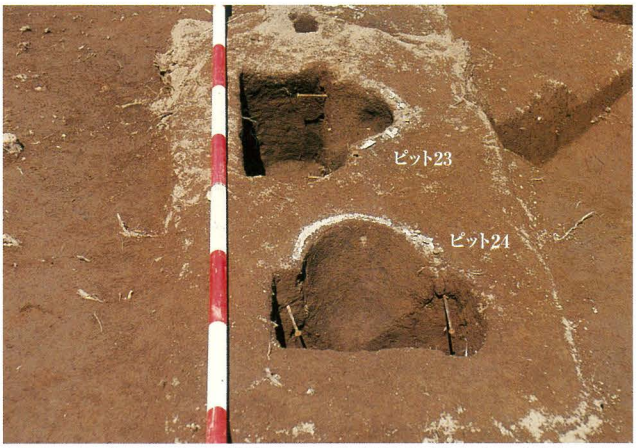


写真84　弥生時代　ピット23・24完掘状況写真(東南側から)

写真85　弥生時代　土坑完掘状況写真①(南西側から)

写真86　弥生時代　土坑完掘状況写真②(東南側から)

発掘調査写真⑤

写真87　弥生時代　土器焼成坑完掘状況写真①(東側から)

写真88　弥生時代　土器焼成坑完掘状況写真②(北側から)

写真89　弥生時代　土器焼成坑完掘状況写真③(南側から)
土坑内底面は,赤色に変色し,灰土や炭化物が認められる.

写真90　弥生時代　土器焼成坑先行トレンチ断面写真①
(EP-WPの東半分)※丸つき数字は,第13図と一致

写真91　弥生時代　土器焼成坑先行トレンチ断面写真②
(EP-WPの東半分)※丸つき数字は,第13図と一致

写真92　弥生時代　土器焼成坑内写真
(中央部は,Ⓐ:被熱した粘土塊,Ⓑ:Ⓐの下位には炭化物混在土壌,Ⓒ:土器片,粘土塊混在土壌,Ⓓ:赤色化した底面)

発掘調査写真⑥

第二編

遺構保存編

Ruins preservation section

第二編　遺構保存編

中尾迫遺跡では，先述したとおり弥生時代の帰属する土器焼成坑，土坑，ピットが検出されている．この土器焼成坑については，第３層を主体とする埋土から，鹿児島県内初例の弥生時代の土器焼成坑として位置づけた．中尾迫遺跡の発掘調査範囲は，調査終了後，路線内の谷地を埋めるための土砂として削り出される計画となっていた．指宿市教育委員会としては，この遺構保存処置について協議・検討した結果，移設保存を行うこととなった．

土器焼成坑を中尾迫遺跡地内から国指定史跡指宿橋牟礼川遺跡隣接地に移動させ，さらに，歴史公園内への移設保存が終了するまでの作業工程を，下記に段階毎に説明する．

・写真93：中尾迫遺跡で検出された弥生時代に帰属する土器焼成坑を，移設保存処置を目的として国指定史跡指宿橋牟礼川遺跡歴史公園内へ移設いるために，発泡ウレタンを用いて遺構の保護処理を行っている写真である．土器焼成坑の周辺を掘り下げてコンパネ板により周辺を囲む準備作業を行っている．
・写真94：土器焼成坑の周辺を掘り下げてコンパネ板により周辺を囲む準備作業を行っている．
・写真95：土器焼成坑の周辺を掘り下げ，遺構自体のみを島状に残して，コンパネ板により周辺を囲む作業が終了した段階である．コンパネ板の固定には，ワイヤーを用いている．
・写真96：土器焼成坑をコンパネ板により周辺を囲む作業後，遺構直下に鉄板を差し込んでいくためのレールを2本設置する作業である．鉄板は，島状に残した遺構と下位の地盤とを離すためと，移設する際の底板として用いる．
・写真97：土器焼成坑の直下に鉄板を差し込んでいく作業である．島状に残した土器焼成坑が破損しないように慎重に重機を用いて押し込んでいった．
・写真98：土器焼成坑の直下に鉄板が差し込まれた状態である．
・写真99：鉄板とレールを固定し，その四隅にワイヤーを結びつける．そのワイヤーを用いて重機で，土器焼成坑を吊り上げる．ダンプに積み乗せる作業である．
・写真100：土器焼成坑を重機で吊り上げ，ダンプに積み乗せる作業である．
・写真101：土器焼成坑をダンプに積み，国指定史跡指宿橋牟礼川遺跡歴史公園隣接地の管理用プレハブ前に仮置きが終了した段階である．
・写真102：国指定史跡指宿橋牟礼川遺跡歴史公園内に保存処置を目的とした移設が行われまで，この状態で保管されることとなった．
・写真103：国指定史跡指宿橋牟礼川遺跡歴史公園に移設保存された土器焼成坑．雨露を防ぐため，遺構上には覆屋を設置した，また，土器焼成坑の両側には，国指定史跡指宿橋牟礼川遺跡が層位的に証明した縄文土器と弥生土器の移り変わりと，中尾迫遺跡で検出された土器焼成坑の説明と推定復元による土器の焼成方法を図示している説明板を設置した．
・写真104：国指定史跡指宿橋牟礼川遺跡歴史公園に移設保存された土器焼成坑．

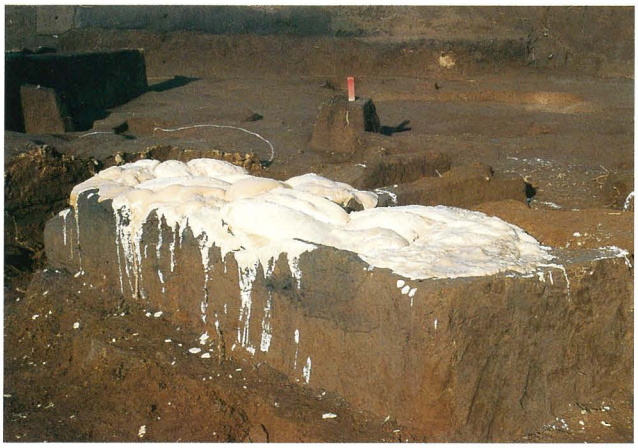


写真93　遺構保存処置作業状況写真①

写真94　遺構保存処置作業状況写真②

写真95　遺構保存処置作業状況写真③

写真96　遺構保存処置作業状況写真④

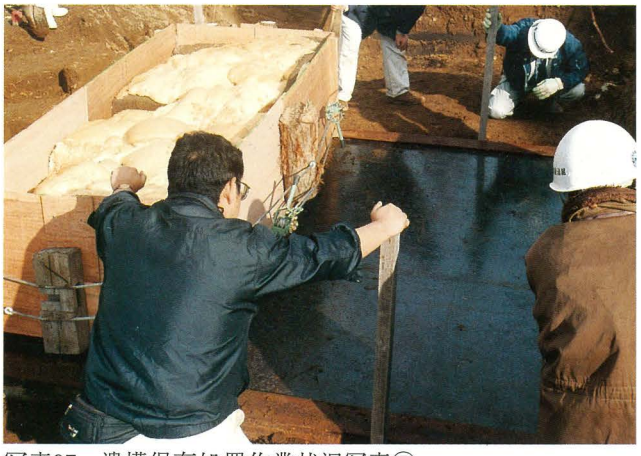


写真97　遺構保存処置作業状況写真⑤

写真98　遺構保存処置作業状況写真⑥

遺構保存作業写真①

写真99　遺構保存処置作業状況写真⑦

写真100　遺構保存処置作業状況写真⑧

写真101　遺構保存処置作業状況写真⑨

写真102　遺構保存処置作業状況写真⑩

写真103　遺構保存処置状況写真①

写真104　遺構保存処置状況写真②

遺構保存作業写真②

第三編

自然科学分析編

Natural scientific analysis section

第三編　自然科学分析編

中尾迫遺跡の報告書作成に伴い，下記の目的のため植物珪酸体分析，樹種同定分析，蛍光Ｘ線（胎土）分析，年代測定分析を，株式会社　古環境研究所へ委託した．分析結果は，株式会社　古環境研究所からの自然科学分析結果をそのまま掲載している．なお，蛍光Ｘ線（胎土）分析資料と年代測定分析資料については，指宿市教育委員会で撮影し掲載した．

１．自然科学分析の目的

自然科学分析の目的としては，中尾迫遺跡で確認された近世と弥生時代の生活当時の周辺環境を探る為に植物珪酸体分析を行った．

中尾迫遺跡で検出された土器焼成坑については，土器焼成坑内の粘土塊（土器焼成窯の粘土壁）と各遺物包含層から出土している土器の胎土と比較することで，遺構と遺物との関連から帰属時期認定の一助となるデータ収集を目的としている．土器焼成坑は第３層上部層が埋土の主体であり，時期認定については，年代測定分析と粘土壁と同質粘土で作成したであろう土器との比較で胎土分析を用いて考えていく．さらに，土器焼成坑内から出土した炭化物の樹種を同定することで，当時の土器焼成時に用いる燃料としての材木を想定する為に樹種同定分析を行った．

蛍光Ｘ線（胎土）分析と年代測定分析のサンプルは，下記のとおりである．また，胎土分析サンプルＳＰ１からＳＰ11と，年代測定分析サンプルＳＰ３は，後頁にそのサンプル写真を掲載している．

①蛍光Ｘ線（胎土）分析（11点）

ＳＰ１：弥生時代に帰属する土器焼成坑内から出土した粘土塊の一部です．土器を焼成する際の粘土壁の一部と想定できる．接合する部分の内面には，植物痕跡と思われる表面的な凸凹が認められる．

ＳＰ２：ＳＰ①と同様に土器焼成坑内から出土した粘土塊である．

ＳＰ３：第３層上部出土の台付鉢形土器〔No.420〕で，掲載遺物番号36である．

ＳＰ４：第３層上部出土の甕形土器〔No.593〕で，掲載遺物番号37である．

ＳＰ５：第３層上部出土の甕形土器〔No.749＋No.571〕で，土器集中部①で一括資料として取り上げた中津野式土器〔掲載遺物番号35〕と同一個体である．

ＳＰ６：第２層出土の甕形土器の口縁部破片〔No.413〕である．出土層は第２層であるが，第３層上部から下部にかけて出土した土器集中部②で一括資料として出土した中津野式土器〔掲載遺物番号68〕と接合する．

ＳＰ７：第３層下部出土の甕形土器の胴部突帯部片〔No.704〕で，掲載遺物番号57である．

ＳＰ８：第３層下部出土の壺形土器の口縁部片〔No.642〕で，掲載遺物番号56である．

ＳＰ９：第４層出土の甕形土器の口縁部片〔No.529〕で，掲載遺物番号79である．

ＳＰ10：第４層出土の甕形土器の胴部突帯部片〔No.633〕で，掲載遺物番号86である．

ＳＰ11：第３層出土の壺形土器の口縁部片〔No.20+54〕で，掲載遺物番号18である．

②年代測定分析（３点）

ＳＰ１：土器焼成坑内から採集したカーボンである．

ＳＰ２：土器焼成坑の先行トレンチから採集した一般カーボンである．

ＳＰ３：第３層下部出土の土器底部片〔No.485〕の内面に付着している炭化物である．

指宿市，中尾迫遺跡における自然科学分析

株式会社 古環境研究所

Ⅰ．中尾迫遺跡における植物珪酸体分析

1．はじめに

植物珪酸体は，おもにイネ科植物の細胞内にガラスの主成分である珪酸(SiO_2)が蓄積したものであり，植物が枯れたあとも微化石(プラント・オパール)となって土壌中に半永久的に残っている．植物珪酸体分析は，この微化石を遺跡土壌などから検出する分析であり，イネをはじめとするイネ科栽培植物の同定および古植生・古環境の推定などに応用されている(杉山，1987)．

2．試料

分析試料は，西壁セクションおよび土器焼成坑から採取された計10点である．試料採取箇所を分析結果図に示す．

3．分析法

植物珪酸体の抽出と定量は，プラント・オパール定量分析法(藤原，1976)をもとに，次の手順で行った．

1)試料を105℃で24時間乾燥(絶乾)
2)試料約1gに直径約40μmのガラスビーズを約0.02g添加(電子分析天秤により0.1mgの精度で秤量)
3)電気炉灰化法(550℃・6時間)による脱有機物処理
4)超音波水中照射(300W・42KHz・10分間)による分散
5)沈底法による20μm以下の微粒子除去
6)封入剤(オイキット)中に分散してプレパラート作成
7)検鏡・計数．

同定は，イネ科植物の機動細胞に由来する植物珪酸体をおもな対象とし，400倍の偏光顕微鏡下で行った．計数は，ガラスビーズ個数が400以上になるまで行った．これはほぼプレパラート1枚分の精査に相当する．試料1gあたりのガラスビーズ個数に計数された植物珪酸体とガラスビーズ個数の比率をかけて，試料1g中の植物珪酸体個数を求めた．

また，おもな分類群についてはこの値に試料の仮比重と各植物の換算係数(機動細胞珪酸体1個あたりの植物体乾重，単位：10^{-5}g)をかけて，単位面積で層厚1cmあたりの植物体生産量を算出した．ススキ属(ススキ)の換算係数は1.24，メダケ節は1.16，クマザサ属(チシマザサ節・チマキザサ節)は0.75である．

4．分析結果

(1)分類群

分析試料から検出された植物珪酸体の分類群は以下のとおりである．これらの分類群について定量を行い，その結果を表1および図1，図2に示した．主要な分類群について顕微鏡写真を示す．

〔イネ科〕
キビ族型，ススキ属型(おもにススキ属)，ウシクサ族A(チガヤ属など)，Bタイプ
〔イネ科－タケ亜科〕
メダケ節型(メダケ属メダケ節・リュウキュウチク節，ヤダケ属)，クマザサ属型(チシマザサ節やチマキザサ節など)，未分類等
〔イネ科－その他〕
表皮毛起源，棒状珪酸体(おもに結合組織細胞由来)，未分類等

〔樹木〕
ブナ科(シイ属)，クスノキ科，その他

(2)植物珪酸体の検出状況
1)西壁セクション
4層，3下層(弥生時代中期)，3上層(弥生時代後期)，中世黒色帯について分析を行った．その結果，4層(SP14)では，クスノキ科やブナ科(シイ属)などの樹木(照葉樹)が比較的多く検出され，ススキ属型やウシクサ族Aなども少量検出された．樹木は一般に植物珪酸体の生産量が低いことから，少量が検出された場合でもかなり過大に評価する必要がある．3下層(SP13)から3上層(SP12)にかけてもおおむね同様の結果であるが，メダケ節型が出現しており，樹木は減少している．中世黒色帯(SP10')では，ススキ属型が大幅に増加しており，樹木は見られなくなっている．
2)土器焼成坑
焼けた粘土，粘土，埋土について分析を行った．その結果，焼けた粘土(SP 4，SP10，SP11)では，クスノキ科などの樹木(照葉樹)が多量に検出され，ススキ属型やウシクサ族Aなども少量検出された．埋土(SP 2，SP 3)と粘土(SP 6)でも，同様の分類群が検出されたが，樹木は比較的少量である．

5．考察
1)西壁セクション
4層の堆積当時は，遺跡周辺にクスノキ科やブナ科(シイ属)などの照葉樹林が分布していたと考えられ，部分的にススキ属やチガヤ属なども見られたものと推定される．弥生時代中期とされる3下層から弥生時代後期とされる3上層にかけては，照葉樹林がしだいに縮小したと考えられ，メダケ節などの竹笹類も見られるようになったものと推定される．中世黒色帯の堆積当時は，ススキ属などが多く生育する草原的な環境であったものと推定される．

表1　指宿市、中尾迫遺跡における植物珪酸体分析結果
検出密度（単位：×100個/g）

地点・試料		焼成土坑						西壁セクション			
		埋土		粘土	焼土						
分類群	学名	2	3	6	4	10	11	10'	12	13	14
イネ科	Gramineae (Grasses)										
キビ族型	Paniceae type					7		7	8		
ススキ属型	*Miscanthus* type	8	8			15	15	122	15	7	8
ウシクサ族A	Andropogoneae A type	15	23	30	8	15		43	31	33	8
Bタイプ	B type					15					
タケ亜科	Bambusoideae (Bamboo)										
メダケ節型	*Pleioblastus* sect. *Medake*								8	7	
クマザサ属型	*Sasa* (except *Miyakozasa*)								8		
未分類等	Others										8
その他のイネ科	Others										
表皮毛起源	Husk hair origin			8	8			7			
棒状珪酸体	Rod-shaped	23		8	15	73		43		7	
未分類等	Others	75	45	114	30	161		122	38	140	45
樹木起源	Arboreal										
ブナ科(シイ属)	*Castanopsis*	15		15		29	8			20	30
クスノキ科	Lauraceae	38	30	61	106	103	128		46	33	83
その他	Others	15		38	15	29	53		23	60	83
植物珪酸体総数	Total	188	105	273	182	448	204	343	175	307	264

おもな分類群の推定生産量（単位：kg/㎡・cm）

ススキ属型	*Miscanthus* type	0.09	0.09			0.18	0.19	1.51	0.19	0.08	0.09
メダケ節型	*Pleioblastus* sect. *Medake*								0.09	0.08	
クマザサ属型	*Sasa* (except *Miyakozasa*)								0.06		

タケ亜科の比率（%）

メダケ節型	*Pleioblastus* sect. *Medake*								61	100	
クマザサ属型	*Sasa* (except *Miyakozasa*)								39		

表1　指宿市，中尾迫遺跡における植物珪酸体分析結果

2）土器焼成坑

土器焼成坑の焼けた粘土では，クスノキ科が10,300～12,800個/gと高い密度で検出された．これは，埋土の3,000～3,800個/g，粘土の6,100個/gと比較して明らかに高い値である．このことから，土器焼成坑ではクスノキ科の葉が燃料の一部として利用されていた可能性が考えられる．これは，土器焼成坑の底部付近から出土した炭化材が，樹種同定（第Ⅲ章参照）によりクスノキ科と同定されたことと符合している．当時は遺跡周辺にクスノキ科などの照葉樹林が分布しており，そこから燃料として樹木の枝や葉などが収集されたものと推定される．なお，今回の分析では，燃料としてススキやチガヤなどのイネ科草本類が利用されていた可能性は認められなかった．

文献

杉山真二（1987）遺跡調査におけるプラント・オパール分析の現状と問題点．植生史研究，第２号，p.27-37.
杉山真二（1999）植物珪酸体分析からみた九州南部の照葉樹林発達史．第四紀研究．38（２），p.109-123.
藤原宏志（1976）プラント・オパール分析法の基礎的研究（１）－数種イネ科栽培植物の珪酸体標本と定量分析法－．考古学と自然科学，９，p.15-29.

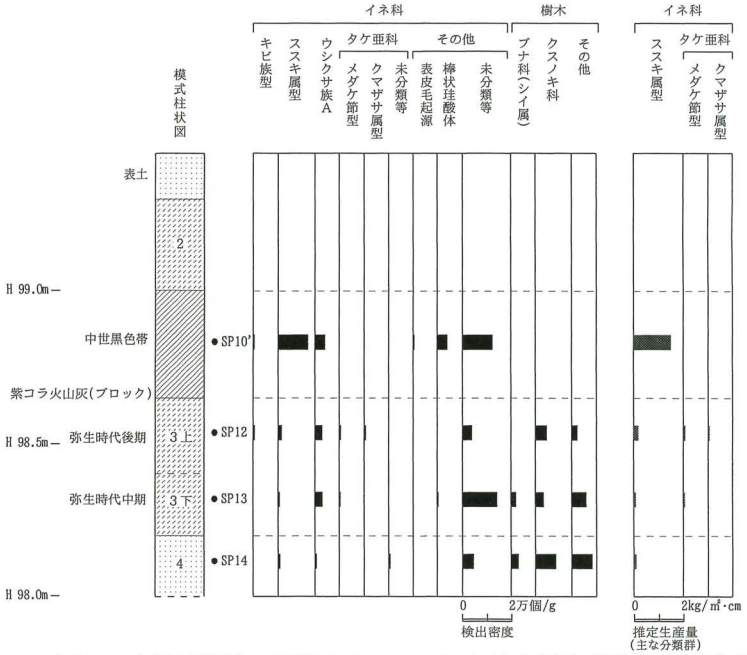


図１　中尾迫遺跡，西壁セクションにおける植物珪酸体分析結果

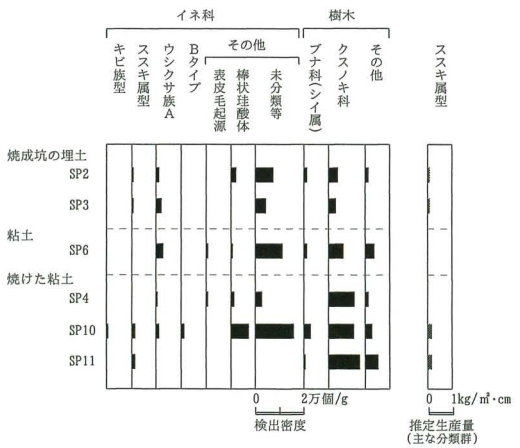


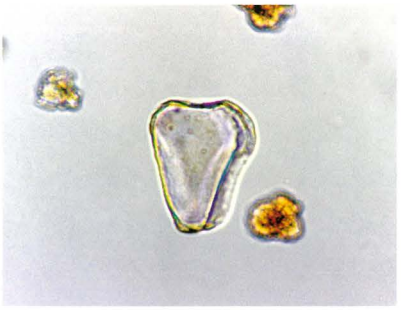
図２　中尾迫遺跡，土器焼成坑における植物珪酸体分析結果

（倍率はすべて400倍）

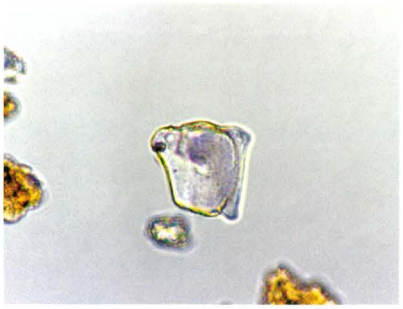
No.	分類群	試料名
1	ススキ属型	10'
2	ススキ属型	10
3	ウシクサ族A	6
4	イネ科A（くさび型）	10'
5	イネ科B	10
6	メダケ節型	13
7	クマザサ属型	12
8	表皮毛起源	6
9	棒状珪酸体	10'
10	ブナ科（シイ属）	10
11	クスノキ科	2
12	クスノキ科	4

植物珪酸体（プラント・オパール）の顕微鏡写真

No.1

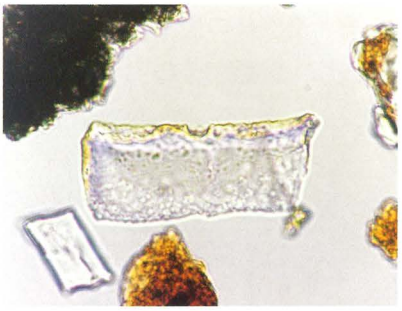


No.2

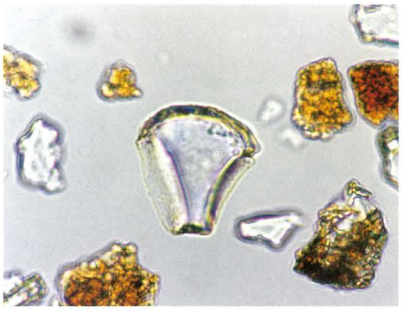


No.3

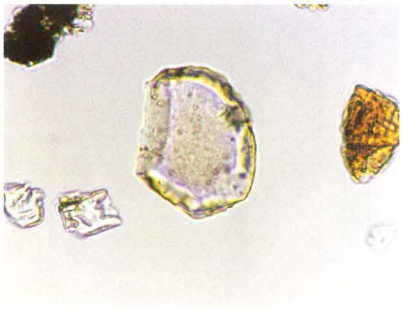
No.4



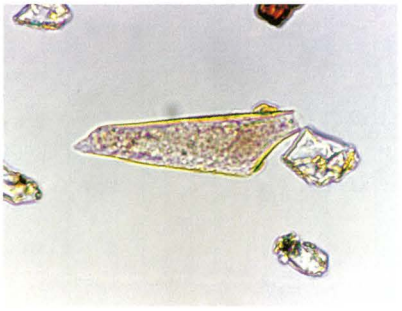
No.5



No.6

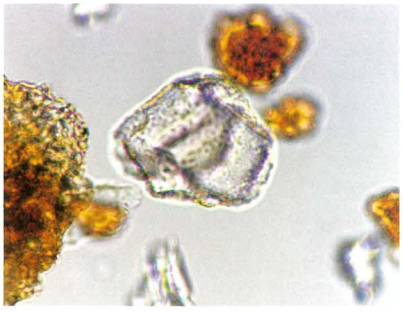


No.7



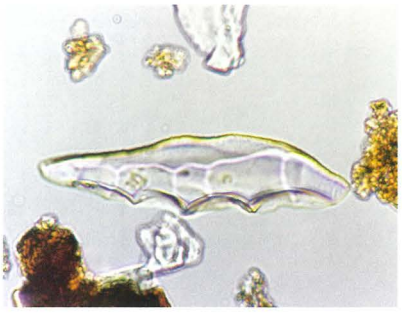
No.8

No.9



No.10

No.11



No.12

Ⅱ．中尾迫遺跡における樹種同定分析

１．試料

試料は，土器焼成坑の底部付近から出土した炭化材（SP１，SP５）である．

２．方法

試料を割折して新鮮な基本的三断面（木材の横断面，放射断面，接線断面）を作製し，落射顕微鏡によって75～750倍で観察した．樹種同定は解剖学的形質および現生標本との対比によって行った．

３．結果

結果を表１に示し，主要な分類群の顕微鏡写真を示す．以下に同定根拠となった特徴を記す．

表１　中尾迫遺跡出土炭化材の樹種同定結果

試料	樹種（和名／学名）
SP１	クスノキ科 Lauraceae
SP５	クスノキ科 Lauraceae

a.クスノキ科 Lauraceae

横 断 面：中型から小型の道管が，単独および２～数個放射方向に複合して，散在する散孔材である．道管の周囲を鞘状に柔細胞が取り囲んでいる．

放射断面：道管の穿孔は単穿孔のものが存在する．放射組織はほとんどが平伏細胞で上下の縁辺部のみ直立細胞からなる．

接線断面：放射組織は異性放射組織型で１～３細胞幅で，上下の縁辺部のみ直立細胞である．

以上の形質よりクスノキ科に同定される．クスノキ科には，クスノキ，ヤブニッケイ，タブノキ，カゴノキ，シロダモ属などがあるが，本試料は極めて小片で広範囲の観察が困難であるため，クスノキ科の同定にとどめた．

４．所見

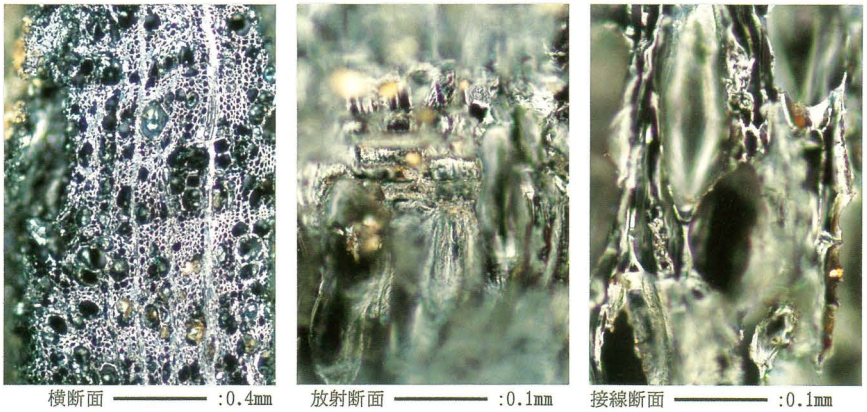
土器焼成坑の底部付近から検出された炭化材はクスノキ科と同定された．クスノキ科は下部温帯域に分布する照葉樹林の主要構成要素となる樹種を多く含み，照葉樹林には豊富に存在する樹木である．

文献

佐伯浩・原田浩(1985)針葉樹材の細胞．木材の構造，文永堂出版，p.20-48.
佐伯浩・原田浩(1985)広葉樹材の細胞．木材の構造，文永堂出版，p.49-100.

図版１

中尾迫遺跡出土炭化材の顕微鏡写真



横断面 ——— :0.4mm　放射断面 ——— :0.1mm　接線断面 ——— :0.1mm

Ⅲ．中尾迫遺跡における蛍光Ｘ線分析

１．はじめに

土器（胎土）に含まれる元素のうち，カリウム（K），カルシウム（Ca），ルビジウム（Rb），ストロンチウム（Sr）の4元素は，土器胎土の地域性を示す有効な因子とされており，Ca0-K_2O分布図やSrO-Rb_2O分布図を主な指標として土器の産地同定が行われている（三辻,1999）．

ここでは，土器焼成坑から出土した粘土塊（SP１，SP２），および遺物包含層から出土した土器（SP３～SP11）について蛍光Ｘ線分析を行い，土器の産地や流通等に関する情報の収集を試みた．

２．分析方法

エネルギー分散型蛍光Ｘ線分析システム（日本電子㈱製，JSX3201）を用いて，元素の同定およびファンダメンタルパラメータ法（FP法）による定量分析を行った．以下に分析の手順を示す．

１）土器片の分析面を研磨洗浄

２）絶乾後，分析装置の固定試料ステージに固定

３）測定時間300秒，照射径20㎜，電圧30keV，試料室内真空の条件で測定

なお，Ｘ線発生部の管球はロジウム（Rh）ターゲット，ベリリウム（Be）窓，Ｘ線検出器はSi（Li）半導体検出器である．

３．分析結果

各元素の定量分析結果（wt%）を表１に示し，図１にCa0-K_2O分布図およびSrO-Rb_2O分布図を示す．

４．考察

（１）粘土塊と土器の関係について

土器の産地同定を行う際の指標の一つとされているCa0-K_2O分布図によると，土器焼成坑の粘土塊（SP１，２）は，カルシウム（CaO）含量が4.33%および9.66%であり，土器（SP３～SP11）の0.86～2.39%と比較して明らかに高い値である．また，Ca0/K_2Oの値は5.7および11.9であり，土器の0.5～2.1と比較して明らかに高い値である．

SrO-Rb_2O分布図によると，粘土塊（SP１，２）はストロンチウム（SrO）含量が0.039%および0.064%であり，土器の0.015～0.032%と比較して明らかに高い値である．また，SrO/Rb_2Oの値は5.6および10.7であり，土器の0.7～5.3と比較して明らかに高い値である．

以上の結果から，土器焼成坑の粘土塊と遺物包含層から出土した土器は，素材となった粘土の給源が異なっている可能性が高いと考えられる．

（２）土器の胎土について

遺物包含層から出土したSP３～SP11の土器のうち，SP５とSP７はカリウム（K2O）の含量が1.92%であり，その他の土器の0.41～1.81%と比較して明らかに高い値である．また，Ca0/K_2Oの値は0.5であり，その他の土器の0.9～2.1と比較して明らかに低い値である．

SrO-Rb_2O分布図によると，SP５とSP７はルビジウム（Rb_2O）の含量が0.028%および0.021%であり，その他の土器の0.005～0.013%と比較して明らかに高い値である．また，SrO/Rb_2Oの値は0.7であり，その他の土器の1.5～5.3と比較して明らかに低い値である．

以上の結果から，遺物包含層から出土したSP３～SP11の９点の土器のうち，SP５とSP７はその他の土器とは素材となった粘土の給源が異なっている可能性が考えられる．

5．まとめ

蛍光X線分析の結果から，土器焼成坑の粘土塊と遺物包含層から出土した土器は，素材となった粘土の給源が異なっている可能性が高いと考えられる．また，遺物包含層から出土したSP 3 ～SP11の 9 点の土器のうち，SP 5 とSP 7 はその他の土器とは素材となった粘土の給源が異なっている可能性が考えられる．

今後このような基礎的なデータを蓄積することで，土器の生産地や流通等に関する具体的な情報が得られるものと期待される．

文献

三辻利一（1998）元素分析による古代土器の胎土研究．人類史研究第10号，p.11-39.

三辻利一（1999）元素分析による須恵器の産地推定．考古学と自然科学（4）．同成社，p.294-313.

単位：wt(%)

地点・試料		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
原子No.	化学式	粘土塊	粘土塊	土器36	土器37	土器35	土器68	土器57	土器56	土器79	土器86	土器18
11	Na_2O	1.296	2.637	0.735	0.652	0.917	0.714	0.641	0.966	1.707	0.818	0.915
12	MgO	1.421	2.290	0.311	0.280	1.037	0.969	0.754	0.374	0.788	0.309	0.936
13	Al_2O_3	27.534	20.634	31.613	28.030	24.866	39.172	25.641	26.207	24.749	26.339	31.441
14	SiO_2	47.962	48.170	54.337	56.087	59.800	44.248	60.374	57.779	60.298	60.501	55.171
15	P_2O_5	0.973	0.622	1.261	1.033	1.132	0.847	1.140	0.987	1.214	1.224	0.706
16	SO_3	0.209	0.000	0.211	0.035	0.340	0.118	0.023	0.059	0.052	0.000	0.733
19	K_2O	0.766	0.814	0.890	1.127	1.920	0.408	1.920	1.152	1.142	1.349	1.808
20	CaO	4.329	9.658	1.317	1.037	1.046	0.864	0.976	1.706	2.393	1.435	1.991
22	TiO_2	1.437	1.231	1.611	1.402	1.524	2.403	1.577	1.448	2.039	1.738	0.047
23	V_2O_5	0.067	0.074	0.041	0.043	0.038	0.117	0.050	0.068	0.064	0.039	0.106
25	MnO	0.379	0.292	0.211	0.193	0.191	0.174	0.388	0.477	0.161	0.136	6.016
26	Fe_2O_3	13.582	13.509	7.387	10.007	7.130	9.875	6.438	8.701	5.305	6.044	0.028
37	Rb_2O	0.007	0.006	0.005	0.011	0.028	0.009	0.021	0.010	0.013	0.008	0.006
38	SrO	0.039	0.064	0.021	0.017	0.019	0.028	0.015	0.024	0.031	0.023	0.032
40	ZrO_2	0.000	0.000	0.048	0.047	0.013	0.056	0.044	0.044	0.044	0.039	0.066

表１　指宿市，中尾迫遺跡における蛍光X線分析結果

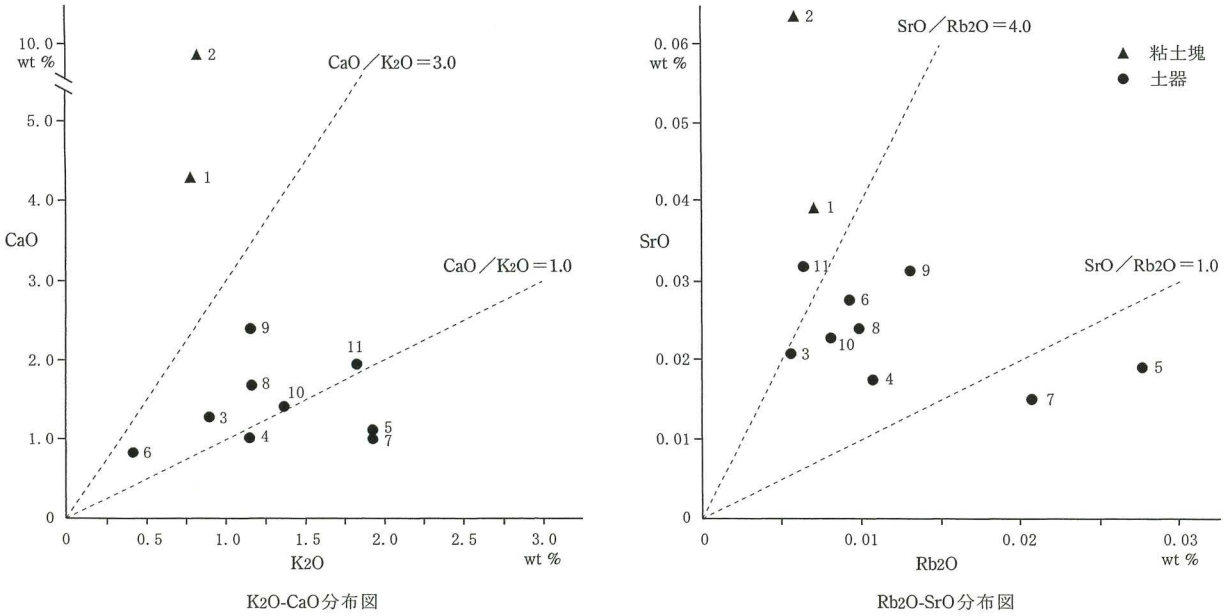


図１　指宿市，中尾迫遺跡出土土器等のK_2O-CaO分布図およびRb_2O-Sro分布図

写真105　蛍光X線分析資料

写真106　分析資料SP1(土器焼成坑内出土遺物)

写真107　分析資料SP2(土器焼成坑内出土遺物)

写真108　分析資料SP3(掲載番号36)

写真109　分析資料SP4(掲載番号37)

写真110　分析資料SP5(掲載番号35と同一個体)

写真111　分析資料SP6(掲載番号68)

写真112　分析資料SP7(掲載番号57)

写真113　分析資料SP8(掲載番号56)

写真114　分析資料SP9(掲載番号79)

写真115　分析資料SP10(掲載番号86)

写真116　分析資料SP11(掲載番号18)

Ⅳ．中尾迫遺跡における放射性炭素年代測定分析

１．試料と方法

試料名	地点・層準	種類	前処理・調整	測定法
No.1	土器焼成坑内	炭化物	酸-アルカリ-酸洗浄，石墨調整	AMS
No.2	土器焼成坑の先行トレンチ	炭化物	酸-アルカリ-酸洗浄，石墨調整	AMS
No.3	３層下部，土器片No485	土器内面付着物	酸-アルカリ-酸洗浄，石墨調整	AMS

AMS：加速器質量分析法（Accelerator Mass Spectrometry）

２．測定結果

試料名	測定No.	^{14}C年代	δ^{13}C	補正^{14}C年代	暦年代（西暦）
	(Beta-)	(年BP)	(‰)	(年BP)	(1σ：68%確率，2σ:95%確率)
No.1	197463	1320±40	-23.8	1340±40	交点：cal AD 670
					1σ：cal AD 660～690
					2σ：cal AD 640～770
No.2	197464	1390±40	-23.8	1360±40	交点：cal AD 660
					1σ：cal AD 650～680
					2σ：cal AD 630～710
No.3	197465	2260±40	-25.2	2260±40	交点：cal BC 370
					1σ：cal BC 390～360, 290～230
					2σ：cal BC 400～200

（１）^{14}Ｃ年代測定値

試料の^{14}Ｃ/^{12}Ｃ比から，単純に現在（AD1950年）から何年前かを計算した値．^{14}Ｃの半減期は，国際的慣例によりLibbyの5,568年を用いた．

（２）δ（デルタ）^{13}Ｃ測定値

試料の測定^{14}Ｃ/^{12}Ｃ比を補正するための炭素安定同位体比（^{13}Ｃ/^{12}Ｃ）．この値は標準物質（PDB）の同位体比からの千分偏差（‰）で表す．

（３）補正^{14}Ｃ年代値

δ^{13}Ｃ測定値から試料の炭素の同位体分別を知り，^{14}Ｃ/^{12}Ｃの測定値に補正値を加えた上で算出した年代．試料のδ^{13}Ｃ値を-25(‰)に標準化することによって得られる年代である．

（４）暦年代

過去の宇宙線強度の変動による大気中^{14}Ｃ濃度の変動を較正することにより算出した年代（西暦）．calはcalibrationした年代値であることを示す．較正には，年代既知の樹木年輪の^{14}Ｃの詳細な測定値，およびサンゴのU-Th年代と^{14}Ｃ年代の比較により作成された較正曲線を使用した．最新のデータベースでは約19,000年

BPまでの換算が可能となっている．ただし，10,000年BP以前のデータはまだ不完全であり，今後も改善される可能性がある．

暦年代の交点とは，補正^{14}C年代値と暦年代較正曲線との交点の暦年代値を意味する．１σ（シグマ）（68％確率）と２σ（95％確率）は，補正^{14}C年代値の偏差の幅を較正曲線に投影した暦年代の幅を示す．したがって，複数の交点が表記される場合や，複数の１σ・２σ値が表記される場合もある．

３．所見

加速器質量分析法（AMS法）による放射性炭素年代測定の結果，№１の炭化物では1340±40年BP（１σの暦年代でAD660～690年），№２の炭化物では1360±40年BP（同AD650～680年），№３の炭化物（土器内面付着物）では2260±40年BP（同BC390～360, 290～230年）の年代値が得られた．なお，№３では放射性炭素年代測定値よりも暦年代の年代幅がかなり大きくなっているが，これは該当時期の暦年代較正曲線が不安定なためである．

文献

Stuiver et al.（1998）, INTCAL98 Radiocarbon Age Calibration, Radiocarbon, 40, p.1041-1083.

中村俊夫（1999）放射性炭素法．考古学のための年代測定学入門．古今書院，p. 1 -36.

写真117　年代測定分析資料NO.3
（第3層下部出土遺物：No.485）

第四編

発掘調査成果編

Result of excavation investigation

第四編　発掘調査成果編

広域営農団地農道整備事業に伴い，平成９年度に実施した中尾迫遺跡の発掘調査によって，近世・近代と弥生時代中期・後期の遺物包含層を確認した．以下，それらの発掘調査成果をまとめる．

①近世・近代

中尾迫遺跡の第２ａ層では，近世・近代の遺物包含層を確認した．埋土が第２ａ層である遺構が，第８図や別図1に示しているとおり，調査区全体から検出されている．検出された遺構は，土坑，溝状遺構，ピットである．

土坑や溝状遺構は，発掘調査区内でもその検出状況（分布）が偏っている傾向が看取できる．

楕円形を呈している土坑Ａは，北区の西北側に偏在している．土坑Ａの主軸方向は，概ね，東北―南西方向と東南―西北方向の２軸看取できる．前者を主軸とする土坑Ａには，土坑３・４・５・10・11等のようにほぼ主軸位置も重なり，互いに切り合っているものがある．それに対して，後者を主軸とする土坑Ａは，主軸方向は同じであるものの，互いに切り合っているものはほとんどない．

円形を呈している土坑Ｂは，北区と南区の東南側に偏在し，北区中央付近にも点在している．特に，北区東南側で検出された土坑Ｂは，ほぼ，東北―南西方向の直線上に位置し，土坑51・52・54・55・56のように互いに切り合っている．さらに，南区では土坑70・72・73・74・75が，ほぼ東南―西北方向の直線上に位置している．これは，先述した東北―南西方向に主軸をもつ土坑Ａと同じ状況を呈している．

溝状遺構は，北区中央部付近と南区西北端で認められる．主軸はほぼ東北―南西方向である．

土坑Ａと土坑Ｂ，溝状遺構が，ほぼ東北―南西方向の直線上に位置している理由としては，それらの用途と，掘られた位置の空間的なあり方が関与するものと考えられる．推測の域を出ないものの，区割りされた土地の端部あるいは隣接する土地との境界付近とも考えることも可能である．

また，土坑Ｂについては，その形状等から，現在いわゆる「イモ穴」と呼称される根茎類の保存・貯蔵用穴に類似するものと推測できよう．なお，現在「イモ穴」は，畑地内の端部に設けられていることが多いようである．

ピットは，北区中央部付近の限られた範囲から17基検出されたが，建物や上部構造を類推されるような配置関係はつかめなかった．

これらの遺構検出状況から，中尾迫遺跡での近世・近代においては，土地の区割りなどに起因して土坑や溝状遺構を掘り込む位置を選択されていたものと考えられる．

②弥生時代

中尾迫遺跡では，第３層上部，第３層下部，第４層で，弥生時代の遺物包含層を確認した．

第３層上部は，中津野式土器を主体とする弥生時代後期終末期の遺物包含層である．組成は，甕形土器，台付鉢形土器，鉢形土器が認められ，点数的にも86点と少ない．土器焼成坑の形成時期と考えられる．

第３層下部は，山之口「式土器と入来Ⅱ式土器が混在している弥生時代中期の遺物包含層である．組成は，甕形土器，壷形土器が認められ，261点出土している．土坑の形成時期と考えられる．

第４層は，入来Ⅱ式土器を主体とする弥生時代中期の遺物包含層である．また，確実なものは１点であるが高橋式土器の出土から弥生時代前期も含まれる．組成は，甕形土器，壷形土器が認められ，205点出土している．

このように，第４層→第３層下部→第３層上部と移るにつれ，弥生時代前期・中期・後期とひとつの遺跡で時期変遷を追うことができる．なお，これまでに指宿市内の遺跡では，早馬迫遺跡で高橋式土器が出土している．尾長谷迫遺跡や横瀬遺跡，早馬迫遺跡では入来Ⅱ式土器を，また，南迫田遺跡では，山之口式土器を主体とする遺物包含層が確認されている．上吹越遺跡では，中津野式段階の壷棺が出土している．

中尾迫遺跡における弥生時代に帰属する遺構としては，土器焼成坑と土坑，ピットが検出されている．

土器焼成坑は，第４層上面で検出し，埋土は第３層を主体としている．埋土の第３層の上部には，開聞岳の火山性噴出物の暗紫コラの火山レキが混在している．よって，土器焼成坑の帰属時期は，暗紫コラ噴出・堆積以

降から第３上部層堆積までの時期と考えられる．土器型式的には，第３層上部に主体的に包含層されている中津野式土器の時期を考えることができよう．遺物取上番号530と531が，土器焼成坑内の第３層上部から出土している．また，株式会社古環境研究所による土器焼成坑内検出の炭化物の樹種同定分析と植物珪酸体分析によると，弥生時代の遺物包含層（第３層上部・下部，第４層）のみで検出されたクスノキ科であることが確認された．よって，当時周辺に広がっていた照葉樹林のクスノキ科の樹木を燃料として，土器を焼成していたことが伺えられる．

土坑の埋土の主体は第３層上部であり，若干，第４層も混在している．その埋土下部には，暗紫コラの火山レキが堆積している．また，中園聡氏より，土坑の埋土出土遺物中に，入来Ⅰ式土器の範疇に含まれる壺形土器頚部突帯部片（61頁・第38図）があると御教示頂いた．さらに，土坑がほぼ埋没した後に，弥生時代後期終末に位置付けられている中津野式土器（掲載遺物番号68）が出土した土器集中部②（37頁・第24図）が廃棄・遺棄されている．これらの状況から，土坑の帰属時期は，暗紫コラの火山レキ降下・堆積以前から土器集中部②の遺棄・廃棄以前であると考えられる．よって，土器焼成坑と土坑とは，若干帰属時期が異なるものであることが言えよう．

ピットは，北区西北側に偏在する状況で68基検出されている．ピット内の埋土は，第３層，第３層上部，第３層下部，第４層，暗紫コラのブロックである．ピットは，ある程度までは埋土層の分別によって帰属時期別に分類することは可能である．各ピットを第３層上部と第３層下部，第４層の各埋土別で分類し，その各時期別のピット配置関係からは，建物跡や柵状等の何らかの上部構造を彷彿させるようなプランは確認できない．しかしながら，ピット25・31・40・42・54等のように，検出面からピットの底面までの深さが50cmを超えるものもあることから，ピットを有してある程度の強度を必要とする何らかの遺構があったことは確かであろう．

中尾迫遺跡における弥生時代の石器組成は，総出土点数838点の内42点であり，５％弱しか占めていない．その器種別の内訳は，軽石素材のもの23点，剥片７点，台石１点，礫６点，礫片４点，鉱石１点である．軽石素材のものは後述するとして，他の19点の層別石器組成は次のとおりである．第３層は８点（剥片４点，礫２点，礫片２点），第３層上部は１点（礫１点），第３層下部は５点（剥片２点，礫２点，礫片１点），第４層は４点（台石１点，礫１点，礫片１点，鉱石１点），土坑埋土は１点（剥片１点）である．

このように，石器組成中には，打製・磨製の石斧や石鏃，それらの製作に伴う調整剥片や砥石等が１点も含まれないという特徴を持っている．確実な石器としては，第３層出土の黒曜石製の剥片１点（掲載遺物番号34）と，第４層出土の中央部が窪んでいる安山岩製の台石１点（掲載遺物番号105）である．

軽石素材の出土遺物は，第３層から10点（軽石製加工品６点，軽石４点），第３層下部から12点（軽石製加工品７点，軽石３点，軽石片２点），第４層から11点（軽石製加工品６点，軽石５点）の合計23点出土している．

軽石製加工品の表裏面の状態から，その両面を磨面として利用していたことが伺える．特に，第３層下部出土の軽石製加工品（掲載遺物番号73）の表裏面で認められる磨面の主軸は，加工品自体の長軸とは重ならず右側にぶれている．その両面の磨面の断面形態は，円弧状を呈している．さらに，掲載遺物番号69・104は，欠損しているものの表裏面のほぼ中央部を貫く穿孔があったことが認められる．さらに，掲載遺物番号71の両面には，穿孔を貫通させる意図があったと思われる窪みが認められ，祭祀的な用途も含め注視する必要がある．

発掘調査によって，標高100ｍ前後の丘陵地に広がっている中尾迫遺跡では，弥生時代前期，中期，後期の生活道具をはじめピット等の遺構が発見され，生活空間として利用されていたことが確認された．また，後期終末期の中津野式土器段階では，土器を焼成して製作していたことが確認された．株式会社古環境研究所による植物珪酸体分析によると，弥生時代全般を通して，クスノキ科やブナ科（シイ属）などの照葉樹林の樹木が広がり，ススキ属型やウシクサ属Ａ，メダケ属型（第４層以外）などが繁茂している環境であったと推測されている．

今後は，このような標高100ｍ前後の丘陵地での生活基盤等について，自然科学分析も含め検討していき，当時の生活風景を垣間見れることができるように努めていく必要があろう．

（文責　鎌田）

報 告 書 抄 録

ふ り が な	なかおざこいせき
書　　名	中 尾 迫 遺 跡
副 書 名	広域営農団地南薩東部地区整備事業に関わる埋蔵文化財発掘調査報告書
巻　　次	
シ リ ー ズ 名	指宿市埋蔵文化財発掘調査報告書
シリーズ番号	第38集
編 著 者 名	鎌田 洋昭　中摩 浩太郎　渡部 徹也
編 集 機 関	鹿児島県指宿市教育委員会（指宿市考古博物館 時遊館ＣＯＣＣＯはしむれ）
所 在 地	〒891 - 0403 鹿児島県指宿市十二町2290 TEL：0993－23－5100
発 行 年 月 日	平成17年３月31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
なかおざこいせき 中尾迫遺跡	いぶすきしおおあざにしかた 指宿市大字西方 こあざなかおざこ 小字中尾迫	46210	2 －57	31°15′54″	130°35′48″	19970616 ～ 19971015	1,040㎡	広域営農団地 農道整備事業

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
中尾迫遺跡	包含地	近世・近代	土坑・ピット	陶磁器片	
		弥生時代後期 〔第３層上部〕	土器焼成坑 土坑・ピット	中津野式土器	鹿児島県内初の 弥生時代の土器 焼成坑の検出
		弥生時代中期 〔第３層下部〕 〔第４層〕	ピット	山之口式土器・入来Ⅱ式土器 入来Ⅱ式土器・高橋式土器	

中尾迫遺跡

Nakaozako-Archaeological site

平成17年３月
2005 March

発　行
指宿市教育委員会
The Ibusuki Board of Education
鹿児島県指宿市十二町2290
Junicho2290 Ibusuki-city,Kagoshima Pref.Japan
TEL 0993-23-5100

印刷所
渕上印刷株式会社
鹿児島市樋之口町6-6
Tenokuchicho6-6 Kagoshima-city,Kagoshima Pref.Japan
TEL 099-225-2727